

令和4年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業

**子育て援助活動支援事業
(ファミリー・サポート・センター事業)における
提供会員の確保方策等に関する調査研究報告書**

令和5年3月

一般財団法人 女性労働協会

はじめに

子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）は、平成6年から国の事業として始まり、令和3年度には971市区町村が実施する（交付金ベース）など、地域の子育て支援を担う事業として着実に広がりを見せ、少子化社会対策大綱等においても、地域における相互援助活動の推進が謳われるなど、社会的に重要な事業となっている。

ファミリー・サポート・センター事業は、地域の「こども」をまんやかに、地域住民が地域の子育てを見守り、支え合うことで、地域の子育て力が培われ、地域の人々がゆるやかにつながっていく活動である。

ファミリー・サポート・センター事業では、預かるこどもの年齢の壁はない。生まれてすぐの乳児期から、地域で育ち自立していくまでの幅広い年齢層をカバーしている。¹

ファミリー・サポート・センター事業が行う援助は、原則として、預かる理由は問わない。保護者の就業の有無も問わない。こどもの障がいの有無も問わない。塾や習い事への送迎も行う。病児・病後児の預かりも行う（一部センター）。まさに、地域の多様な子育て支援のニーズに対応し、既存の制度と制度の隙間を埋める柔軟性に富んだしくみであり、他の子育て支援事業とは一線を画す大変ユニークな事業である。何より、その担い手が、他の子育て支援事業のように保育の有資格者ではなく、一般の地域住民であることが、大変特徴的である。

しかし、利用する側の「依頼会員」は年々増加していく中、担い手となる「提供会員」は、高齢化が進み、減少の一途を辿っている。その一方で、配慮の必要な家庭からの依頼も増え、対応には他機関との連携体制が必要となるなど、本来のボランティア的な活動の範疇を超え、提供会員への負担をかけるような依頼も受けているのが実情である。

そこで、令和3年度の調査研究事業において初めて、提供会員の確保及び配慮の必要な家庭への支援等の課題への対応策をテーマとした実態調査を行った。その結果、「提供会員が不足している」と感じているアドバイザーが実に9割となっており、提供会員の不足が全国的な課題として認識されていることがわかった。加えて、多様な背景を持つ家庭への関わりは、ほとんどのセンターで経験していることも確認できた。更に、ヒアリング調査を通じて、提供会員の確保のために様々な手立てを講じ効果を上げている事例や、困難な事例に対しても、行政や関係機関と連携しながら、同じ地域に住む住民同士としてのファミサポならではの対応事例を知ることができた。

これまでの約30年の事業の歴史の中で初めて、全国のセンター（アドバイザー）のみならず、会員（提供会員、依頼会員、両方会員）を対象とした大規模調査を実施したことで、上述のように、ファミリー・サポート・センター事業の現状を把握できたことは大変画期的であった。しかし、令和3年度の調査研究においては、限られた時間のなかでアンケート調査の基礎集計までが限度であった。

そこで、本調査研究事業では、令和3年度のアンケート調査結果に関する更なる分析・検証を試みた。「提供会員が確保できている群」と「確保できていない群」の比較及び提供会員調査との紐づけによるクロス集計を実施し、効果的な広報手法の検証や、提供会員となった動機との有意性等の

¹ 対象となる子どもの年齢はセンターごとに異なる。

分析・検証を行った。また、インターネット調査を実施し、「依頼会員になり得る子育て家庭の保護者層」と、「提供会員になり得る年齢層」を対象に、全国規模でファミリー・サポート・センター事業の認知度調査を行った。ヒアリング調査では、令和3年度の調査結果等をもとに、「提供会員の確保出来ているセンター」、「行政等関係機関との連携がうまく出来ているセンター」から具体的取組内容を聞き取り、さらに、実際に活動を行っている会員（提供会員、依頼会員、両方会員）個人からも直接話を聴く機会を得た。

アンケート調査の分析からは、これまでの想定とは異なる結果が得られた。たとえ提供会員の数が増加してもアドバイザーは不足感を感じ続ける、ということが明らかになったのである。その傾向は規模の大きいセンターでみられた。一方で、小さい規模での取組は、効果の実感を得やすく、提供会員の不足を感じない傾向にあった。これまでの「会員数」を基準にしてきた考え方では説明できない実態や、これまで効果的だと思われていた広報手法がそうとも限らないことがデータから見えてきた。提供会員の数ありきで問題を捉えるのではなく、これまでとは違う新たな視点で考える必要があることがわかった。

また、インターネット調査の結果から、ファミリー・サポート・センター事業の認知度が低いことが明らかとなった。それだけでなく、提供会員世代の子育て支援への関心の低さや、子育て家庭の保護者が他人に子どもを預けることへの不安感や抵抗感を持っていることなどもわかった。

ファミリー・サポート・センター事業だけの問題に限らない、我が国の子育て支援全体に通じる課題が、改めて浮かび上がってきた。

提供会員世代の子育て支援への無関心を理解・共感に変え、子育て家庭には、子どもを他人に預けることへの一歩を踏み出してもらう方策が、今、求められている。

本調査研究事業は、柏女霊峰淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科 教授を座長とし、学識研究者とファミリー・サポート・センターのアドバイザーから構成される「提供会員の確保方策等に関する調査研究検討委員会（以下「検討委員会）」により、調査の実施や調査結果を踏まえ、精力的に検討を行い、課題の解決のための提言及び具体的方策としてとりまとめた。

本報告書には、ほかにもヒアリング結果から得られた取組事例や現場でできる取組の工夫等、実践的な内容も盛り込んでいる。提供会員の確保や多様な子育て家庭への対応等に日々尽力されている全国のファミリー・サポート・センターの皆様は、今回の成果を活用していただければ幸いである。

目次

はじめに	1
第1章 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の 確保方策等に関する調査の目的及び概要	5
I ファミリー・サポート・センターアンケート調査（アンケート調査）	5
II ファミリー・サポート・センターヒアリング調査（ヒアリング調査）	8
III 実施体制	10
第2章 アンケート調査1 令和3年度調査結果のクロス集計による分析	13
I アドバイザー調査	16
II 提供会員調査	39
第3章 アンケート調査2 インターネット調査	97
I 調査結果まとめ	97
II 依頼会員となり得る子育て世帯層への調査結果	109
III 提供会員となり得る年代層への調査結果	123
IV インターネット調査自由記述まとめ	135
第4章 ヒアリング調査	139
I 調査結果まとめ	139
II 提供会員の確保が十分出来ているセンター	142
III 他機関との連携が出来ているセンター	154
IV 会員（提供会員、依頼会員、両方会員）	161
第5章 今後の事業での取組に向けて	171
I アンケート調査・ヒアリング調査を踏まえた考察	171
II アンケート調査・ヒアリング調査を踏まえた提言	179
第6章 総括的な結論	182
I 総括的な結論	182
II 今後の取り組むべき具体的な方策についての提言	183
III ファミリー・サポート・センター事業の位置づけ及び今後の在り方	186
おわりに	188
巻末資料	189
I 調査票	189
II センター向け事例紹介	219
III 附属資料	247

【執筆等担当】

柏女 霊峰 淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授	監修
東内 瑠里子 日本福祉大学 教育・心理学部 子ども発達学科 准教授	第2章
藤高 直之 立正大学 社会福祉学部 子ども教育福祉学科 准教授	第3章
東根 ちよ 大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類 講師	第4章
小林 恭子 一般財団法人 女性労働協会 第一事業部 部長	第1, 5, 6章
角納 正子 一般財団法人 女性労働協会 第一事業部 職員	事例紹介

■ 本調査研究は、立正大学倫理審査委員会の承認を受けています。

■ 本調査研究報告書は、一般財団法人女性労働協会のホームページで公開しています。

<https://www.jaaww.or.jp/report/>

第1章 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における 提供会員の確保方策等に関する調査の目的及び概要

I. ファミリー・サポート・センターアンケート調査（アンケート調査）

1 令和3年度実施アンケート調査クロス集計による分析・検定

（1）調査目的および内容

令和3年度の調査結果を踏まえ、活動実態や利用実態についてクロス集計を行い、課題について多様な視点から分析を深める。

（2）調査対象

対象となる調査：令和3年度実施調査(回収分)

- ・アドバイザー調査 755 センター
- ・提供会員調査 3,392 人
- ・依頼会員調査 2,370 人
- ・両方会員調査 1,305 人

※両方会員調査は、両方会員の登録をしていますが、提供会員と依頼会員の両方の活動実績がない場合は対象外としたため、回収率が低くなっている。

（3）集計・分析方法

各調査において、必要な項目を掛け合わせたクロス集計を実施

統計学的解析には SPSS ver. 27.0 を使用し、有意水準は 5%未満を有意、5%以上 10%未満を有意傾向と判断した。

I. アドバイザー調査

- ・アドバイザー調査内項目のクロス集計による分析

アドバイザー調査と会員調査（提供会員、依頼会員、両方会員）との紐づけによる分析
この分析により、提供会員確保に向けたアドバイザーの不足感/充足感といった実感のあるセンターの回答の比較、および提供会員の5年間の増減率(平成26年度と令和元年度)から実際に増加したセンターと減少した(変わらない)センターの回答の比較を行った。

II. 提供会員調査

- ・「提供会員になった理由」「提供会員となって得たもの」「多様な背景をもった家庭へかわり」と属性（年齢、配偶者の有無、活動年数、就業形態、保有資格）とのクロス集計を実施。

（4）主な分析項目

I. アドバイザー調査

I-1 アドバイザーが提供会員の不足感/充足感を感じているセンターの特徴・傾向

I-1-1 提供会員の不足感/充足感と会員枠の拡大や切り替え

I-1-2 提供会員の不足感/充足感と広報手法の効果

I-1-3 提供会員の不足感/充足感と提供会員とのコミュニケーション方法の特徴

I-1-(4) 提供会員の不足感/充足感と多様な背景や考え方をを持った家庭との関わりの特徴

I-1-(5) 提供会員の不足感/充足感と他機関との連携の特徴

I-1-(6) 提供会員の不足感/充足感と提供会員養成講習(9項目・24時間)の実施状況

I-1-(7) 提供会員の不足感/充足感とサブリーダーの有無

I-1-(8) 提供会員の不足感/充足感とアドバイザーの任期

I-1-(9) 提供会員の不足感/充足感とアドバイザーの雇用(正規・非正規他)

I-2. 実際の提供会員増減率との比較

I-2-(1) 提供会員増減率と会員枠の拡大や切り替え

I-2-(2) 提供会員増減率と広報手法の効果

I-2-(3) 提供会員増減率と提供会員とのコミュニケーション方法の特徴

I-2-(4) 提供会員増減率と多様な背景や考え方をを持った家庭との関わりの特徴(頻度)

I-2-(5) 提供会員増減率と他機関との連携の特徴

I-2-(6) 提供会員増減率と提供会員養成講習(9項目・24時間)の実施状況

I-2-(7) 提供会員増減率とサブリーダーの有無

I-2-(8) 提供会員増減率とアドバイザーの任期

I-2-(9) 提供会員増減率とアドバイザーの雇用(正規・非正規他)

I-3. 提供会員、依頼会員、両方会員調査との紐づけによる提供会員確保の不足感/充足感および提供会員増減率とセンターの特徴・傾向

I-3-(1) 認知経路の傾向(提供会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(2) 提供会員になった理由の傾向(提供会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(3) 提供会員になったことで得たものの傾向(提供会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(4) 依頼会員の満足度の傾向(依頼会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(5) 提供会員への意欲の傾向(依頼会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(6) 両方会員になった理由の傾向(両方会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(7) 両方会員になったことで得たものの傾向(両方会員調査)と提供会員確保状況の関係

I-3-(8) 両方会員の満足度の傾向(両方会員調査)と提供会員確保状況の関係

II. 提供会員調査

II-1. 提供会員になった理由と属性

II-1-(1) 年齢との関連性

II-1-(2) 配偶者の有無

II-1-(3) 活動年数

Ⅱ-1-(4) 就業形態

Ⅱ-1-(5) 保有資格

Ⅱ-2. 提供会員になったことで得たものと属性

Ⅱ-2-(1) 年齢とのクロス集計

Ⅱ-2-(2) 配偶者の有無

Ⅱ-2-(3) 活動年数

Ⅱ-2-(4) 就業形態

Ⅱ-2-(5) 保有資格

Ⅱ-3. 多様な背景や考え方をを持った家庭への関わりと属性

Ⅱ-3-(1) 年齢とのクロス集計

Ⅱ-3-(2) 配偶者の有無

Ⅱ-3-(3) 活動年数

Ⅱ-3-(4) 就業形態

Ⅱ-3-(5) 保有資格

2 ファミリー・サポート・センター認知度調査

(1) 調査目的および内容

ファミサポ事業の提供会員の不足の理由として事業の認知度、事業へのイメージやニーズ等を把握し、新たな視点から課題を検証する。

(2) 調査対象

①依頼会員となり得る子育て家庭の保護者

- ・ 末子年齢が小学校低学年以下の子どものいる保護者
- ・ 都道府県人口分布に対応した割合で配分

②提供会員となり得る方提供会員世代への調査

- ・ 10代～70代の男女
- ・ 都道府県人口分布に対応した割合で配分

(2) 調査対象数

①2,391名 ②3,609名 計6,000名

(3) 調査方法

対象となる条件を満たしたインターネットモニターにインターネット上で回答いただいた。

(4) 実施時期

令和4年10月7日～11日

(5) 主な質問項目

① 依頼会員となり得る子育て家庭の保護者

- ・ファミサポを知っているか
- ・知っている場合、知ったきっかけ、認知経路
会員になっているか
会員になっていない場合の理由
- ・子どもを預かってほしい場合、何を重視するか
- ・子どもを預かってほしい場合、実際はどのようにしているか
- ・ファミサポ事業へのイメージ

② 提供会員となり得る年代の方

- ・ファミサポを知っているか
- ・知っている場合、知ったきっかけ、認知経路
会員になっているか
会員になっていない場合の理由
- ・子育て支援の活動等の経験の有無
- ・子育ての地域の助け合いについて必要性を感じているか
- ・ファミサポ事業へのイメージ

Ⅱ ファミリー・サポート・センターヒアリング調査（ヒアリング調査）

1 調査目的および内容

(1) 調査目的

ファミリー・サポート・センター事業における提供会員確保のための課題の抽出と、課題解決のための活用可能な対応策を具体的事例から把握・検討する。

(2) 調査対象(抽出)

- ① 令和3年度アンケート調査において提供会員の確保が出来ているセンター 6センター
- ② 多機能での事業展開を行っているセンター及び連携先となる関連機関等 3センター
- ③ 提供会員、依頼会員、両方会員 等 3センター

- ① ②については、令和3年度アンケート調査結果をもとに選定。③については、検討委員のセンターに協力を依頼した。検討委員会において了解を得た。

(3) 調査方法

面接による聞き取り調査 オンライン(Zoom)により個別にインタビュー調査を行った。
あらかじめ想定した質問事項を聞いた後、センターに個別に掘り下げて聞きたい内容について、個別に質問した。

(4) 主なヒアリング項目

- ① 令和3年度アンケート調査において提供会員の確保が十分出来ているセンター

- ・提供会員の確保のために実施した内容、工夫点
- ・広報の工夫
- ・アウトリーチの工夫
- ・講習会の工夫
- ・今後の確保のための改善点と改善策
- ・ファミリー・サポート・センター事業を行うにあたり、提供会員をどう位置付けているか
(会員とのコミュニケーション、会員同士の交流、信頼関係を築くための工夫等)
- ・今後の事業のあり方について

②他機関との連携の観点から、多機能での事業展開を行っているセンターや連携先として考えられる関連機関等

- ・連携が必要となった背景
- ・連携にあたって問題となったこと、課題
- ・連携の内容、役割分担
- ・連携の効果
- ・うまく対応できた事例
- ・連携の上で重要なこと

③提供会員の確保の観点から、提供会員ほか、依頼会員、両方会員

- ・会員になった動機
- ・活動内容
- ・活動を通じて得たこと
- ・事業について思うこと

(5) 調査実施時期：令和4年11月8日～12月8日

【ヒアリング実施スケジュール、体制等】

番号	区分	センター名／運営形態／ヒアリング担当	自治体名／実施日
1	提供 会員 の確保	はなまきファミリー・サポート・センター	岩手県花巻市
		直営：花巻市	11月8日
		東内委員、東委員	
2	提供 会員 の確保	おおだファミリーサポートセンター	島根県大田市
		委託：社会福祉法人大田保育センター	11月18日
		東根委員、藤高委員、山下委員	
3	提供 会員 の確保	美浦村ファミリー・サポート・センター	茨城県美浦村
		直営：美浦村健康増進課	11月22日
		藤高委員、本多委員、小俣委員、山下委員、東委員	
4	提供 会員 の確保	川俣町ファミリー・サポート・センター	福島県川俣町
		補助：特定非営利活動法人コミュニティちゃばたけ	11月24日
		東根委員、東内委員、本多委員、森谷委員、山下委員	

5	提供 会員 の確保	高島市ファミリー・サポート・センターたすけあい高島	滋賀県高島市
		補助：NPO 法人元気な仲間	12 月 5 日
		東内委員、東委員	
6	提供 会員 の確保	新宿区ファミリー・サポート・センター	東京都新宿区
		委託：新宿区社会福祉協議会	12 月 8 日
		東根委員、山下委員、森谷委員	
7	他機関 との 連携	東海村ファミリー・サポート・センター	茨城県東海村
		委託：東海村社会福祉協議会	11 月 9 日
		藤高委員、東内委員、東委員、山下委員、森谷委員	
8	他機関 との 連携	枚方市ファミリー・サポート・センター	大阪府枚方市
		委託：社会福祉法人大阪水上隣保館	11 月 25 日
		東根委員、本多委員、東委員	
9	他機関 との 連携	ファミリー・サポート・センターくるめ	福岡県久留米市
		委託：NPO 法人ル・バトー	11 月 25 日
		藤高委員、森谷委員	
10	各会員	立川市ファミリー・サポート・センター	東京都立川市
		直営：立川市 子ども家庭部 子ども家庭支援センター	11 月 18 日
		藤高委員、東内委員、山下委員	
11	各会員	たかまつファミリー・サポート・センター	香川県高松市
		委託：NPO 法人たかまつ男女共同参画ネット	12 月 2 日
		藤高委員、本多委員、東委員	
12	各会員	枚方市ファミリー・サポート・センター	大阪府枚方市
		委託：社会福祉法人大阪水上隣保館	12 月 7 日
		東根委員、山下委員、森谷委員、東委員	

Ⅲ. 実施体制

1 検討委員 (◎座長、○副座長)

令和5年3月現在・順不同

氏名	所属・役職
◎柏女 霊峰	淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授
○東内 瑠里子	日本福祉大学 教育・心理学部 子ども発達学科 准教授
藤高 直之	立正大学 社会福祉学部 子ども教育福祉学科 准教授
東根 ちよ	大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類 講師
本多 優子	北海道・東北地区 さっぽろ子育てサポートセンター アドバイザー 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

森谷 京子	関東地区 立川市ファミリー・サポート・センター アドバイザー 立川市 子ども家庭部 子ども家庭支援センター
小俣 みどり	東京地区 ファミリー・サポートきよせ NPO 法人 子育てネットワーク・ピッコロ 理事長
山下 裕美	中部・関西地区 社会福祉法人大阪水上隣保館ファミリーポートひらかた統括責任者
東 利	四国・九州地区 たかまつファミリー・サポート・センター アドバイザー NPO 法人たかまつ男女共同参画ネット
(オブザーバー) 渡貫 朋子	関東地区 立川市 子ども家庭部 子ども家庭支援センター 係長

<事務局>

小林 恭子	一般財団法人 女性労働協会 第一事業部 部長
吉川 志帆	一般財団法人 女性労働協会 第一事業部 係長
野崎 尚子	一般財団法人 女性労働協会 第一事業部 職員
角納 正子	一般財団法人 女性労働協会 第一事業部 職員

2 検討委員会開催状況

委員会	時期	調査
	6月11 ～12日	日本子ども家庭福祉学会 学術発表会での発表（R3 年度調査報告書
第1回	8月 10日	・ R4 年度調査研究事業の概要およびスケジュールの確認 ・ R3 年度アンケート調査結果のクロス集計による分析・検定の検討 ・ インターネット調査対象、調査内容、方法の検討 ・ ヒアリング調査概要の確認 ・ 調査報告のとりまとめ方針の確認
▼	9月	インターネット調査票の策定 ヒアリング候補の選定
第2回	9月 22日	・ インターネット調査調査票、調査実施スケジュールの確認 ・ ヒアリング調査の実施内容に関する検討 ・ ヒアリング対象の検討
▼	9月～ 11月	・ 立正大学倫理審査委員会申請⇒承認 ・ インターネット調査の実施、集計 ・ ヒアリング調査の実施、まとめ ・ R3 年度アンケート調査結果のクロス集計による分析・検定 ・ 調査結果分析・まとめ
第3回	令和 5年 1月 20日	・ R3 年度アンケート調査結果のクロス集計による分析・検定結果報告 ・ インターネット調査結果報告 ・ ヒアリング調査結果報告 ・ 事業の課題に対する対応策についての検討 ・ 報告書の構成についての検討
▼	～ 2月	・ 調査結果の分析・考察 ・ 報告書(案)の作成
第4回	3月 3日	・ 調査結果の総括 ・ 報告書(案)の確認、活用法の検討

第2章 アンケート調査 1 令和3年度調査結果のクロス集計による分析

本章では、アドバイザーが提供会員の不足感/充足感を感じているセンターの特徴・傾向と、実際の提供会員増減率とセンターの特徴・傾向、さらにアドバイザー調査と会員調査との紐づけから見えてくるセンターの特徴・傾向を明らかにした。

そして、提供会員調査のクロス集計によって、提供会員になった理由と属性、提供会員になったことで得たものと属性、多様な背景を持った家庭への支援への意識と属性について明らかにすることができた。本章による分析によって、以下の点が明らかとなった。

1. ファミリー・サポート・センターの適正規模について検討

実際の提供会員比率は増加していても、不足感を感じているセンターがほとんどであることが明らかとなった。また規模が大きいセンターは、規模が小さいセンターと比較して、提供会員不足を実感していることが明らかとなった。そして提供会員の確保ができていないと感じている群は、様々な手立てを講じているが、効果を実感できていない、つまり不足感が補えていないことも明らかとなった。

小さい規模のセンターは、提供会員不足を感じにくく、また、広報手法としては、町内会や地域での小さい規模での活動を行っている様子もうかがえた。特に「ボランティア活動の従事者等への働きかけ」に最も有意な差があり、次に「公共施設や公的な行事での広報」、「民間施設での広報（商業施設等）」「保育園・幼稚園・認定こども園・児童館・小中学校保護者への働きかけ」講習における工夫、そして「町内会、地域での広報」「現在の会員への登録依頼の働きかけ」の項目で有意傾向があった。ファミリー・サポート・センターの適正規模や、人数に応じた交付金配分などについては、今後検討が必要だと考えられる。

2. 不足感の背景にある多様な家庭への支援のニーズと連携の在り方

「提供会員の不足感」と「多様な背景や考え方をを持った家庭と関わっている頻度が多いこと」とは関係性があることが明らかとなった。

さらに「提供会員の確保ができていないと感じている群」は、他機関との連携をしている割合が高いことも明らかとなった。そして、実際に提供会員が減少した（変わらなかった）グループの方が、増加したグループよりも、様々な内容の連携をしていることが明らかとなった。つまり提供会員の少なさを、連携で補っているという見方もできよう。

しかし、多様な背景や考え方をもった家庭が、切実な子育て支援のニーズをもっていることは明らかで、各地域の子育て支援組織あるいはシステムの有り様によって、連携で解決できる場合、連携できる組織がない場合（過疎地の交通の問題など）、ファミリー・サポート・センターでしか支援できないこと、地域の子育て支援の取り組みをどのようにマネジメントしていくのか、ガバナンスの在り方、行政が中心となるべきか、市民団体が中心となるべきかなど、継続的に検討される必要がある。それは、ファミリー・サポート・センターだけで解決できるものもあるが、地域の子育て支援の有りよう全体としての議論をしていく必要があるのかもしれない。

3. 提供会員認知経路としての「民間施設での広報（商業施設等）」

提供会員の認知経路として「民間施設での広報（商業施設等）」が有効であることが明らかとなった。提供

会員の多くが子育てを終えた方々だと考えた場合、その方々がどこで情報にアクセスしているかというと、日常的に行くスーパーマーケット、ドラッグストア等でのチラシの配布、あるいは商業施設、銀行、スーパーマーケット、公衆浴場、市内マンション等でのポスターの掲示が有効となってくる。本調査結果は、すでにそれらの広報を実施されているセンターが多いことの結果ではあるが、親子が多くいる子育て支援の場だけでなく、子育てを終わった世代が日常的に向かうであろう商業施設等とファミサポの連携が、提供会員確保にとって重要であることが明らかとなった。

4. 一人ひとりの「提供会員になる理由」「提供会員になって得たこと」の多様性

「提供会員が確保出来ている」、あるいは「出来ていない」とことと、「提供会員になる理由」と「提供会員になって得たこと」との関連性は、今回の調査では、十分整理ができなかった。

一つ言えることは、提供会員にとっての「提供会員になることの価値」の多様さについて、考えさせられる結果となったことである。それぞれの世代によって、提供会員になったことで得たものに違いがあることも明らかとなった。

もちろん、ファミサポは、相互援助活動で、金銭などの利益だけを追求して活動するものではない。しかし、研修によって多様な子育て支援の技術や心構えを身に付け、社会で自己実現ができる活動であり、対価以上の価値があると考えられる。これまで専業主婦で社会に出る機会がなかった方や、子育て真っ最中で社会に出る機会を失っている方にとっては社会活動の架け橋になることもあるだろう。少額の収入でも、その方にとっては、その方独自の価値があるかもしれない。あるいは、地域でつながりをつくるができなかった方が、親子とのつながりを生きがいと感じるかもしれない。今回の調査結果は、その人その人にとってのファミサポの活動で得る価値が多様であるということについて考えるきっかけを与えるのではないだろうか。

5. 提供会員の活動年数が積み重なることの価値

活動年数が5年以上になると、「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」「自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい」「地域に新しい知り合いができる」などと、得たものに大きな差が出たように、提供会員の活動の継続性と、得るものとの間に、関係性があることが明らかとなった。継続的な活動のメリットとして、ファミサポから得るものが多くなることは、広く周知していく必要があるだろう。

また、5年以上継続した提供会員は、多様な家庭を支える役割を担っていることも明らかとなった。特に、「病児・病後の子ども」「ひとり親家庭」「発達遅れや障がいがある子ども」「アレルギーのある子ども」「親が精神的な疾患のある家庭」「親が妊娠中の家庭」「転勤・転居してきたばかりの家庭」「外国籍家庭」「医療的ケアの必要な子ども」の順に、活動歴5年以上の提供会員が、5年未満の提供会員より関わっている割合が有意に多い結果となった。

専門性と活動経験を積み上げた提供会員の価値と位置づけを、再定義する必要があるのではないだろうか。

6. 潜在的資格者を地域の子育て支援に活かすファミサポの役割

今回の調査では、保育士や幼稚園教諭、看護師、社会福祉士、ホームヘルパーなど、地域に住まわれている潜在的な資格保有者が、その専門性をファミサポで活かし活躍している姿が見えてきた。また、それぞれの資格特有の提供会員になった理由や提供会員になって得たものがあり、ファミサポの価値を多角的にとらえることができた。特に、「多様な背景を持った家庭への支援への関わり」の部分では、ホームヘルパー資格、社会福祉士資格は、「福祉の資格」として、活躍していることが明らかとなった。

提供会員として活躍しているのは、女性が圧倒的に多い。女性は、その固有の問題として、専門的資格を取

得しても、家庭生活を営むために、社会で活躍する機会を失っている方も多い。そのような方が、ファミサポを通して、地域の子育て家庭を下支えしてくださっていることが、改めて理解できた。

I. アドバイザー調査

本章では、アドバイザー調査内項目のクロス集計による分析と、アドバイザー調査と会員調査（提供会員、依頼会員、両方会員）との紐づけによる分析を行った。

この分析により、提供会員確保に向けたアドバイザーの不足感/充足感といった実感のあるセンターの回答の比較、および提供会員の5年間の増減率（平成26年度と令和元年度）から実際に増加したセンターと減少した（変わらない）センターの回答の比較を行った。

【提供会員の確保が出来ている／出来ていない、の感じ方と実際の増加率について】

今回の調査では、提供会員の確保が出来ている／出来ていない、について2つの指標がある。

ひとつは、アドバイザー調査の「依頼会員数に対して提供会員数が不足していますか」に対する回答である。この分析では、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」（不足している・どちらかといえば不足している）、「どちらともいえない群」、「提供会員の確保が出来ている群」（「どちらかといえば足りている」、「足りている」）の3つの群に分けてクロス集計を行った。

各群の度数と割合は、表2-I-1の通りである。回収したサンプルは、「提供会員が不足している」と回答した割合が9割近くと最も多く、3つの群に分けた際、各群に大きな偏りがあるが、統計的に処理し、母集団の傾向を明らかにした。

表2-I-1 提供会員確保の不足感/充足感

	不足	どちらとも いえない	充足	合計
度数	651	66	35	752
%	86.2	8.7	4.6	99.6

また、もう一つの指標は、「コロナ前の直近5年間（平成26年度と令和元年度）の提供会員の増減について教えてください」に対する回答である。回答用紙では、「A. 平成26年度の提供会員数（平成27年3月31日時点）」「B. 令和元年度の提供会員数（令和2年3月31日時点）」「提供会員数の増減率（ $B \div A$ ）%」の3つを回答していただいた。欠損値、外れ値を除外した平均値、中央値、標準偏差、最小値、最大値は、表2-I-2の通りである。

表2-I-2 提供会員の増減率（%）

平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
107.81	107.0	26.290	42	171

分析データは、正規分布表の平均値±標準偏差の2倍の範囲内に全データの95.45%が分布するため、増減率55.23%～160.39%のものを抽出した。

以上のデータをもとに、提供会員確保の不足感/充足感（「どちらともいえない」を除外）と、各センターの提供会員の5年間の増減率の平均の差を比較した。クロス集計した結果、この2つの群に有意な相関は見られ

なかった。つまり提供会員比率は増加していても、不足感を感じているセンターがほとんどであることが明らかとなった。

一方、表 2- I -3 にあるように令和元年度の提供会員数は、最小のセンターは提供会員 0 名であり、最大のセンターは、提供会員 2,941 名となっており、団体の規模が様々であることがわかる。増加率は、各センターの規模の違いによって、違う実感をもたらすと考えられる。

表 2- I -3 令和元年度の提供会員数

平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値
170.69	92.00	233.676	0	2,941

そこで、令和元年度の提供会員数と、提供会員確保の不足感/充足感（「どちらともいえない」を除外）を多重比較した結果、不足感を感じているセンターの規模の平均が 178.90 人で、充足感を感じているセンターの規模が 96.24 人となり、規模が大きい方が不足感を感じているという有意傾向（ $p=.073$ ）が見られた。

さらに、令和元年度の提供会員数を、中央値より大きい群（大規模センター）と小さい群（中央値を含む中小規模センター）で分け、提供会員の提供会員確保の不足感/充足感（「どちらともいえない」を除外）とのクロス集計を行ったところ、5%水準で有意な差が見られた（ $\chi^2(1)=4.690$ 、 $p=.030$ ）。その結果、大規模センターの方が不足していると感じている割合が大きく、小規模センターの方が充足していると感じている割合が有意に多いことが明らかとなった。

以上の指標の特性を踏まえつつ、以下では、提供会員の確保が出来ている／出来ていないの実感、および実際の増減率の二つの指標を使ってクロス集計を行った。

I-1. 提供会員確保の不足感/充足感とセンターの特徴・傾向

ここでは、提供会員の確保が出来ていると「実感」しているセンターと、確保が出来ていないと「実感」しているセンターの特徴を明らかにする。

I-1-（1）会員枠の拡大や切り替え

【会員枠の拡大や切り替えの手立てについて】

クロス集計の結果、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」が、提供会員を増やすため「依頼会員に、両方会員になってもらうよう働きかけなどを行っている（子どもが大きくなった後も含む）」と回答したものが、行っていないと回答したものよりも有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(2)=7.951$ 、 $p=.022$ ）。

【効果について】

次に、その効果について分析を行った。効果についての選択肢は、「とても効果があった」1点から、「全く効果がなかった」4点までの4件法となっており、点数が低いほど、効果を実感している回答となる。効果について多重比較を行った結果を、表 2- I -4 にまとめている。

「提供会員の確保が出来ていると感じる群」が特に効果を感じているのは、「提供会員の配偶者も会員登録をしてもらい、ご夫婦ともに提供会員になってもらうようにしている」1.70（平均 2.37）と、「子育て支援員研修修了者」など他の子育てボランティアやサポーターの養成講座修了者へ働きかけている」1.92（平均 2.37）であった。

次に、「提供会員の確保が出来ている群」と「提供会員の確保が出来ていない群」の比較（平均値の差）のために、多重比較を行った結果、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」が、多くの項目で効果を実感していることが明らかとなった（平均得点が有意に上回っていた）。

特に、「提供会員の配偶者も会員登録をしてもらい、ご夫婦ともに提供会員になってもらうようにしている」に効果を感じており（ $p < .001$ ）、次に「子育てを終えた依頼会員が、その後、提供会員に登録するような仕組みとなっている」「依頼会員に、両方会員になってもらうよう働きかけなどを行っている。（子どもが大きくなった後も含む）」「子育て支援員研修修了者など他の子育てボランティアやサポーターの養成講座修了者へ働きかけている」は、有意傾向（ $p < .1$ ）にあった。

「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」が、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」よりも有意に効果を感じている項目は一つもなかった。

以上のことから、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」は、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」と比較すると、会員枠の拡大や切り替えに関する手立てをあまり行っていないが、実施している手立てに関しては、効果を実感していることが明らかとなった。逆に、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、会員枠の拡大や切り替えに関する手立てを多く講じているが、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」ほど、効果を感じていないことが明らかとなったと考えられる。

表 2-I-4 提供会員の充足感と会員の拡大や切り替えとの関連

	不足	どちらとも いえない	充足		
	平均	平均	平均	多重比較	
A. 子育てを終えた依頼会員が、その後、提供会員に登録するような仕組みとなっている。	2.73	2.45	2.29	*	<i>ns</i>
B. 依頼会員に、両方会員になってもらうよう働きかけなどを行っている。（子どもが大きくなった後も含む）	2.60	2.61	2.21	*	不足>充足 *
C. 提供会員の配偶者も会員登録をしてもらい、ご夫婦ともに提供会員になってもらうようにしている	2.40	2.50	1.70	***	不足>充足 *** どちらとも>充足 ***
D. 学生など、若い世代にも対象を広げている。	3.05	2.83	2.83	<i>ns</i>	<i>ns</i>
E. 男性向けにチラシを作成するなど、男性会員の獲得に力を入れている。	2.54	3.00	0.00	<i>ns</i>	<i>ns</i>
F. 送迎に特化した協力・両方会員の開設などの工夫を行っている。	2.43	2.67	2.00	<i>ns</i>	<i>ns</i>
	2.39	2.43	1.92	*	不足>充足 **

G. 「子育て支援員研修修了者」など他の子育てボランティアやサポーターの養成講座修了者へ働きかけ						*
している。					どちらも>充足	
H. 子育てを終えた方々や、主任児童員等に、個別に	1.44	1.55	1.55	ns		ns
声掛けしている。						
***p<.01 **p<.05 *p<.1						

I-1-（2）広報手法（対象）の効果

【広報手法（対象）について】

クロス集計の結果、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」が良く行っている広報手法は、「町内会、地域での広報」（ $p<.001$ ）であった。

一方、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」の方が良く行っている手法は、「市の広報に掲載」（ $p<.05$ ）（ $\chi^2(2)=8.137, p=.017$ ）および「現在の依頼会員への提供会員への登録依頼の働きかけ」であった。

逆に、「市の広報に掲載」については、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」は、「行っていない」と回答したものが多くことが明らかとなった（ $\chi^2(2)=13.279, p<.001$ ）。

【効果について】

次に、その効果について分析を行った。効果についての選択肢は、「とても効果があった」1点から、「全く効果がなかった」4点までの4件法となっており、点数が低いほど、効果を実感している回答となる。

「提供会員の確保が出来ていると感じる群」が効果を感じているのは、「講習の工夫」（平均1.91）と、「口コミ」（平均1.93）であった。

さらに「提供会員の確保が出来ている群」と「提供会員の確保が出来ていない群」の平均値の比較を行った結果、すべての項目で「提供会員の確保が出来ていると感じる群」が効果を実感していた（平均得点が有意に上回っていた）。

特に「ボランティア活動の従事者等への働きかけ」（ $p<.001$ ）に最も有意な差があり、次に「公共施設や公的な行事での広報」、「民間施設での広報（商業施設等）」「保育園・幼稚園・認定こども園・児童館・小中学校保護者への働きかけ」「講習における工夫」（ $p<.05$ ）、そして「町内会、地域での広報」「現在の会員への登録依頼の働きかけ」などに有意傾向（ $p<.1$ ）があった。

以上のことから、「提供会員の確保が出来ている群」は、「町内会、地域」など、小さいエリアごとの広報、あるいは足元の広報に力を入れていることや、実施している多くの広報手法（対象）について、効果を実感していることが明らかとなった。「提供会員の確保が出来ていない群」は、逆に「市の広報」など、大きなエリアへの広報に力を入れており、様々な広報手法（対象）を実施しているものの、効果を実感していないことが明らかとなった。

I-1-（3）提供会員とコミュニケーション方法の特徴

「提供会員とコミュニケーション方法の特徴」については、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」の方が、提供会員とコミュニケーションを活発に行っているようである。提供会員の確保に向けての努力がなされていることがうかがえる。

クロス集計の結果、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「提供会員・依頼会員混合のイベント型の交流会（バルーンアートなど）」（ $\chi^2(2)=7.870, p=.020$ ）、「活動のない提供会員への個別電話でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のヒアリング等）」、「活動のない提供会員への個別の郵送物（広報含む）でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のおたずね等）」を行っている割合が有意に多いことが明らかとなった。

一方、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」の特徴として、「活動のない提供会員への個別電話でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のヒアリング等）」や「活動のない提供会員への個別の郵送物（広報含む）でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のおたずね等）」を、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」よりも行っていない割合が高いことが明らかとなった。

I-1-（4）多様な背景や考え方を持った家庭との関わりの特徴（頻度）

ここでは、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」について平均値の比較を行った（表2-I-5）。

頻度についての選択肢は、「よくある（週に数件程度）」1点から、「全くない」5点までの5件法となっており、点数が低いほど、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」の頻度が高いことを表している。

その結果、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「確保出来ている群」より、多様な背景や考え方を持った家庭と関わっている頻度が多いことが明らかとなった。

「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」で、特に有意によく関わっているのは、「親が妊娠中の家庭」との関わり頻度（平均値2.85）「ひとり親家庭」との関わり頻度（平均値2.53）、「発達の遅れや障がいがある子ども」との関わり頻度（平均値2.91）であった。

その他、約7割の項目（26項目中、18項目）で、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」が、「確保出来ている群」より、有意（有意傾向を含む）によく関わっている結果となった。その逆の結果は、一つもなかった。

「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」が、「確保出来ている群」より、よく関わっているもので、1%水準で有意だったものは、「発達の遅れや障がいがある子ども」との関わり頻度（ $p=.005$ ）、「アレルギーのある子ども（Dも含む）」との関わり頻度（ $p=.001$ ）、「親が精神的な疾患のある家庭」との関わり頻度（ $p=.003$ ）、「ひとり親家庭」との関わり頻度（ $p=.006$ ）、「高齢出産の家庭」との関わり頻度（ $p=.005$ ）、「多胎育児家庭」との関わり頻度（ $p=.007$ ）、「親が妊娠中の家庭」との関わり頻度（ $p=.001$ ）、「ファミサポへ過度に依存する家庭」との関わり頻度（ $p=.009$ ）、「安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭」との関わり頻度（ $p=.005$ ）の9項目であった。

また、5%水準で有意だったものは、「外国籍家庭」との関わり頻度（ $p=.013$ ）、「経済的に困窮している家庭」との関わり頻度（ $p=.018$ ）の2項目であった。

そして、有意傾向（10%未満）のあったものは、「生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭」との関わり頻度（ $p=.052$ ）、「避難してきた（している）家庭」との関わり頻度（ $p=.087$ ）、「子育てと介護をしている家庭」との関わり頻度（ $p=.055$ ）、「転勤・転居してきたばかりの家庭」との関わり頻度（ $p=.057$ ）、「複合的に多くの問題を抱えた家庭」との関わり頻度（ $p=.071$ ）、「提供会員へのハラスメントやパワハラ傾向のある家庭」との関わり頻度（ $p=.065$ ）、「お稽古事や習い事が多すぎる家庭」との関わり頻度（ $p=.056$ ）の7項目であった。

以上の結果から、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「確保出来ている群」より、有意に「多様な背景や考え方を持った家庭」に関わっていることが明らかとなった。「提供会員の不足感」と「多

様な背景や考え方をを持った家庭と関わっている頻度が多いこと」とは関係性があることが明らかとなった。

表 2- I -5 多様な背景や考え方をを持った家庭との関わりと頻度

分類		度数	平均値	標準偏差	群間 郡内	自由度	F 値	有意確率	
病児・病後の子ども	不足	640	4.45	.849	群間	1	.688	.407	—
	充足	35	4.57	.739	群内	673			
	合計	675	4.46	.843	合計	674			
発達の遅れや障がいがある子ども	不足	645	2.91	1.413	群間	1	7.872	.005	**
	充足	35	3.60	1.288	群内	678			
	合計	680	2.95	1.414	合計	679			
医療的ケアの必要な子ども	不足	639	4.73	.626	群間	1	.830	.363	—
	充足	35	4.83	.453	群内	672			
	合計	674	4.74	.618	合計	673			
エピペンを処方された子ども	不足	641	4.87	.449	群間	1	.022	.881	—
	充足	35	4.86	.550	群内	674			
	合計	676	4.87	.454	合計	675			
アレルギーのある子ども (上記も含む)	不足	646	3.61	1.149	群間	1	10.630	.001	**
	充足	35	4.26	.980	群内	679			
	合計	681	3.64	1.149	合計	680			
外国籍家庭	不足	639	4.00	1.211	群間	1	6.258	.013	*
	充足	35	4.51	.853	群内	672			
	合計	674	4.02	1.200	合計	673			
経済的に困窮している家庭	不足	629	3.87	1.172	群間	1	5.659	.018	*
	充足	34	4.35	.849	群内	661			
	合計	663	3.89	1.162	合計	662			
生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	不足	623	4.04	1.176	群間	1	3.780	.052	†
	充足	34	4.44	.860	群内	655			
	合計	657	4.06	1.164	合計	656			
親が精神的な疾患のある家庭	不足	638	3.39	1.295	群間	1	8.899	.003	**
	充足	35	4.06	.998	群内	671			
	合計	673	3.43	1.289	合計	672			
親が障がい者の家庭	不足	634	4.16	1.118	群間	1	2.205	.138	—
	充足	33	4.45	.869	群内	665			
	合計	667	4.18	1.109	合計	666			
ひとり親家庭	不足	645	2.53	1.288	群間	1	7.496	.006	**
	充足	35	3.14	1.309	群内	678			
	合計	680	2.56	1.295	合計	679			

高齢出産の家庭	不足	635	3.90	1.227	群間	1	7.874	.005	**
	充足	34	4.50	.826	群内	667			
	合計	669	3.93	1.216	合計	668			
多胎育児家庭	不足	642	3.66	1.270	群間	1	7.414	.007	**
	充足	34	4.26	.994	群内	674			
	合計	676	3.69	1.264	合計	675			
若年出産の家庭	不足	637	4.37	.931	群間	1	.675	.412	-
	充足	34	4.50	.862	群内	669			
	合計	671	4.37	.928	合計	670			
避難してきた（している） 家庭	不足	639	4.70	.622	群間	1	2.930	.087	†
	充足	35	4.89	.323	群内	672			
	合計	674	4.71	.612	合計	673			
子育てと介護をしている家 庭	不足	633	4.39	.837	群間	1	3.708	.055	†
	充足	34	4.68	.684	群内	665			
	合計	667	4.41	.832	合計	666			
DVあるいはその予備軍の家 庭	不足	640	4.47	.785	群間	1	1.873	.172	-
	充足	35	4.66	.684	群内	673			
	合計	675	4.48	.780	合計	674			
虐待あるいはその予備軍の 家庭（ネグレクト・身体へ の虐待等	不足	633	4.29	.980	群間	1	2.416	.121	-
	充足	34	4.56	.705	群内	665			
	合計	667	4.31	.970	合計	666			
転勤・転居してきたばかり の家庭	不足	645	3.22	1.091	群間	1	3.622	.057	†
	充足	34	3.59	1.076	群内	677			
	合計	679	3.24	1.092	合計	678			
親が妊娠中の家庭	不足	642	2.85	1.227	群間	1	11.569	.001	**
	充足	35	3.57	1.170	群内	675			
	合計	677	2.89	1.233	合計	676			
ファミサポへ過度に依存す る家庭	不足	638	3.72	1.387	群間	1	6.917	.009	**
	充足	35	4.34	1.056	群内	671			
	合計	673	3.75	1.378	合計	672			
複雑な家族構成の家庭	不足	639	4.01	1.074	群間	1	1.840	.175	-
	充足	35	4.26	.886	群内	672			
	合計	674	4.02	1.066	合計	673			
複合的に多くの問題を抱え た家庭	不足	639	3.86	1.173	群間	1	3.262	.071	†
	充足	35	4.23	.973	群内	672			
	合計	674	3.88	1.165	合計	673			
提供会員へのハラスメント やパワハラ傾向のある家庭	不足	639	4.75	.591	群間	1	3.421	.065	†
	充足	34	4.94	.239	群内	671			

	合計	673	4.76	.580	合計	672			
安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭	不足	635	4.01	1.357	群間	1	8.017	.005	**
	充足	34	4.68	.684	群内	667			
	合計	669	4.05	1.339	合計	668			
お稽古事や習い事が多すぎる家庭	不足	637	3.73	1.507	群間	1	3.660	.056	†
	充足	35	4.23	1.165	群内	670			
	合計	672	3.76	1.495	合計	671			

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

I-1-(5) 他機関との連携の特徴

「提供会員の確保が出来ていると感じる群」と「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」（「どちらともいえない」を除外）で、他機関との連携に違いがあるのかクロス集計を行った。連携先と内容の視点【連携先順】については表2-I-6、【内容順】については表2-I-7に示している。

有意な差が見られたすべての項目において、連携している割合が高いのは、「提供会員の確保が出来ている群」であった。

有意水準1%未満で有意差が見られた項目は、「ひとり親に関する施設・相談機関（母子寡婦福祉連合会・母子生活支援施設等）」で「虐待や困難ケース等の相談」を行っている、「シルバー人材センター」で「情報の共有」を行っているの2項目であった。

有意水準5%未満で有意差が見られた項目は、「放課後児童クラブ／学童」で「ファミサポが併設」を行っている、「保健所／市町村保健センター／市の保健師等」で「講習会の開催・講師依頼」を行っている、「障がいのある子どもの施設・相談機関（児童発達支援センター/放課後デイ/療育施設等）」で「講習会の開催・講師依頼」を行っている、「ひとり親に関する施設・相談機関（母子寡婦福祉連合会・母子生活支援施設等）」で「講習会の開催・講師依頼」を行っているの4項目であった。

有意水準10%未満で有意傾向が見られた項目は、「放課後児童クラブ／学童」で、「虐待や困難ケース等の相談」を行っている、「公民館・図書館・市民大学等の社会教育施設」で、「ファミサポが併設」を行っているの2項目であった。

表 2-I-6 連携先順：他機関との連携の有無について

		自由度	χ ² 値	P		調整済み残差	
						不足	充足
放課後児童クラブ／学童	虐待や困難ケース等の相談	1	3.807	.066	†	-2.0	2.0
	ファミサポが併設	1	6.302	.043	*	-2.5	2.5
保健所／市町村保健センター／市の保健師等	講習会の開催・講師依頼	1	6.323	.014	*	-2.5	2.5
公民館・図書館・市民大学等の社会教育施設	ファミサポが併設	1	18.627	.051	†	-4.3	4.3
障がいのある子どもの施設・相談機関（児童発達支援センター/放課後デイ/療育施設等）	講習会の開催・講師依頼	1	4.716	.035	*	-2.2	2.2

ひとり親に関する施設・相談機関（母子寡 婦福祉連合会・母子生活支援施設等）	虐待や困難ケース等の相談 講習会の開催・講師依頼	1	12.907	.003	**	-3.6<3.6
シルバー人材センター	情報の共有	1	4.652	.088	*	-2.2<2.2
		1	12.712	.005	**	-3.6<3.6
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01						

表 2-I-7 内容順：他機関との連携の有無について

		自由度	χ^2 値	p	調整済み残差	
					不G	満G
ファミサポが併 設	公民館・図書館・市民大学等の社会教育施設	1	18.627	.051	†	-4.3<4.3
	放課後児童クラブ／学童	1	6.302	.043	*	-2.5<2.5
講習会の開催・ 講師依頼	ひとり親に関する施設・相談機関（母子寡婦福祉連合 会・母子生活支援施設等）	1	4.652	.088	*	-2.2<2.2
	障がいのある子どもの施設・相談機関（児童発達支援 センター/放課後デイ/療育施設等）	1	4.716	.035	*	-2.2<2.2
	保健所／市町村保健センター／市の保健師等	1	6.323	.014	**	-2.5<2.5
虐待や困難ケース 等の相談	ひとり親に関する施設・相談機関（母子寡婦福祉連合 会・母子生活支援施設等）	1	12.907	.003	**	-3.6<3.6
	放課後児童クラブ／学童	1	3.807	.066	†	-2.0<2.0
情報の共有	シルバー人材センター	1	12.712	.005	**	-3.6<3.6

I-1-（6）提供会員確保の不足感/充足感と提供会員養成講習(9項目・24時間)の実施状況

提供会員確保の不足感/充足感と提供会員養成講習(9項目・24時間)の実施状況をクロス集計した結果、有意差は見られなかった。

I-1-（7）提供会員確保の不足感/充足感とサブリーダーの有無

サブリーダーの数(表2-I-8)は、最大値の42人が大きく平均値を押し上げる形となっているが、中央値を見ると分かるように、約7割(68.9%、欠損値除去)という多くのセンターでサブリーダーはいない。

ここでは、サブリーダーがいない群と、いる群の2群に分け、提供会員確保の不足感/充足感とクロス集計を行った結果、有意差は見られなかった。

表 2-I-8 サブリーダーの状況

					サブリーダー	
平均値	中央値	標準偏差	最小値	最大値	有	無
1.57	0.00	3.281	0	42	217	466

I-1-(8) 提供会員確保の不足感/充足感とアドバイザーの任期

アドバイザーの任期については、表2-I-9、表2-I-10の通りである。任期のあるアドバイザーは、3割程度となった。そのうち、8割を超えるアドバイザーが1年任期となっている。アドバイザーの任期の有無と提供会員確保の不足感/充足感のクロス集計を行った結果、有意差は見られなかった。

表 2-I-9 アドバイザーの任期

	任期あり	任期なし
度数	249	500
割合	33.2	66.8

表 2-I-10 任期のあるアドバイザーの任期期間

	全 体	1年	2年	3年	4年以上
	248	207	3	17	21
%	100.0	83.5	1.2	6.9	8.5

※1件は無回答

I-1-(9) 提供会員確保の不足感/充足感とアドバイザーの雇用（正規・非正規他）により違いが見られるか

アドバイザーの雇用（正規・非正規他）の状況については、表2-I-11となっている。

提供会員確保の不足感/充足感とアドバイザーの雇用（正規・非正規他）についてクロス集計を行った結果、市区町村のパートタイム・アルバイトは、1%水準で有意に「不足している」と感じていることが明らかとなった（ $\chi^2(1)=7.168$ 、 $p=.006$ ）。逆に、市区町村の嘱託職員（有期雇用）は、「充足している」と感じている有意傾向があることが明らかとなった（ $\chi^2(1)=2.989$ 、 $p=.092$ ）。

その他の雇用形態では、有意な差は認められなかった。

表 2-I-11 提供会員確保の不足感/充足感とアドバイザーの雇用（正規・非正規他）

	度数	%
市区町村の正職員	84	8.7
市区町村の嘱託職員（有期雇用）	150	15.6
市区町村のパートタイム・アルバイト	134	14.0
委託先（社会福祉協議会、NPO法人等）の正職員	183	19.1
委託先（社会福祉協議会、NPO法人等）の嘱託職員（有期雇用）	185	19.3
委託先（社会福祉協議会、NPO法人等）のパートタイム・アルバイト	223	23.3
合計	959	100

I-2. 提供会員増減率との比較

ここでは、提供会員の5年間の増減率（平成26年度と令和元年度）の平均値による回答の違いの比較と、実際に増加したセンターと減少した（変わらない）センターの回答の割合の比較を行った。

I-2-（1）会員枠の拡大や切り替え

【会員枠の拡大や切り替えの手立てについて】

平均値の比較の結果、表2-I-12の通り、「子育てを終えた方々や、主任児童員等に、個別に声掛けしている」と回答したセンターの増減率が有意に高いことが明らかになった（ $F(1, 562)=9.044$, $p<.05$ ）。

一方、増加したグループと、減少した（変わらなかった）グループとの間でクロス集計を行った結果、増加したグループの方が「依頼会員に、両方会員になってもらうよう働きかけ（子どもが大きくなった後も含む）」を行っている」と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(1)=3.973$, $p=.046$ ）。その他の項目に有意な差は認められなかった。

表2-I-12 子育てを終えた方々や、主任児童員等に、個別に声掛け

	度数	平均値
行っている	303	111.10
行っていない	261	104.49
合計	564	108.04

【効果について】

増加したグループと、減少した（変わらなかった）グループとの間でクロス集計を行った結果、有意な差は認められなかった。

I-2-（2）広報手法（対象）の効果

【広報手法（対象）について】

平均値の比較の結果、「講習における工夫」を実施したと回答したセンターの増減率が有意に高いことが明らかになった（ $F(1, 567)=4.638$, $p<.05$ ）。また、「講習会・交流会の工夫」を実施したと回答したセンターの増減率が有意に高いことが明らかになった（ $F(1, 567)=3.986$, $p<.05$ ）。

【効果について】

増加したグループと、減少した（変わらなかった）グループとの間でクロス集計を行った結果（表2-I-13）、「民生委員等への事業募集、会員募集の働きかけ」「保育園・幼稚園・認定こども園・児童館・小中学校保護者への働きかけ」「現在の会員への登録依頼の働きかけ」の項目で、増加したグループの方が「効果を実感している」と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった。また、「町内会、地域での広報」「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」の項目で、増加したグループの方が「効果を実感している」と回答した割合が多いことが明らかとなった（有意傾向）。

表 2- I -13 広報手法（対象）の効果について

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P	
現在の会員への登録依頼の働きかけ	群間	2.669	1	2.669	7.475	0.007	**
	群内	94.984	266	0.357			
	合計	97.653	267				
保育園・幼稚園・認定こども園・児童館・小中学校保護者への働きかけ	群間	2.418	1	2.418	6.058	0.014	*
	群内	139.693	350	0.399			
	合計	142.111	351				
民生委員等への事業募集、会員募集の働きかけ	群間	1.966	1	1.966	4.801	0.030	
	群内	88.025	215	0.409			
	合計	89.991	216				*
子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知	群間	1.286	1	1.286	2.967	0.086	
	群内	201.017	464	0.433			†
	合計	202.303	465				
町内会、地域での広報	群間	1.514	1	1.514	2.864	0.092	
	群内	134.767	255	0.528			
	合計	136.280	256				†

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

I-2-(3) 提供会員とコミュニケーション方法の特徴

クロス集計の結果、増加したグループの方が、「提供会員・依頼会員混合のイベント型の交流会（バレーンアートなど）」「提供会員・依頼会員混合のフォローアップ・子育て研修」「活動のない提供会員への個別の郵送物（広報含む）でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のおたずね等）」を実施した回答が有意に多いことが明らかになった。

表 2- I -14 提供会員とコミュニケーション方法の特徴について

			増減率（増・減）		p	
			増えた	減った・変わらない		
提供会員・依頼会員混合のイベント型の交流会（バレーンアートなど）の実施	はい	度数	184	101	0.038	*
		%	54.40%	45.50%		
	いいえ	調整済み残差	2.1	-2.1		
		度数	154	121		

		%	45.60%	54.50%		
		調整済み残差	-2.1	2.1		
		度数	130	64	0.017	*
提供会員・依頼会員混 合のフォローアップ・ 子育て研修」の実施	はい	%	38.50%	28.70%		
		調整済み残差	2.4	-2.4		
		度数	208	159		
	いいえ	%	61.50%	71.30%		
		調整済み残差	-2.4	2.4		
			度数	275	165	0.037
活動のない提供会員へ の個別の郵送物（広報 含む）でのフォロー （交流会・研修へのお 誘いや、状況変化のお たずね等）の実施	はい	%	80.20%	72.70%		
		調整済み残差	2.1	-2.1		
		度数	68	62		
	いいえ	%	19.80%	27.30%		
		調整済み残差	-2.1	2.1		*
		†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01				

I-2-(4) 多様な背景や考え方を持った家庭との関わりの特徴（頻度）

平均値の比較の結果、増加したグループの方が、「経済的に困窮している家庭」への関わりを行っている点数が有意に高い傾向があることが明らかとなった（F(1,549)=3.617, $p<.058$ ）。その他の項目では、増加したグループと、減少した（変わらなかった）グループとの間で有意差は見られなかった。

I-2-(5) 他機関との連携の特徴

【連携の有無】

増減率を、増加したグループと、減少した（変わらなかった）グループとに分け、「他機関との連携」の有無の項目との間でクロス集計（表2-I-15）を行った。その結果、減少した（変わらなかった）グループが、増加したグループより、「里親」と有意に連携していることが明らかとなった。

表2-I-15 他機関との連携の有無について

	自由度	値	P	調整済み残差	
				増	減
里親	1	5.392	.020 *	-2.3	2.3
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01					

【連携先と内容の視点から】

増減率を、増加したグループと、減少した（変わらなかった）グループとに分け、「連携している内容」に違

いがあるのかクロス集計を行った（表 2-I-16）。

有意差のあるすべての項目で、減少した（変わらなかった）グループの方が、増加したグループよりも、様々な内容の連携をしていることが明らかとなった。減少した（変わらなかった）グループは、「社会福祉協議会等」と、「虐待や困難ケース等の相談」「講習会の開催・講師依頼」「ファミサポが併設」において連携している割合が有意に多い。また、「公民館・図書館・市民大学等の社会教育施設」と「活動場所の提供」において連携している割合が有意に多い。そして、「児童相談所」と、「事業の周知・広報（チラシ掲示等）」において連携している割合が有意に多いことが明らかとなった。

表 2-I-16 他機関との連携の有無について

		調整済み残差				
		自由度	値	<i>P</i>		増G 減G
社会福祉協議会等	虐待や困難ケース等の相談	1	5.734	.017	*	-2.4<2.4
	講習会の開催・講師依頼	1	5.764	.016	*	-2.4<2.4
	ファミサポが併設	1	4.314	.038	*	-2.1<2.1
公民館・図書館・市民大学等の社会教育施設	活動場所の提供	1	5.194	.023	*	-2.3<2.3
児童相談所	事業の周知・広報（チラシ掲示等）	1	5.387	.020	*	-2.3<2.3
		† .05<p< .10		* p< .05	** p< .01	

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

I-2-（6）提供会員増減率と提供会員養成講習（9項目・24時間）の実施状況

提供会員増減率と提供会員養成講習（9項目・24時間）の実施状況を、多重比較および2群に分けたクロス集計をした結果、有意差は見られなかった（表 2-I-17）。

一方、令和元年度の提供会員数を、中央値より大きい群（大規模センター）と小さい群（中央値を含む中小規模センター）で分け、提供会員養成講習（9項目・24時間）の実施状況とのクロス集計を行ったところ、1%水準で有意な差が見られた（ $\chi^2(1) = 9.576$, $p = .001$ ）。小さい規模のセンターは、大きいセンターと比較して、実施しなかった割合が有意に高いという結果が明らかとなった。

表 2-I-17 国から提示された講習項目・時間数（9項目・24時間）すべて満たした講習会の令和2年度の実施状況とセンター規模（提供会員数）

		センター規模		有意確率	
		小	大		
実施した	度数	92	130	.001	**
	割合	25.6%	36.3%		
	調整済み残差	-3.1	3.1		
実施しなかった	度数	267	228		
	割合	74.4%	63.7%		
	調整済み残差	3.1	-3.1		

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

I-2-(7) 提供会員増減率とサブリーダーの有無

提供会員増減率とサブリーダーの有無を、平均値の比較および2群に分けたクロス集計をした結果、有意差は見られなかった。

I-2-(8) 提供会員増減率とアドバイザーの任期

提供会員増減率とアドバイザーの任期の有無を、平均値の比較および2群に分けたクロス集計をした結果、有意差は見られなかった。

I-2-(9) 提供会員増減率とアドバイザーの雇用（正規・非正規他）

提供会員増減率を2群に分け、アドバイザーの雇用（正規・非正規他）とクロス集計をした結果、市区町村正社員のみ、5%水準で有意差が見られた（ $\chi^2(1) = 5.900$, $p = .018$ ）。雇用形態で市区町村正社員と回答したセンターは、提供会員が減っている（または変わらない）センターが有意に多いことが明らかとなった。

I-3. 提供会員、依頼会員、両方会員調査との紐づけによる提供会員確保の不足感/充足感および提供会員増減率とセンターの特徴・傾向

ここでは、提供会員確保の不足感/充足感および増減率と会員調査との紐づけによる分析を行う。

I-3-(1) 認知経路の傾向（提供会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 認知経路の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

認知経路の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感をクロス集計した結果、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」は、認知経路として「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(1) = 20.715$, $p < .001$ ）。

一方、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、認知経路として「市の広報」と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(1) = 10.777$, $p = .001$ ）。

② 認知経路の傾向（提供会員調査）と増減率の平均

認知経路の傾向（提供会員調査）と増減率について平均値を比較した結果、表 2-I-18 の通り、「民間施設での広報（商業施設等）」「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」の増減率平均値が有意に高いことが明らかとなった。

表 2-I-18 認知経路の傾向（提供会員調査）と増減率

		標準偏					F 値	有意確率	
		度数	平均値	差		自由度			
民間施設での広報（商業施設等）	はい	40	115.2	20.6	群間	1	5.991	.014	*
	いいえ	2,378	106.3	22.9	群内	2,416			
子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知	はい	637	108.0	22.5	群間	1	4.217	.040	*
	いいえ	1,781	105.9	23.0	群内	2,416			
							†.05 < p < .10	* p < .05	** p < .01

③ 認知経路の傾向（提供会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

提供会員増減率を「増加した群」と、「減少した群」に分け、認知経路の傾向（提供会員調査）とクロス集計した結果、表 2-I-19 の通り、提供会員が「増加した群」は、「民間施設での広報（商業施設等）」「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」を認知経路として回答した割合が有意に高いことが明らかとなった。

表 2-I-19 認知経路の傾向（提供会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

		増減率		P	
		増加	減少		
民間施設での広報（商業施設等）	度数	33	7	.003	**
	割合	2.3	0.7		
	調整済み残差	3.0	-3.0		
子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知	度数	404	233	.019	*
	割合	28.2	23.8		
	調整済み残差	2.4	-2.4		

†.05< p< .10 * p< .05 ** p< .01

I-3-（2）提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

「提供会員になった理由」の傾向（提供会員調査）は、「とても効果があった」1点から、「全く効果がなかった」5点までの5件法となっており、点数が低いほど、効果を実感している回答となる。効果について平均値を比較した結果を、表 2-I-20 にまとめている。

「提供会員になった理由」の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感の平均値を比較した結果、充足している群は、「提供会員になった理由」の傾向として「友人や周りの人に頼まれたから」「自分の視野を広げたいから」と有意に回答していることが明らかとなった。また、「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」「地域や社会のことを知りたいから」と回答している有意傾向が明らかとなった。

一方、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」には、有意な項目はなかった。

表 2-I-20 提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

		平均 標準偏			自由度	F 値	有意確率	
		度数	値	差				
人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから	充足	128	2.69	1.209	群間 1	3.552	.060	†
	不足	2,765	2.89	1.192				
地域や社会のことを知りたいから	充足	128	2.83	1.080	群間 1	3.003	.083	†
	不足	2,762	3.01	1.160				

友人や周りの人に頼まれたから	充足	128	3.29	1.475	群間	1	6.421	.011	*
	不足	2,765	3.63	1.500	群内	2,891			
自分の視野を広げたいから	充足	129	2.41	1.163	群間	1	5.025	.025	*
	不足	2,765	2.65	1.198	群内	2,892			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01									

② 提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と増減率の関連性

「提供会員になった理由」の傾向（提供会員調査）と増減率との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。その結果、表 2-I-21 の通り「就労へのステップとしたいから」「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」と増減率について、1%水準で有意差が認められた。また、「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」「持っている資格を活かしたいから」「友人や周りの人に頼まれたから」「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから」と増減率について、5%水準で有意差が認められた。さらに、「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」「自分の視野を広げたいから」と増減率について有意傾向が認められた。

ただし、相関係数を見ると、直線的な関係を説明できなかった。さらに詳しい分析が必要である。

表 2-I-21 提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と増減率の関連性

	相関係数	
就労へのステップとしたいから	.054	**
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	.053	**
人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから	.052	*
持っている資格を活かしたいから	.047	*
友人や周りの人に頼まれたから	.045	*
活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから	.041	*
家族、友人、職場などから評価される、認められるから	.035	†
自分の視野を広げたいから	.038	†
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01		

③ 提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

提供会員増減率を「増加した群」と、「減少した群」に分け、「提供会員になった理由」の傾向（提供会員調査）と平均値の比較をした結果、表 2-I-22 の通りとなった。

提供会員が「増加した群」は、「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」、「就労へのステップとしたいから」、「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」で有意に回答していることが明らかとなった。また「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから」、「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」、「自分の視野を広げたいから」との回答に有意傾向があることが明らかとなった。

一方、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」には、有意な項目はなかった。

表 2-I-22 提供会員になった理由の傾向（提供会員調査）と提供会員の増減

		度数	平均 値	標準偏 差		自由度	F 値	p	
活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つ きたいから	増加	1,414	2.96	1.229	群間	1	3.159	.076	†
	減少	960	3.05	1.240	群内	2,372			
人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に 付けたいから	増加	1,417	2.83	1.188	群間	1	5.024	.025	*
	減少	963	2.94	1.190	群内	2,378			
家族、友人、職場などから評価される、認められるから	増加	1,416	3.82	1.077	群間	1	2.908	.088	†
	減少	958	3.90	1.050	群内	2,372			
就労へのステップとしたいから	増加	1,416	4.04	1.118	群間	1	10.743	.001	*
	減少	960	4.19	1.041	群内	2,374			
自分の視野を広げたいから	増加	1,419	2.59	1.197	群間	1	2.797	.095	†
	減少	963	2.67	1.176	群内	2,380			
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	増加	1,417	3.44	1.266	群間	1	8.452	.004	*
	減少	962	3.59	1.219	群内	2,377			
					†.05<p<.10 *p<.05 **p<.01				

I-3-(3) 提供会員になったことで得たものの傾向（提供会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 提供会員になったことで得たものの傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

「提供会員になったことで得たもの」の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感をクロス集計した結果、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」と回答した割合が1%水準で有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(1)=6.740$, $p=.009$ ）。さらに、「援助費をもらえる」と回答した割合が5%水準で有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(1)=4.176$, $p=.041$ ）。

一方、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」が、有意に多い項目はなかった。

② 提供会員になったことで得たものの傾向（提供会員調査）と増減率の関連性

「提供会員になったことで得たもの」の傾向（提供会員調査）と増減率との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。

その結果、表 2-I-23 の通り「援助費をもらえる」「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」と増減率について、1%水準で有意差が認められた。また、「社会の役に立っていることが実感できる」と増減率について、5%水準で有意差が認められた。ただし、相関係数をみると、直線的な関係を説明できなかった。詳しい分析が必要である。

表 2- I - 23 提供会員になったことで得たもの（提供会員調査）と増減率の関連性

	相関係数	
援助費をもらえる	.067	**
依頼会員に信頼され、やりがいを感じる	.063	**
社会の役に立っていることが実感できる	.050	*

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

③ 提供会員になったことで得たものの傾向（提供会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

提供会員増減率を「増加した群」と、「減少した群」に分け、「提供会員になったことで得たもの」の傾向（提供会員調査）とクロス集計した結果は、表 2- I - 24 の通りである。

提供会員が減少した（あるいは変化なし）群は、「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」「援助費をもらえる」と回答した割合が、1%水準で有意に高く、さらに「社会の役に立っていることが実感できる」として回答した割合が、5%水準で有意に高いことが明らかとなった。

一方、提供会員が「増加した群」の割合が有意に高い項目はなかった。

表 2- I - 24 提供会員になったことで得たものの傾向（提供会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

		増減率		有意確率	
		増加	減少		
依頼会員に信頼され、やりがいを感じる	度数	1,027	770	<.001	**
	割合	71.8	78.8		
	調整済み残差	-3.9	3.9		
援助費をもらえる	度数	434	347	.008	**
	割合	30.3	35.5		
	調整済み残差	-2.7	2.7		
社会の役に立っていることが実感できる	度数	689	515	.028	*
	割合	48.1	52.7		
	調整済み残差	-2.2	2.2		

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

I - 3 - （4）依頼会員の満足度の傾向（依頼会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 依頼会員の満足度の傾向（依頼会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

提供会員確保の不足感/充足感の各群と、依頼会員の満足度の平均値を比較した結果、有意差は見られなかった（*p* = .115）。

② 依頼会員の満足度の傾向（依頼会員調査）と増減率の関連性

依頼会員の満足度（依頼会員調査）と増減率との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。

その結果、②依頼会員の満足度の傾向（依頼会員調査）と増減率との間には有意な相関は認めなかった（ $\rho = .032$, $p = .185$ ）。

③ 依頼会員の満足度の傾向（依頼会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

満足度は、「満足している」を「1」、「満足していない」を「4」とする4件法で、平均値が低い方が、満足度が高い結果となる。

提供会員の割合が増加したグループと減少した（変わらない）グループで、依頼会員の満足度の得点の平均値を比較した結果、表 2-I-25 の通り増加しているグループの満足度が有意に高いことが明らかとなった。

表 2-I-25 提供会員が増加・減少グループの依頼会員満足度平均値の比較

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
提供会員	増加	1,046	1.34	0.544	群間	1	4.695	0.030	*
	減少	700	1.40	0.591	群内	1,744			
	合計	1,746	1.37	0.564	合計	1,745			

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

I-3-(5) 提供会員への意欲の傾向（依頼会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 提供会員への意欲の傾向（依頼会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

提供会員確保の不足感/充足感の各群と、提供会員への意欲の平均値を比較した結果、有意差は見られなかった（ $p = .494$ ）。

② 提供会員への意欲の傾向（依頼会員調査）と増減率の関連性

提供会員への意欲の傾向（依頼会員調査）と増減率との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。

その結果、提供会員への意欲の傾向（依頼会員調査）と増減率との間には有意な相関は認めなかった（ $\rho = .019$, $p = .422$ ）。

③ 提供会員への意欲の傾向（依頼会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

提供会員の割合が増加したグループと減少したグループで、提供会員への意欲の平均値を比較した結果、有意差は認められなかった（ $p = .576$ ）。

I-3-(6) 両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

提供会員確保の不足感/充足感の各群と、両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）をクロス集計した結果、充足していると感じている群は、「友だちに教えてもらったから」と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった（ $\chi^2(2) = 8.695, p = .013$ ）。その他の理由については、有意差は認められなかった。

② 両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）と増減率の関連性

両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）と増減率の関連性を分析した結果、「無償化の対象になったから」「友人に教えてもらったから」「子どもを地域との関わりで育てたいから」の3つの項目で、「はい」と回答したものが、増減率の平均値が高いという有意な傾向が見られた。その他の理由については、有意差は認められなかった。

表2-I-26 両方会員になった理由の傾向と増減率の関連性

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
無償化の対象になったから	はい	19	118.10	23.281	群間	1	3.142	0.077	†
	いいえ	984	109.24	21.558	群内	1,001			
	合計	1,003	109.41	21.613	合計	1,002			
友人に教えてもらったから	はい	142	112.62	21.918	群間	1	3.668	0.056	†
	いいえ	861	108.88	21.529	群内	1,001			
	合計	1,003	109.41	21.613	合計	1,002			
子どもを地域との関わりで育てたいから	はい	377	110.92	22.793	群間	1	2.976	0.085	†
	いいえ	626	108.50	20.836	群内	1,001			
	合計	1,003	109.41	21.613	合計	1,002			

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

③ 両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループ

両方会員になった理由の傾向（両方会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループ間でクロス集計した結果、全ての項目で有意差は認められなかった。

I-3-(7) 両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と提供会員確保状況の関係

① 両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感についてクロス集計した結果、有意差は認められなかった。

② 両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と増減率の関連性

両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と増減率の関連性について分析を行ったところ、有意差は認められなかった（ $p = .561$ ）。

- ③ 両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの比較

両方会員になったことで得たものの傾向（両方会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと減少したグループについてクロス集計した結果、増加しているグループの方が「地域に新しい知り合いができる」（ $\chi^2(1) = 5.011$, $p = .025$ ）、「育児の経験を活かすことができる」（ $\chi^2(1) = 4.707$, $p = .030$ ）と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった。

I-3-(8) 両方会員の満足度の傾向（両方会員調査）と提供会員確保状況の関係

- ① 両方会員の満足度の傾向（両方会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感

提供会員確保の不足感/充足感の各群と、両方会員の満足度の平均値を比較した結果、有意差は認められなかった（ $p = .255$ ）。

- ② 両方会員の満足度の傾向（両方会員調査）と増減率の関連性

両方会員の満足度の傾向（両方会員調査）と増減率との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。

その結果、両方会員の満足度と増減率とには中等度の有意な相関が認められた（ $\rho = -.069$, $p = .030$ ）。つまり、提供会員が増加しているセンターほど、両方会員の満足度は高い傾向が見られる。

- ③ 両方会員の満足度の傾向（両方会員調査）と提供会員の割合が増加したグループと、減少したグループの比較

提供会員の割合が増加したグループと減少したグループの各群で、両方会員の満足度の平均値を比較した結果、有意差は認められなかった（ $p = .215$ ）。

【参考 調査紙における選択肢の詳細】アドバイザー調査（問1-4）

提供会員確保のための工夫のためにやっている内容

A市の広報に掲載 事業内容、提供会員養成講座の案内、会員募集ファミサポ特集、広報のためのイベント、活動風景写真等、市の行政チャンネルにて、広報番組を放送
B. 町内会、地域での広報 ・市町村内回覧板での広報(チラシ、パンフレット、会報誌 等) ・市町村内掲示板、駅構内掲示板、地下鉄通路(ポスターの掲示)
C. 公共施設や公的な行事での広報 コミュニティーバス、循環バス(シティバス)への掲示 チラシ、パンフレット、リーフレットの配布、ポスターの掲示 (保育園、幼稚園等、保健センター、健診時等病院、コミュニティセンター、公民館、児童館・図書館・子育てひろば・子育て支援センター・保健センター等) 転入・出産の届出時に説明 出張登録会、説明会の実施 (地域子育て支援拠点(支援センター)等へ出張、障がい児家族会等へ出張 地域のまつり等でのパネル展やチラシ配布 (・公民館まつりに参加し子どもの遊び場提供と啓発活動・福祉まつり、市民活動フェスタ(展示、PR)への参加)
D. 民間施設での広報(商業施設等) チラシ配布 (スーパーマーケット、ドラッグストア 等) ポスター掲示 (・商業施設、銀行、スーパーマーケット、公衆浴場、市内マンション 等)
E. ホームページ、SNS ・市の HP 等にファミサポのページを新設 ・HP 等に研修会の日程掲載 ・担当課の SNS にファミサポの行事を掲載等

F. ラジオ、テレビ等 テレビ・ケーブルテレビの放映(ファミサポ紹介番組の放送、ニュース番組の取材) ・ケーブルテレビ経由でのメール配信 ラジオ・地域のFM ラジオでのPR・番組出演 その他・ネット配信、新聞の地方版に講座募集の記事を掲載
G. 口コミ ・サブリーダーからの口コミ ・現依頼・提供会員からの紹介 ・友人・知人への声掛け
H. 子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知 子育て関連施設、イベント時にチラシ、パンフレットを配布、ファミサポの事業説明 ・地区の子育て担当者会議に出席 ・子育てひろばや子育て講座にて出張/R ・子育て支援センター、子育てサロンにて説明 ・子育て関連施設と連携 ・保健師と連携(赤ちゃん訪問事業、健診時等に説明) ・他事業との連携(養育支援訪問事業、子育て家庭相談事業等) ・乳幼児学級、マタニティ教室、新生児等のママ対象学級、両親学級等にて説明 ・毎月子育て相談や親子のふれあい遊びなどイベント実施 ・母子手帳配布時にカードサイズの案内配布 ・自治体の子育てガイドブックに掲載 ・家庭児童相談室からの案内(相談同行) ・孫育て講座でのファミサポの事業紹介 ・子育て支援の講演会にてファミサポデスクを設置、その場で入会受付
I. ボランティア活動の従事者等への働きかけ ボランティア活動の従事者、子育て支援に興味のある方、地域活動やボランティア活動への意識の高い方への働きかけ ・社協行事(ボランティア入門講座、ボランティアリーダー研修等)での事業説明 ・ボランティアセンター・組織での周知(ポスター掲示、マガジンでの事業周知) ・ボランティアセンターと共催で「子育て支援スタッフ講座」の開催 ・ボランティア活動従事者(愛護委員、放課後子ども教室等)へ声掛け、チラシ配布 ・ボランティア情報誌に会員募集について掲載
J. シニア層への働きかけ 周知(事業募集、会員募集) ・シルバー元気塾参加者に対して資料配布、事業説明 ・退職後世代の団体への周知、依頼 ・シニア大学受講生に対して事業紹介 ・高齢者サークルにて登録会の説明 ・保育園、幼稚園等の祖父母向け参観でのR チラシ、リーフレット、ポスターの配布 ・シルバー人材センターへポスター掲示 ・シニア世代向けのイベント、学習会等 ・シニア世代を対象とした公民館講座でのチラシ配布
K. 民生委員等への事業募集、会員募集の働きかけ ・地域の集まり(自治会合等)に参加 ・民生委員会議等で委員へ事業説明、周知 ・民生委員からの情報収集 ・児童委員 等
L. 保育園・幼稚園・認定こども園・児童館・小中学校保護者への働きかけ ・チラシ、パンフレットを配布 ・学童(学童ルーム入所決定通知にリーフレットを同封)、児童館 ・児童クラブ入会式で送迎協力者等募集 ・PTAにチラシの配布
M. 現在の会員への登録依頼の働きかけ ・事前打合せ時に案内チラシを渡し、依頼会員から両方会員への変更依頼 ・両方会員募集を中心にチラシ作成 ・近況調査を行い、子育てを終えた依頼会員・両方会員に提供会員への変更依頼
N. 講習における工夫 ・提供会員養成講習会の回数増加、会場の分散 ・会場を外部施設にして多くの人数が参加しやすくした ・託児付き講座の開催 ・講習会より前に「提供会員希望者向け説明会」を開催
O. 講習会・交流会の工夫 講習会の一般公開 ・子育て支援に関心のある一般市民の参加を募る ・講習会、交流会に会員以外の一般市民にも参加を呼びかけ、事業の周知を図っている 会員以外の人も参加可能な交流会の開催 ・交流会の参加者を会員以外にも広げ、入会につなげる ・会員同士の交流会を実施し、その際会員の方に友人を連れて来てもらう 交流会の開催による親睦 ・会員間、アドバイザーと会員の距離を縮め、良好な関係の中から情報収集 ・交流会を開催し、会員同士の声を聞く

Ⅱ. 提供会員調査

本章では、提供会員調査について「提供会員になった理由」「提供会員となって得たもの」「多様な背景や考え方を持った家庭へ関わり」と属性（年齢、配偶者の有無、活動年数、就業形態、保有資格）とのクロス集計を行った。

Ⅱ-1 . 提供会員になった理由と属性（年齢、配偶者の有無、活動年数、就業形態、保有資格）

Ⅱ-1-（１）年齢との関連性

① 関連性の検討

「提供会員になった理由」と年齢との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。

「提供会員になった理由」の回答は、「あてはまる」～「あてはまらない」の5件法で、「あてはまる」方が点数が低くなっている。また、年齢は、30 歳未満、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上の選択肢があり、点数が高いほど、高齢になっている。

Spearman の順位相関係数を算出した結果、1 %水準の有意差が見られたもので、「提供会員になった理由」として、「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」「孫のような存在が身近に欲しかったから」は、年齢の高さとゆるやかな関連性が見られた。しかし、その他、多くの有意差はあるものの、直線的な関係では説明できないものばかりであった。

表 2-II-1 提供会員になった理由と年齢との関連性

	ρ	P	
収入になるから	0.199	<.001	**
就労へのステップとしたいから	0.185	<.001	**
子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	0.174	<.001	**
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	0.102	<.001	**
自分の視野を広げたいから	0.083	<.001	**
子育て経験が活かせるから	0.068	<.001	**
家族、友人、職場などから評価される、認められるから	0.065	<.001	**
友人や周りの人に頼まれたから	0.047	0.007	*
活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから	0.035	0.042	*
多くの人と知り合いたい、新しい人と出会いたいから	-0.038	0.026	*
地域や社会に恩返しをしたいから	-0.11	<.001	**
生きがいになるものがほしかったから	-0.149	<.001	**
時間に余裕ができたから	-0.176	<.001	**
別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから	-0.289	<.001	**
孫のような存在が身近に欲しかったから	-0.309	<.001	**

② 「子育て世代（40歳代まで）」と「子育てを終えた世代（50歳代以降）」の比較

「提供会員になった理由」と年齢の関係について、もう少し詳しく検討したい。

まず、提供会員の年齢は、表2-II-2の通り、8割を超える回答が、50歳以上である。

第一子出産年齢を30.7歳（厚労省令和3年度 出生に関する統計の概況）と仮定すると、40歳代には子育てが終わることとなる。

表 2-II-2 提供会員の年齢

	度数	割合 (%)	割合の合計	分類
30歳未満	16	0.5	19.2%	子育て世代
30歳代	94	2.8		
40歳代	541	15.9		
50歳代	1,043	30.7	80.7%	子育て終了世代
60歳代	1,150	33.9		
70歳代以上	543	16		

そこでここでは、提供会員の回答を、子育て世代（40歳代まで、表では「子育て中」と略す）と、子育てを終えた世代（50歳代以降、表では「子育て終了」と略す）に分け、「提供会員になった理由」とクロス集計を行った。

その結果、表2-II-3に示すように、「地域や社会に恩返しをしたいから」「生きがいになるものがほしかったから」「子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから」「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」「時間に余裕ができたから」「収入になるから」「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」「就労へのステップとしたいから」「友人や周りの人に頼まれたから」「自分の視野を広げたいから」「子育て経験が活かせるから」「孫のような存在が身近に欲しかったから」という12の項目に、1%水準で有意な差が見られた。

表 2-II-3 提供会員になった理由と「子育て世代（40歳代まで）」と「子育てを終えた世代（50歳代以降）」の比較

提供会員になった理由	値	自由度	有意差
地域や社会に恩返しをしたいから	32.621 ^a	4	<.000 **
生きがいになるものがほしかったから	26.360 ^a	4	<.000 **
子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	71.934 ^a	4	<.000 **
家族、友人、職場などから評価される、認められるから	18.059 ^a	4	<.001 **
時間に余裕ができたから	45.220 ^a	4	<.000 **
収入になるから	104.737 ^a	4	<.000 **
別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから	134.052 ^a	4	<.000 **
就労へのステップとしたいから	105.883 ^a	4	<.000 **
友人や周りの人に頼まれたから	15.767 ^a	4	<.003 **
自分の視野を広げたいから	19.017 ^a	4	<.001 **
子育て経験が活かせるから	9.477 ^a	4	<.050 *
孫のような存在が身近に欲しかったから	212.836 ^a	4	<.000 **

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

次に有意差が見られた項目の中で、「子育て世代」あるいは「子育てが終わった世代」のどちらの特徴として認められるかについて、表2-II-4の調整済み残差の数値（絶対値1.96以上）によって明らかとなった。

「子育て世代」が「子育てが終わった世代」と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから」「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」「収入になるから」「就労へのステップとしたいから」「自分の視野を広げたいから」の5項目である。

一方「子育てが終わった世代」が「子育て世代」と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「地域や社会に恩返しをしたいから」「生きがいになるものがほしかったから」「時間に余裕ができたから」

「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」「孫のような存在が身近に欲しかったから」の5項目であった。

また「子育てが終わった世代」が「子育て世代」と比較して「あてはまらない」と回答した割合が有意に多いのは、「友人や周りの人に頼まれたから」であり、さらに「子育てが終わった世代」が「子育て世代」と比較して「あまりあてはまらない」と回答した割合が有意に多いのは、「子育て経験が活かせるから」となった。

以上のことから、それぞれの世代によって、「提供会員になった理由」に違いがあることが明らかとなった。

表2-II-4 提供会員になった理由と「子育て世代（40歳代まで）」と「子育てを終えた世代（50歳代以降）」の特徴

理由①地域や社会に恩返しをしたいから×世代					理由②生きがいになるものがほしかったから×世代				
		子育て 中	子育て終 了	合計		子育て 中	子育て終 了	合計	
あてはまる	度数	148	915	1,063	あてはまる	度数	72	446	518
	割合	23.0%	33.6%	31.6%	ややあてはまる	割合	11.2%	16.5%	15.5%
	調整済み残差	-5.2	5.2			調整済み残差	-3.3	3.3	
ややあてはまる	度数	259	968	1,227	どちらともいえない	度数	191	923	1,114
	割合	40.2%	35.5%	36.4%		割合	29.7%	34.2%	33.3%
	調整済み残差	2.2	-2.2			調整済み残差	-2.2	2.2	
どちらともいえない	度数	165	551	716	あまりあてはまらない	度数	100	320	420
	割合	25.6%	20.2%	21.3%		割合	15.6%	11.8%	12.6%
	調整済み残差	3.0	-3.0			調整済み残差	2.5	-2.5	
あまりあてはまらない	度数	53	179	232	あてはまらない	度数	82	246	328
	割合	8.2%	6.6%	6.9%		割合	12.8%	9.1%	9.8%
	調整済み残差	1.5	-1.5						
あてはまらない	度数	19	111	130					
	割合	3.0%	4.1%	3.9%					

	調整済 み残差	-1.3	1.3	
合計	度数	644	2,724	3,368
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

	調整済 み残差	2.8	-2.8	
合計	度数	643	2,701	3,344
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由③子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから×世代

		子育て終		
		子育て中	了	合計
あてはまる	度数	363	1,096	1,459
	割合	56.1%	40.5%	43.5%
	調整済 み残差	7.2	-7.2	
ややあてはまる	度数	181	775	956
	割合	28.0%	28.7%	28.5%
	調整済 み残差	-0.3	0.3	
どちらともいえない	度数	54	378	432
	割合	8.3%	14.0%	12.9%
	調整済 み残差	-3.8	3.8	
あまりあてはまらない	度数	25	212	237
	割合	3.9%	7.8%	7.1%
	調整済 み残差	-3.5	3.5	
あてはまらない	度数	24	243	267
	割合	3.7%	9.0%	8.0%
	調整済 み残差	-4.5	4.5	
合計	度数	647	2,704	3,351
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由④家族、友人、職場などから評価される、認められるから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あてはまる	度数	23	51	74
	割合	3.6%	1.9%	2.2%
	調整済 み残差	2.6	-2.6	
ややあてはまる	度数	64	203	267
	割合	10.0%	7.5%	8.0%
	調整済 み残差	2.0	-2.0	
どちらともいえない	度数	194	775	969
	割合	30.2%	28.8%	29.0%
	調整済 み残差	0.7	-0.7	
あまりあてはまらない	度数	165	657	822
	割合	25.7%	24.4%	24.6%
	調整済 み残差	0.7	-0.7	
あてはまらない	度数	196	1,008	1,204
	割合	30.5%	37.4%	36.1%
	調整済 み残差	-3.3	3.3	
合計	度数	642	2,694	3,336
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑤時間に余裕ができたから×世代

		子育て中	子育て終了	合計

理由⑥収入になるから×世代

		子育て中	子育て終了	合計

あてはまる	度数	150	882	1,032
	割合	23.2%	32.4%	30.7%
	調整済み	-4.6	4.6	
	残差			
ややあてはまる	度数	243	1,092	1,335
	割合	37.6%	40.1%	39.6%
	調整済み	-1.2	1.2	
	残差			
どちらともいえない	度数	116	359	475
	割合	18.0%	13.2%	14.1%
	調整済み	3.1	-3.1	
	残差			
あまりあてはまらない	度数	61	213	274
	割合	9.4%	7.8%	8.1%
	調整済み	1.3	-1.3	
	残差			
あてはまらない	度数	76	175	251
	割合	11.8%	6.4%	7.5%
	調整済み	4.6	-4.6	
	残差			
合計	度数	646	2,721	3,367
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑦別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、
身近で育児支援を行いたいと思ったから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あてはまる	度数	45	580	625
	割合	7.0%	21.5%	18.7%
	調整済み	-8.4	8.4	
	み残差			
ややあてはまる	度数	63	531	594
	割合	9.8%	19.6%	17.8%
	調整済み	-5.8	5.8	
	み残差			
どちらともいえない	度数	157	471	628
	割合	24.5%	17.4%	18.8%
	調整済み	4.1	-4.1	
	み残差			

あてはまる	度数	76	120	196
	割合	11.8%	4.4%	5.9%
	調整済み	7.1	-7.1	
	残差			
ややあてはまる	度数	181	509	690
	割合	28.0%	18.8%	20.6%
	調整済み	5.2	-5.2	
	残差			
どちらともいえない	度数	151	605	756
	割合	23.4%	22.4%	22.6%
	調整済み	0.5	-0.5	
	残差			
あまりあてはまらない	度数	118	608	726
	割合	18.3%	22.5%	21.7%
	調整済み	-2.4	2.4	
	残差			
あてはまらない	度数	120	859	979
	割合	18.6%	31.8%	29.3%
	調整済み	-6.6	6.6	
	残差			
合計	度数	646	2,701	3,347
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑧就労へのステップとしたいから×世代

		子育て中	子育て終了	
あてはまる	度数	34	29	63
	割合	5.3%	1.1%	1.9%
	調整済み	7.1	-7.1	
	み残差			
ややあてはまる	度数	81	169	250
	割合	12.6%	6.3%	7.5%
	調整済み	5.5	-5.5	
	み残差			
どちらともいえない	度数	149	516	665
	割合	23.2%	19.1%	19.9%
	調整済み	2.3	-2.3	
	み残差			

あまり	度数	96	298	394
あては	割合	15.0%	11.0%	11.8%
まらな	調整済	2.8	-2.8	
い	み残差			
あては	度数	280	823	1,103
まらな	割合	43.7%	30.4%	33.0%
い	調整済	6.4	-6.4	
	み残差			
合計	度数	641	2,703	3,344
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑨友人や周りの人に頼まれたから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あては	度数	93	360	453
まる	割合	14.4%	13.3%	13.5%
	調整済	0.7	-0.7	
	み残差			
ややあ	度数	105	413	518
てはま	割合	16.3%	15.3%	15.5%
る	調整済	0.6	-0.6	
	み残差			
どちら	度数	104	322	426
ともい	割合	16.1%	11.9%	12.7%
えない	調整済	2.9	-2.9	
	み残差			
あまり	度数	87	327	414
あては	割合	13.5%	12.1%	12.4%
まらな	調整済	1.0	-1.0	
い	み残差			
あては	度数	255	1,279	1,534
まらな	割合	39.6%	47.4%	45.9%
い	調整済	-3.5	3.5	
	み残差			
合計	度数	644	2,701	3,345
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

あまり	度数	126	503	629
あては	割合	19.6%	18.7%	18.8%
まらな	調整済	0.6	-0.6	
い	み残差			
あては	度数	252	1,480	1,732
まらな	割合	39.3%	54.9%	51.9%
い	調整済	-7.1	7.1	
	み残差			
合計	度数	642	2,697	3,339
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑩自分の視野を広げたいから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あては	度数	137	426	563
まる	割合	21.3%	15.8%	16.8%
	調整済	3.4	-3.4	
	み残差			
ややあ	度数	244	964	1,208
てはま	割合	37.9%	35.7%	36.1%
る	調整済	1.1	-1.1	
	み残差			
どちら	度数	156	711	867
ともい	割合	24.2%	26.3%	25.9%
えない	調整済	-1.1	1.1	
	み残差			
あまり	度数	54	289	343
あては	割合	8.4%	10.7%	10.2%
まらな	調整済	-1.7	1.7	
い	み残差			
あては	度数	53	313	366
まらな	割合	8.2%	11.6%	10.9%
い	調整済	-2.4	2.4	
	み残差			
合計	度数	644	2,703	3,347
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑪子育て経験が活かせるから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あてはまる	度数	260	999	1,259
	割合	40.2%	36.8%	37.4%
	調整済み残差	1.6	-1.6	
ややあてはまる	度数	253	1,090	1,343
	割合	39.1%	40.1%	39.9%
	調整済み残差	-0.5	0.5	
どちらでもない	度数	74	368	442
	割合	11.4%	13.6%	13.1%
	調整済み残差	-1.4	1.4	
あまりあてはまらない	度数	14	104	118
	割合	2.2%	3.8%	3.5%
	調整済み残差	-2.1	2.1	
あてはまらない	度数	46	154	200
	割合	7.1%	5.7%	5.9%
	調整済み残差	1.4	-1.4	
合計	度数	647	2,715	3,362
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑫孫のような存在が身近に欲しかったから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あてはまる	度数	10	205	215
	割合	1.6%	7.6%	6.4%
	調整済み残差	-5.6	5.6	
ややあてはまる	度数	34	468	502
	割合	5.3%	17.3%	15.0%
	調整済み残差	-7.7	7.7	
どちらでもない	度数	109	686	795
	割合	17.0%	25.4%	23.8%
	調整済み残差	-4.5	4.5	
あまりあてはまらない	度数	92	460	552
	割合	14.3%	17.0%	16.5%
	調整済み残差	-1.7	1.7	
あてはまらない	度数	398	884	1,282
	割合	61.9%	32.7%	38.3%
	調整済み残差	13.7	-13.7	
合計	度数	643	2,703	3,346
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

理由⑬仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから×世代

		子育て中	子育て終了	合計
あてはまる	度数	59	176	235
	割合	9.2%	6.5%	7.0%
	調整済み残差	2.4	-2.4	
ややあてはまる	度数	130	390	520
	割合	20.2%	14.4%	15.6%
	調整済み残差	3.6	-3.6	
どちらともいえない	度数	191	768	959
	割合	29.7%	28.4%	28.7%
	調整済み残差	0.6	-0.6	

あまりあてはまらない	度数	114	525	639
	割合	17.7%	19.4%	19.1%
	調整済み残差	-1.0	1.0	
あてはまらない	度数	149	841	990
	割合	23.2%	31.1%	29.6%
	調整済み残差	-4.0	4.0	
合計	度数	643	2,700	3,343
	割合	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ-1-(2) 配偶者の有無

配偶者の有無の回答は、表 2-Ⅱ-5 の通り、配偶者「あり」が、約 9 割と多い。ここでは、「提供会員になった理由」と配偶者の有無について、クロス集計を行った。

その結果、5%水準で有意差が見られた項目の中で、配偶者の有無の特徴として認められるものだけ、表 2-Ⅱ-6 から表 2-Ⅱ-16 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）によって明らかにした。

配偶者の「あり」が、配偶者「なし」と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから」の 1 項目であった。また配偶者の「あり」が、配偶者「なし」と比較して「ややあてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「市の公的な事業だから」「時間に余裕ができたから」「子育て経験が活かせるから」の 3 項目であった。

他方、配偶者の「あり」が、配偶者「なし」と比較して「あまりあてはまらない」と回答した割合が有意に多いのは、「相手の気持ちや考えを理解する力を身につけたいから」「孫のような存在が身近に欲しかったから」の 2 項目であった。さらに配偶者の「あり」が、配偶者「なし」と比較して「あてはまらない」と回答した割合が有意に多いのは、「生きがいになるものがほしかったから」「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」の 2 項目であった。

配偶者の「なし」が、配偶者「あり」と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから」「生きがいになるものがほしかったから」「相手の気持ちや考えを理解する力を身につけたいから」「時間に余裕ができたから」「地域や社会のことを知りたいから」「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」「孫のような存在が身近に欲しかったから」の 7 項目であった。

配偶者の「なし」が、配偶者「あり」と比較して「あまりあてはまらない」と回答した割合が有意に多いのは、「市の公的な事業だから」「時間に余裕ができたから」の 2 項目であった。また配偶者の「なし」が、配偶者「あり」と比較して「あてはまらない」と回答した割合が有意に多いのは、「困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから」「子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから」の 2 項目であった。

以上のことから、配偶者の有無で、「提供会員になった理由」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-Ⅱ-5 配偶者の有無

	度数	割合
あり	2,943	86.8
なし	441	13.0

表 2-II-6 困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから × 配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	1,919	293	0.033
	割合	65.50%	66.90%	
	調整済み			
	残差	-0.6	0.6	
ややあてはまる	度数	886	120	
	割合	30.20%	27.40%	
	調整済み			
	残差	1.2	-1.2	
どちらともいえない	度数	99	14	
	割合	3.40%	3.20%	
	調整済み			
	残差	0.2	-0.2	
あまりあてはまらない	度数	18	6	
	割合	0.60%	1.40%	
	調整済み			
	残差	-1.8	1.8	
あてはまらない	度数	9	5	
	割合	0.30%	1.10%	
	調整済み			
	残差	-2.5	2.5	

表 2-II-8 生きがいになるものがほしかったから × 配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	428	90	0.001
	割合	14.70%	20.80%	
	調整済み			
	残差	-3.3	3.3	
ややあてはまる	度数	960	154	
	割合	33.00%	35.60%	
	調整済み			
	残差	-1.1	1.1	
	度数	845	118	
	割合	29.00%	27.30%	

表 2-II-7 活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つめたいから × 配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	327	64	0.084
	割合	11.20%	14.80%	
	調整済み			
	残差	-2.2	2.2	
ややあてはまる	度数	724	118	
	割合	24.90%	27.30%	
	調整済み			
	残差	-1.1	1.1	
どちらともいえない	度数	866	124	
	割合	29.80%	28.70%	
	調整済み			
	残差	0.5	-0.5	
あまりあてはまらない	度数	543	65	
	割合	18.70%	15.00%	
	調整済み			
	残差	1.8	-1.8	
あてはまらない	度数	447	61	
	割合	15.40%	14.10%	
	調整済み			
	残差	0.7	-0.7	

表 2-II-9 子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから × 配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	1,297	162	0
	割合	44.50%	37.40%	
	調整済み			
	残差	2.8	-2.8	
ややあてはまる	度数	844	111	
	割合	28.90%	25.60%	
	調整済み			
	残差	1.4	-1.4	
	度数	371	61	
	割合	12.70%	14.10%	

どちらともいえない	調整済み 残差	0.8	-0.8
あまりあてはまらない	度数	376	44
	割合	12.90%	10.20%
	調整済み 残差	1.6	-1.6
あてはまらない	度数	301	27
	割合	10.30%	6.20%
	調整済み 残差	2.7	-2.7

表 2-II-10 市の公的な事業だから ×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	424	72	0.022
	割合	14.60%	16.70%	
	調整済み 残差	-1.1	1.1	
ややあてはまる	度数	830	96	
	割合	28.50%	22.20%	
	調整済み 残差	2.7	-2.7	
どちらともいえない	度数	830	119	
	割合	28.50%	27.50%	
	調整済み 残差	0.4	-0.4	
あまりあてはまらない	度数	404	78	
	割合	13.90%	18.10%	
	調整済み 残差	-2.3	2.3	
あてはまらない	度数	422	67	
	割合	14.50%	15.50%	
	調整済み 残差	-0.6	0.6	

どちらともいえない	調整済み 残差	-0.8	0.8
あまりあてはまらない	度数	193	44
	割合	6.60%	10.20%
	調整済み 残差	-2.7	2.7
あてはまらない	度数	212	55
	割合	7.30%	12.70%
	調整済み 残差	-3.9	3.9

表 2-II-11 人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから ×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	360	81	0.001
	割合	12.40%	18.80%	
	調整済み 残差	-3.7	3.7	
ややあてはまる	度数	784	126	
	割合	26.90%	29.20%	
	調整済み 残差	-1	1	
どちらともいえない	度数	937	128	
	割合	32.20%	29.60%	
	調整済み 残差	1.1	-1.1	
あまりあてはまらない	度数	472	54	
	割合	16.20%	12.50%	
	調整済み 残差	2	-2	
あてはまらない	度数	361	43	
	割合	12.40%	10.00%	
	調整済み 残差	1.4	-1.4	

表 2-II-12 時間に余裕ができたから ×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	862	170	0
	割合	29.40%	38.90%	
	調整済み			
	残差	-4	4	
ややあてはまる	度数	1,193	141	
	割合	40.70%	32.30%	
	調整済み			
	残差	3.4	-3.4	
どちらともいえない	度数	421	54	
	割合	14.40%	12.40%	
	調整済み			
	残差	1.1	-1.1	
あまりあてはまらない	度数	245	29	
	割合	8.40%	6.60%	
	調整済み			
	残差	1.2	-1.2	
あてはまらない	度数	208	43	
	割合	7.10%	9.80%	
	調整済み			
	残差	-2	2	

表 2-II-14 別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから ×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	520	105	0.006
	割合	17.90%	24.40%	
	調整済み			
	残差	-3.3	3.3	
ややあてはまる	度数	509	85	
	割合	17.50%	19.80%	
	調整済み			
	残差	-1.2	1.2	
度数		554	73	

表 2-II-13 地域や社会のことを知りたいから ×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	240	53	0.016
	割合	8.20%	12.40%	
	調整済み			
	残差	-2.8	2.8	
ややあてはまる	度数	803	133	
	割合	27.60%	31.00%	
	調整済み			
	残差	-1.5	1.5	
どちらともいえない	度数	963	127	
	割合	33.10%	29.60%	
	調整済み			
	残差	1.4	-1.4	
あまりあてはまらない	度数	514	64	
	割合	17.70%	14.90%	
	調整済み			
	残差	1.4	-1.4	
あてはまらない	度数	391	52	
	割合	13.40%	12.10%	
	調整済み			
	残差	0.7	-0.7	

表 2-II-15 子育て経験が活かせるから ×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
あてはまる	度数	1,108	150	>.000
	割合	37.80%	34.90%	
	調整済み			
	残差	1.2	-1.2	
ややあてはまる	度数	1,197	145	
	割合	40.90%	33.70%	
	調整済み			
	残差	2.8	-2.8	
度数		391	51	

どちらと	割合	19.00%	17.00%
もいえな	調整済み		
い	残差	1	-1
あまりあ	度数	349	45
てはまら	割合	12.00%	10.50%
ない	調整済み		
	残差	0.9	-0.9
	度数	981	122
あてはま	割合	33.70%	28.40%
らない	調整済み		
	残差	2.2	-2.2

どちらと	割合	13.30%	11.90%
もいえな	調整済み		
い	残差	0.9	-0.9
あまりあ	度数	99	19
てはまら	割合	3.40%	4.40%
ない	調整済み		
	残差	-1.1	1.1
	度数	135	65
あてはま	割合	4.60%	15.10%
らない	調整済み		
	残差	-8.6	8.6

表 2-II-16 孫のような存在が身近に欲しかったから ×
配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
	度数	176	39	0.012
あてはま	割合	6.00%	9.00%	
る	調整済み			
	残差	-2.4	2.4	
	度数	430	71	
ややあて	割合	14.80%	16.50%	
はまる	調整済み			
	残差	-0.9	0.9	
どちらと	度数	680	115	
もいえな	割合	23.30%	26.70%	
い	調整済み			
	残差	-1.5	1.5	
あまりあ	度数	494	57	
てはまら	割合	17.00%	13.20%	
ない	調整済み			
	残差	2	-2	
	度数	1,133	149	
あてはま	割合	38.90%	34.60%	
らない	調整済み			
	残差	1.7	-1.7	

Ⅱ-1-(3) 活動年数

① 提供会員になった理由と活動年数の関連性

活動年数の回答は、表2-II-17の通り、5年以上が、約6割と多い。

「提供会員になった理由」と活動年数との関連性の検討については、事前にデータの正規性を確認した上で、Spearman の順位相関係数を使用した。

Spearman の順位相関係数を算出した結果、5%水準の有意差が見られたものである。しかし、相関係数を見ると直線的な関係では説明できないものばかりであった。

表2-II-17 活動年数

	度数	割合
1年未満	311	9.2
1年以上3年未満	542	16.0
3年以上5年未満	584	17.2
5年以上	1,939	57.2

表2-II-18 提供会員になった理由と経験年数の関連性

	ρ	p	
収入になるから	0.199	>.000	**
就労へのステップとしたいから	0.185	>.000	**
子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	0.174	>.000	**
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	0.102	>.000	**
自分の視野を広げたいから	0.083	>.000	**
子育て経験が活かせるから	0.068	>.000	**
家族、友人、職場などから評価される、認められるから	0.065	>.000	**
友人や周りの人に頼まれたから	0.047	0.007	**
活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから	0.035	0.042	*
多くの人と知り合いたい、新しい人と出会いたいから	-0.038	0.026	*
地域や社会に恩返しをしたいから	-0.11	>.000	**
生きがいになるものがほしかったから	-0.149	>.000	**
時間に余裕ができたから	-0.176	>.000	**
別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから	-0.289	>.000	**
孫のような存在が身近に欲しかったから	-0.309	>.000	**

② 提供会員になった理由と活動年数のクロス

詳細を分析するために、「提供会員になった理由」と活動年数について、活動年数を5年以上と5年未満に分け、多重比較を行った。「提供会員になった理由」の回答は、「あてはまる」～「あてはまらない」の5件法で、「あてはまる」方の点数が低くなっている。つまり、平均値が低い方が、「あてはまる」と回答している回答が多いということである。

その結果、活動年数5年以上が、5年未満よりも「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した項目は、表2-II-19の通り、「楽しそう、子どもが好きだから」「子育て経験が活かせるから」「子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから」の3項目で、いずれも1%水準で有意な平均値であった。

一方、活動年数5年未満が、5年以上よりも「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した項目は、表2-II-20の通り、「地域や社会に恩返しをしたいから」が、1％水準で有意な平均値であり、「児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから」は、5％水準で有意な平均値であった。

ただ、平均値が2を超えると、3（どちらもといえない）を選択している回答も含んでくるため、活動年数5年以上の方が、「提供会員になった理由」としては「あてはまる」に回答している数が多いと判断できる。

表2-II-19 提供会員になった理由×活動年数（5年以上の方があてはまる）

		度数	平均 値	標準 偏差	自由 度	F 値	P
楽しそう、子どもが好きだから	5年以上	1,924	1.51	0.782	1	9.389	0.002 **
	5年未満	1,427	1.6	0.805	3,349		
子育て経験が活かせるから	5年以上	1,924	1.9	1.012	1	39.787	>.000 **
	5年未満	1,428	2.14	1.167	3,350		
子育てに関して、自分と同じような状況に置 かれている人の手助けをしたいから	5年以上	1,917	2.02	1.213	1	8.768	0.003 **
	5年未満	1,425	2.15	1.295	3,340		

†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

表2-II-20 提供会員になった理由×活動年数（5年未満の方があてはまる）

		度数	平均 値	標準 偏差	自由 度	F 値	P
地域や社会に恩返しをしたいから	5年以上	1,926	2.19	1.097	1	6.19	0.013 **
	5年未満	1,432	2.1	1.01	3,356		
児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解 決に役立ちたいから	5年以上	1,921	2.44	1.214	1	4.088	0.043 *
	5年未満	1,420	2.36	1.146	3,339		

†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

II-1-（4）就業形態

「提供会員になった理由」と就業形態について、就業形態の選択肢は、「無職」「正社員・正規職員」「パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託」「派遣社員」「請負社員」「自営業主、自由業者」「家族従業者」「内職」「経営者、役員」「上記以外」という10項目を選択する形となっている。ここでは、雇用形態によって、どのような違いがあるのか明らかにするために、上記を「正規雇用」「非正規雇用」「無職」の3つに分類し、その他を除外して多重比較を行った。

その結果、表2-II-21の通りとなっている。先にも述べたが、「提供会員になった理由」の回答は、「あてはまる」～「あてはまらない」の5件法で、「あてはまる」方が点数が低くなっている。よって表2-II-21では、平均値の差（I-J）が「－」の項目が、より「あてはまる」に近い回答ということになる。

「正規雇用」が、他の群と比較して「あてはまる」と多く回答したものは、以下の2項目であった。一つ目は、「友人や周りの人に頼まれたから」で、「正規雇用」「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多かった。二つ目は、「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」で、「正規雇用」「非正規雇用」は「無職」より、「あてはまる」の回答が多かった。逆に、「時間に余裕ができたから」は、「正規雇用」は、「非正規雇用」「無職」よりも「あてはまらない」が多い結果となった。

また、「非正規雇用」が、他の群と比較して「あてはまる」と多く回答したものは、以下の12項目であった。「友人や周りの人に頼まれたから」「正規雇用」「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多かった。「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」は、「正規雇用」「非正規雇用」は「無職」より、「あてはまる」の回答が多かった。「多くの人と知り合いたい、新しい人と出会いたいから」については、「非正規雇用」は「正規雇用」よりも「あてはまる」の回答が多い。「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つきたいから」「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから」は、「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」は、「正規雇用」「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「子育て経験が活かせるから」「非正規雇用」は「正規雇用」「無職」よりも「あてはまる」の回答が多く、「無職」は「正規雇用」よりも「あてはまる」の回答が多い。「自分の視野を広げたいから」については、「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「就労へのステップとしたいから」は、「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「持っている資格を活かしたいから」は、「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「収入になるから」は、「非正規雇用」は「無職」よりも「あてはまる」の回答が多い。「時間に余裕ができたから」は、「非正規雇用」は「正規雇用」よりも「あてはまる」の回答が多い。

さらに、「無職」が、他の群と比較して「あてはまる」と多く回答したものは、以下の4項目であった。「時間に余裕ができたから」は、「無職」は、「非正規雇用」「正規雇用」よりも「あてはまる」の回答が多い。「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」について、「無職」は、「正規雇用」「非正規雇用」はよりも「あてはまる」の回答が多い。「生きがいになるものがほしかったから」は、「無職」は、「正規雇用」「非正規雇用」よりも「あてはまる」の回答が多い。「孫のような存在が身近に欲しかったから」は、「無職」は、「正規雇用」「非正規雇用」はよりも「あてはまる」の回答が多い。

表 2-II-21 提供会員になった理由と就業形態

平均値の差				標準誤差	有意確率	95% 信頼区間	
従属変数		(I-J)	下限			上限	
多くの人と知り合いたい、新しい人と出会いたいから	正規雇用	非正規雇用	.284*	0.105	0.019	0.04	0.53
		無職	0.245	0.105	0.052	0.00	0.49
	非正規雇用	正規雇用	-.284*	0.105	0.019	-0.53	-0.04
		無職	-0.039	0.042	0.625	-0.14	0.06
	無職	正規雇用	-0.245	0.105	0.052	-0.49	0.00
		非正規雇用	0.039	0.042	0.625	-0.06	0.14
	正規雇用	非正規雇用	0.173	0.114	0.280	-0.09	0.44

活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけたいから	無職		-0.050	0.114	0.900	-0.32	0.22
		正規雇用	-0.173	0.114	0.280	-0.44	0.09
	非正規雇用	無職	-.224*	0.046	0.000	-0.33	-0.12
		正規雇用	0.050	0.114	0.900	-0.22	0.32
		非正規雇用	.224*	0.046	0.000	0.12	0.33
地域や社会に恩返しをしたいから	正規雇用	非正規雇用	0.043	0.099	0.899	-0.19	0.28
		無職	0.111	0.099	0.503	-0.12	0.34
	非正規雇用	正規雇用	-0.043	0.099	0.899	-0.28	0.19
		無職	0.068	0.040	0.202	-0.03	0.16
	無職	正規雇用	-0.111	0.099	0.503	-0.34	0.12
		非正規雇用	-0.068	0.040	0.202	-0.16	0.03
生きがいのなるものがほしかったから	正規雇用	非正規雇用	0.217	0.108	0.108	-0.04	0.47
		無職	.389*	0.108	0.001	0.14	0.64
	非正規雇用	正規雇用	-0.217	0.108	0.108	-0.47	0.04
		無職	.172*	0.043	0.000	0.07	0.27
	無職	正規雇用	-.389*	0.108	0.001	-0.64	-0.14
		非正規雇用	-.172*	0.043	0.000	-0.27	-0.07
子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	正規雇用	非正規雇用	-0.020	0.114	0.983	-0.29	0.25
		無職	-0.252	0.115	0.074	-0.52	0.02
	非正規雇用	正規雇用	0.020	0.114	0.983	-0.25	0.29
		無職	-.231*	0.046	0.000	-0.34	-0.12
	無職	正規雇用	0.252	0.115	0.074	-0.02	0.52
		非正規雇用	.231*	0.046	0.000	0.12	0.34
市の公的な事業だから	正規雇用	非正規雇用	-0.061	0.117	0.861	-0.33	0.21
		無職	-0.030	0.117	0.965	-0.31	0.25
	非正規雇用	正規雇用	0.061	0.117	0.861	-0.21	0.33
		無職	0.031	0.047	0.786	-0.08	0.14
	無職	正規雇用	0.030	0.117	0.965	-0.25	0.31
		非正規雇用	-0.031	0.047	0.786	-0.14	0.08
人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を	正規雇用	非正規雇用	0.090	0.110	0.690	-0.17	0.35
		無職	-0.004	0.111	0.999	-0.26	0.26
	非正規雇用	正規雇用	-0.090	0.110	0.690	-0.35	0.17
		無職	-0.095	0.044	0.081	-0.20	0.01
	無職	正規雇用	0.004	0.111	0.999	-0.26	0.26
		非正規雇用					

身に付けた いから		非正規雇用	0.095	0.044	0.081	-0.01	0.20
家族、友 人、職場な どから評価 される、認 められるか ら	正規雇用	非正規雇用	-0.140	0.100	0.338	-0.37	0.09
		無職	-.269*	0.100	0.020	-0.50	-0.03
	非正規雇用	正規雇用	0.140	0.100	0.338	-0.09	0.37
		無職	-.129*	0.040	0.004	-0.22	-0.03
	無職	正規雇用	.269*	0.100	0.020	0.03	0.50
		非正規雇用	.129*	0.040	0.004	0.03	0.22
持っている 資格を活か したいから	正規雇用	非正規雇用	-0.065	0.140	0.889	-0.39	0.26
		無職	-0.252	0.141	0.174	-0.58	0.08
	非正規雇用	正規雇用	0.065	0.140	0.889	-0.26	0.39
		無職	-.187*	0.056	0.003	-0.32	-0.05
	無職	正規雇用	0.252	0.141	0.174	-0.08	0.58
		非正規雇用	.187*	0.056	0.003	0.05	0.32
時間に余裕 ができたか ら	正規雇用	非正規雇用	.631*	0.106	0.000	0.38	0.88
		無職	1.067*	0.106	0.000	0.82	1.32
	非正規雇用	正規雇用	-.631*	0.106	0.000	-0.88	-0.38
		無職	.436*	0.042	0.000	0.34	0.54
	無職	正規雇用	-1.067*	0.106	0.000	-1.32	-0.82
		非正規雇用	-.436*	0.042	0.000	-0.54	-0.34
収入になる から	正規雇用	非正規雇用	0.250	0.117	0.082	-0.02	0.52
		無職	-0.077	0.118	0.790	-0.35	0.20
	非正規雇用	正規雇用	-0.250	0.117	0.082	-0.52	0.02
		無職	-.327*	0.047	0.000	-0.44	-0.22
	無職	正規雇用	0.077	0.118	0.790	-0.20	0.35
		非正規雇用	.327*	0.047	0.000	0.22	0.44
地域や社会 のことを知 りたいから	正規雇用	非正規雇用	0.156	0.108	0.316	-0.10	0.41
		無職	0.188	0.108	0.194	-0.07	0.44
	非正規雇用	正規雇用	-0.156	0.108	0.316	-0.41	0.10
		無職	0.031	0.043	0.746	-0.07	0.13
	無職	正規雇用	-0.188	0.108	0.194	-0.44	0.07
		非正規雇用	-0.031	0.043	0.746	-0.13	0.07
別居する子 どもを通じ て育児支援 の必要性を 感じ、身近	正規雇用	非正規雇用	0.147	0.141	0.548	-0.18	0.48
		無職	.550*	0.141	0.000	0.22	0.88
	非正規雇用	正規雇用	-0.147	0.141	0.548	-0.48	0.18
		無職	.403*	0.056	0.000	0.27	0.54
	無職	正規雇用	-.550*	0.141	0.000	-0.88	-0.22

で育児支援 を行いたい と思ったか ら		非正規雇用	-. 403*	0. 056	0. 000	-0. 54	-0. 27
就労へのス テップとし たいから	正規雇用	非正規雇用	0. 128	0. 101	0. 419	-0. 11	0. 37
		無職	-0. 206	0. 102	0. 107	-0. 45	0. 03
	非正規雇用	正規雇用	-0. 128	0. 101	0. 419	-0. 37	0. 11
		無職	-. 334*	0. 041	0. 000	-0. 43	-0. 24
	無職	正規雇用	0. 206	0. 102	0. 107	-0. 03	0. 45
		非正規雇用	. 334*	0. 041	0. 000	0. 24	0. 43
友人や周り の人に頼ま れたから	正規雇用	非正規雇用	-0. 182	0. 140	0. 395	-0. 51	0. 15
		無職	-. 561*	0. 141	0. 000	-0. 89	-0. 23
	非正規雇用	正規雇用	0. 182	0. 140	0. 395	-0. 15	0. 51
		無職	-. 379*	0. 056	0. 000	-0. 51	-0. 25
	無職	正規雇用	. 561*	0. 141	0. 000	0. 23	0. 89
		非正規雇用	. 379*	0. 056	0. 000	0. 25	0. 51
自分の視野 を広げたい から	正規雇用	非正規雇用	0. 136	0. 111	0. 435	-0. 12	0. 40
		無職	0. 011	0. 111	0. 994	-0. 25	0. 27
	非正規雇用	正規雇用	-0. 136	0. 111	0. 435	-0. 40	0. 12
		無職	-. 125*	0. 044	0. 013	-0. 23	-0. 02
	無職	正規雇用	-0. 011	0. 111	0. 994	-0. 27	0. 25
		非正規雇用	. 125*	0. 044	0. 013	0. 02	0. 23
子育て経験 が活かせる から	正規雇用	非正規雇用	. 370*	0. 100	0. 001	0. 14	0. 60
		無職	. 255*	0. 100	0. 030	0. 02	0. 49
	非正規雇用	正規雇用	-. 370*	0. 100	0. 001	-0. 60	-0. 14
		無職	-. 116*	0. 040	0. 011	-0. 21	-0. 02
	無職	正規雇用	-. 255*	0. 100	0. 030	-0. 49	-0. 02
		非正規雇用	. 116*	0. 040	0. 011	0. 02	0. 21
孫のような 存在が身近 に欲しかつ たから	正規雇用	非正規雇用	0. 136	0. 121	0. 495	-0. 15	0. 42
		無職	. 392*	0. 121	0. 004	0. 11	0. 68
	非正規雇用	正規雇用	-0. 136	0. 121	0. 495	-0. 42	0. 15
		無職	. 256*	0. 048	0. 000	0. 14	0. 37
	無職	正規雇用	-. 392*	0. 121	0. 004	-0. 68	-0. 11
		非正規雇用	-. 256*	0. 048	0. 000	-0. 37	-0. 14
児童虐待や 子育ての孤 立など、社	正規雇用	非正規雇用	0. 018	0. 111	0. 986	-0. 24	0. 28
		無職	0. 025	0. 112	0. 973	-0. 24	0. 29
	非正規雇用	正規雇用	-0. 018	0. 111	0. 986	-0. 28	0. 24

会問題の解		無職	0.007	0.044	0.986	-0.10	0.11
決に役立ち	無職	正規雇用	-0.025	0.112	0.973	-0.29	0.24
たいから		非正規雇用	-0.007	0.044	0.986	-0.11	0.10
仕事や活動	正規雇用	非正規雇用	-0.078	0.116	0.779	-0.35	0.19
に必要な知		無職	-.440*	0.117	0.001	-0.71	-0.17
識やスキル	非正規雇用	正規雇用	0.078	0.116	0.779	-0.19	0.35
を取得した		無職	-.361*	0.047	0.000	-0.47	-0.25
いから	無職	正規雇用	.440*	0.117	0.001	0.17	0.71
		非正規雇用	.361*	0.047	0.000	0.25	0.47

*. $P < .05$

Ⅱ-1-(5) 保有資格

ここでは、保有資格によって、「提供会員になった理由」にどのような違いがあるのか明らかにするために、平均値の比較を行った。その結果、表 2-II-22～表 2-II-28 の通りとなっている。

先にも述べたが、「提供会員になった理由」の回答は、「あてはまる」～「あてはまらない」の 5 件法で、「あてはまる」方が点数が低くなっている。よって平均値の低い方が、より「あてはまる」に近い回答ということになる。

保育士資格

「提供会員になった理由」の質問項目が 22 項目ある中で、保育士資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して有意に「あてはまる」と多く回答したものは、表 2-II-22 の通り、13 項目にのぼった。特に、「持っている資格を活かしたいから」が、保育士資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して、1%水準で有意に 2 ポイント上回った。その他、「楽しそう、子どもが好きだから」「持っている資格を活かしたいから」「子育て経験が活かせるから」「児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから」の 4 項目が、保育士資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と有意に多く回答していることがわかる。

逆に、保育士資格「なし」の群が、「あり」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものは、なかった。

表 2-II-22 提供会員になった理由×保育士資格

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
楽しそう、子どもが好きだから	はい	826	1.36	0.606	群間	1	62.449	>.00	**
	いいえ	2,539	1.61	0.835	群内	3,363			
	合計	3,365	1.55	0.792	合計	3,364			
活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけたいから	はい	820	2.87	1.271	群間	1	11.690	0.001	**
	いいえ	2,525	3.04	1.214	群内	3,343			
	合計	3,345	3.00	1.230	合計	3,344			

市の公的な事業だから	はい	822	2.76	1.222	群間	1	7.601	0.006	**
	いいえ	2,526	2.90	1.268	群内	3,346			
	合計	3,348	2.86	1.258	合計	3,347			
家族、友人、職場などから評価される、認められるから	はい	820	3.72	1.100	群間	1	14.836	>.00	**
	いいえ	2,521	3.88	1.058	群内	3,339			
	合計	3,341	3.84	1.071	合計	3,340			
持っている資格を活かしたいから	はい	830	1.85	1.091	群間	1	1557.730	>.00	**
	いいえ	2,521	3.81	1.288	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			
時間に余裕ができたから	はい	829	2.07	1.153	群間	1	17.817	>.00	**
	いいえ	2,543	2.27	1.187	群内	3,370			
	合計	3,372	2.22	1.182	合計	3,371			
収入になるから	はい	823	3.36	1.301	群間	1	8.987	0.003	**
	いいえ	2,529	3.52	1.250	群内	3,350			
	合計	3,352	3.48	1.264	合計	3,351			
地域や社会のことを知りたいから	はい	819	2.91	1.144	群間	1	4.705	0.030	*
	いいえ	2,527	3.01	1.158	群内	3,344			
	合計	3,346	2.98	1.155	合計	3,345			
友人や周りの人に頼まれたから	はい	824	3.44	1.551	群間	1	15.860	>.00	**
	いいえ	2,526	3.68	1.490	群内	3,348			
	合計	3,350	3.62	1.509	合計	3,349			
自分の視野を広げたいから	はい	822	2.55	1.139	群間	1	3.750	0.053	†
	いいえ	2,530	2.65	1.216	群内	3,350			
	合計	3,352	2.63	1.198	合計	3,351			
子育て経験が活かせるから	はい	828	1.90	1.097	群間	1	10.860	0.001	**
	いいえ	2,539	2.04	1.082	群内	3,365			
	合計	3,367	2.01	1.087	合計	3,366			
児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから	はい	822	2.32	1.142	群間	1	5.302	0.021	*
	いいえ	2,533	2.43	1.198	群内	3,353			
	合計	3,355	2.41	1.186	合計	3,354			
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	はい	823	3.24	1.253	群間	1	42.017	>.00	**
	いいえ	2,525	3.57	1.245	群内	3,346			
	合計	3,348	3.49	1.255	合計	3,347			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01									

幼稚園教諭免許

「提供会員になった理由」の質問項目が22項目ある中で、幼稚園教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものは、表2-II-23の通り、8項目であった。特に、「持っている資格を活かしたいから」が、幼稚園教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して、1%水準で有意に1.8ポイント上回った。その他、「楽しそう、子どもが好きだから」「持っている資格を活かしたいから」「時間に余裕ができたから」「子育て経験が活かせるから」の4項目が、幼稚園教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と有意に多く回答していることがわかる。

逆に、幼稚園教諭免許「なし」の群が、「あり」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものはなかった。

表2-II-23 提供会員になった理由×幼稚園教諭免許

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
楽しそう、子どもが好きだから	はい	659	1.35	0.611	群間	1	51.834	>.00	**
	いいえ	2,706	1.60	0.823	群内	3,363			
	合計	3,365	1.55	0.792	合計	3,364			
活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つきたいから	はい	654	2.92	1.268	群間	1	3.292	0.070	†
	いいえ	2,691	3.02	1.220	群内	3,343			
	合計	3,345	3.00	1.230	合計	3,344			
市の公的な事業だから	はい	654	2.73	1.225	群間	1	9.561	0.002	**
	いいえ	2,694	2.90	1.264	群内	3,346			
	合計	3,348	2.86	1.258	合計	3,347			
持っている資格を活かしたいから	はい	661	1.88	1.071	群間	1	988.108	>.00	**
	いいえ	2,690	3.68	1.376	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			
時間に余裕ができたから	はい	658	2.06	1.138	群間	1	14.848	>.00	**
	いいえ	2,714	2.26	1.189	群内	3,370			
	合計	3,372	2.22	1.182	合計	3,371			
友人や周りの人に頼まれたから	はい	658	3.44	1.570	群間	1	11.215	0.001	**
	いいえ	2,692	3.66	1.490	群内	3,348			
	合計	3,350	3.62	1.509	合計	3,349			
子育て経験が活かせるから	はい	659	1.89	1.040	群間	1	9.810	0.002	**
	いいえ	2,708	2.04	1.097	群内	3,365			
	合計	3,367	2.01	1.087	合計	3,366			
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	はい	655	3.33	1.246	群間	1	13.718	>.00	**
	いいえ	2,693	3.53	1.254	群内	3,346			
	合計	3348	3.49	1.255	合計	3,347			
							† .05<p<.10	* p<.05	** p<.01

小・中・高教諭免許

「提供会員になった理由」の質問項目が22項目ある中で、小・中・高教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものは2項目であった。特に、「持っている資格を活かしたいから」が、小・中・高教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して、1%水準で有意に0.4ポイント上回った。その他、「時間に余裕ができたから」が、小・中・高教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と多く回答している有意傾向があることがわかった。

逆に、小・中・高教諭免許「なし」の群が、「あり」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と有意に多く回答したものは、「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから」「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」の2項目となった。

その他、小・中・高教諭免許「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と有意に多く回答したものは、「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから」「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」(有意傾向)、「就労へのステップとしたいから」の3項目となった。

表 2-II-24 提供会員になった理由×小・中・高教諭免許

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
活動に対する自分の適性を知 りたい・やりたい仕事を見つ けたいから	はい	394	3.12	1.274	群間	1	4.078	0.044	*
	いいえ	2,951	2.99	1.224	群内	3,343			
	合計	3,345	3.00	1.230	合計	3,344			
人と接することや、相手の気 持ちや考えを理解する力を身 に付けたいから	はい	395	3.03	1.168	群間	1	8.189	0.004	**
	いいえ	2,957	2.84	1.194	群内	3,350			
	合計	3,352	2.86	1.192	合計	3,351			
家族、友人、職場などから評 価される、認められるから	はい	395	3.94	1.029	群間	1	3.335	0.068	†
	いいえ	2,946	3.83	1.076	群内	3,339			
	合計	3,341	3.84	1.071	合計	3,340			
持っている資格を活かしたい から	はい	397	2.99	1.363	群間	1	22.915	>.00	**
	いいえ	2,954	3.37	1.516	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			
時間に余裕ができたから	はい	395	2.12	1.095	群間	1	3.188	0.074	†
	いいえ	2,977	2.23	1.192	群内	3,370			
	合計	3,372	2.22	1.182	合計	3,371			
就労へのステップとしたいか ら	はい	395	4.29	0.932	群間	1	12.408	>.00	**
	いいえ	2,949	4.09	1.100	群内	3,342			
	合計	3,344	4.11	1.084	合計	3,343			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01									

看護師資格

「提供会員になった理由」の質問項目が22項目ある中で、看護師資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものは、4項目であった。特に、「持っている資格を活かしたいから」が、看護師資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して、1%水準で有意に0.8ポイント上回った。その他、「楽しそう、子どもが好きだから」「地域や社会に恩返しをしたいから」「時間に余裕ができたから」「児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから」の4項目が、看護師資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と多く回答している有意傾向があることがわかった。

逆に、看護師資格「なし」の群が、「あり」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と有意に多く回答したものはなかった。

その他、看護師資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と有意に多く回答したものは、「収入になるから」「就労へのステップとしたいから」（有意傾向）、「友人や周りの人に頼まれたから」（有意傾向）の3項目となった。

表2-II-25 提供会員になった理由×看護師資格

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
楽しそう、子どもが好きだから	はい	133	1.78	1.018	群間	1	12.085	0.001	**
	いいえ	3,232	1.54	0.780	群内	3,363			
	合計	3,365	1.55	0.792	合計	3,364			
地域や社会に恩返しをしたいから	はい	134	1.86	0.927	群間	1	10.576	0.001	**
	いいえ	3,239	2.16	1.066	群内	3,371			
	合計	3,373	2.15	1.063	合計	3,372			
持っている資格を活かしたいから	はい	134	2.52	1.319	群間	1	40.545	>.00	**
	いいえ	3,217	3.36	1.502	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			
「提供会員」になった理由 時間に余裕ができたから	はい	134	1.90	1.042	群間	1	10.633	0.001	**
	いいえ	3,238	2.23	1.185	群内	3,370			
	合計	3,372	2.22	1.182	合計	3,371			
収入になるから	はい	134	3.75	1.179	群間	1	6.654	0.010	**
	いいえ	3,218	3.47	1.267	群内	3,350			
	合計	3,352	3.48	1.264	合計	3,351			
就労へのステップとしたいから	はい	134	4.28	1.036	群間	1	3.141	0.076	†
	いいえ	3,210	4.11	1.085	群内	3,342			
	合計	3,344	4.11	1.084	合計	3,343			
友人や周りの人に頼まれたから	はい	134	3.86	1.436	群間	1	3.571	0.059	†
	いいえ	3,216	3.61	1.511	群内	3,348			
	合計	3,350	3.62	1.509	合計	3,349			

児童虐待や子育ての孤立など、 社会問題の解決に役立ちたいか ら	はい	134	2.19	1.166	群間	1	4.427	0.035	*
	いいえ	3,221	2.41	1.186	群内	3,353			
	合計	3,355	2.41	1.186	合計	3,354			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01									

ホームヘルパー資格

「提供会員になった理由」の質問項目が22項目ある中で、ホームヘルパー資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものは、3項目であった。特に、「別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから」が、ホームヘルパー資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して、1%水準で有意に0.3ポイント上回った。その他、「生きがいのなるものがほしかったから」「自分の視野を広げたいから」が、ホームヘルパー資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と有意に多く回答していることがわかった。

逆に、ホームヘルパー資格「なし」の群が、「あり」の群と比較して「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と有意に多く回答したものは「持っている資格を活かしたいから」「地域や社会のことを知りたいから」「孫のような存在が身近に欲しかったから」「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」となった。

表 2-II-26 提供会員になった理由×ホームヘルパー資格

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
生きがいのなるものがほしかったから	はい	473	2.59	1.147	群間	1	3.526	0.060	*
	いいえ	2,876	2.70	1.174	群内	3,347			
	合計	3,349	2.68	1.171	合計	3,348			
持っている資格を活かしたいから	はい	470	3.14	1.393	群間	1	8.141	0.004	**
	いいえ	2,881	3.36	1.519	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			
地域や社会のことを知りたいから	はい	469	2.85	1.160	群間	1	7.189	0.007	**
	いいえ	2,877	3.00	1.153	群内	3,344			
	合計	3,346	2.98	1.155	合計	3,345			
別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから	はい	470	2.96	1.530	群間	1	16.610	>.00	**
	いいえ	2,879	3.27	1.514	群内	3,347			
	合計	3,349	3.23	1.520	合計	3,348			
自分の視野を広げたいから	はい	472	2.49	1.182	群間	1	7.275	0.007	**
	いいえ	2,880	2.65	1.199	群内	3,350			
	合計	3,352	2.63	1.198	合計	3,351			
	はい	471	3.44	1.337	群間	1	14.974	>.00	**

孫のような存在が身近に欲しかったから	いいえ	2,880	3.69	1.286	群内	3,349			
	合計	3,351	3.65	1.296	合計	3,350			
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	はい	472	3.36	1.289	群間	1	6.073	0.014	*
	いいえ	2,876	3.51	1.248	群内	3,346			
	合計	3,348	3.49	1.255	合計	3,347			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01									

社会福祉士資格

「提供会員になった理由」の質問項目が22項目ある中で、社会福祉士資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものは、3項目であった。特に、「児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから」が、社会福祉士資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して、5%水準で有意に0.5ポイント上回った。その他、「持っている資格を活かしたいから」「自分の視野を広げたいから」が、社会福祉士資格「あり」の群が、「なし」の群と比較して「あてはまる」「ややあてはまる」と有意に多く回答していることがわかった。

逆に、社会福祉士資格「なし」の群が、「あり」の群と比較して「ややあてはまらない」「あてはまらない」と有意に多く回答したものは、「就労へのステップとしたいから」「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」（ともに、有意傾向）となった。

表 2-II-27 提供会員になった理由×社会福祉士資格

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
持っている資格を活かしたいから	はい	35	2.49	1.541	群間	1	11.133	0.001	**
	いいえ	3,316	3.34	1.501	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			
就労へのステップとしたいから	はい	35	3.77	1.140	群間	1	3.531	0.060	†
	いいえ	3,309	4.12	1.083	群内	3,342			
	合計	3,344	4.11	1.084	合計	3,343			
自分の視野を広げたいから	はい	36	2.22	1.124	群間	1	4.119	0.042	*
	いいえ	3,316	2.63	1.198	群内	3,350			
	合計	3,352	2.63	1.198	合計	3,351			
児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから	はい	35	1.94	0.938	群間	1	5.383	0.020	*
	いいえ	3,320	2.41	1.187	群内	3,353			
	合計	3,355	2.41	1.186	合計	3,354			
仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	はい	35	3.09	1.222	群間	1	3.633	0.057	†
	いいえ	3,313	3.49	1.255	群内	3,346			
	合計	3,348	3.49	1.255	合計	3,347			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01									

資格なし

「提供会員になった理由」の質問項目が22項目ある中で、16項目に有意差が見られたが、資格「なし」に回答した群が、その他の群（無回答）と比較して「あてはまる」と有意に多く回答したものはなかった。

顕著だったのは、「持っている資格を活かしたいから」が、資格「なし」に回答した群が、その他の群（無回答）と比較して、1%水準で有意に1.6ポイント下回った点である。

表 2-II-28 提供会員になった理由×資格の有無

		度数	平均値	標準偏差		自由度	F 値	p	
楽しそう、子どもが好きだから	はい	1,272	1.64	0.856	群間	1	30.021	>.00	**
	いいえ	2,093	1.49	0.745	群内	3,363			
	合計	3,365	1.55	0.792	合計	3,364			
困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから	はい	1,273	1.46	0.668	群間	1	14.322	>.00	**
	いいえ	2,103	1.37	0.608	群内	3,374			
	合計	3,376	1.40	0.633	合計	3,375			
多くの人と知り合いたい、新しい人と出会いたいから	はい	1,256	2.61	1.144	群間	1	8.744	0.003	**
	いいえ	2,084	2.50	1.116	群内	3,338			
	合計	3,340	2.54	1.128	合計	3,339			
活動に対する自分の適性を 知りたい・やりたい仕事を見 つけたいから	はい	1,262	3.10	1.185	群間	1	12.921	>.00	**
	いいえ	2,083	2.94	1.253	群内	3,343			
	合計	3,345	3.00	1.230	合計	3,344			
地域や社会に恩返しをした いから	はい	1,274	2.27	1.095	群間	1	25.152	>.00	**
	いいえ	2,099	2.08	1.036	群内	3,371			
	合計	3,373	2.15	1.063	合計	3,372			
生きがよいになるものがほし かったから	はい	1,262	2.78	1.162	群間	1	14.332	>.00	**
	いいえ	2,087	2.62	1.173	群内	3,347			
	合計	3,349	2.68	1.171	合計	3,348			
人と接することや、相手の 気持ちや考えを理解する力 を身に付けたいから	はい	1,265	2.95	1.167	群間	1	9.632	0.002	**
	いいえ	2,087	2.81	1.205	群内	3,350			
	合計	3,352	2.86	1.192	合計	3,351			
家族、友人、職場などから 評価される、認められるか ら	はい	1,258	3.90	1.045	群間	1	5.425	0.020	**
	いいえ	2,083	3.81	1.085	群内	3,339			
	合計	3,341	3.84	1.071	合計	3,340			
持っている資格を活かした いから	はい	1,257	4.33	0.930	群間	1	1,213.39 5	>.00	**
	いいえ	2,094	2.73	1.462	群内	3,349			
	合計	3,351	3.33	1.503	合計	3,350			

「提供会員」になった理由 時間に余裕ができたから	はい	1, 276	2. 34	1. 213	群間	1	21. 462	>. 00	**
	いいえ	2, 096	2. 15	1. 156	群内	3, 370			
	合計	3, 372	2. 22	1. 182	合計	3, 371			
地域や社会のことを知りた いから	はい	1, 266	3. 13	1. 135	群間	1	31. 536	>. 00	**
	いいえ	2, 080	2. 90	1. 159	群内	3, 344			
	合計	3, 346	2. 98	1. 155	合計	3, 345			
別居する子どもを通じて育 児支援の必要性を感じ、身 近で育児支援を行いたいと 思ったから	はい	1, 265	3. 36	1. 519	群間	1	14. 860	>. 00	**
	いいえ	2, 084	3. 15	1. 516	群内	3, 347			
	合計	3, 349	3. 23	1. 520	合計	3, 348			
就労へのステップとしたい から	はい	1, 261	4. 19	1. 037	群間	1	9. 959	0. 002	**
	いいえ	2, 083	4. 07	1. 108	群内	3, 342			
	合計	3, 344	4. 11	1. 084	合計	3, 343			
自分の視野を広げたいから	はい	1, 264	2. 72	1. 194	群間	1	11. 541	0. 001	**
	いいえ	2, 088	2. 57	1. 197	群内	3, 350			
	合計	3, 352	2. 63	1. 198	合計	3, 351			
児童虐待や子育ての孤立な ど、社会問題の解決に役立 ちたいから	はい	1, 267	2. 52	1. 210	群間	1	18. 750	>. 00	**
	いいえ	2, 088	2. 34	1. 166	群内	3, 353			
	合計	3, 355	2. 41	1. 186	合計	3, 354			
仕事や活動に必要な知識や スキルを取得したいから	はい	1, 262	3. 69	1. 211	群間	1	53. 958	>. 00	**
	いいえ	2, 086	3. 36	1. 265	群内	3, 346			
	合計	3, 348	3. 49	1. 255	合計	3, 347			
† .05<p< .10 * p< .05 ** p< .01									

Ⅱ-2. 提供会員になったことで得たものと属性（年齢、配偶者の有無、活動年数、就業形態、保有資格）

Ⅱ-2-（1）年齢とのクロス集計

「提供会員になったことで得たもの」の質問に対しては、「あてはまる」ものすべてに回答する複数回答法で回答を得た。

提供会員の回答を、子育て世代（40 歳代まで）と、子育てを終えた世代（50 歳代以降）に分け、「提供会員になったことで得たもの」とクロス集計を行った。

その結果、有意差が見られた項目の中で、「子育て世代」あるいは「子育てが終わった世代」の特徴として認められるものだけ、表 2-Ⅱ-29 から表 2-Ⅱ-33 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）によって明らかにした。

「子育て世代」が「子育てが終わった世代」と比較して「はい」と回答した割合が有意に多いのは、表 2-Ⅱ-31 から表 2-Ⅱ-33 で「援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある」「育児の経験を活かすことができる」「援助費をもらえる」の 3 項目である。

一方「子育てが終わった世代」が「子育て世代」と比較して「はい」と回答した割合が有意に多いのは、表

2-II-29 から表 2-II-30 で、「社会参加ができる」「地域に新しい知り合いができる」の2項目であった。

以上のことから、それぞれの世代によって、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-29 社会参加ができる×世代

		子育て 世代	子育て 終了	合計	P
はい	度数	265	1,277	1,542	0.006
	割合	40.70%	46.70%	45.50%	
	調整済 み残差	-2.7	2.7		
いい え	度数	386	1,459	1,845	
	割合	59.30%	53.30%	54.50%	
	調整済 み残差	2.7	-2.7		

表 2-II-30 地域に新しい知り合いができる×世代

		子育て 世代	子育て 終了		P
はい	度数	277	1,286	1,563	0.041
	割合	42.50%	47.00%	46.10%	
	調整済 み残差	-2	2		
いい え	度数	374	1,450	1,824	
	割合	57.50%	53.00%	53.90%	
	調整済 み残差	2	-2		

表 2-II-31 援助している子どもとのふれあいで自
分の子どもの成長や違う面の発見がある×世代

		子育て 世代	子育て 終了		P
はい	度数	351	1,049	1,400	>.000
	割合	53.90%	38.30%	41.30%	
	調整済 み残差	7.3	-7.3		
いい え	度数	300	1,687	1,987	
	割合	46.10%	61.70%	58.70%	
	調整済 み残差	-7.3	7.3		

表 2-II-32 育児の経験を活かすことができる×世代

		子育て 世代	子育て 終了		P
はい	度数	444	1,745	2,189	0.034
	割合	68.20%	63.80%	64.60%	
	調整済 み残差	2.1	-2.1		
いい え	度数	207	991	1,198	
	割合	31.80%	36.20%	35.40%	
	調整済 み残差	-2.1	2.1		

表 2-II-33 援助費をもらえる×世代

		子育て 世代	子育て 終了		P
はい	度数	246	799	1,045	>.000
	割合	37.80%	29.20%	30.90%	
	調整済 み残差	4.3	-4.3		
いい え	度数	405	1,937	2,342	
	割合	62.20%	70.80%	69.10%	
	調整済 み残差	-4.3	4.3		

Ⅱ-2-（2）配偶者の有無

ここでは、「提供会員になったことで得たもの」と配偶者の有無について、クロス集計を行った。その結果、5％水準で有意差が見られた項目の中で、配偶者の有無の特徴として認められるものだけ、表 2-Ⅱ-34 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）によって明らかにした。

配偶者の「あり」が、配偶者「なし」と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「育児の経験を活かすことができる」の 1 項目のみであった。

その他の項目では、配偶者の有無での違いは認められなかった。

以上のことから、配偶者の有無で、「提供会員になったことで得たもの」の 1 つに違いがあることが明らかとなった。

表 2-Ⅱ-34 育児の経験を活かすことができる×配偶者の有無

		配偶者の有無			
		いる	いない	p	
はい	度数	1,928	261	0.01	*
	割合	65.50%	59.20%		
	調整済み残差	2.6	-2.6		
いいえ	度数	1,015	180		
	割合	34.50%	40.80%		
	調整済み残差	-2.6	2.6		

Ⅱ-2-（3）活動年数

提供会員の回答を、活動年数 5 年以上と 5 年未満に分け、「提供会員になったことで得たもの」とクロス集計を行った。

その結果、「とくにない」以外の全項目で、5 年以上の提供会員が「はい」と回答している割合が、5 年未満の提供会員より、有意に多いことが明らかとなった。特に差が見られたのは、表 2-Ⅱ-35 の調整済み残差から（絶対値 1.96 以上）、「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」「自分や家族と援助している子どもとのふれあい楽しい」「地域に新しい知り合いができる」に大きな差が出た。

また、「とくにない」の回答は、5 年未満の提供会員より、5 年以上の提供会員が「はい」と回答している割合が、有意に多いことが明らかとなった。

以上のことから、提供会員の活動の継続性と、得たものとの間に、関係性があることが明らかとなった。

表 2-Ⅱ-35 提供会員になったことで得たもの×活動年数

		5 年			
		以上	未満	p	
依頼会員に信頼され、やりがいを感じる×活動年数	はい	度数	1,518	962	>.000 **
		割合	78.30%	66.90%	
		調整済み残差	7.4	-7.4	
	いいえ	度数	421	475	

		割合	21.70%	33.10%		
		調整済み残差	-7.4	7.4		
社会参加ができる×活動年数	はい	度数	919	620	0.014	*
		割合	47.40%	43.10%		
		調整済み残差	2.5	-2.5		
	いいえ	度数	1,020	817		
		割合	52.60%	56.90%		
		調整済み残差	-2.5	2.5		
自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい×活動年数	はい	度数	1,383	875	>.000	**
		割合	71.30%	60.90%		
		調整済み残差	6.4	-6.4		
	いいえ	度数	556	562		
		割合	28.70%	39.10%		
		調整済み残差	-6.4	6.4		
育児に関する知識や技術を身につけることができる×活動年数	はい	度数	622	381	0.001	**
		割合	32.10%	26.50%		
		調整済み残差	3.5	-3.5		
	いいえ	度数	1,317	1,056		
		割合	67.90%	73.50%		
		調整済み残差	-3.5	3.5		
援助費をもらえる×活動年数	はい	度数	649	395	>.000	**
		割合	33.50%	27.50%		
		調整済み残差	3.7	-3.7		
	いいえ	度数	1,290	1,042		
		割合	66.50%	72.50%		
		調整済み残差	-3.7	3.7		
社会の役に立っていることが実感できる×活動年数	はい	度数	1,020	682	0.003	**
		割合	52.60%	47.50%		
		調整済み残差	3	-3		
	いいえ	度数	919	755		
		割合	47.40%	52.50%		
		調整済み残差	-3	3		
地域に新しい知り合いができる×活動年数	はい	度数	966	594	>.000	**
		割合	49.80%	41.30%		
		調整済み残差	4.9	-4.9		
	いいえ	度数	973	843		
		割合	50.20%	58.70%		
		調整済み残差	-4.9	4.9		
	はい	度数	839	560	0.013	

援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある×活動年数		割合	43.30%	39.00%		
		調整済み残差	2.5	-2.5		
		度数	1,100	877		
	いいえ	割合	56.70%	61.00%		
		調整済み残差	-2.5	2.5		
		度数				
育児の経験を活かすことができる×活動年数	はい	度数	1,316	869	>.000	**
		割合	67.90%	60.50%		
		調整済み残差	4.4	-4.4		
	いいえ	度数	623	568		
		割合	32.10%	39.50%		
		調整済み残差	-4.4	4.4		
とくにない×活動年数	はい	度数	5	15	0.005	**
		割合	0.30%	1.00%		
		調整済み残差	-2.9	2.9		
	いいえ	度数	1,934	1,422		
		割合	99.70%	99.00%		
		調整済み残差	2.9	-2.9		

II-2-(4) 就業形態

「提供会員になったことで得たもの」と就業形態について、就業形態の選択肢は、「無職」「正社員・正規職員」「パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託」「派遣社員」「請負社員」「自営業主、自由業者」「家族従業者」「内職」「経営者、役員」「上記以外」という10項目を選択する形となっている。ここでは、雇用形態によって、どのような違いがあるのか明らかにするために、上記を「正規雇用」「非正規雇用」「無職」の3つに分類し、その他を除外してクロス集計を行った。

その結果、「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」「社会参加ができる」「地域に新しい知り合いができる」「自分や家族と援助している子どもとのふれあい楽しい」「援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある」「育児の経験を活かすことができる」「援助費をもらえる」の7項目で5%水準で有意差が見られた。

調整済み残差の結果から（絶対値1.96以上）、「正規雇用」の群が、「あてはまる」と回答している割合が有意に多い項目は一つもなかった。逆に、「地域に新しい知り合いができる」は、「正規雇用」の群が、他の群より「あてはまる」と回答した割合が少ないことが明らかとなった。

一方、「非正規雇用」の群が、「あてはまる」と回答している割合が有意に多い項目は、「援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある」「育児の経験を活かすことができる」「援助費をもらえる」の3項目となった。

「無職」の群が、「あてはまる」と回答している割合が有意に多い項目は、「自分や家族と援助している子どもとのふれあい楽しい」「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」「社会参加ができる」の3項目となった。

以上のことから、「提供会員になったことで得たもの」と、就業形態との間に、関係性があることが明らかとなった。

表 2-II-36 提供会員になったことで得たものと就業形態

		正規雇用	非正規雇用	無職	p	
依頼会員に信頼され、やりがいを感じる	はい	度数	82	1,107	1,037	0.003 **
		割合	65.60%	71.40%	76.00%	
		調整済み残差	-2	-2.3	3.1	
	いいえ	度数	43	443	327	
		割合	34.40%	28.60%	24.00%	
		調整済み残差	2	2.3	-3.1	
社会参加ができる	はい	度数	46	667	682	>.000 **
		正・非正規・無職 の %	36.80%	43.00%	50.00%	
		調整済み残差	-2.1	-3.2	4.1	
	いいえ	度数	79	883	682	
		正・非正規・無職 の %	63.20%	57.00%	50.00%	
		調整済み残差	2.1	3.2	-4.1	
地域に新しい知り合いができる	はい	度数	46	701	639	0.089 **
		正・非正規・無職 の %	36.80%	45.20%	46.80%	
		調整済み残差	-2	-0.4	1.2	
	いいえ	度数	79	849	725	
		正・非正規・無職 の %	63.20%	54.80%	53.20%	
		調整済み残差	2	0.4	-1.2	
自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい	はい	度数	77	983	950	0.001 **
		正・非正規・無職 の %	61.60%	63.40%	69.60%	
		調整済み残差	-1.1	-3.2	3.7	
	いいえ	度数	48	567	414	
		正・非正規・無職 の %	38.40%	36.60%	30.40%	
		調整済み残差	1.1	3.2	-3.7	
援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある	はい	度数	43	678	534	0.012 **
		正・非正規・無職 の %	34.40%	43.70%	39.10%	
		調整済み残差	-1.6	2.8	-2.2	
	いいえ	度数	82	872	830	
		正・非正規・無職 の %	65.60%	56.30%	60.90%	

育児の経験を活かすことができる	はい	調整済み残差	1.6	-2.8	2.2	0.014	*
		度数	70	1,038	865		
		正・非正規・無職の%	56.00%	67.00%	63.40%		
		調整済み残差	-2.1	2.4	-1.6		
		度数	55	512	499		
	いいえ	正・非正規・無職の%	44.00%	33.00%	36.60%	0.004	**
		調整済み残差	2.1	-2.4	1.6		
		度数	25	513	406		
		正・非正規・無職の%	20.00%	33.10%	29.80%		
		調整済み残差	-2.7	2.5	-1.4		
援助費をもらえる	はい	度数	100	1,037	958	0.003	**
		正・非正規・無職の%	80.00%	66.90%	70.20%		
		調整済み残差	2.7	-2.5	1.4		
		度数	25	513	406		
		正・非正規・無職の%	20.00%	33.10%	29.80%		

Ⅱ-2-（５）保育資格

ここでは、「提供会員になったことで得たもの」と保育資格の有無について、クロス集計を行った。その結果、表 2-Ⅱ-37～表 2-Ⅱ-42 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）によって有意な特徴が明らかとなった。

保育士資格

保育士資格のある人が、保育士資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「育児の経験を活かすことができる」「特に得たものはない」の２項目となった。

保育士資格のない人が、保育士資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある」「育児に関する知識や技術を身につけることができる」の２項目となった。

以上のことから、保育士資格の有無で、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-Ⅱ-37 提供会員になったことで得たもの×保育士資格の有無

		保育士資格		合計	P
		有	無		
援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある	はい	度数	307	1,094	0.003 **
		割合	36.9%	42.8%	
		調整済み	-3.00	3.00	
		残差			

	いいえ	度数	526	1,465	1,991		
		割合	63.1%	57.2%	58.7%		
		調整済み					
		残差	3.00	-3.00			
育児に関する知識や技術を身につけることができる	はい	度数	222	786	1,008	0.026	*
		割合	26.7%	30.7%	29.7%		
		調整済み					
		残差	-2.20	2.20			
	いいえ	度数	611	1,773	2,384		
		割合	73.3%	69.3%	70.3%		
		調整済み					
		残差	2.20	-2.20			
育児の経験を活かすことができる	はい	度数	562	1,627	2,189	0.042	*
		割合	67.5%	63.6%	64.5%		
		調整済み					
		残差	2.00	-2.00			
	いいえ	度数	271	932	1,203		
		割合	32.5%	36.4%	35.5%		
		調整済み					
		残差	-2.00	2.00			
特に得たものはない	はい	度数	9	12	21	0.051	*
		割合	1.1%	0.5%	0.6%		
		調整済み					
		残差	2.00	-2.00			
	いいえ	度数	824	2,547	3,371		
		割合	98.9%	99.5%	99.4%		
		調整済み					
		残差	-2.00	2.00			

†. 05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

幼稚園教諭免許

幼稚園教諭免許のある人が、幼稚園教諭免許のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「育児の経験を活かすことができる」の1項目となった。

幼稚園教諭免許のない人が、幼稚園教諭免許のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「育児に関する知識や技術を身につけることができる」の1項目となった。

以上のことから、幼稚園教諭免許の有無で、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-38 提供会員になったことで得たもの×幼稚園教諭免許の有無

		幼稚園教諭免許		合計	P
		有	無		
育児に関する知識や技術を身につける ことができる		度数	160	848	1,008
	はい	割合	24.2%	31.1%	29.7%
		調整済み残差	-3.48	3.48	
		度数	502	1,882	2,384
	いいえ	割合	75.8%	68.9%	70.3%
		調整済み残差	3.48	-3.48	
育児の経験を活かすことができる		度数	456	1,733	2,189
	はい	割合	68.9%	63.5%	64.5%
		調整済み残差	2.61	-2.61	
		度数	206	997	1,203
	いいえ	割合	31.1%	36.5%	35.5%
		調整済み残差	-2.61	2.61	

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

小・中・高教諭免許

小・中・高教諭免許のある人が、小・中・高教諭免許のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「社会参加ができる」の1項目となった。

小・中・高教諭免許のない人が、小・中・高教諭免許のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある」の1項目となった。

以上のことから、小・中・高教諭免許の有無で、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-39 提供会員になったことで得たもの×小中高教諭免許の有無

		小中高教諭免許		合計	P
		有	無		
社会参加ができる		度数	214	1,328	1,542
	はい	割合	53.8%	44.4%	45.5%
		調整済み残差	3.54	-3.54	
		度数	184	1,666	1,850
	いいえ	割合	46.2%	55.6%	54.5%

援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある		調整済み 残差	-3.54	3.54		
		度数	146	1,255	1,401	0.05 *
		割合	36.7%	41.9%	41.3%	
	はい	調整済み 残差	-1.99	1.99		
		度数	252	1,739	1,991	
		割合	63.3%	58.1%	58.7%	
	いいえ	調整済み 残差	1.99	-1.99		
		度数				
		割合				
		調整済み 残差				

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

看護師資格

看護師資格のある人が、看護師資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「社会の役に立っていることが実感できる」「社会参加ができる」の2項目となった。

看護師資格のない人が、看護師資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

以上のことから、看護師資格の有無で、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-40 提供会員になったことで得たもの×看護師資格の有無

		看護師資格		合計	P	
		有	無			
社会の役に立っていることが実感できる	はい	度数	81	1,623	1,704	0.02 *
		割合	60.4%	49.8%	50.2%	
		調整済み残差	2.41	-2.41		
	いいえ	度数	53	1,635	1,688	
		割合	39.6%	50.2%	49.8%	
		調整済み残差	-2.41	2.41		
社会参加ができる	はい	度数	77	1,465	1,542	>.00 **
		割合	57.5%	45.0%	45.5%	
		調整済み残差	2.85	-2.85		
	いいえ	度数	57	1,793	1,850	
		割合	42.5%	55.0%	54.5%	
		調整済み残差	-2.85	2.85		

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

ホームヘルパー資格

ホームヘルパー資格のある人が、ホームヘルパー資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「社会参加ができる」の1項目となった。

ホームヘルパー資格のない人が、ホームヘルパー資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

以上のことから、ホームヘルパー資格の有無で、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-41 提供会員になったことで得たもの×ホームヘルパーの資格の有無

		ホームヘルパー		合計	P	
		有	無			
社会参加ができる	はい	度数	238	1,304	0.04	*
		割合	49.8%	44.7%		
		調整済み残差	2.05	-2.05		
	いいえ	度数	240	1,610		
		割合	50.2%	55.3%		
		調整済み残差	-2.05	2.05		

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

社会福祉士資格

「提供会員になったことで得たもの」は、社会福祉士資格の有無によって、有意な差は見られなかった。

資格なし

資格のない人が、何らかの資格がある人、または無回答と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

何らかの資格がある人、または無回答が、資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目は、「社会の役に立っていることが実感できる」「社会参加ができる」「自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい」の3項目となった。

以上のことから、資格の有無で、「提供会員になったことで得たもの」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-42 提供会員になったことで得たもの×特に資格なし

		特になし		合計	P	
		なし	資格有・無回答			
社会の役に立っていることが実感できる	はい	度数	589	1,115	>.00	**
		割合	46.0%	52.8%		

社会参加ができる	いいえ	調整済み残差	-3.86	3.86		
		度数	692	996	1,688	
		割合	54.0%	47.2%	49.8%	
		調整済み残差	3.86	-3.86		
	はい	度数	530	1,012	1,542	>.00 **
		割合	41.4%	47.9%	45.5%	
		調整済み残差	-3.72	3.72		
		度数	751	1,099	1,850	
		割合	58.6%	52.1%	54.5%	
		調整済み残差	3.72	-3.72		
自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい	はい	度数	822	1,441	2,263	0.01 *
		割合	64.2%	68.3%	66.7%	
		調整済み残差	-2.45	2.45		
		度数	459	670	1,129	
	いいえ	割合	35.8%	31.7%	33.3%	
		調整済み残差	2.45	-2.45		
		度数	459	670	1,129	
		割合	35.8%	31.7%	33.3%	
		調整済み残差	2.45	-2.45		
		度数	459	670	1,129	

†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

Ⅱ-3. 多様な背景や考え方を持った家庭への関わりと属性

Ⅱ-3-（1）年齢とのクロス集計

「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」の質問に対しては、あてはまるものすべてに回答する複数回答法で回答を得た。

提供会員の回答を、子育て世代（40歳代まで）と、子育てを終えた世代（50歳代以降）に分け、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」を持った家庭への支援への関わりとクロス集計を行った。

その結果、有意差が見られた項目の中で、「子育て世代」あるいは「子育てが終わった世代」のどちらかの特徴として認められるものだけ、表 2-II-43 から表 2-II-51 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）によって明らかにした。

「子育て世代」が「子育てが終わった世代」と比較して「はい」と回答した割合が有意に多いのは、一つもなかった。

一方「子育てが終わった世代」が「子育て世代」と比較して「はい」と回答した割合が有意に多いのは、表 2-II-43 から表 2-II-51 で、「病児・病後の子ども」「外国籍家庭」「生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭」「親が精神的な疾患のある家庭」「ひとり親家庭」「DV あるいはその予備軍の家庭」「虐待あるいはその予

備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）「転勤・転居してきたばかりの家庭」「お稽古事や習い事が多すぎる家庭」の9項目であった。

以上のことから、「子育てが終わった世代」の方が「子育て世代」より割合としては多く、多様な背景や考え方を持った家庭への援助活動を行っていることが明らかとなった。

表 2-II-43 病児・病後の子ども×世代

	子育て 世代	子育て 終了	合計	p
度数	373	1,879	2,252	0
はい				
子育て て世 代 の %	57.30%	68.70%	66.50%	
調整 済み 残差	-5.5	5.5		
いい え				
度数	278	857	1,135	
子育て て世 代 の %	42.70%	31.30%	33.50%	
調整 済み 残差	5.5	-5.5		

表 2-II-44 外国籍家庭×世代

	子育て 世代	子育て 終了	合計	p
度数	144	725	869	0.022
はい				
子育て て世 代 の %	22.10%	26.50%	25.70%	
調整 済み 残差	-2.3	2.3		
いい え				
度数	507	2,011	2,518	
子育て て世 代 の %	77.90%	73.50%	74.30%	
調整 済み 残差	2.3	-2.3		

表 2-II-45 生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭×世代

	子育て 世代	子育て 終了	合計	p
度数	53	341	394	0.002
はい				
子育て て世 代 の %	8.10%	12.50%	11.60%	
調整 済み 残差	-3.1	3.1		

表 2-II-46 親が精神的な疾患のある家庭×世代

	子育て 世代	子育て 終了	合計	p
度数	191	1,063	1,254	>.00
はい				
子育て て世 代 の %	29.30%	38.90%	37.00%	
調整 済み 残差	-4.5	4.5		

	度数	598	2,395	2,993	
いいえ	子育て世代の%	91.90%	87.50%	88.40%	
	調整済み残差	3.1	-3.1		

	度数	460	1,673	2,133	
いいえ	子育て世代の%	70.70%	61.10%	63.00%	
	調整済み残差	4.5	-4.5		

表2-II-47 ひとり親家庭×世代

	子育て世代	子育て終了	合計	<i>p</i>
はい	度数	224	1,273	1,497
	子育て世代の%	34.40%	46.50%	44.20%
	調整済み残差	-5.6	5.6	
いいえ	度数	427	1,463	1,890
	子育て世代の%	65.60%	53.50%	55.80%
	調整済み残差	5.6	-5.6	

表2-II-48 DVあるいはその予備軍の家庭×世代

	子育て世代	子育て終了	合計	<i>p</i>
はい	度数	11	121	132
	子育て世代の%	1.70%	4.40%	3.90%
	調整済み残差	-3.2	3.2	
いいえ	度数	640	2,615	3,255
	子育て世代の%	98.30%	95.60%	96.10%
	調整済み残差	3.2	-3.2	

表2-II-49 虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）×世代

	子育て世代	子育て終了	合計	<i>p</i>
はい	度数	23	149	172
	子育て世代の%	3.50%	5.40%	5.10%

表2-II-50 転勤・転居してきたばかりの家庭×世代

	子育て世代	子育て終了	合計	<i>p</i>
はい	度数	136	802	938
	子育て世代の%	20.90%	29.30%	27.70%

いいえ	代				代			
	の %				の %			
	調整				調整			
	済み	-2	2		済み	-4.3	4.3	
	残差				残差			
	度数	628	2,587	3,215	度数	515	1,934	2,449
	子育て世				子育て世			
	代	96.50%	94.60%	94.90%	代	79.10%	70.70%	72.30%
	の %				の %			
	調整				調整			
済み	2	-2		済み	4.3	-4.3		
残差				残差				

表 2-II-51 お稽古事や習い事が多すぎる家庭×世代

	子育て 世代	子育て 終了	合計	<i>p</i>	
はい	度数	72	382	454	0.055
	子育て 世代 の %	11.10%	14.00%	13.40%	
	調整				
	済み 残差	-2	2		
	度数	579	2,354	2,933	
いいえ	子育て 世代 の %	88.90%	86.00%	86.60%	
	調整				
	済み 残差	2	-2		

II-3-(2) 配偶者の有無

ここでは、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」と配偶者の有無について、クロス集計を行った。その結果、5%水準で有意差が見られた項目の中で、配偶者の有無の特徴として認められるものだけ、表 2-

Ⅱ-52 から表 2-Ⅱ-54 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）によって明らかにした。

配偶者の「あり」が、配偶者「なし」と比較して「はい」と回答した割合が有意に多いのは、「子育てと介護をしている家庭」「親が妊娠中の家庭」の 2 項目であった。

配偶者「なし」が、配偶者の「あり」と比較して「はい」と回答した割合が有意に多いのは、「ひとり親家庭」の 1 項目であった。

以上のことから、配偶者の有無で、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-Ⅱ-52 ひとり親家庭×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
はい	度数	1,278	218	0.018
	割合	43.40%	49.40%	
	調整			
	済み	-2.4	2.4	
	残差			
いいえ	度数	1,665	223	
	割合	56.60%	50.60%	
	調整			
	済み	2.4	-2.4	
	残差			

表 2-Ⅱ-53 子育てと介護をしている家庭×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
はい	度数	127	10	0.051
	割合	4.30%	2.30%	
	調整			
	済み	2	-2	
	残差			
いいえ	度数	2,816	431	
	割合	95.70%	97.70%	
	調整			
	済み	-2	2	
	残差			

表 2-Ⅱ-54 親が妊娠中の家庭×配偶者の有無

		配偶者の有無		p
		あり	なし	
はい	度数	1,045	130	0.014
	割合	35.50%	29.50%	
	調整			
	済み	2.5	-2.5	
	残差			
いいえ	度数	1,898	311	
	割合	64.50%	70.50%	
	調整			
	済み	-2.5	2.5	
	残差			

Ⅱ-3-(3) 活動年数

提供会員の回答を、活動年数5年以上と5年未満に分け、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」とクロス集計を行った。

その結果、表2-Ⅱ-55の通り全項目で、5年以上の提供会員が「はい」と回答している割合が、5年未満の提供会員より、有意に多いことが明らかとなった。また、多くの項目で、割合に大きな開きがあることが顕著となった。特に、「病児・病後の子ども」「ひとり親家庭」「発達の遅れや障がいがある子ども」「アレルギーのある子ども」「親が精神的な疾患のある家庭」「親が妊娠中の家庭」「転勤・転居してきたばかりの家庭」「外国籍家庭」「医療的ケアの必要な子ども」の順に、5年以上の提供会員が、5年未満の提供会員より関わっている割合が有意に多くなっている。

以上のことから、提供会員の活動年数5年以上の方が、「多様な背景や考え方を持った家庭」と関わる機会が多いことが明らかとなった。

表2-Ⅱ-55 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×活動年数

		5年		p	
		以上	未満		
病児・病後の子ども	はい	度数	1,518	732	>.000 **
		割合	78.30%	50.90%	
		調整済み残差	16.7	-16.7	
	いいえ	度数	421	705	
		割合	21.70%	49.10%	
		調整済み残差	-16.7	16.7	
発達の遅れや障がいがある子ども	はい	度数	1,519	827	>.000 **
		割合	78.30%	57.60%	
		調整済み残差	13	-13	
	いいえ	度数	420	610	
		割合	21.70%	42.40%	
		調整済み残差	-13	13	
医療的ケアの必要な子ども	はい	度数	562	200	>.000 **
		割合	29.00%	13.90%	
		調整済み残差	10.4	-10.4	
	いいえ	度数	1,377	1,237	
		割合	71.00%	86.10%	
		調整済み残差	-10.4	10.4	
エピペン（アドレナリン自己注射）を処方された子ども	はい	度数	176	46	>.000 **
		割合	9.10%	3.20%	
		調整済み残差	6.8	-6.8	
	いいえ	度数	1,763	1,391	
		割合	90.90%	96.80%	
		調整済み残差	-6.8	6.8	

アレルギーのある子ども	はい	度数	572	162	>.000	
		割合	29.50%	11.30%		
		調整済み残差	12.7	-12.7		
	いいえ	度数	1,367	1,275		
		割合	70.50%	88.70%		
		調整済み残差	-12.7	12.7		**
外国籍家庭	はい	度数	630	238	>.000	
		割合	32.50%	16.60%		
		調整済み残差	10.5	-10.5		
	いいえ	度数	1,309	1,199		
		割合	67.50%	83.40%		
		調整済み残差	-10.5	10.5		
経済的に困窮している家庭	はい	度数	370	168	>.000	
		割合	19.10%	11.70%		
		調整済み残差	5.8	-5.8		
	いいえ	度数	1,569	1,269		
		割合	80.90%	88.30%		
		調整済み残差	-5.8	5.8		
生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	はい	度数	302	92	>.000	
		割合	15.60%	6.40%		
		調整済み残差	8.2	-8.2		
	いいえ	度数	1,637	1,345		
		割合	84.40%	93.60%		
		調整済み残差	-8.2	8.2		
親が精神的な疾患のある家庭	はい	度数	885	369	>.000	
		割合	45.60%	25.70%		
		調整済み残差	11.9	-11.9		
	いいえ	度数	1,054	1,068		
		割合	54.40%	74.30%		
		調整済み残差	-11.9	11.9		
親が障がい者の家庭	はい	度数	154	56	>.000	
		割合	7.90%	3.90%		
		調整済み残差	4.8	-4.8		
	いいえ	度数	1,785	1,381		
		割合	92.10%	96.10%		
		調整済み残差	-4.8	4.8		
ひとり親家庭	はい	度数	1,047	448	>.000	
		割合	54.00%	31.20%		
		調整済み残差	13.2	-13.2		

	いいえ	度数	892	989		
		割合	46.00%	68.80%		
		調整済み残差	-13.2	13.2		
高齢出産の家庭	はい	度数	216	52	>.000	**
		割合	11.10%	3.60%		
		調整済み残差	8	-8		
	いいえ	度数	1,723	1,385		
		割合	88.90%	96.40%		
		調整済み残差	-8	8		
多胎育児家庭	はい	度数	389	118	>.000	**
		割合	20.10%	8.20%		
		調整済み残差	9.5	-9.5		
	いいえ	度数	1,550	1,319		
		割合	79.90%	91.80%		
		調整済み残差	-9.5	9.5		
若年出産の家庭	はい	度数	138	28	>.000	**
		割合	7.10%	1.90%		
		調整済み残差	6.9	-6.9		
	いいえ	度数	1,801	1,409		
		割合	92.90%	98.10%		
		調整済み残差	-6.9	6.9		
避難してきた（している）家庭	はい	度数	64	19	>.000	**
		割合	3.30%	1.30%		
		調整済み残差	3.7	-3.7		
	いいえ	度数	1,875	1,418		
		割合	96.70%	98.70%		
		調整済み残差	-3.7	3.7		
子育てと介護をしている家庭	はい	度数	109	28	>.000	**
		割合	5.60%	1.90%		
		調整済み残差	5.3	-5.3		
	いいえ	度数	1,830	1,409		
		割合	94.40%	98.10%		
		調整済み残差	-5.3	5.3		
DV あるいはその予備軍の家庭	はい	度数	107	25	>.000	**
		割合	5.50%	1.70%		
		調整済み残差	5.6	-5.6		
	いいえ	度数	1,832	1,412		
		割合	94.50%	98.30%		
		調整済み残差	-5.6	5.6		

虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）	はい	度数	135	37	>.000	
		割合	7.00%	2.60%		
		調整済み残差	5.7	-5.7		
	いいえ	度数	1,804	1,400		
		割合	93.00%	97.40%		
		調整済み残差	-5.7	5.7		
転勤・転居してきたばかりの家庭	はい	度数	683	255	>.000	**
		割合	35.20%	17.70%		
		調整済み残差	11.2	-11.2		
	いいえ	度数	1,256	1,182		
		割合	64.80%	82.30%		
		調整済み残差	-11.2	11.2		
親が妊娠中の家庭	はい	度数	836	338	>.000	**
		割合	43.10%	23.50%		
		調整済み残差	11.8	-11.8		
	いいえ	度数	1,103	1,099		
		割合	56.90%	76.50%		
		調整済み残差	-11.8	11.8		
ファミサポへ過度に依存する家庭	はい	度数	176	54	>.000	**
		割合	9.10%	3.80%		
		調整済み残差	6.1	-6.1		
	いいえ	度数	1,763	1,383		
		割合	90.90%	96.20%		
		調整済み残差	-6.1	6.1		
複雑な家族構成の家庭	はい	度数	246	87	>.000	**
		割合	12.70%	6.10%		
		調整済み残差	6.4	-6.4		
	いいえ	度数	1,693	1,350		
		割合	87.30%	93.90%		
		調整済み残差	-6.4	6.4		
複合的に多くの問題を抱えた家庭	はい	度数	187	63	>.000	**
		割合	9.60%	4.40%		
		調整済み残差	5.8	-5.8		
	いいえ	度数	1,752	1,374		
		割合	90.40%	95.60%		
		調整済み残差	-5.8	5.8		
提供会員へのハラスメントやパワハラ傾向のある家庭	はい	度数	26	4	0.001	**
		割合	1.30%	0.30%		
		調整済み残差	3.3	-3.3		

	いいえ	度数	1,913	1,433		
		割合	98.70%	99.70%		
		調整済み残差	-3.3	3.3		
安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭	はい	度数	142	52	>.000	**
		割合	7.30%	3.60%		
		調整済み残差	4.6	-4.6		
	いいえ	度数	1,797	1,385		
		割合	92.70%	96.40%		
		調整済み残差	-4.6	4.6		
お稽古事や習い事が多すぎる家庭	はい	度数	334	119	>.000	**
		割合	17.20%	8.30%		
		調整済み残差	7.5	-7.5		
	いいえ	度数	1,605	1,318		
		割合	82.80%	91.70%		
		調整済み残差	-7.5	7.5		

表 2-II-56 多様な家庭の一覧

調整済み残差

1	病児・病後の子ども	16.7
2	ひとり親家庭	13.2
3	発達の遅れや障がいがある子ども	13
4	アレルギーのある子ども（4も含む）	12.7
5	親が精神的な疾患のある家庭	11.9
6	親が妊娠中の家庭	11.8
7	転勤・転居してきたばかりの家庭	11.2
8	外国籍家庭	10.5
9	医療的ケアの必要な子ども	10.4
10	多胎育児家庭	9.5
11	生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	8.2
12	高齢出産の家庭	8
13	お稽古事や習い事が多すぎる家庭	7.5
14	若年出産の家庭	6.9
15	エピペン（アドレナリン自己注射）を処方された子ども	6.8
16	複雑な家族構成の家庭	6.4
17	ファミサポへ過度に依存する家庭	6.1
18	経済的に困窮している家庭	5.8
19	複合的に多くの問題を抱えた家庭	5.8
20	虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身-70 体への虐待等）	5.7
21	DV あるいはその予備軍の家庭	5.6
22	子育てと介護をしている家庭	5.3
23	親が障がい者の家庭	4.8
24	安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭	4.6
25	避難してきた（している）家庭	3.7
26	提供会員へのハラスメントやパワハラ傾向のある家庭	3.3

Ⅱ-3-(4) 就業形態

「多様な背景や考え方をを持った家庭への関わり」と就業形態について、就業形態の選択肢は、「無職」「正社員・正規職員」「パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託」「派遣社員」「請負社員」「自営業主、自由業者」「家族従業者」「内職」「経営者、役員」「上記以外」という10項目を選択する形となっている。ここでは、雇用形態によって、どのような違いがあるのか明らかにするために、上記を「正規雇用」「非正規雇用」「無職」の3つに分類し、その他を除外してクロス集計を行った。

その結果、「病児・病後の子ども」「発達の遅れや障がいがある子ども」「外国籍家庭」「親が精神的な疾患のある家庭」「転勤・転居してきたばかりの家庭」「親が妊娠中の家庭」の6項目は、5%水準で有意差が見られた。また、「ひとり親家庭」「お稽古事や習い事が多すぎる家庭」の2項目は有意傾向があった。

表2-Ⅱ-57の調整済み残差の結果から、(絶対値1.96以上)、「正規雇用」の群は、全ての項目で、他の群より「あてはまる」と回答した割合が少ないことが明らかとなった。

一方、「非正規雇用」の群が、「正規雇用」よりも「あてはまる」と回答している割合が有意に多い項目は、「外国籍家庭」の1項目となった。

「無職」の群が、「あてはまる」と回答している割合が有意に多い項目は、「病児・病後の子ども」「発達の遅れや障がいがある子ども」「親が精神的な疾患のある家庭」「転勤・転居してきたばかりの家庭」「親が妊娠中の家庭」の5項目となった。

以上のことから、「無職」の群が、「正規雇用」と比較して、圧倒的に「多様な背景や考え方をを持った家庭」と関わる機会が多いことが明らかとなった。

表2-Ⅱ-57 多様な背景や考え方をを持った家庭への関わり×就業形態

		正規雇用	非正規雇用	無職	P
病児・病後の子ども	度数	72	1,012	933	0.022
	はい				
	割合	57.60%	65.30%	68.40%	
	調整済み残差	-2.1	-1.3	2.1	
	いいえ				
	度数	53	538	431	
	割合	42.40%	34.70%	31.60%	
	調整済み残差	2.1	1.3	-2.1	
発達の遅れや障がいがある子ども	度数	67	1,060	966	0
	はい				
	割合	53.60%	68.40%	70.80%	
	調整済み残差	-3.8	-0.6	2.1	
	いいえ				
	度数	58	490	398	
	割合	46.40%	31.60%	29.20%	
	調整済み残差	3.8	0.6	-2.1	
外国籍家庭	度数	20	412	330	0.019
	はい				
	割合	16.00%	26.60%	24.20%	
	調整済み残差	-2.4	2	-1	
	いいえ				
	度数	105	1,138	1,034	
	割合	84.00%	73.40%	75.80%	

		調整済み残差	2.4	-2	1	
親が精神的な疾患のある家庭	はい	度数	28	533	560	>.000
		割合	22.40%	34.40%	41.10%	
		調整済み残差	-3.4	-2.9	4.3	
	いいえ	度数	97	1,017	804	
		割合	77.60%	65.60%	58.90%	
		調整済み残差	3.4	2.9	-4.3	
ひとり親家庭	はい	度数	44	669	622	0.055
		割合	35.20%	43.20%	45.60%	
		調整済み残差	-2	-0.9	1.7	
	いいえ	度数	81	881	742	
		割合	64.80%	56.80%	54.40%	
		調整済み残差	2	0.9	-1.7	
転勤・転居してきたばかりの家庭	はい	度数	15	393	424	>.000
		割合	12.00%	25.40%	31.10%	
		調整済み残差	-3.9	-2.6	4.1	
	いいえ	度数	110	1,157	940	
		割合	88.00%	74.60%	68.90%	
		調整済み残差	3.9	2.6	-4.1	
親が妊娠中の家庭	はい	度数	27	513	500	0.001
		割合	21.60%	33.10%	36.70%	
		調整済み残差	-3	-1.3	2.6	
	いいえ	度数	98	1,037	864	
		割合	78.40%	66.90%	63.30%	
		調整済み残差	3	1.3	-2.6	
お稽古事や習い事が多すぎる家庭	はい	度数	8	205	178	0.087
		割合	6.40%	13.20%	13.00%	
		調整済み残差	-2.2	0.6	0.3	
	いいえ	度数	117	1,345	1,186	
		割合	93.60%	86.80%	87.00%	
		調整済み残差	2.2	-0.6	-0.3	

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

Ⅱ-3-(5) 保有資格

ここでは、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」と保有資格の有無について、クロス集計を行った。その結果、表 2-Ⅱ-58～表 2-Ⅱ-64 の調整済み残差の数値（絶対値 1.96 以上）から、有意な特徴が明らかとなった。

保育士資格

保育士資格のある人が、保育士資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いものはなかった。

保育士資格のない人が、保育士資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「ひとり親家庭」の1項目となった。

以上のことから、保育士資格の有無で、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-58 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×保育士資格の有無

		保育士資格		合計	P
		有	無		
ひとり親家庭	はい	度数	341	1, 158	1, 499
		割合	40. 9%	45. 3%	44. 2%
		調整済み残差	-2. 2	2. 2	
	いいえ	度数	492	1, 401	1, 893
		割合	59. 1%	54. 7%	55. 8%
		調整済み残差	2. 2	-2. 2	
					0. 03
					†. 05<p< . 10 * p< . 05 ** p< . 01

幼稚園教諭免許

幼稚園教諭免許のある人が、幼稚園教諭免許のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いものはなかった。

幼稚園教諭免許のない人が、幼稚園教諭免許のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭」の1項目となった。

以上のことから、幼稚園教諭免許の有無で、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-59 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×幼稚園教諭免許の有無

		幼稚園教諭免許		合計	P
		有	無		
生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	はい	度数	61	333	394
		幼稚園教諭の%	9.2%	12.2%	11.6%
		調整済み残差	-2.1	2.1	
	いいえ	度数	601	2,397	2,998
		幼稚園教諭の%	90.8%	87.8%	88.4%

調整済み 残差	2.1	-2.1
† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01		

小・中・高教諭免許

小・中・高教諭免許のある人が、小・中・高教諭免許のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）」の1項目となった。

小・中・高教諭免許のない人が、小・中・高教諭免許のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

以上のことから、小・中・高教諭免許の有無で、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-60 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×小中高教諭免許の有無

		小中高教諭免許			合計	P	
		有	無				
虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）	はい	度数	29	143	172	0.04	*
		割合	7.3%	4.8%	5.1%		
		調整済み残差	2.1	-2.1			
	いいえ	度数	369	2851	3,220		
		割合	92.7%	95.2%	94.9%		
		調整済み残差	-2.1	2.1			

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

看護師資格

看護師資格のある人が、看護師資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

看護師資格のない人が、看護師資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目は「外国籍家庭」「お稽古事や習い事が多すぎる家庭」の2項目となった。

以上のことから、看護師資格の有無で、多様な背景や考え方を持った家庭への関わりに違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-61 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×看護師資格の有無

		看護師資格		合計	P	
		有	無			
外国籍家庭	はい	度数	20	849	869	>.00
		割合	14.9%	26.1%	25.6%	**

お稽古事や習い事が多すぎる家庭	いいえ	調整済み残差	-2.9	2.9	
		度数	114	2,409	
		割合	85.1%	73.9%	
	はい	調整済み残差	2.9	-2.9	0.05
		度数	10	444	
		割合	7.5%	13.6%	
	いいえ	調整済み残差	-2.1	2.1	
		度数	124	2,814	
		割合	92.5%	86.4%	
		調整済み残差	2.1	-2.1	

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

ホームヘルパー資格

ホームヘルパー資格のある人が、ホームヘルパー資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「経済的に困窮している家庭」「生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭」「ひとり親家庭」「若年出産の家庭」「子育てと介護をしている家庭」「複雑な家族構成の家庭」の6項目となった。

ホームヘルパー資格のない人が、ホームヘルパー資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

以上のことから、ホームヘルパー資格の有無で、「多様な背景や考え方を持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-62 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×ホームヘルパー資格の有無

		ホームヘルパー		合計	P	
		有	無			
経済的に困窮している家庭	はい	度数	91	447	0.04	*
		割合	19.0%	15.3%		
		調整済み残差	2.1	-2.1		
	いいえ	度数	387	2,467		
		割合	81.0%	84.7%		
		調整済み残差	-2.1	2.1		
生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	はい	度数	71	323	0.02	*
		割合	14.9%	11.1%		
		調整済み残差	2.4	-2.4		
	いいえ	度数	407	2,591		
		割合	85.1%	88.9%		
		調整済み残差				

		調整済み残差	-2.4	2.4		
ひとり親家庭	はい	度数	236	1,263	1,499	0.01 *
		割合	49.4%	43.3%	44.2%	
		調整済み残差	2.5	-2.5		
	いいえ	度数	242	1,651	1,893	
		割合	50.6%	56.7%	55.8%	
		調整済み残差	-2.5	2.5		
若年出産の家庭	はい	度数	36	130	166	>.00 **
		割合	7.5%	4.5%	4.9%	
		調整済み残差	2.9	-2.9		
	いいえ	度数	442	2,784	3,226	
		割合	92.5%	95.5%	95.1%	
		調整済み残差	-2.9	2.9		
子育てと介護をしている家庭	はい	度数	28	109	137	0.03 *
		割合	5.9%	3.7%	4.0%	
		調整済み残差	2.2	-2.2		
	いいえ	度数	450	2,805	3,255	
		割合	94.1%	96.3%	96.0%	
		調整済み残差	-2.2	2.2		
複雑な家族構成の家庭	はい	度数	66	267	333	>.00 **
		割合	13.8%	9.2%	9.8%	
		調整済み残差	3.2	-3.2		
	いいえ	度数	412	2,647	3,059	
		割合	86.2%	90.8%	90.2%	
		調整済み残差	-3.2	3.2		

† .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

社会福祉士資格

社会福祉士資格のある人が、社会福祉士資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多いのは、「医療的ケアの必要な子ども」「外国籍家庭」「経済的に困窮している家庭」「生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭」「親が精神的な疾患のある家庭」「若年出産の家庭」「DV あるいはその予備軍の家庭」「安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭」の8項目となった。

社会福祉士資格のない人が、社会福祉士資格のある人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

以上のことから、社会福祉士資格の有無で、「多様な背景や考え方をを持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-63 多様な背景や考え方をを持った家庭への関わり×社会福祉士資格の有無

		社会福祉士資格		合計	P	
		有	無			
医療的ケアの必要な子ども	はい	度数	13	749	762	0.07
		割合	36.1%	22.3%	22.5%	
		調整済み残差	2.0	-2.0		
	いいえ	度数	23	2,607	2,630	
		割合	63.9%	77.7%	77.5%	
		調整済み残差	-2.0	2.0		
外国籍家庭	はい	度数	17	852	869	>.00
		割合	47.2%	25.4%	25.6%	
		調整済み残差	3.0	-3.0		
	いいえ	度数	19	2,504	2,523	**
		割合	52.8%	74.6%	74.4%	
		調整済み残差	-3.0	3.0		
経済的に困窮している家庭	はい	度数	11	527	538	0.02
		割合	30.6%	15.7%	15.9%	
		調整済み残差	2.4	-2.4		
	いいえ	度数	25	2,829	2,854	
		割合	69.4%	84.3%	84.1%	
		調整済み残差	-2.4	2.4		
生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	はい	度数	8	386	394	0.06
		割合	22.2%	11.5%	11.6%	
		調整済み残差	2.0	-2.0		
	いいえ	度数	28	2,970	2,998	
		割合	77.8%	88.5%	88.4%	
		調整済み残差	-2.0	2.0		
親が精神的な疾患のある家庭	はい	度数	19	1,235	1,254	0.06
		割合	52.8%	36.8%	37.0%	
		調整済み残差	2.0	-2.0		
	いいえ	度数	17	2,121	2,138	
		割合	47.2%	63.2%	63.0%	

		調整済み残差	-2.0	2.0			
若年出産の家庭	はい	度数	5	161	166	0.03	*
		割合	13.9%	4.8%	4.9%		
		調整済み残差	2.5	-2.5			
	いいえ	度数	31	3,195	3,226		
		割合	86.1%	95.2%	95.1%		
		調整済み残差	-2.5	2.5			
	DV あるいはその予備軍の家庭	はい	度数	4	128	132	0.05
割合			11.1%	3.8%	3.9%		
調整済み残差			2.3	-2.3			
いいえ		度数	32	3,228	3,260		
		割合	88.9%	96.2%	96.1%		
		調整済み残差	-2.3	2.3			
安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭	はい	度数	5	189	194	0.05	*
		割合	13.9%	5.6%	5.7%		
		調整済み残差	2.1	-2.1			
	いいえ	度数	31	3,167	3,198		
		割合	86.1%	94.4%	94.3%		
		調整済み残差	-2.1	2.1			
†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01							

†.05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

資格なし

資格のない人が、何らかの資格がある人、または無回答と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目はなかった。

何らかの資格がある人、または無回答が、資格のない人と比較して「あてはまる」と回答した割合が有意に多い項目は、「病児・病後の子ども」「医療的ケアの必要な子ども」「エピペン（アドレナリン自己注射）を処方された子ども」「アレルギーのある子ども」「若年出産の家庭」「子育てと介護をしている家庭」「DV あるいはその予備軍の家庭」「虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）」「複雑な家族構成の家庭」「複合的に多くの問題を抱えた家庭」の10項目となった。

以上のことから、資格の有無で、「多様な背景や考え方をを持った家庭への関わり」に違いがあることが明らかとなった。

表 2-II-64 多様な背景や考え方を持った家庭への関わり×資格なし

		資格の有無		合計	P	
		特になし	無回答			
病児・病後の子ども	はい	度数	825	1,429	0.05	*
		割合	64.4%	67.7%		
		調整済み残差	-1.97	1.97		
	いいえ	度数	456	682		
		割合	35.6%	32.3%		
		調整済み残差	1.97	-1.97		
医療的ケアの必要な子ども	はい	度数	248	514	>.00	**
		割合	19.4%	24.3%		
		調整済み残差	-3.38	3.38		
	いいえ	度数	1,033	1,597		
		割合	80.6%	75.7%		
		調整済み残差	3.38	-3.38		
エピペン（アドレナリン自己注射）を処方された子ども	はい	度数	68	154	0.03	*
		割合	5.3%	7.3%		
		調整済み残差	-2.27	2.27		
	いいえ	度数	1,213	1,957		
		割合	94.7%	92.7%		
		調整済み残差	2.27	-2.27		
アレルギーのある子ども	はい	度数	254	481	0.04	*
		割合	19.8%	22.8%		
		調整済み残差	-2.03	2.03		
	いいえ	度数	1,027	1,630		
		割合	80.2%	77.2%		
		調整済み残差	2.03	-2.03		
若年出産の家庭	はい	度数	47	119	0.01	*
		割合	3.7%	5.6%		
		調整済み残差	-2.60	2.60		
	いいえ	度数	1,234	1,992		
		割合	96.3%	94.4%		
		調整済み残差	2.60	-2.60		
子育てと介護をしている家庭	はい	度数	37	100	0.01	*
		割合	2.9%	4.7%		

		調整済み残差	-2.65	2.65				
	いいえ	度数	1,244	2,011	3,255			
割合		97.1%	95.3%	96.0%				
調整済み残差		2.65	-2.65					
DV あるいはその予備軍の家庭	はい	度数	35	97	132	0.01	*	
		割合	2.7%	4.6%	3.9%			
		調整済み残差	-2.72	2.72				
	いいえ	度数	1,246	2,014	3,260			
		割合	97.3%	95.4%	96.1%			
		調整済み残差	2.72	-2.72				
	虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）	はい	度数	52	120	172	0.04	*
			割合	4.1%	5.7%	5.1%		
調整済み残差			-2.09	2.09				
いいえ		度数	1,229	1,991	3,220			
		割合	95.9%	94.3%	94.9%			
		調整済み残差	2.09	-2.09				
複雑な家族構成の家庭	はい	度数	95	238	333	>.00	**	
		割合	7.4%	11.3%	9.8%			
		調整済み残差	-3.66	3.66				
	いいえ	度数	1,186	1,873	3,059			
		割合	92.6%	88.7%	90.2%			
		調整済み残差	3.66	-3.66				
	複合的に多くの問題を抱えた家庭	はい	度数	72	178	250	>.00	**
			割合	5.6%	8.4%	7.4%		
調整済み残差			-3.04	3.04				
いいえ		度数	1,209	1,933	3,142			
		割合	94.4%	91.6%	92.6%			
		調整済み残差	3.04	-3.04				

† .05<p< .10 * p< .05 ** p< .01

† .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

第3章 アンケート調査2 インターネット調査

I 調査結果まとめ

本調査は、ファミリー・サポート・センター事業の会員になっていない層も含めた「本事業の認知度調査」を全国規模（6,000人を対象）で実施した。調査項目及び結果の詳細は下表の通り。

インターネット調査	調査項目
(1) 依頼会員となり得る 子育て世帯層（子育て家庭 の保護者） (N=2,391)	・ファミサポを知っているか
	・知っている場合、知ったきっかけ、認知経路
	・会員になっているか
	・会員になっていない場合の理由
	・子どもを預かってほしい場合、何を重視するか
	・子どもを預かってほしい場合、実際はどのようにしているか
	・ファミサポ事業へのイメージ
(2) 提供会員となり得る 年代層（提供会員世代10代 ～70代） (N=3,609)	・ファミサポを知っているか
	・知っている場合、知ったきっかけ、認知経路
	・会員になっているか
	・会員になっていない場合の理由
	・子育て支援の活動等の経験の有無
	・子育ての地域の助け合いについて必要性を感じているか
	・ファミサポ事業へのイメージ

1 「ファミリー・サポート・センター事業の認知度と認知経路」について

本事業は、子ども子育て支援新制度における地域子ども・子育て支援事業の一つであり、子育て家庭を対象とした利用者の限られた制度であるため、事業の認知度は調査対象者全体では4割を下回る結果となった。また、調査対象者別では、「依頼会員となり得る子育て世帯層（子育て家庭の保護者）」の認知度は46.9%と5割を下回っており、「提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代）」では26.7%とさらに低い結果となった。さらに、本事業認知者の会員登録経験も前者では49.5%、後者では28.7%といずれも5割を下回る結果となっている。なお、両者ともに世帯収入が高いほど認知度が高くなる傾向も見られた。

本調査はファミリー・サポート・センター事業を実施していない市町村に居住している回答者も含まれる可能性があることを踏まえたとしても、この結果から、近年全国で増加の一途を辿る依頼会員数については、未だ潜在的ニーズが多くあることを示しており、提供会員の確保に向けての取り組みもさらなる周知・広報が必要であることが分かる。

次に本事業を認知した経路では、両調査対象ともに「市町村の広報」が7割を超え、最も有効な広報方法であることが分かった。一方で、調査対象別では次点となった「子育て関連施設・子育てイベント

等：39.8%（依頼会員となり得る子育て世帯層）」及び「公共施設や公的な行事での広報：28.5%（提供会員となり得る年代層）」がともに4割を下回る結果となっており、上記で挙げた現状の認知度及び会員登録経験の調査結果を考えると「市町村の広報」以外の周知・広報の方法も併せて模索していく必要があると言える。

2 「会員登録をした理由/しない理由」について

本調査では、ファミリー・サポート・センター事業の認知経路と併せて本事業の認知者が「会員登録をした理由」及び「会員登録をしない理由」についても調査を行った。まず、「会員登録をした理由」については、「依頼会員となり得る子育て世帯層」では、「利用料金が安いから」、「行政の案内で信頼できるから」、「同じ地域の住民が預かってくれるから」の3点が上位を占める結果となった。この結果から、ベビーシッターや子育てタクシー等の民間の子育て支援に比べると本事業の利用料金は比較的安価であると認識されていることや「市町村の広報」に掲載されていること、同じ地域住民による預かりであることが安心感につながっていることが分かる。

また、「提供会員となり得る年代層」では、「困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから」（82.0%）が8割を超えて最も高い結果となり、次いで、「時間に余裕ができたから」（43.4%）、「楽しそう、子どもが好きだから」（41.6%）が4割を超える結果となっており、活動により得られる金銭的な対価以外の理由が登録の主な動機であることが分かった。

一方で、「会員登録をしない理由」には、前者では、「依頼する必要がなかったから」を除くと、「利用料金が高いから」（20.8%）、「使いにくそうだから」（20.2%）、「他人に預けることに抵抗があるから」（19.7%）が挙げられた。これは、利用料金については、登録理由の一つに安価であることが挙げられている一方で高額に感じる子育て家庭の保護者がいることを示した結果であると言える。「使いにくそうだから」は、本事業を利用する方法・手順や利用の際に結ばれる契約内容（請負または準委任契約であること）等の制度設計の複雑さに起因するものと考えられる。なお、「他人に預けることに抵抗があるから」は、末子年齢が妊娠中～3歳までの子育て家庭の保護者にその傾向が強くなっている。また、後者では、提供会員として登録しない理由として、「時間がないから」（32.1%）、「何か問題があったときの責任が重すぎるから」（27.2%）が上位に挙げられ、すべての年代（10代～70代）で概ね同様の結果となった。本人の多忙さと提供会員としての責任の重さがネックとなっていると考えられる。

3 「子どもの預け先と預ける際に重視する点」について

「依頼会員となり得る子育て世帯層」の普段の生活の中で、実際の子どもの預け先は「祖父母」（73.2%）や「友人知人」（17.4%）、「祖父母以外の親族」（16.7%）などのインフォーマルな社会資源が多く、フォーマルな社会資源である「公的支援サービス」（16.3%）が少ない結果となった。また、子どもを預かってもらう際の重視する点として、「預かってくれる人が信頼できる」（48.3%）が最も多く、「利用料金が安いこと」（18.9%）、「（預かってほしい時に）いつでもすぐに預けられる」（9.8%）の順となった。この結果と先述した会員登録した理由で挙げられた「利用料金が安いから」及び「行政の案内で信頼できるから」を踏まえると、ファミリー・サポート・センター事業は、「依頼会員となり得る子育て世帯層」のニーズに適合しており、祖父母や祖父母以外の親族、友人知人等のインフォーマルな社会資源の次に

選択肢に入り得ることが想定される。

4 「子育て支援活動の経験と子育ての地域の助け合いについての必要性」について

「提供会員となり得る年代層」のこれまでの子育て支援活動の経験については、「現在も活動中」(2.1%)と「現在活動していない」(3.9%)を合わせた経験率は6.0%であり、非常に少ない結果となった。また、「子育て支援活動の経験もなく、関心もない」(69.1%)が、「活動経験はないが関心あり」(25.0%)を2倍以上の数値で多くなっており、地域住民の無関心はファミリー・サポート・センター事業だけでなく、地域の子育て支援全般に関わる課題であると言える。一方で、地域住民同士の子育て支援活動の必要性では、「必要」(19.8%)と「ある程度必要」(58.3%)を合わせ、78.1%が「必要」だと考えていることから、地域の子育て支援に関する興味関心をいかに想起することが出来るかが、今後の鍵となると考えられる。地域住民の無関心を関心へと移行するきっかけづくり、また関心から理解・共感につなげる取り組みが今後求められている。

5 「ファミリー・サポート・センター事業へのイメージ」について

ファミリー・サポート・センター事業に対する印象について、「依頼会員となり得る子育て世帯層」では、「信頼できる」(22.8%)や「料金が安い」(20.2%)、「専門性が高い」(13.9%)といったポジティブな印象が上位に挙げられているが、一方で、「利用しにくい」(32.3%)という運用面でのネガティブな印象もポジティブな印象を上回る結果となった。こちらのネガティブな印象は、先述した会員登録しない理由でも挙げられており、実際の支援に入る前のハードルとなっていると言える。

「提供会員となり得る年代層」の同事業に対する印象では、前者と同様に「信頼できる」(25.5%)、「専門性が高い」(19.8%)とある程度の評価されているものの、「手続きがわかりにくい」(33.3%)ことや「報酬が安い」(18.9%)点などネガティブな印象も強い。また、前者と比べても、信頼性や専門性の印象はやや高いものの、「利用しにくさ」(提供会員となり得る年代層にとっての「手続きのわかりにくさ」)が同様に高くなっている。

上記の結果から、「依頼会員となり得る子育て世帯層」及び「提供会員となり得る年代層」のいずれからも支援前の「手続きの分かりにくさ」、「利用しにくさ」がネガティブな印象として捉えられており、本事業の制度設計を含めた各種手続き（会員登録、講習の在り方、利用の流れ等）の再度検討余地があると言える。

【調査回答者属性－全回答者（N＝6,000人）】

・男女比、年代別回答者一覧

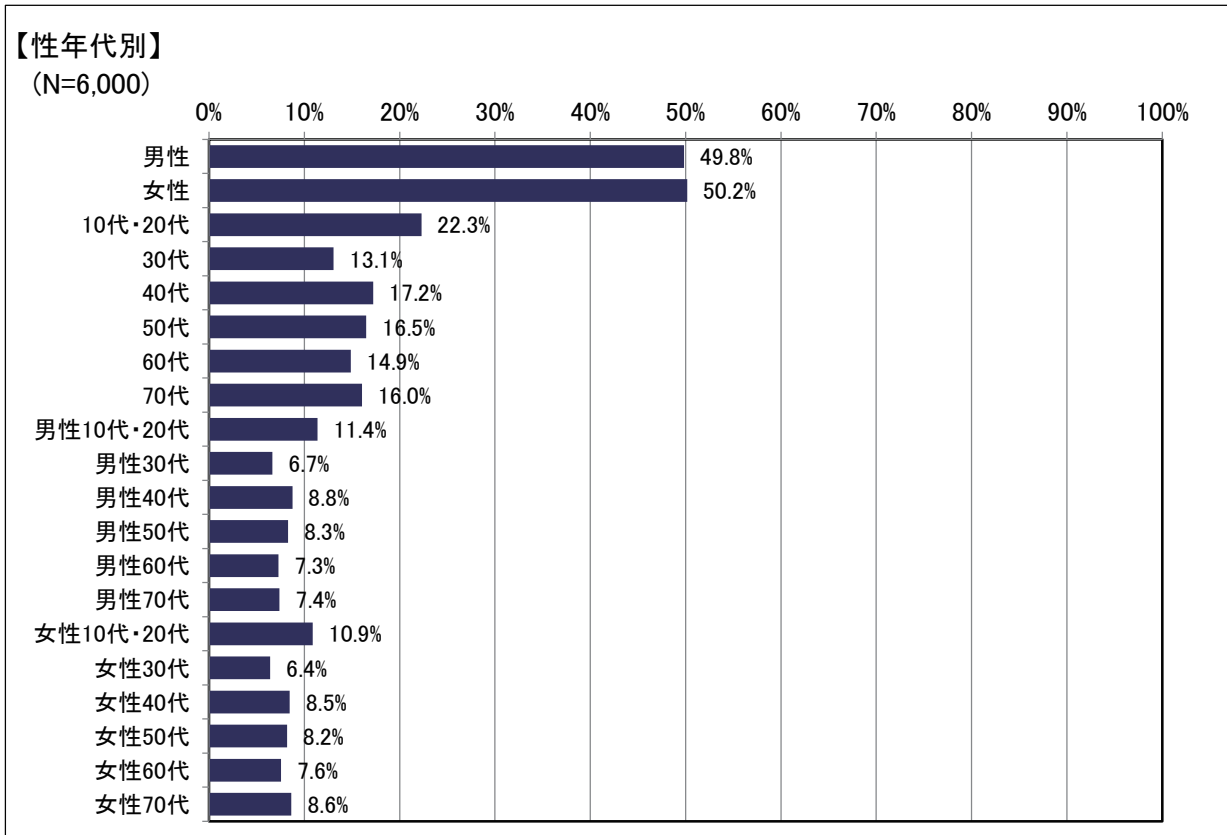


図 3-I-1-1. 男女比、年代別回答者一覧

・エリア別回答者一覧

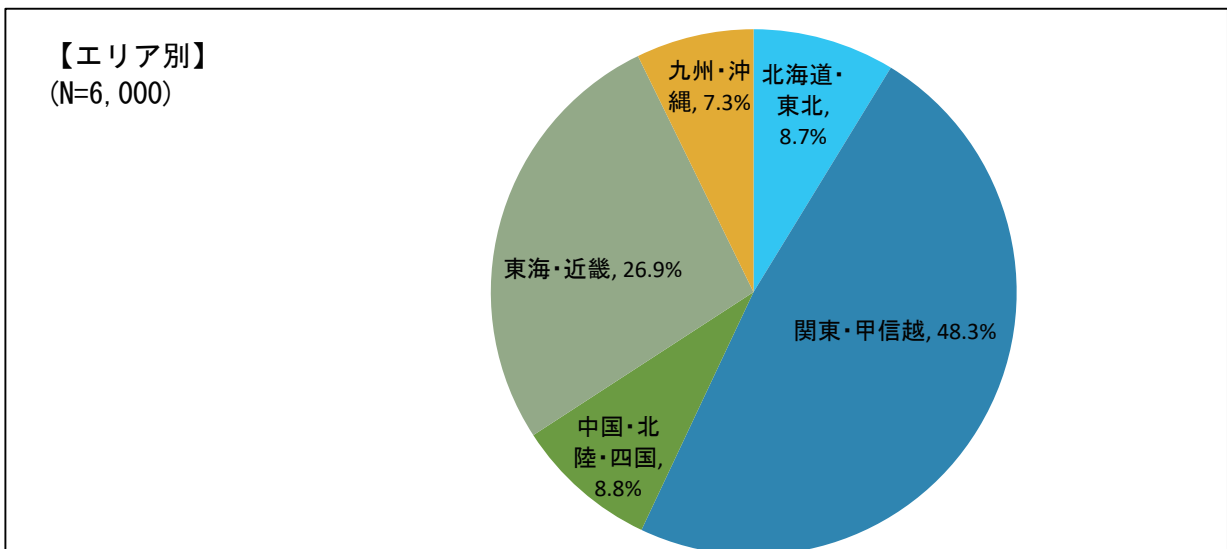


図 3-I-1-2. エリア別回答者一覧

・婚姻（配偶者の有無）

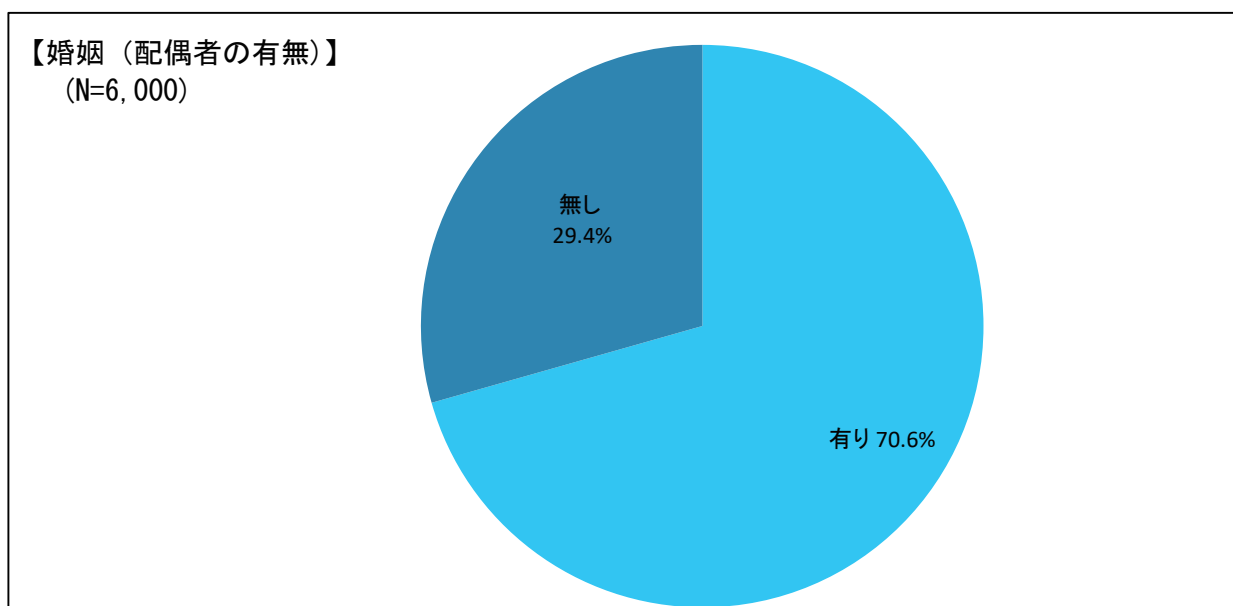


図 3-I-1-3. 婚姻（配偶者の有無）

・子育て経験

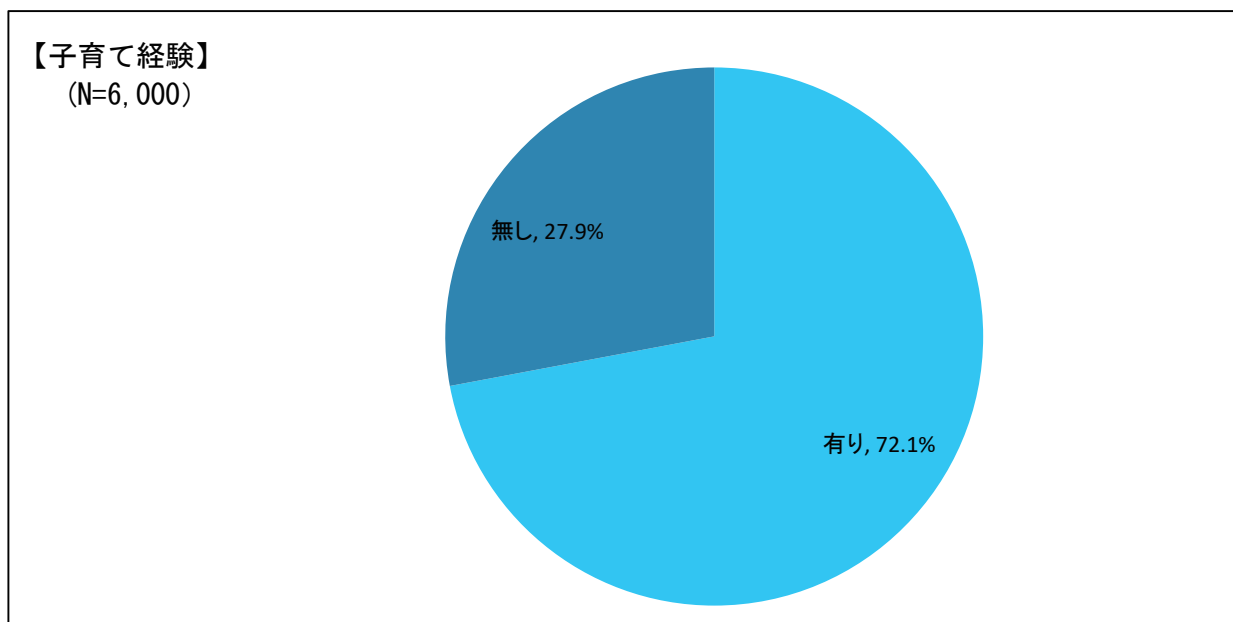


図 3-I-1-4. 子育て経験

・末子年齢

【末子の年齢】

(N=6,000)

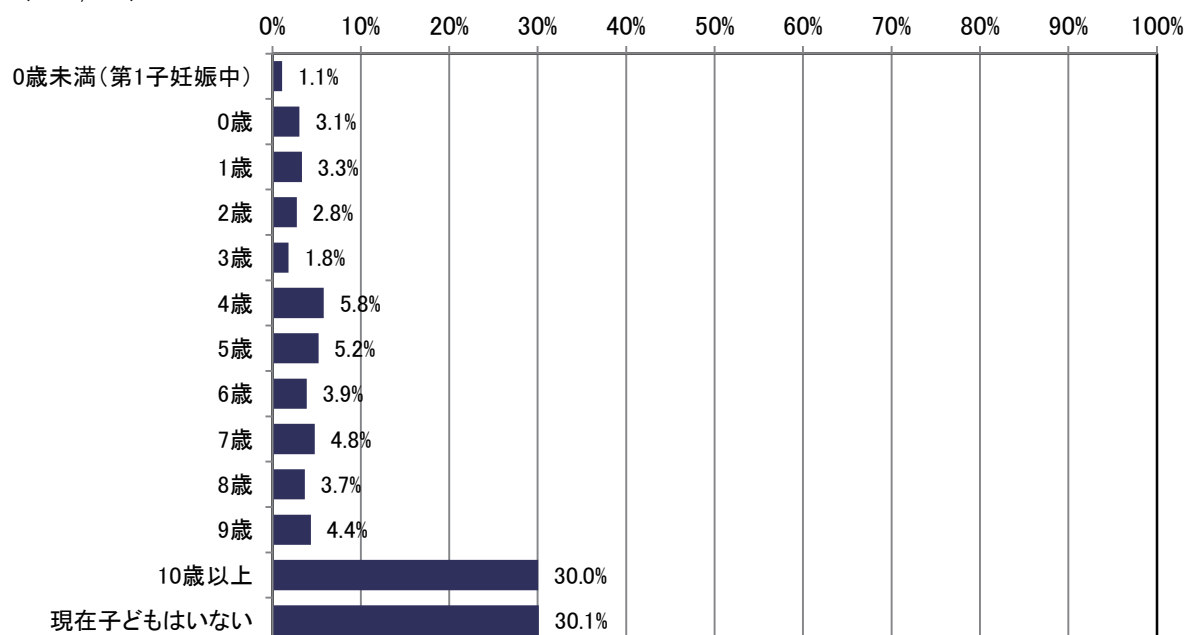


図 3- I -1-5. 末子の年齢

・子どもの人数

【子どもの人数】

(N=4,128)

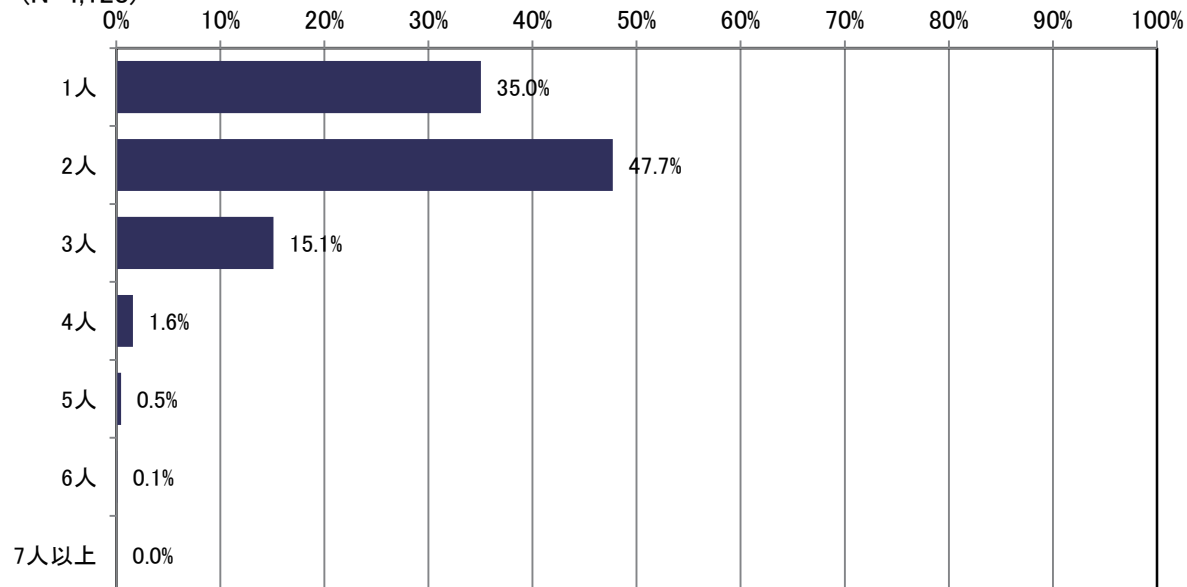


図 3- I -1-6. 子どもの人数

・職業

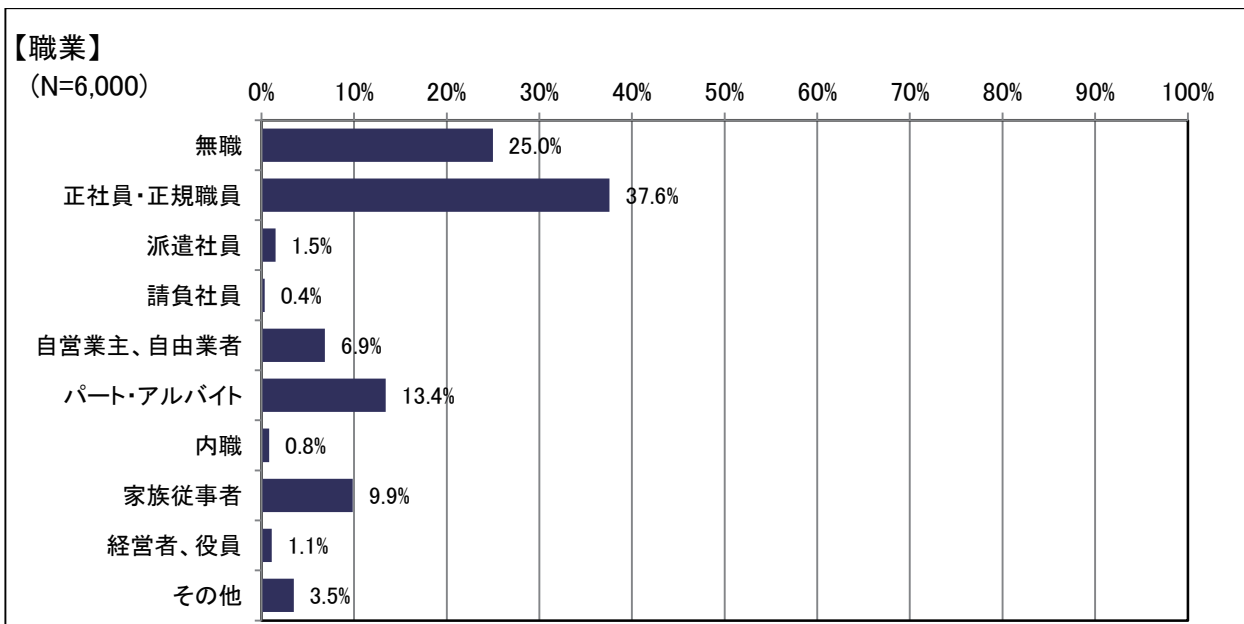


図 3- I -1-7. 職業

・世帯年収

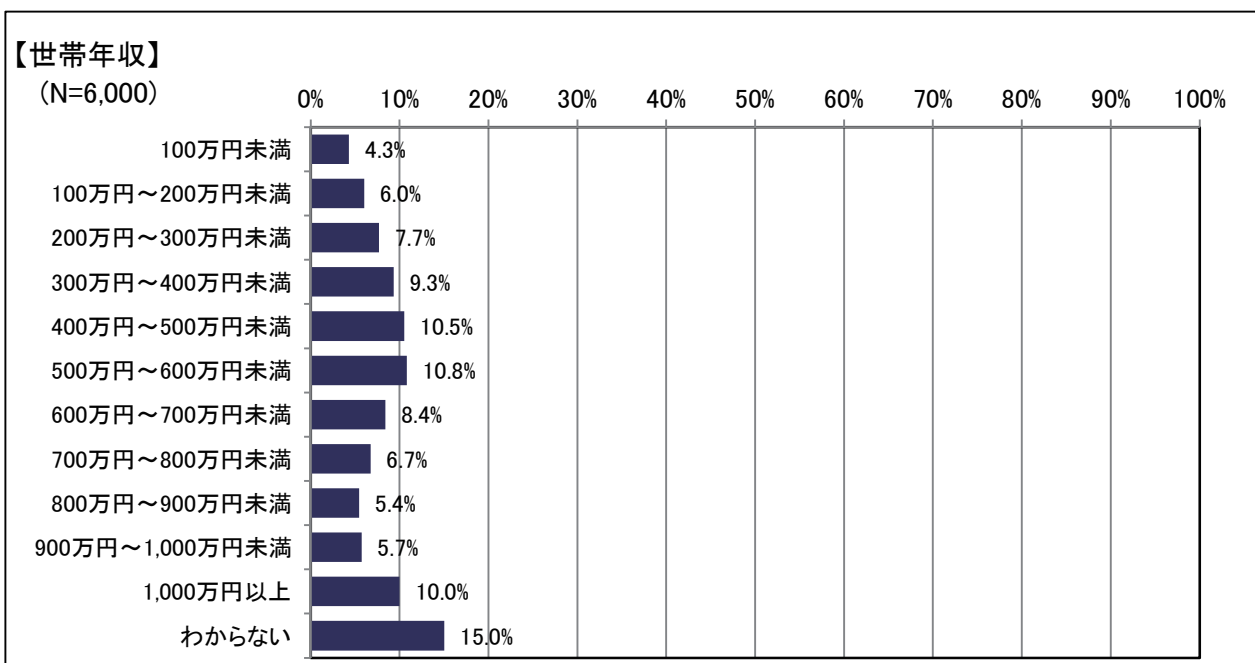
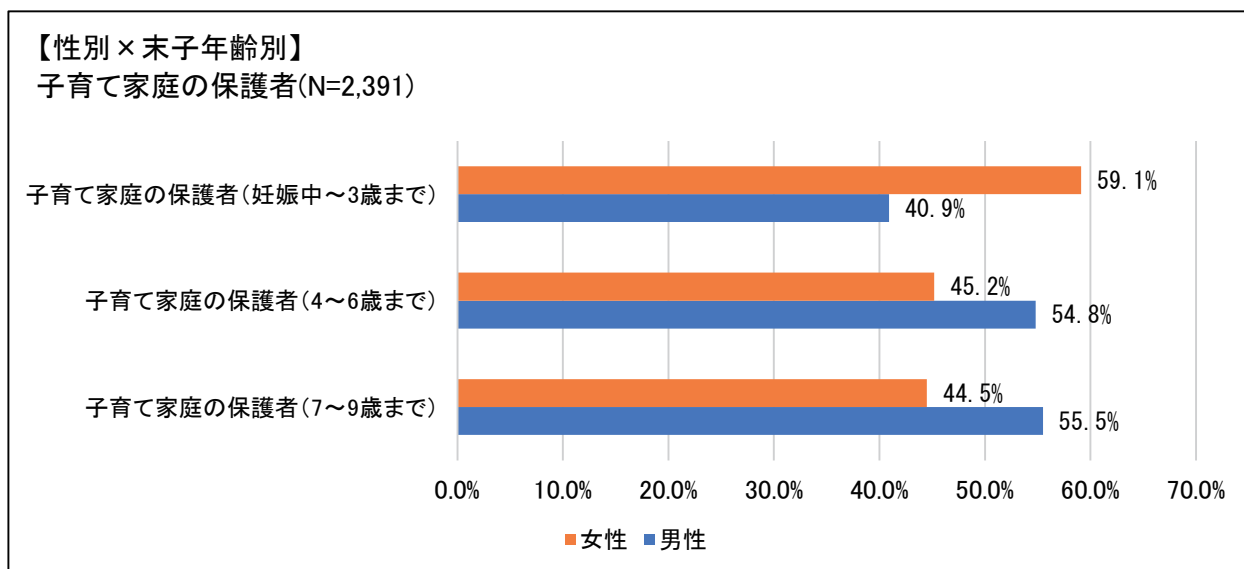


図 3- I -1-8. 世帯年収

【回答者属性－依頼会員となり得る子育て世帯層（子育て家庭の保護者）（N=2,391 人）】

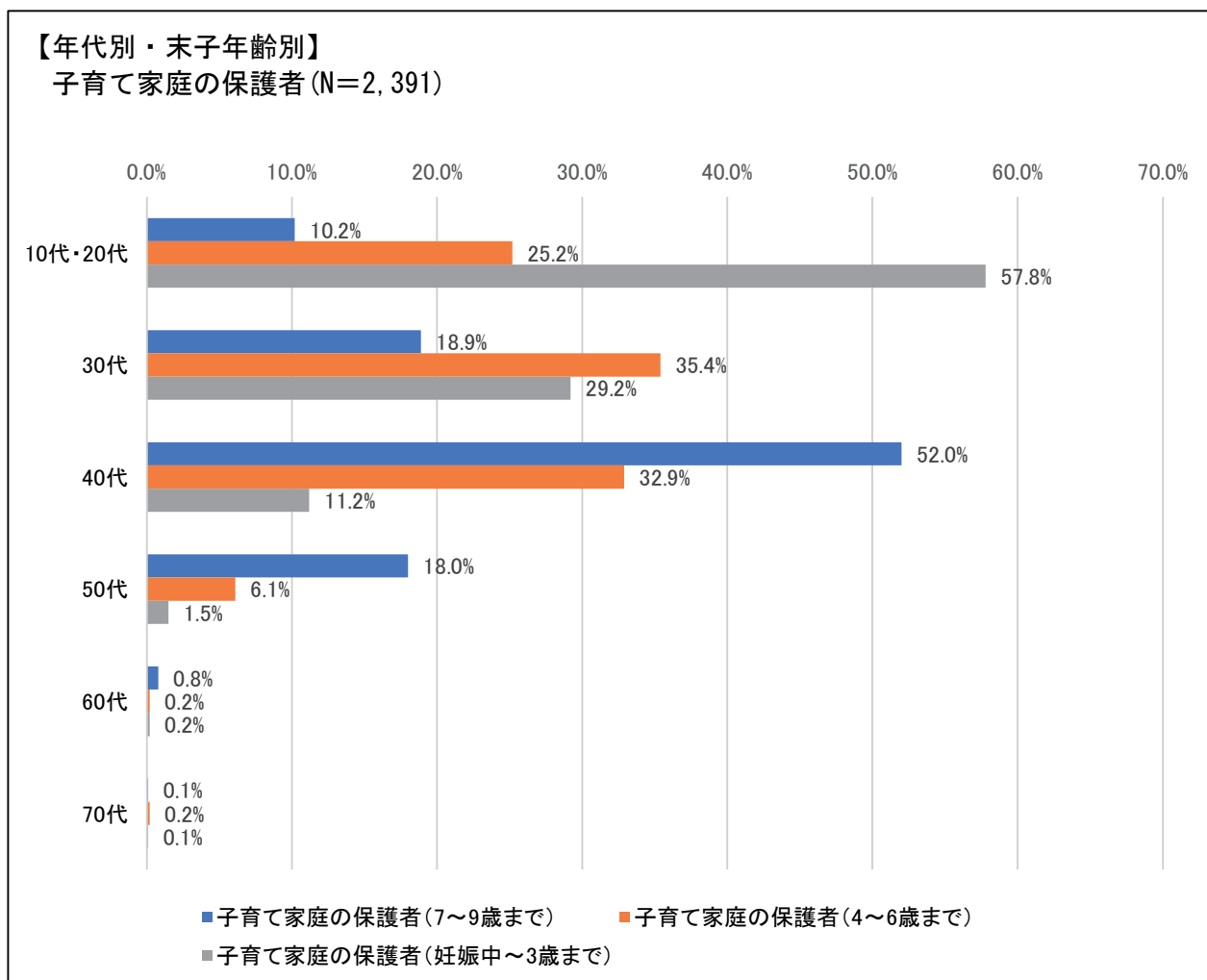
・性別×末子年齢



【性別-末子年齢のクロス表】	全体	男性	女性
全体	2,391	1,215	1,175
	100.0%	50.8%	49.2%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	725	297	428
	100.0%	40.9%	59.1%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	896	492	405
	100.0%	54.8%	45.2%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	769	427	342
	100.0%	55.5%	44.5%

図表 3-I-2-1. 性別×末子年齢

・年代別×末子年齢



【年代別 - 末子年齢のクロス表】	全体	10代・20代	30代	40代	50代	60代	70代
全体	2,391	723	675	777	203	10	4
	100.0%	30.2%	28.2%	32.5%	8.5%	0.4%	0.2%
子育て家庭の保護者(妊娠中～3歳まで)	725	419	212	81	11	1	1
	100.0%	57.8%	29.2%	11.2%	1.5%	0.2%	0.1%
子育て家庭の保護者(4～6歳まで)	896	225	317	295	55	2	2
	100.0%	25.2%	35.4%	32.9%	6.1%	0.2%	0.2%
子育て家庭の保護者(7～9歳まで)	769	78	146	400	138	6	1
	100.0%	10.2%	18.9%	52.0%	18.0%	0.8%	0.1%

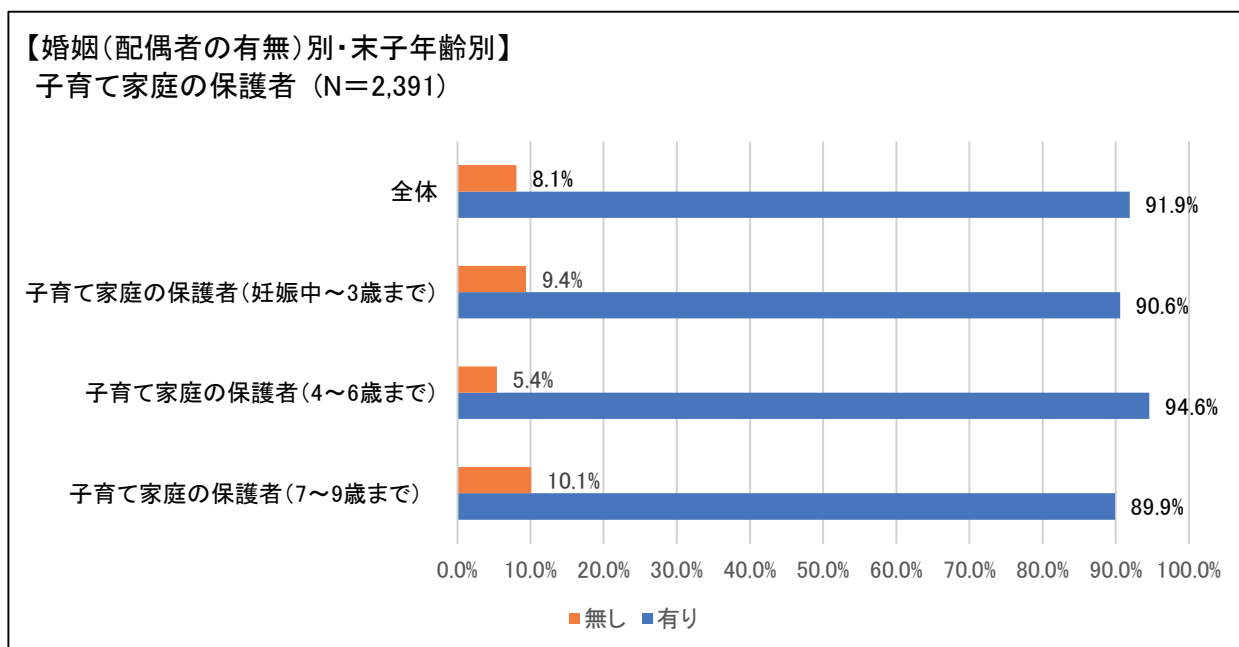
図表 3-I-2-2. 年代別×末子年齢

・居住エリア別×末子年齢

居住エリア-末子年齢 の	全体	北海道 ・東北	関東 ・甲信越	中国・北陸 ・四国	東海 ・近畿	九州 ・沖縄
全体	2,391	218	1,109	220	659	185
	100.0%	9.1%	46.4%	9.2%	27.5%	7.7%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	725	52	307	68	239	59
	100.0%	7.1%	42.3%	9.4%	33.0%	8.2%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	896	103	421	80	219	73
	100.0%	11.5%	46.9%	8.9%	24.5%	8.1%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	769	63	382	72	200	53
	100.0%	8.2%	49.7%	9.3%	26.0%	6.8%

表 3-I-2-3. 居住エリア別×末子年齢

・婚姻（配偶者の有無）別×末子年齢



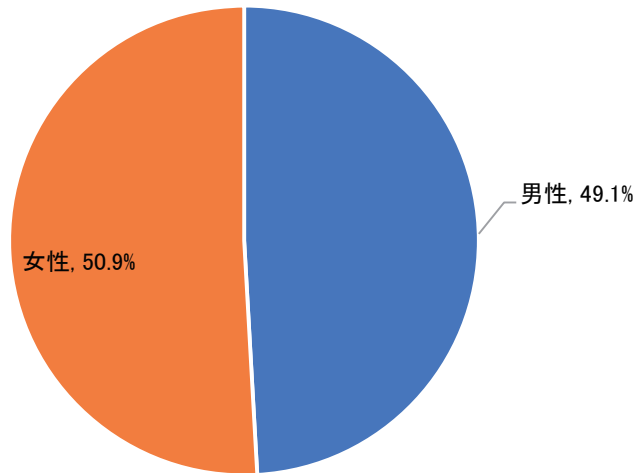
【婚姻（配偶者の有無） - 末子年齢のクロス表】	全体	有り	無し
全体	2,391	2,197	194
	100.0%	91.9%	8.1%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	725	657	68
	100.0%	90.6%	9.4%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	896	848	48
	100.0%	94.6%	5.4%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	769	692	78
	100.0%	89.9%	10.1%

図表 3-I-2-4. 婚姻（配偶者の有無）別×末子年齢

【回答者属性－提供会員となり得る年代層（提供会員世代 10 代～70 代）
（N＝3,609 人）】

・ 性別

【男女別】
提供会員となり得る年代層
（N＝3,609）

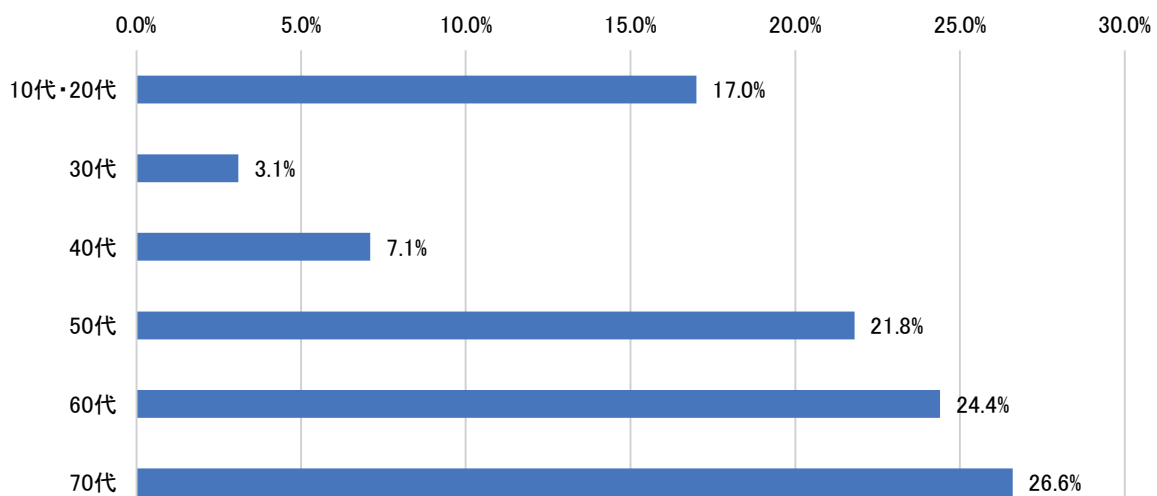


【男女別】	全体	男性	女性
提供会員となり得る年代層 （提供会員世代 10 代～70 代）	3,609	1,774	1,835
	100.0%	49.1%	50.9%

図表 3- I -3-1. 性別

・ 年代別

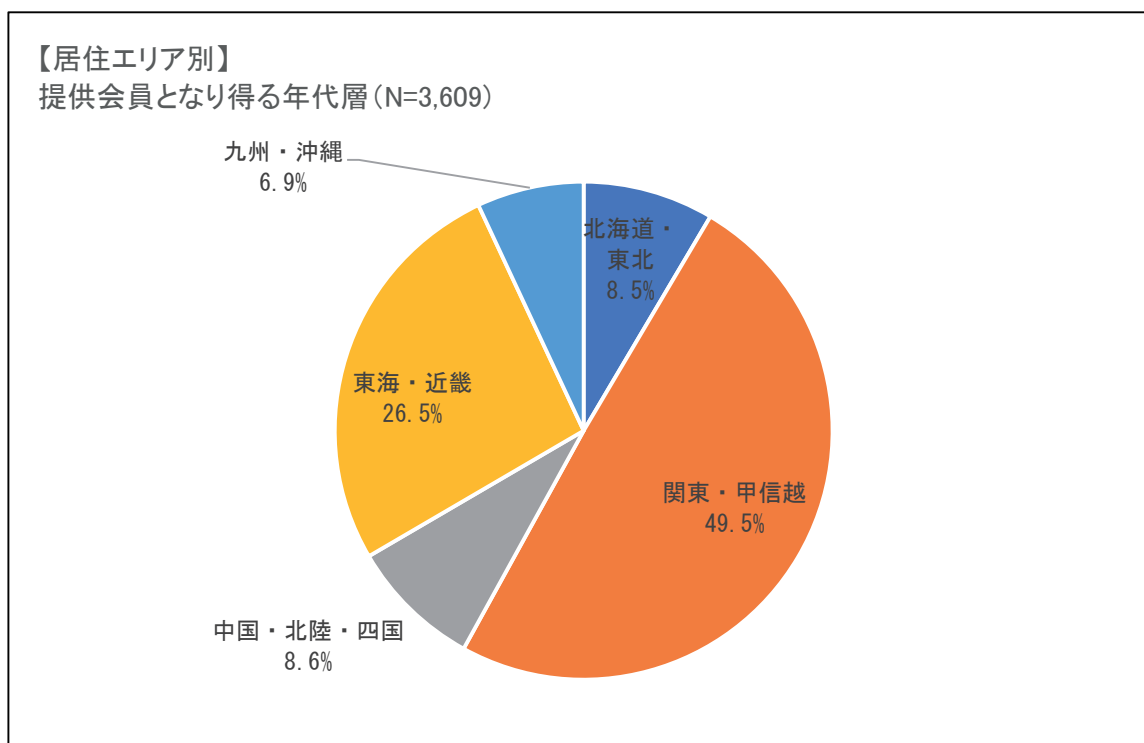
【年代別】
提供会員となり得る年代層（N＝3,609）



【年代別】	全体	10代・20代	30代	40代	50代	60代	70代
提供会員となり得る年代層	3,609	614	110	257	787	882	959
(提供会員世代10代～70代)	100.0%	17.0%	3.1%	7.1%	21.8%	24.4%	26.6%

図表 3-I-3-2. 年代別

・居住エリア別



【エリア別】	全体	北海道・東北	関東・甲信越	中国・北陸・四国	東海・近畿	九州・沖縄
提供会員となり得る年代層	3,609	306	1,788	309	956	251
(提供会員世代10代～70代)	100.0%	8.5%	49.5%	8.6%	26.5%	6.9%

図表 3-I-3-3. 居住エリア別

Ⅱ 依頼会員となり得る子育て世帯層への調査結果

1. ファミリー・サポート・センター事業の認知度

ファミリー・サポート・センター事業の認知度は、「依頼会員になり得る子育て世帯層(子育て家庭の保護者)」(N=2,931)と「提供会員になり得る年代層(提供会員世代 10代～70代)」(N=3,609)を合わせたすべての回答者(N=6,000)では、「知っている」(16.8%)と「聞いたことはある程度で内容については知らない」(17.9%)を合わせた認知度は34.7%であった。

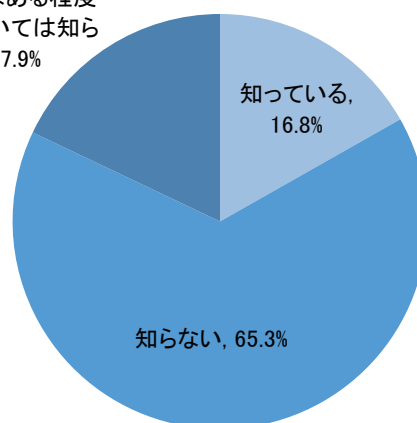
また、「依頼会員になり得る子育て世帯層」の回答では、全体ベースで46.9%(認知度計)であり、各層(末子年齢により3階層に分別)で5割弱の認知度であった。その中でも「妊娠中～3歳まで」層で「(内容まで)知っている」率が34.3%と最も高くなっており、同事業への関心の高さが伺える。なお、世帯収入が高いほど認知度が高くなる傾向も見られた。

【「ファミリー・サポート・センター事業」の認知度】

全回答者 (N=6,000)

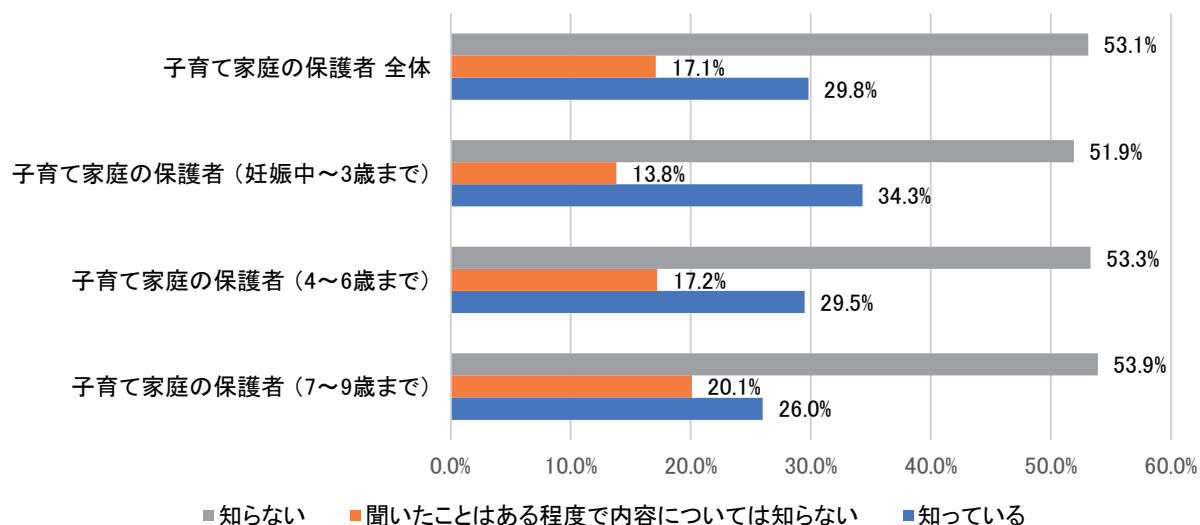
あなたは、「ファミリー・サポート・センター事業」を知っていますか。(お答えは1つ)	N	%
知っている	1,008	16.8
知らない	3,916	65.3
聞いたことはある程度で内容については知らない	1,076	17.9
全体	6,000	100.0

聞いたことはある程度
で内容については知らない, 17.9%



【ファミリー・サポート・センター事業の認知度 末子年齢別】

子育て家庭の保護者 (N=2,391)



	全体	知っている	聞いたことはある 程度で内容について は知らない	認知度	知らない
子育て家庭の保護者 全体	2,391	713	409	1,122	1,269
	100.0%	29.8%	17.1%	46.9%	53.1%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	725	249	100	349	377
	100.0%	34.3%	13.8%	48.1%	51.9%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	896	265	154	419	478
	100.0%	29.5%	17.2%	46.7%	53.3%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	769	200	155	355	414
	100.0%	26.0%	20.1%	46.1%	53.9%

図表 3-Ⅱ-1-1. ファミリー・サポート・センター事業の認知度(依頼会員・末子年齢別)

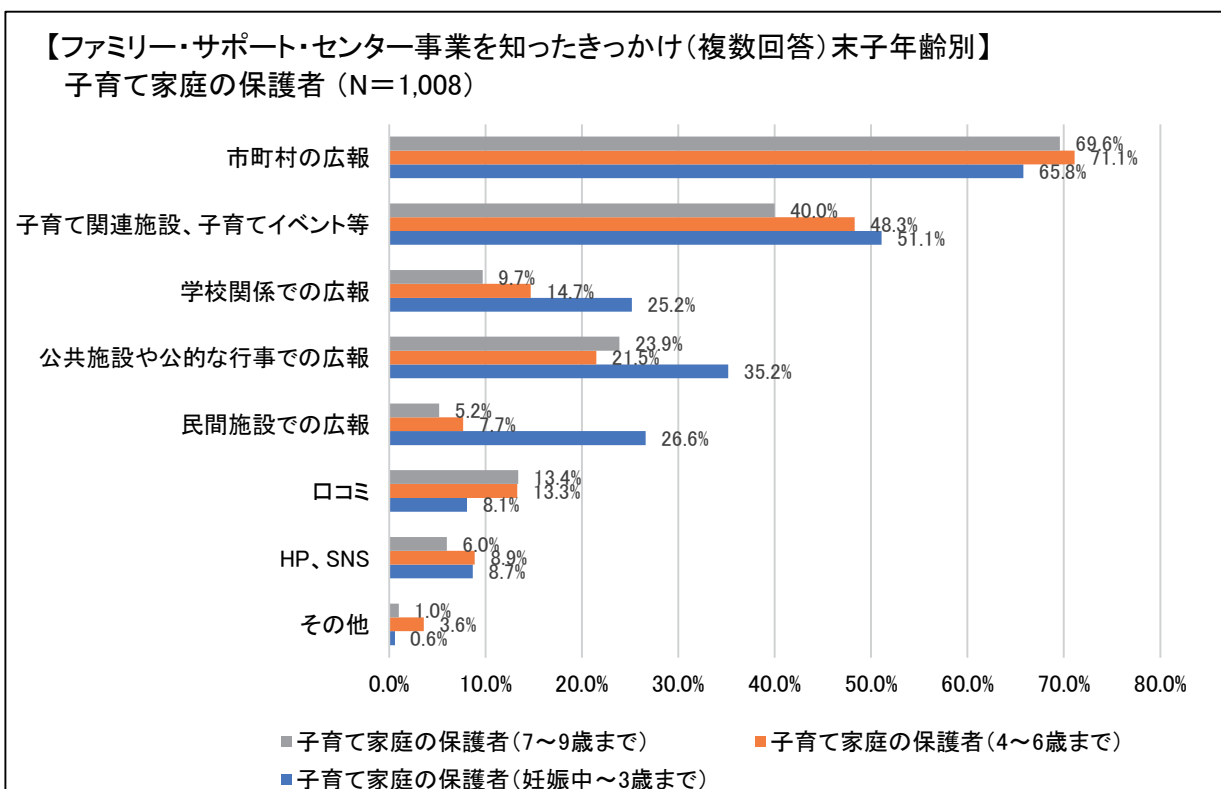
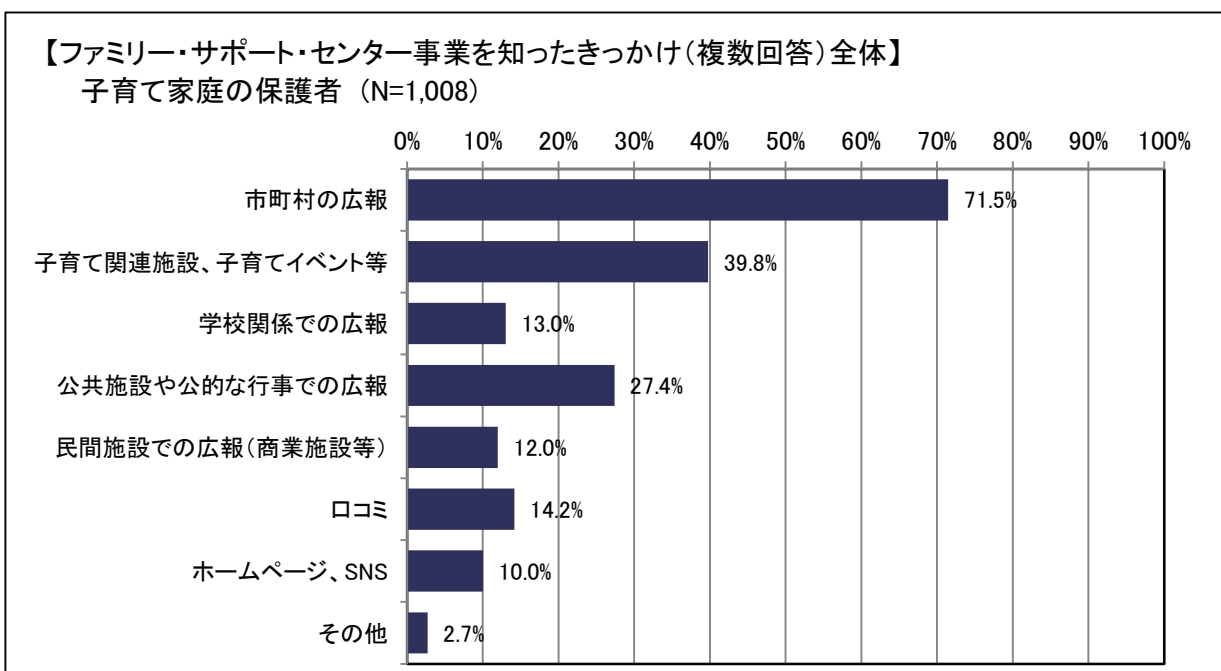
	全体	知っている	聞いたことはある 程度で内容について は知らない	認知度	知らない
100万円未満	31	15	7	22	9
	100.0%	48.6%	22.0%	70.6%	29.4%
100万円～200万円 未満	53	14	10	24	29
	100.0%	25.8%	18.9%	44.7%	55.3%
200万円～300万円 未満	102	19	17	36	66
	100.0%	18.8%	16.8%	35.6%	64.4%
300万円～400万円 未満	168	37	30	67	100
	100.0%	22.2%	17.8%	40.0%	60.0%
400万円～500万円 未満	312	96	41	137	175
	100.0%	30.7%	13.2%	43.9%	56.1%
500万円～600万円 未満	336	91	50	141	196
	100.0%	26.9%	14.8%	41.7%	58.3%
600万円～700万円 未満	326	110	46	156	171
	100.0%	33.7%	14.0%	47.7%	52.3%
700万円～800万円 未満	201	72	41	113	88
	100.0%	35.7%	20.6%	56.3%	43.7%
800万円～900万円 未満	159	52	32	84	75
	100.0%	32.7%	20.3%	53.0%	47.0%
900万円～1,000万円 未満	205	67	20	87	118
	100.0%	32.6%	9.9%	42.5%	57.5%
1,000万円以上	256	83	55	138	118
	100.0%	32.5%	21.4%	53.9%	46.1%
わからない	243	59	60	119	125
	100.0%	24.1%	24.6%	48.7%	51.3%

図表 3-Ⅱ-1-2. ファミリー・サポート・センター事業の認知度(依頼会員・世帯年収別)

2. ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ（依頼会員）

ファミリー・サポート・センター事業の認知者が同事業を認知した経路では、「市町村の広報」が全体で71.5%、各階層で7割前後と最も高くなっている。次に、「子育て関連施設・子育てイベント等」が全体で39.8%、各階層で4割から5割であった。3番目は、「公的機関や公的行事などでの広報活動」が全体で27.4%、各階層で2割から3割であった。

なお、「妊娠中～3歳まで」層では、「民間施設（商業施設等）」（26.6%）や「学校関係」（25.2%）で知ったとの回答が高かったのが特徴的である。



	全体	市町村 の広報	子育て関 連施設、 子育てイ ベント等	学校関 係での 広報	公共施設 や公的な 行事での 広報	民間施設 での広報 (商業施 設等)	ロコ ミ	HP、 SNS	その 他
全体	1,008	720	401	131	276	121	143	101	27
	100.0%	71.5%	39.8%	13.0%	27.4%	12.0%	14.2%	10.0%	2.7%
子育て家 庭の保護 者 (妊娠中 ～3歳ま で)	249	164	127	63	88	66	20	22	1
	100.0%	65.8%	51.1%	25.2%	35.2%	26.6%	8.1%	8.7%	0.6%
子育て家 庭の保護 者 (4～6歳 まで)	265	188	128	39	57	20	35	24	9
	100.0%	71.1%	48.3%	14.7%	21.5%	7.7%	13.3%	8.9%	3.6%
子育て家 庭の保護 者 (7～9歳 まで)	200	139	80	19	48	10	27	12	2
	100.0%	69.6%	40.0%	9.7%	23.9%	5.2%	13.4%	6.0%	1.0%

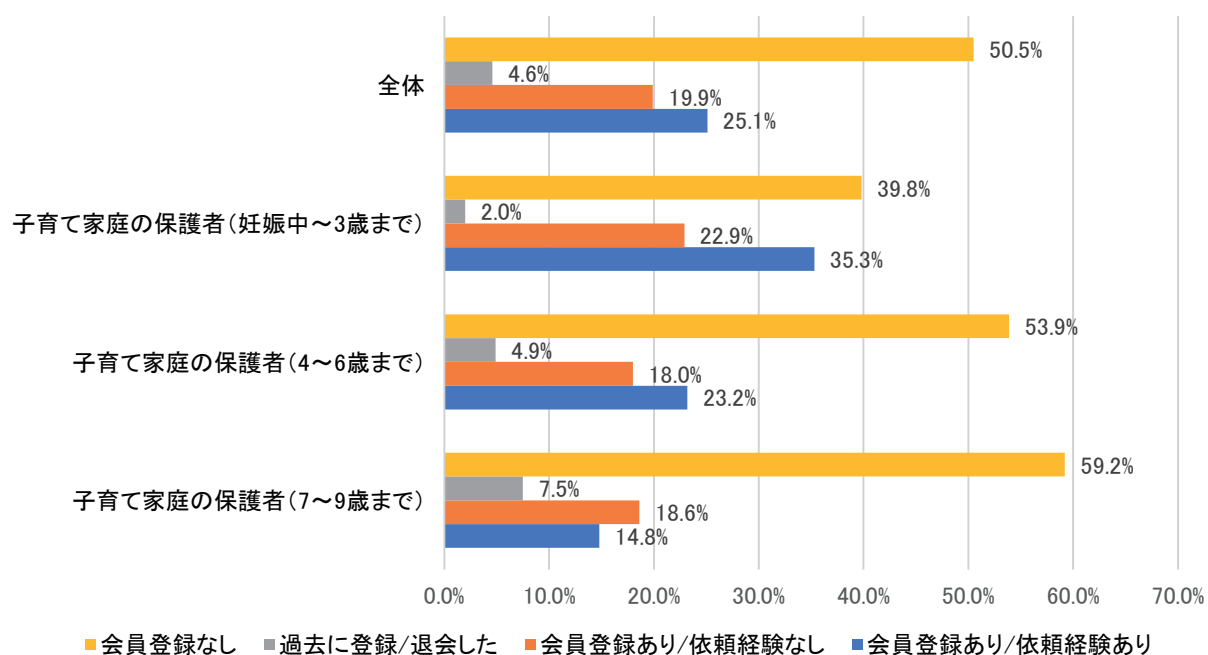
図表 3-Ⅱ-2. ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

3. ファミリー・サポート・センター事業への登録状況（依頼会員）

ファミリー・サポート・センター事業を「知っている」者のうち、依頼会員への登録経験者は全体で 49.5%（経験計）と半数程度にのぼるが、「退会者」（4.6%）をのぞく「現在登録者」は 45.0%であった。さらに「登録のみで依頼経験なし」（19.9%）をのぞく「アクティブな登録者」は 25.1%となる。「アクティブな登録者」は、「妊娠中～3歳まで」層で 35.3%と他 2 層より 10 ポイント強高くなっている（登録経験計も 60.1%と高い）。

【登録状況 末子年齢別】

子育て家庭の保護者（N=2,391）



	全体	会員登録あり /依頼経験あり	会員登録あり /依頼経験なし	過去に登録 /退会した	会員登録 経験計	会員登録 なし
全体	713	179	142	33		360
	100.0%	25.1%	19.9%	4.6%	49.5%	50.5%
子育て家庭の 保護者(妊娠中 ～3歳まで)	249	88	57	5		99
	100.0%	35.3%	22.9%	2.0%	60.2%	39.8%
子育て家庭の 保護者 (4～6歳まで)	265	61	48	13		143
	100.0%	23.2%	18.0%	4.9%	46.1%	53.9%
子育て家庭の 保護者 (7～9歳まで)	200	30	37	15		118
	100.0%	14.8%	18.6%	7.5%	40.8%	59.2%

図表3-II-3. ファミリー・サポート・センター事業への登録状況（依頼会員・末子年齢別）

4. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（依頼会員）

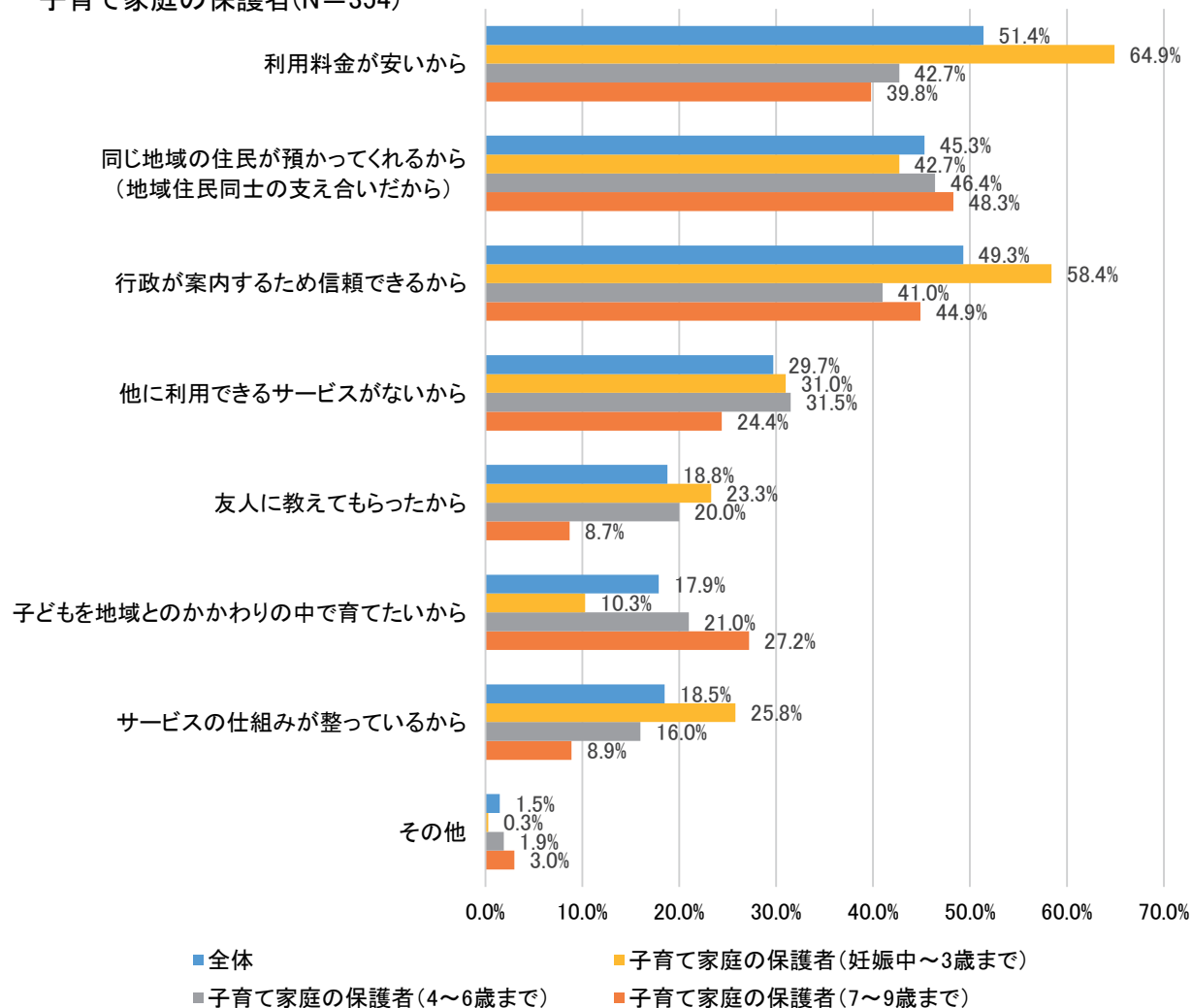
会員登録の理由では、全体で「利用料金が安いから」（51.4%）が最も高く、次に「行政の案内で信頼できるから」（49.3%）、「同じ地域の住民が預かってくれるから」（45.3%）の順であった。これを層別にみると、「利用料金の安さ」は子年齢が上がるにつれ順位を下げ、逆に4歳以上の2層では「同じ地域の住民が預かってくれるから」が半数程度と1位である。

	登録理由 1 位	登録理由 2 位	登録理由 3 位
全体	利用料金が安いから 51.4%	行政の案内で信頼できるから 49.3%	同じ地域の住民が預かってくれるから 45.3%
子育て家庭の保護者 （妊娠中～3歳まで）	利用料金が安いから 64.9%	行政の案内で信頼できるから 58.4%	同じ地域の住民が預かってくれるから 42.7%
子育て家庭の保護者 （4～6歳まで）	同じ地域の住民が預かってくれるから 46.4%	利用料金が安いから 42.7%	行政の案内で信頼できるから 41.0%
子育て家庭の保護者 （7～9歳まで）	同じ地域の住民が預かってくれるから 48.3%	行政の案内で信頼できるから 44.9%	利用料金が安いから 39.8%

図表 3-Ⅱ-4-1. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（複数回答）（依頼会員・末子年齢別・上位3位）

【ファミリー・サポート・センター事業への登録理由(複数回答)末子年齢別】

子育て家庭の保護者(N=354)



	全体	利用料金が 安いから	同じ地域の住民が預 かってくれるから (地域住民同士の支 え合いだから)	行政が案内す るため信頼で きるから	他に利用で きるサービ スがない から
全体	354	182	160	174	105
	100.0%	51.4%	45.3%	49.3%	29.7%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	150	97	64	88	46
	100.0%	64.9%	42.7%	58.4%	31.0%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	122	52	57	50	38
	100.0%	42.7%	46.4%	41.0%	31.5%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	82	32	39	37	20
	100.0%	39.8%	48.3%	44.9%	24.4%

	友人に教えて もらったから	子どもを地域と の関わりの中で 育てたいから	サービスの 仕組みが整って いるから	その他
全体	66	63	65	5
	18.8%	17.9%	18.5%	1.5%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	35	15	39	1
	23.3%	10.3%	25.8%	0.3%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	24	26	19	2
	20.0%	21.0%	16.0%	1.9%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	7	22	7	2
	8.7%	27.2%	8.9%	3.0%

図表 3-Ⅱ-4-2. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

5. ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由

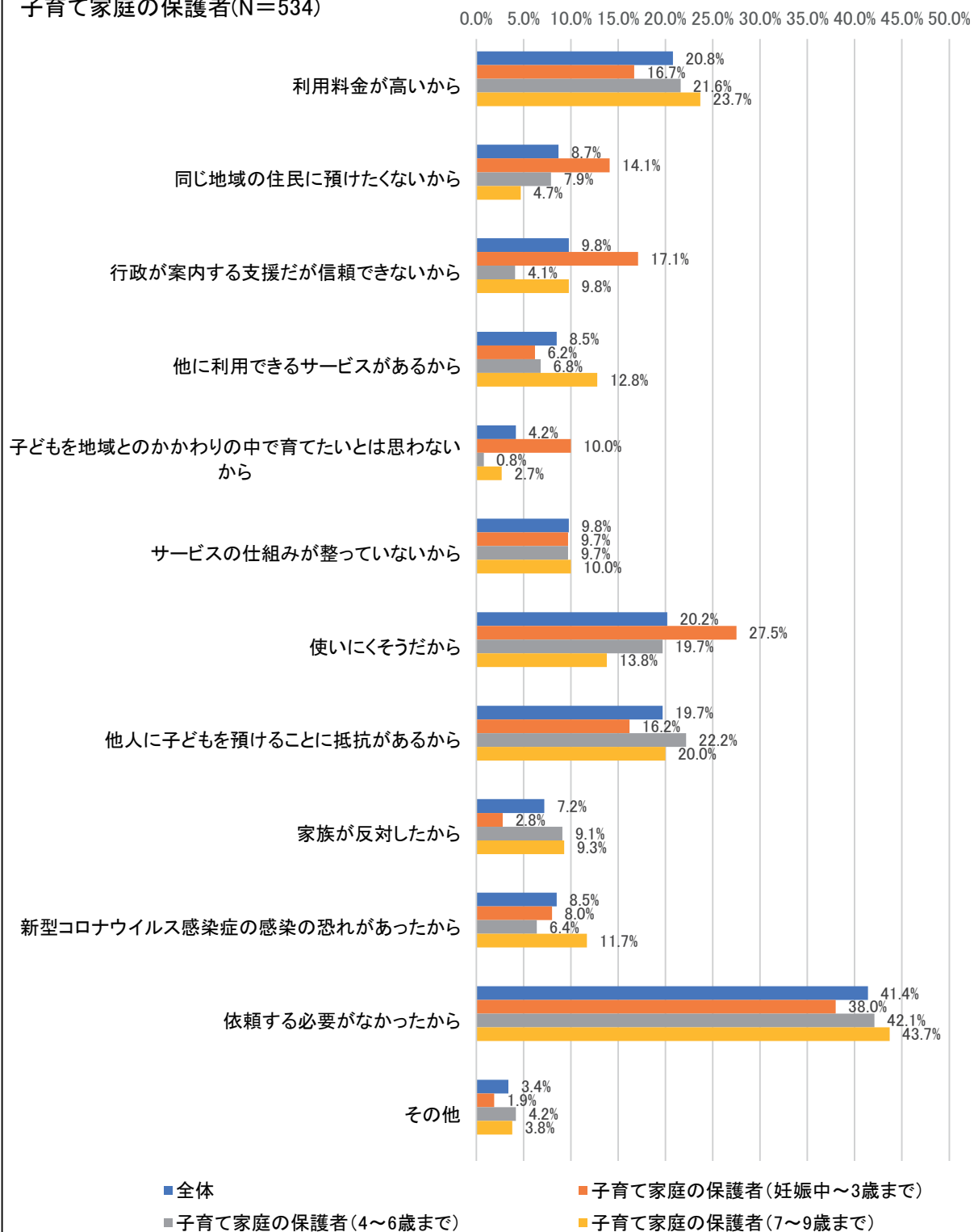
会員登録をしない理由では、全体および各層で「依頼する必要がなかったから」が最も多かった。全体では、「利用料金が安いから」(20.8%)、「使いにくそうだから」(20.2%)、「他人に預けることに抵抗があるから」(19.7%)の順であった。各層別にみると、「妊娠中～3歳まで」の層では、「使いにくさ」と「料金の高さ」が、また、4歳以上の2層では「他人に預ける不安」や「料金の高さ」が上位に挙げられている。

	全体	利用料金が 高いから	同じ地域の 住民に 預けたく ないから	行政が案内 する支援だ が信頼でき ないから	他に利用 できるサ ービスが あるから	子どもを地域と の関わりの中で 育てたいとは思 わないから
全体	534	111	47	52	45	22
	100.0%	20.8%	8.7%	9.8%	8.5%	4.2%
子育て家庭 の保護者(妊 娠中～3歳 まで)	161	27	23	27	10	16
	100.0%	16.7%	14.1%	17.1%	6.2%	10.0%
子育て家庭 の保護者(4 ～6歳まで)	203	44	16	8	14	2
	100.0%	21.6%	7.9%	4.1%	6.8%	0.8%
子育て家庭 の保護者(7 ～9歳まで)	170	40	8	17	22	5
	100.0%	23.7%	4.7%	9.8%	12.8%	2.7%

【ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由(複数回答)】

末子年齢別】

子育て家庭の保護者(N=534)



	サービスの 仕組みが 整っていないから	使いに くそう だから	他人に子 どもを預ける ことに抵抗 があるから	家 族 が 反 対 し たから	新型コロナウ イルス感染症 の感染の恐れ があったから	依 頼 す る 必要が な かつ た から	そ の 他
全体	52	108	105	39	46	221	18
	9.8%	20.2%	19.7%	7.2%	8.5%	41.4%	3.4%
子育て家庭 の保護者 (妊娠中～3 歳まで)	16	44	26	4	13	61	3
	9.7%	27.5%	16.2%	2.8%	8.0%	38.0%	1.9%
子育て家庭 の保護者 (4～6 歳ま で)	20	40	45	19	13	86	9
	9.7%	19.7%	22.2%	9.1%	6.4%	42.1%	4.2%
子育て家庭 の保護者 (7～9 歳ま で)	17	24	34	16	20	75	6
	10.0%	13.8%	20.0%	9.3%	11.7%	43.7%	3.8%

図表 3-Ⅱ-5. ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

6. 子どもを預かってほしいと思った経験及び子どもを預ける場合の重視点について

子どもを預かってほしいと思った経験では、「ある」が全体で 63.8%であった。子どもを預かってもらう際の重視点は、「預かってくれる人が信頼できる」(48.3%)が最も多く、「利用料金が安いこと」(18.9%)、「(預かってほしい時に)いつでもすぐに預けられる」(9.8%)の順で、全体でも層別でも順位は変わらなかった。

また、「子どもの預け先」については、全体、層別ともに「祖父母に預かってもらう」が最も多く、次に「預かり先がみつからなかった(自分で子どもをみた)」結果となったが、3位以降は各階層で差異が見られた。

【子どもを預かってほしいと思った経験】
(N=2,391)

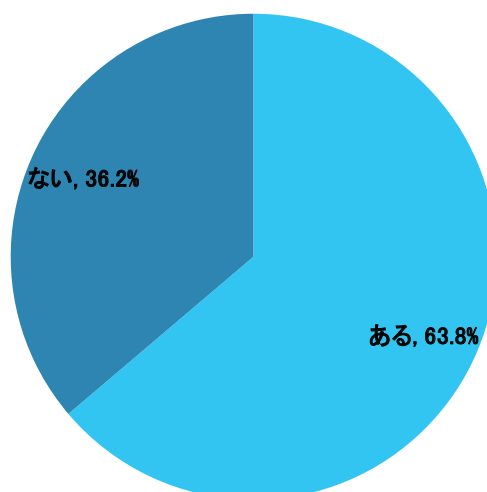


図 3-Ⅱ-6-1. 子どもを預かってほしいと思った経験

【子どもを預ける場合の重視点について】
(N=1,526)

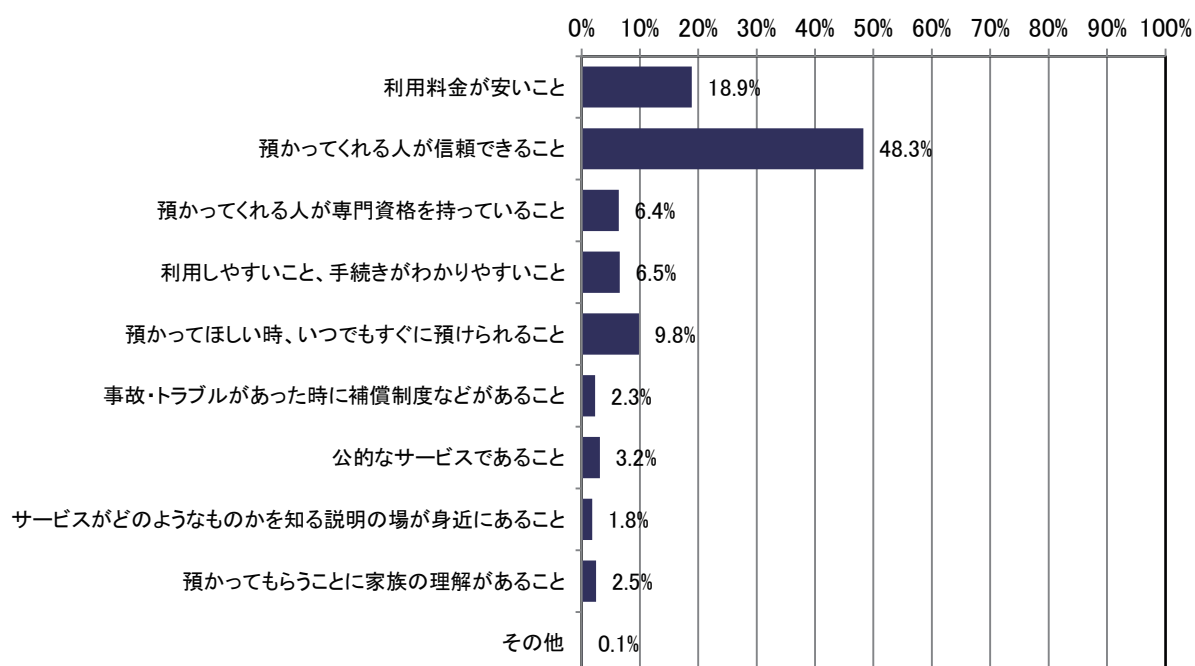
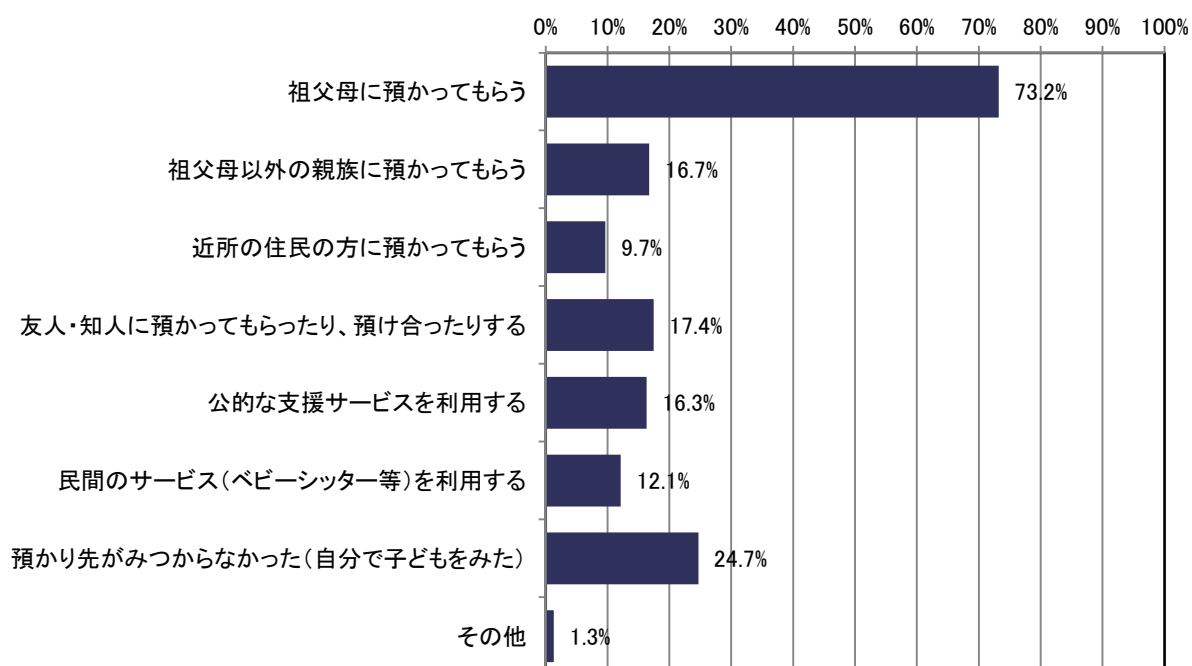


図 3-Ⅱ-6-2 子どもを預ける場合の重視点

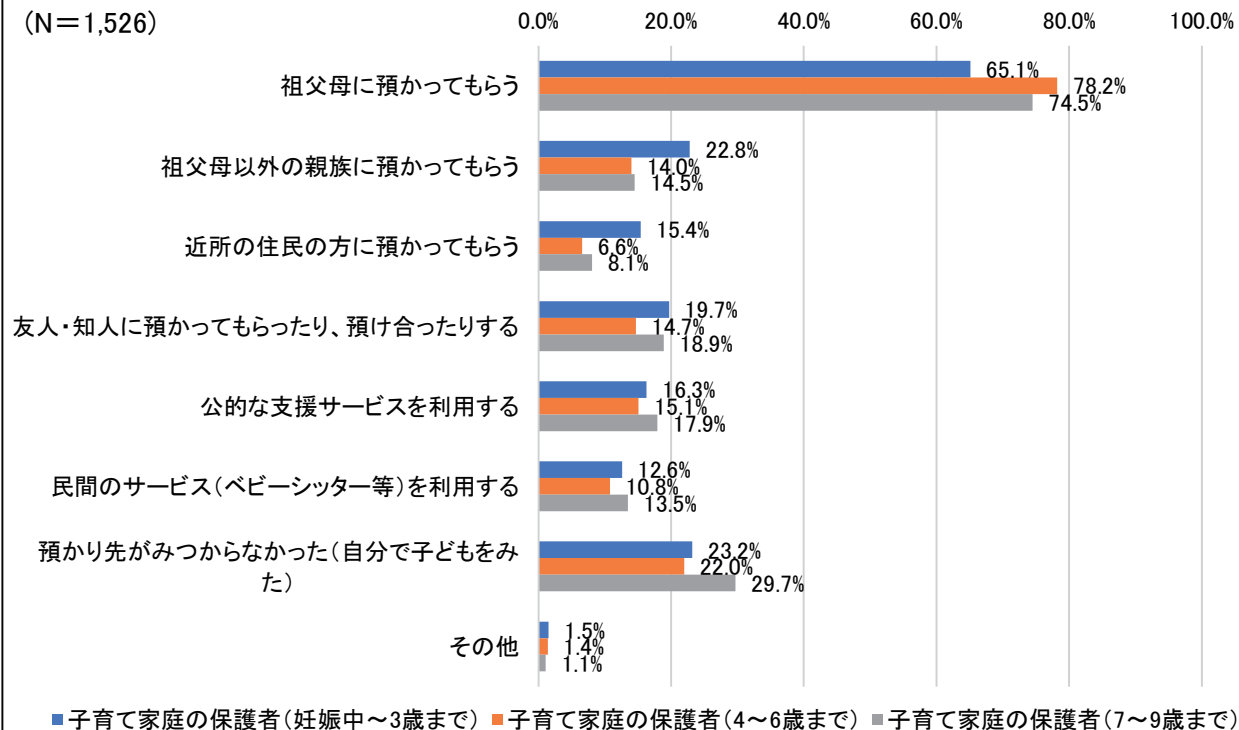
【子どもの預け先(複数回答) 全体】

(N=1,526)



【子どもの預け先(複数回答) 末子年齢別】

(N=1,526)



■ 子育て家庭の保護者(妊娠中～3歳まで) ■ 子育て家庭の保護者(4～6歳まで) ■ 子育て家庭の保護者(7～9歳まで)

【預け先】	全体	祖父母に預かってもらう	祖父母以外の親族に預かってもらう	近所の住民の方に預かってもらう	友人・知人に預かってもらったり、預け合ったりする
全体	1,526	1,117	255	148	266
	100.0%	73.2%	16.7%	9.7%	17.4%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	451	293	103	70	89
	100.0%	65.1%	22.8%	15.4%	19.7%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	611	478	85	40	90
	100.0%	78.2%	14.0%	6.6%	14.7%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	464	345	67	38	87
	100.0%	74.5%	14.5%	8.1%	18.9%

【預け先】	公的な支援サービスを利用する	民間のサービス(ベビーシッター等)を利用する	預かり先がみつからなかった(自分で子どもをみた)	その他
全体	249	185	377	20
	16.3%	12.1%	24.7%	1.3%
子育て家庭の保護者 (妊娠中～3歳まで)	73	57	104	7
	16.3%	12.6%	23.2%	1.5%
子育て家庭の保護者 (4～6歳まで)	92	66	135	8
	15.1%	10.8%	22.0%	1.4%
子育て家庭の保護者 (7～9歳まで)	83	62	138	5
	17.9%	13.5%	29.7%	1.1%

図表 3-Ⅱ-6-3 子どもの預け先(複数回答)(依頼会員・末子年齢別)

7. ファミリー・サポート・センター事業の印象（依頼会員）

ファミリー・サポート・センター事業に対する印象では、全体で「信頼できる」（22.8%）や「料金が安い」（20.2%）、「専門性が高い」（13.9%）といったポジティブな印象が上位に挙げられているが、一方で、「利用しにくい」（32.3%）という運用面でのネガティブな印象も同様に挙げられた。

		利用料金		信頼性	
		利用料金が安い	利用料金が高い	信頼できる	信頼できない
全体	2,391	483	450	545	365
	100.0%	20.2%	18.8%	22.8%	15.3%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	725	170	134	185	142
	100.0%	23.4%	18.5%	25.5%	19.6%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	896	160	180	192	125
	100.0%	17.8%	20.1%	21.5%	14.0%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	769	153	135	168	98
	100.0%	19.9%	17.6%	21.9%	12.8%

	専門性		利用しやすさ		その他
	専門性が高い	専門性が低い	利用しやすい	利用しにくい	
全体	332	238	379	772	27
	13.9%	10.0%	15.9%	32.3%	1.1%
子育て家庭の保護者（妊娠中～3歳まで）	126	67	98	185	3
	17.4%	9.2%	13.5%	25.5%	0.4%
子育て家庭の保護者（4～6歳まで）	89	102	138	357	15
	9.9%	11.4%	15.4%	39.8%	1.7%
子育て家庭の保護者（7～9歳まで）	117	69	143	230	9
	15.2%	9.0%	18.5%	29.9%	1.2%

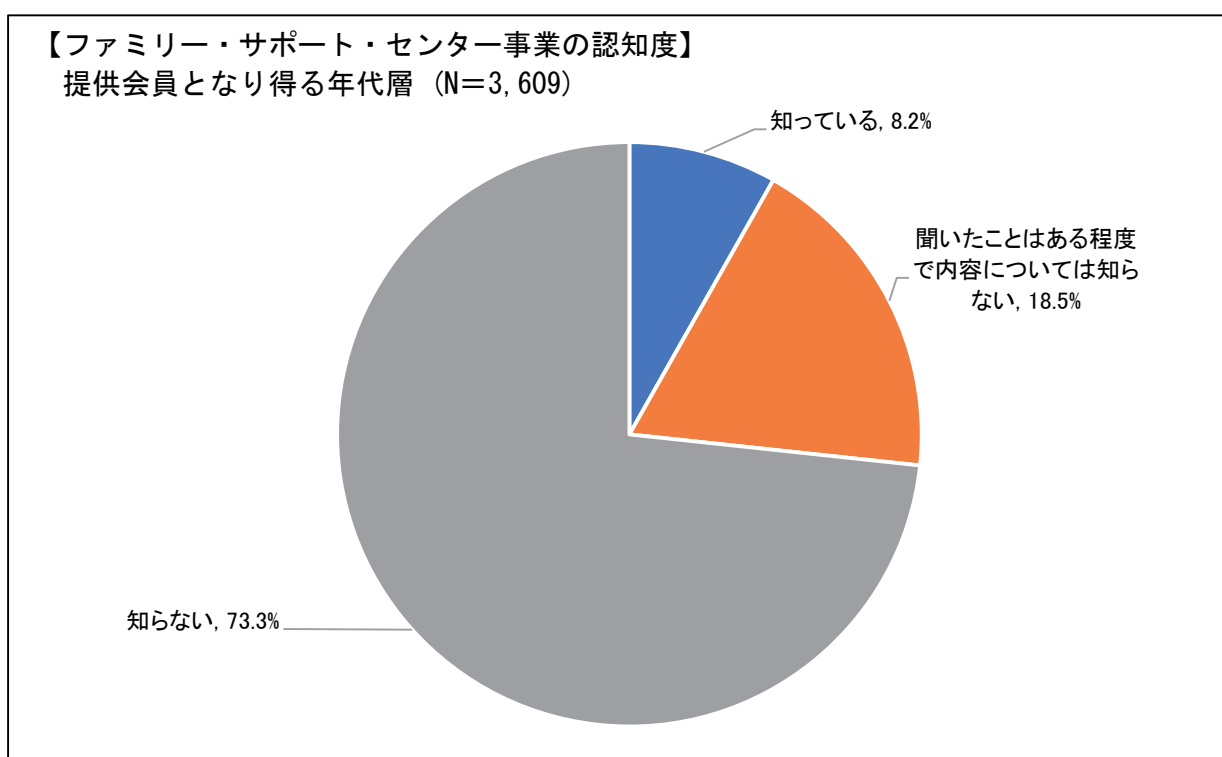
表 3-Ⅱ-7 ファミリー・サポート・センター事業の印象（複数回答）（依頼会員・末子年齢別）

Ⅲ 提供会員となり得る年代層への調査結果

1. ファミリー・サポート・センター事業の認知度(提供会員)

「提供会員となり得る」層でのファミリー・サポート・センター事業への認知度は全体で 26.7%（認知度計）と、依頼会員層の 46.9%（認知度計）と、20 ポイント低くなっている。「知っている」も 8.2%と依頼会員層（29.8%）の 3 分の 1 以下にとどまっている。

また、男女別では、女性の認知度 33.1%に比べて男性の認知度は 20.0%と 10 ポイント以上低くなっている。年代別の認知度では、30 代以下と比較すると 40 代以上の方が高いがいずれも概ね 3 割を下回る認知度であった。なお、世帯収入が高いほど認知度が高くなる傾向も見られた。



【ファミリー・サポート・センター事業の認知度】	全体	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
提供会員となり得る年代層（提供会員世代10代～70代）	3,609	295	667	962	2,647
	100.0%	8.2%	18.5%	26.7%	73.3%

図表 3-Ⅲ-1-1 ファミリー・サポート・センター事業の認知度（提供会員）

【ファミリー・サポート・センター事業の認知度】 詳細	知っている	聞いたことはある程度で内容については知らない	認知度	知らない
男性	110	245	355	1,419
	6.2%	13.8%	20.0%	80.0%
女性	185	422	607	1,229
	10.1%	23.0%	33.1%	66.9%
10代・20代	60	58	126	496
	9.7%	9.5%	19.2%	80.8%
30代	8	19	27	84
	6.9%	17.0%	23.9%	76.1%
40代	27	48	75	182
	10.4%	18.8%	29.2%	70.8%
50代	76	134	210	577
	9.6%	17.0%	26.6%	73.4%
60代	54	184	238	644
	6.2%	20.8%	27.0%	73.0%
70代	70	224	294	664
	7.3%	23.4%	30.7%	69.3%

表 3-Ⅲ-1-2 ファミリー・サポート・センター事業の認知度（提供会員・男女別・年代別）

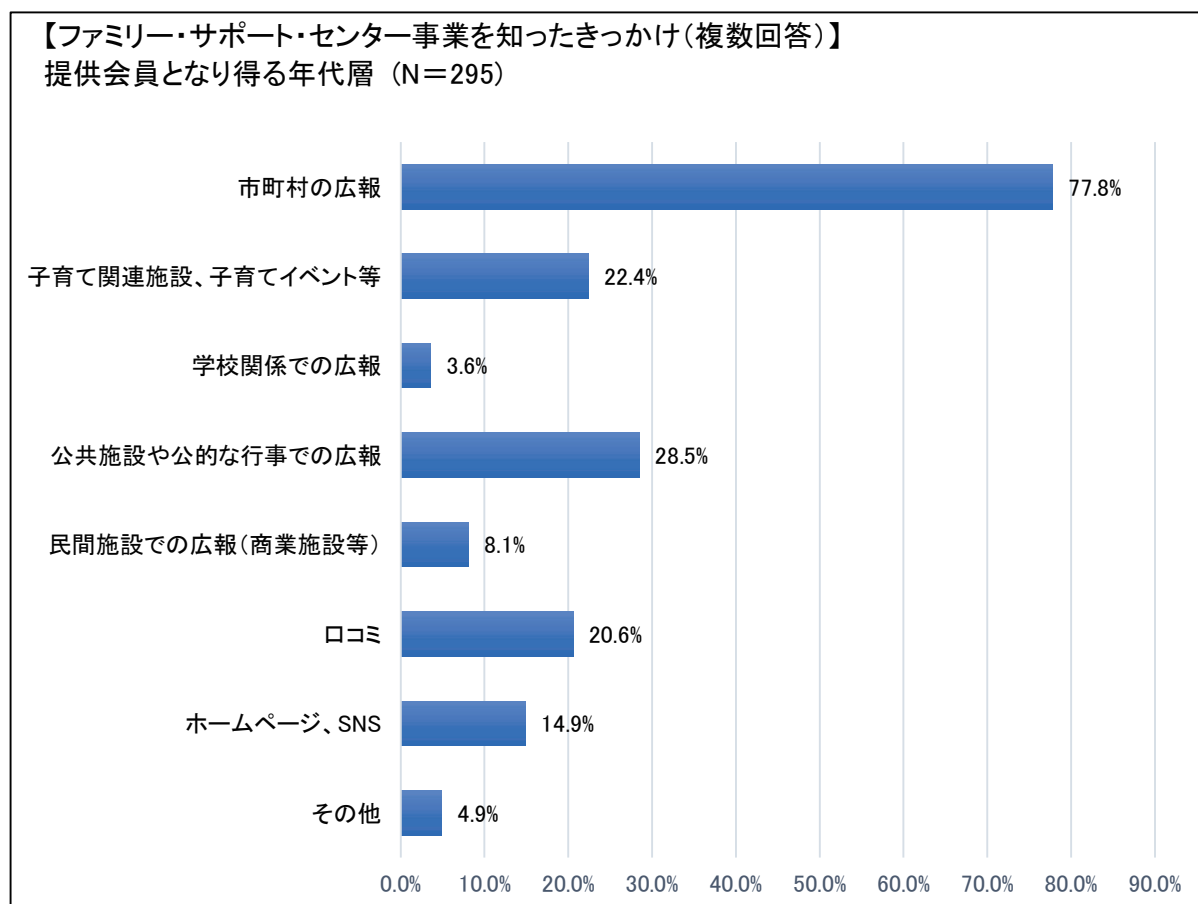
	全体	知っている	聞いたことはある 程度で内容に ついては知らない	認知度	知らない
全体	3,609	295	667	967	2,647
提供会員となり得る年代 層（提供会員世代 10 代～ 70 代）	100.0%	8.2%	18.5%	26.7%	73.3%
100 万円未満	227	2	41	43	184
	100.0%	0.9%	18.2%	19.1%	80.9%
100 万円～200 万円未満	308	15	52	67	241
	100.0%	4.9%	17.0%	21.9%	78.1%
200 万円～300 万円未満	358	20	60	80	278
	100.0	5.5%	16.8%	22.3%	77.7%
300 万円～400 万円未満	392	19	71	90	302
	100.0%	4.9%	18.1%	23.0%	77.1%
400 万円～500 万円未満	320	26	46	62	248
	100.0%	8.3%	14.4%	22.7%	77.4%
500 万円～600 万円未満	313	54	70	124	190
	100.0%	17.2%	22.2%	39.4%	60.6%
600 万円～700 万円未満	177	17	34	51	126
	100.0%	9.4%	19.4%	28.8%	71.3%
700 万円～800 万円未満	203	30	48	78	125
	100.0%	14.9%	23.7%	32.7%	61.4%
800 万円～900 万円未満	167	17	50	67	99
	100.0%	10.3%	30.2%	40.5%	59.4%
900 万円～1,000 万円未 満	139	16	18	34	105
	100.0%	11.4%	13.2%	24.6%	75.4%
1,000 万円以上	344	42	70	112	232
	100.0%	12.3%	20.3%	32.5%	67.5%
わからない	659	36	106	142	517
	100.0%	5.5%	16.0%	21.5%	78.5%

表 3-Ⅲ-1-3 ファミリー・サポート・センター事業の認知度（提供会員・世帯年収別）

2. ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ(提供会員)

ファミリー・サポート・センター事業の認知者が同事業を認知した経路では、全体で「市町村の広報」で知ったものが 77.8%と最も高く、次いで、「公共施設や公的な行事での広報」28.5%、「子育て関連施設・子育てイベント等」は 22.4%となり、次点以降のきっかけと大きく差が開く結果となった。

なお、男女別及び年代別においても「市町村の広報」が最も高くなっているが、次点以降については若干の差異があった。



【ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ】	全体	市町村の 広報	子育て関連 施設、子育 てイベント 等	学校関係 での広報	公共施設や 公的な行事 での広報
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代 10 代～70 代)	295	229	66	11	84
	100.0%	77.8%	22.4%	3.6%	28.5%

【ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ】	民間施設での広報 (商業施設等)	口コミ	ホームページ、SNS	その他
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代 10 代～70 代)	24	61	44	15
	8.1%	20.6%	14.9%	4.9%

(詳細)	市町村 の広報	子育て 関連施 設、 子育て イベン ト等	学校関係 での広報	公共施設 や公的な 行事での 広報	民間施設 での広報 (商業施 設等)	口コミ	ホームペ ージ、 SNS	その他
男性	78	32	7	40	22	34	35	4
	71.1%	29.1%	6.1%	36.6%	20.4%	31.3%	31.9%	3.3%
女性	151	34	4	44	1	26	9	11
	81.8%	18.3%	2.1%	23.7%	0.8%	14.3%	4.8%	5.9%
10 代・20 代	42	24	0	18	13	31	31	0
	69.7%	39.4%	－	30.3%	21.1%	51.4%	51.4%	－
30 代	4	2	1	2	1	3	3	0
	47.1%	29.4%	11.7%	29.4%	11.7%	35.3%	35.3%	－
40 代	18	9	3	7	2	4	3	0
	68.2%	32.0%	9.9%	25.9%	7.8%	15.9%	9.9%	－
50 代	63	9	3	17	2	5	4	5
	82.5%	12.3%	4.4%	22.8%	2.6%	6.1%	5.2%	6.1%
60 代	48	12	3	14	3	7	3	4
	88.5%	21.7%	5.1%	25.6%	6.3%	12.8%	5.1%	7.7%
70 代	55	10	1	26	3	11	1	6
	78.4%	14.8%	1.3%	36.4%	4.0%	16.3%	1.3%	8.1%

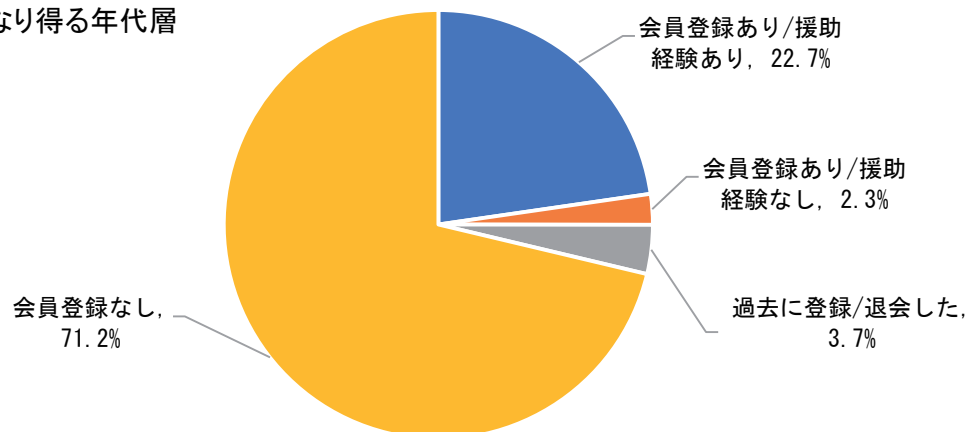
図表 3-Ⅲ-2 ファミリー・サポート・センター事業を知ったきっかけ(複数回答)(提供会員・男女別・年代別)

3. ファミリー・サポート・センター事業への登録状況(提供会員)

ファミリー・サポート・センター事業を「知っている」と回答した人のうち、提供会員の登録経験者は全体で 28.7% (経験計) である。うち、「登録のみで援助経験なし」(2.3%) と「退会者」(3.7%) を除くアクティブな登録者は 22.7% となる。

【ファミリー・サポート・センター事業への登録状況】

提供会員となり得る年代層
(N=295)



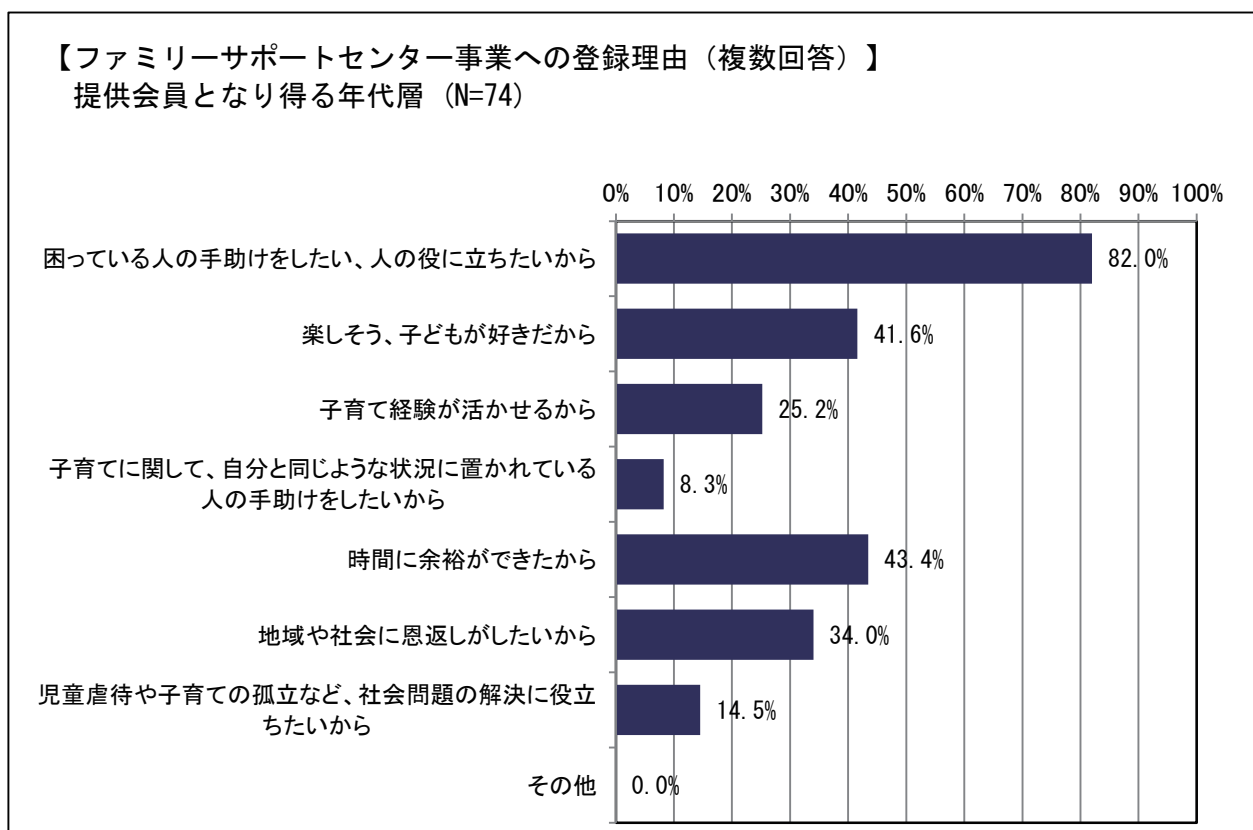
	全体	会員登録あり /援助経験あり	会員登録あり /援助経験なし	過去に登録 /退会した	会員登録 経験計	会員登録 なし
提供会員となり得る年代層(提供会員世代(10代～70代))	295	67	7	11	85	210
	100.0%	22.7%	2.3%	3.7%	28.7%	71.3%

(詳細)	会員登録あり /援助経験あり	会員登録あり /援助経験なし	過去に登録 /退会した	会員登録 経験計	会員登録 なし
男性	39 35.4%	2 2.1%	4 3.5%	45 41.0%	65 59.0%
女性	28 15.3%	4 2.4%	7 3.6%	39 21.3%	146 78.7%
10代・20代	36 60.6%	0 -	0 -	36 60.6%	24 39.4%
30代	3 41.2%	1 11.7%	0 -	5 52.9%	4 47.1%
40代	5 17.7%	3 12.0%	2 7.8%	10 37.5%	17 62.5%
50代	9 11.4%	3 3.5%	4 5.3%	16 20.1%	61 79.9%
60代	8 14.1%	0 -	3 6.4%	11 20.5%	43 79.5%
70代	7 9.5%	0 -	1 1.3%	8 11.8%	62 89.2%

図表 3-Ⅲ-3 ファミリー・サポート・センター事業への登録状況（提供会員・男女別・年代別）

4. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（提供会員）

会員登録の理由では、「困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから」が 82.0%で最も高く、次いで、「時間に余裕ができたから」（43.4%）、「楽しそう、子どもが好きだから」（41.6%）となっている。



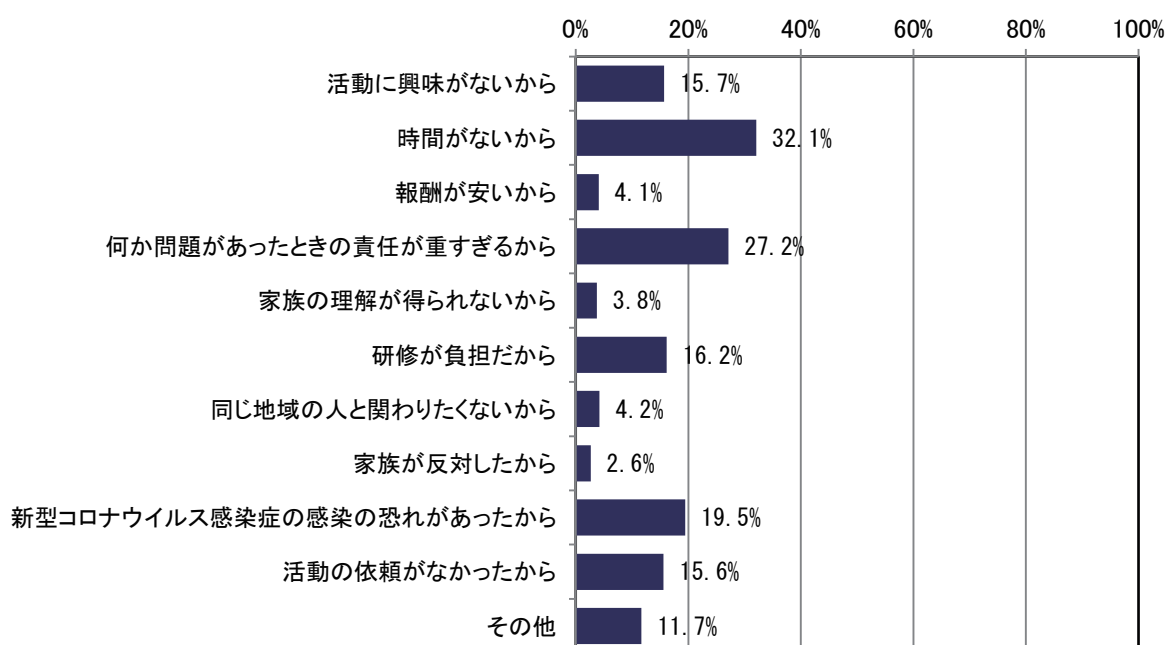
	全体	困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから	楽しそう、子どもが好きだから	子育て経験が活かせるから	子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	時間に余裕ができたから	地域や社会に恩返しがしたいから	児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから	その他
提供会員となり得る年代層（提供会員世代 10代～70代）	74	61	31	19	6	32	25	11	0
	100.0%	82.0%	41.6%	25.2%	8.3%	43.4%	34.0%	14.5%	—

図表 3-Ⅲ-4. ファミリー・サポート・センター事業への登録理由（複数回答）（提供会員）

5. ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由（提供会員）

会員登録をしない理由では、「時間がないから」（32.1%）が最も高く、次いで、「（何か問題のあったときの）責任が重すぎるから」（27.2%）、「新型コロナウイルス感染の恐れ」（19.5%）となっており、本人の多忙さと責任の重さがネックとなっている。一方で、本人以外の理由である「家族が反対したから」（2.6%）及び「家族の理解が得られないから」（3.8%）は、登録しない理由の中で低い結果となっていることが分かる。

【ファミリーサポートセンター事業への登録をしない理由（複数回答）】
提供会員となり得る年代層（N=228）



	全体	活動に興味がないから	時間がないから	報酬が安いから	何か問題があったときの責任が重すぎるから	家族の理解が得られないから	研修が負担だから	同じ地域の人と関わりたくないから	家族が反対したから	新型コロナウイルス感染症の感染の恐れがあったから	活動の依頼がなかったから	その他
提供会員	228	36	73	9	62	9	37	10	6	44	36	27
	100.0%	15.7%	32.1%	4.1%	27.2%	3.8%	16.2%	4.2%	2.6%	19.5%	15.6%	11.7%

図表 3-Ⅲ-5 ファミリー・サポート・センター事業への登録をしない理由（複数回答）（提供会員）

6. 子育て支援活動経験について

これまでの子育て支援活動の経験では、全体で「現在も活動中」(2.1%)と「現在活動していない」(3.9%)を合わせた経験率は6.0%と非常に低い結果となった。なお、「活動経験はないが関心あり」(25.0%)という関心層も存在している一方で、「子育て支援活動の経験もなく、関心もない」(69.1%)が最も高い結果になった。

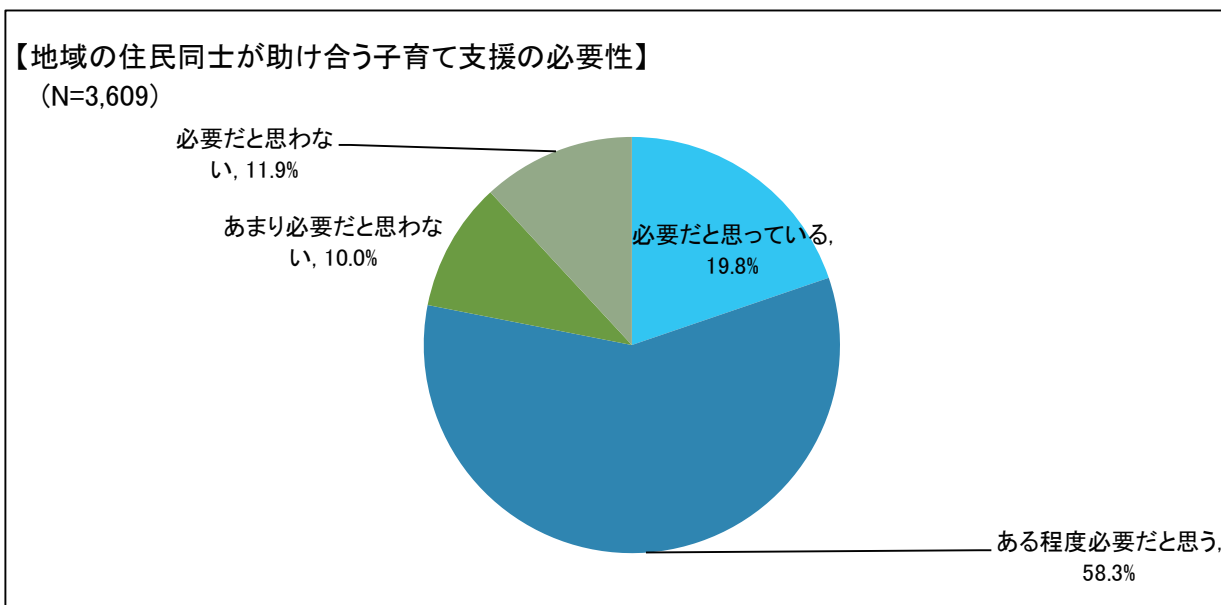
【子育て支援活動経験】	全体	子育て支援活動経験あり/現在活動中	子育て支援活動経験あり/現在活動なし	子育て支援活動経験あり	子育て支援活動経験なし/関心あり	子育て支援活動経験なし/関心なし
提供会員となり得る年代層 (提供会員世代10代～70代)	3,609	75	140	215	901	2,493
	100.0%	2.1%	3.9%	6.0%	25.0%	69.1%

(詳細)	子育て支援活動経験あり/現在活動中	子育て支援活動経験あり/現在活動なし	子育て支援活動経験あり	子育て支援活動経験なし/関心あり	子育て支援活動経験なし/関心なし
男性	43	62	105	436	1,232
	2.4%	3.5%	5.9%	24.6%	69.5%
女性	32	78	110	465	1,261
	1.8%	4.2%	6.0%	25.3%	68.7%
10代・20代	31	18	49	109	456
	5.0%	3.0%	8.0%	17.7%	74.3%
30代	4	0	4	19	86
	4.0%	－	4.0%	17.4%	78.1%
40代	6	8	14	56	187
	2.3%	3.1%	5.4%	21.7%	73.0%
50代	12	31	43	171	574
	1.5%	3.9%	5.4%	21.7%	72.9%
60代	9	28	37	231	614
	1.0%	3.2%	4.2%	26.1%	69.7%
70代	13	55	68	316	575
	1.4%	5.7%	7.1%	32.9%	60.0%

表 3-Ⅲ-6. 子育て支援活動経験について（提供会員・男女別・年代別）

7. 地域の住民同士が助け合う子育て支援の必要性について

「地域住民同士の子育て支援活動の必要性」では、「必要」(19.8%)と「ある程度必要」(58.3%)を合わせて、78.1%が「必要」だと考えている結果となった。



【地域の住民同士が助け合う子育て支援の必要性】	必要だと思っている	ある程度必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない
全体	3,609	713	2,105	362
	100.0%	19.8%	58.3%	10.0%
男性	352	981	190	251
	19.8%	55.3%	10.7%	14.2%
女性	362	1,124	172	178
	19.7%	61.2%	9.4%	9.7%
10代・20代	133	298	42	142
	21.6%	48.5%	6.8%	23.1%
30代	17	58	10	25
	15.8%	52.6%	9.3%	22.3%
40代	44	133	38	43
	17.1%	51.6%	14.6%	16.6%
50代	117	489	91	90
	14.8%	62.2%	11.6%	11.4%
60代	178	524	107	72
	20.2%	59.4%	12.1%	8.2%
70代	224	603	75	58
	23.4%	62.9%	7.8%	6.0%

図表 3-Ⅲ-7 地域の住民同士が助け合う子育て支援の必要性について（提供会員・男女別・年代別）

8. ファミリー・サポート・センター事業の印象(提供会員)

提供会員となり得る年代層の同事業に対する印象では、「信頼できる」(25.5%)、「専門性が高い」(19.8%)とある程度の評価されているものの、「手続きがわかりにくい」(33.3%)ことや「報酬が安い」(18.9%)点などネガティブな印象も強い。また、依頼会員(子育て家庭の保護者層)と比べても、信頼性や専門性の印象はやや高いものの、「利用しにくさ」(提供会員となり得る層にとっての「手続きのわかりにくさ」)が同様に高くなっている。

		利用料金		信頼性	
	全体	報酬が高い	報酬が安い	信頼できる	信頼できない
提供会員となり得る年代層	3,609	153	683	920	275
(提供会員世代10代～70代)	100.0%	4.2%	18.9%	25.5%	7.6%

	専門性		手続きのわかりやすさ		その他
	専門性が高い	専門性が低い	手続きがわかりやすい	手続きがわかりにくい	
提供会員となり得る年代層	715	425	492	1,202	210
(提供会員世代10代～70代)	19.8%	11.8%	13.6%	33.3%	5.8%

表 3-Ⅲ-8-2 ファミリー・サポート・センター事業の印象(複数回答)(提供会員)

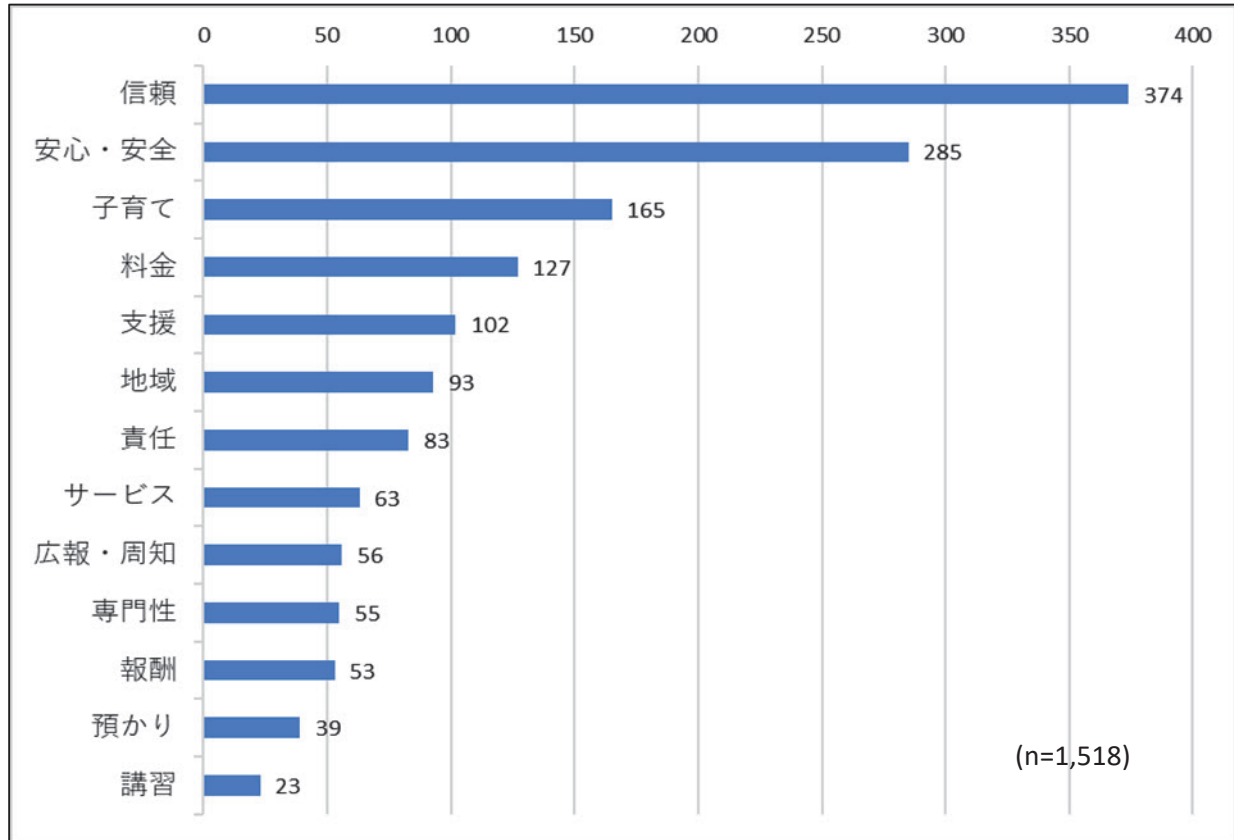
(詳細)	利用料金		信頼性		専門性		手続きのわかりやすさ		その他
	報酬が高い	報酬が安い	信頼できる	信頼できない	専門性が高い	専門性が低い	手続きがわかりやすい	手続きがわかりにくい	
男性	93	318	455	144	409	169	255	631	96
	5.2%	17.9%	25.6%	8.1%	23.0%	9.5%	14.4%	35.6%	5.4%
女性	60	365	466	131	306	256	236	571	114
	3.3%	19.9%	25.4%	7.2%	16.7%	14.0%	12.9%	31.1%	6.2%
10代・20代	54	118	189	51	171	16	123	184	11
	8.9%	19.2%	30.7%	8.3%	27.8%	2.7%	20.1%	29.9%	1.8%
30代	5	18	23	8	21	17	19	43	3
	4.5%	16.2%	20.7%	6.9%	18.6%	15.4%	17.0%	39.3%	2.4%
40代	16	49	50	26	43	34	27	95	10
	6.2%	19.2%	19.5%	10.1%	16.7%	13.2%	10.5%	37.0%	3.7%
50代	26	152	160	74	131	111	73	273	42
	3.4%	19.4%	20.4%	9.4%	16.7%	14.1%	9.3%	34.7%	5.3%
60代	21	169	213	69	157	116	112	303	60
	2.4%	19.2%	24.1%	7.8%	17.8%	13.1%	12.7%	34.4%	6.8%
70代	30	176	286	48	192	130	137	304	85
	3.1%	18.3%	29.8%	5.0%	20.1%	13.6%	14.3%	31.7%	8.9%

表 3-Ⅲ-8-2 ファミリー・サポート・センター事業の印象(複数回答) (提供会員・男女別・年代別)

Ⅳ インターネット調査自由記述まとめ

全回答者に対し、ファミリー・サポート・センター事業に求めることや期待することについて聞いたところ以下の回答が寄せられた。

1 内容別集計



2 記載内容（抜粋）

○ 信頼 : 374

- ・ 預けたい時に信頼できる人に預けられる
- ・ 信頼できそうな内容なので機会があれば利用したい
- ・ 預けるほうと預けられる方との信頼関係が一番大切でお互いを尊重することが基本だと思います。一般的な私立の保育所との違いや位置づけを良く相互に理解しあうことが大事だと思います。
- ・ 安心、信頼して預けられるよう、面談や研修等で細やかなフォローをお願いしたいです。
- ・ 積極的な情報の開示・共有による信頼感の醸成。
- ・ 近所の人とはいえ、まったく素性のわからない人に子供を預ける事に不安を覚える。相手が本当に信頼できる人物かどうかかわからないので、その辺りを解消する方法があれば良いと思う。
- ・ 会員登録が容易でかつ信頼できる会員であること。 犯罪歴のある人は登録できないこと。
- ・ 本当に信頼のある方なのか、どのような基準で選ばれているのか心配
- ・ 信頼できる提供会員だと良いが、なかなか信頼出来ないので預けたいと思わない。 事前に提供会員の 人となりを知るためにもお試し制度があると良い。
- ・ 大切な子供を預けるわけだから、とにかく信頼できる人材育成に取り組んで欲しい。
- ・ 知らない個人宅に預けることに抵抗があつて。 逆にうちにシッターをお願いすることも抵抗あります。お金の有無じゃなく、信頼関係を築いた人をお願いしたいと思うので、その保護者同士で密なお付き合いを今までしてこなかったからそこも抵抗あります。個人間はトラブルが怖いので利用は嫌です。
- ・ どこまで信頼できるかわからない

○ 安全 : 285

- ・ 子供の安全を守ることが組織として徹底できているかが問題だと思う。
- ・ 子供の安全性の確保と万一の場合の補償
- ・ 子供に対する安全性が一番。その上で料金が使いやすい設定であること。
- ・ 子供の安全が1番なので信頼できる人である事が1番の希望です。誘拐や、虐待、安全対策の不備など色々なニュースがあるので預けるなら安心安全でお願いしたいです。
- ・ 子供の安全性が守られるかどうか。個人情報を守られるかどうか。
- ・ 安心安全な状況が客観的に分かるようにしてほしい
- ・ 預かる側の方の審査基準を設けて、安全、安心して預けられるようにしてほしいです
- ・ 子供の預かり、送迎等提供会員の安全管理が適切にできるか否かの判断を事業主体側として適切に行うことができるか。
- ・ 安全性。 利用料金が高くなってもいいので、預け先の調査や研修、管理などをしっかりしてほしい。
- ・ より安全に子育てをサポートしてほしいです。サービスの質を高めてほしいと思います。

○ 子育て : 165

- ・ シングル家庭や、家庭の事情で子育てを手伝う者がいない場合など、単発でのサポートをしてくれる。 民生委員や見守り隊のメンバーなどと連携してくれると なお有り難いのでは……
- ・ 社会で子育てをしていく仕組みとして評価できる
- ・ 子育て世代に定着するようにPRを続けて欲しいです。 私はこのような制度があることを知りませんでした。 制度はとても良いものだと思います。
- ・ 無知は怖いので、どこかで知れる機会を作らなければならないと思いました。 せっかくこのようなサービスがあるのに知らないで子育てが終わってしまう方が大半かと思う
- ・ 自分が子育てをしている時にこういう制度とかシステムが欲しかったですね。監視まではできなくても資格とかある程度信頼できる人達にしっかりした報酬を払ってやるべきだと思います。
- ・ 自分の子供は自分が子育てをすべき

○ 料金 : 127

- ・ 料金が安いので預けやすいと思った。
- ・ 料金無料で国策であるべきだ
- ・ 利用料金が高いので利用しやすいとは思えません。
- ・ 料金が低ければ利用しやすい。子供の送迎等は、時間制でなく回数制にしてほしい。
- ・ 家庭の所得、子供の人数による料金設定が必要かと
- ・ 料金が高くて良いから、すぐに預けれる体制をとってほしい。
- ・ 料金などは民間に比べて安いなと感じました。ただ、依頼するときに予約するにも時間がかかり、すぐに利用とはならないので、そこがクリアできれば良いなと感じます。
- ・ 1時間700円くらいなら近所の託児所のほうがよっぽど安いですよ。ファミリーサポートというくらいなら思い切って1時間100円格安でやってみたらいかがですか？

○ 支援 : 102

- ・ 公的な支援を拡充して、よりしっかりした制度になって欲しい
- ・ とにかくシングルマザー家庭の支援を徹底して欲しい。自分の周りにも大変生活に苦しんでいるシングルマザー家庭がいっぱいいる。支援をもっと拡充してほしい。
- ・ 妊娠、出産したされた方全ての方にこのような支援がある事を伝えて、登録を全員し、今よりもっともっと利用に対してハードルを下げ、孤立してしまわないようにしてあげたいと思う
- ・ 個人の権利意識の変化やSNSによる無責任な情報の乱用により昔とは違ったサービスの形態になる。この時代の子育て支援の内容を精査してほしい。
- ・ もっと40~50代の体を動かせる提供会員を増やして欲しい。 支援のサポートがゆるい。 支援のとき、自宅も会員宅も無理なときに使える場所・部屋を、公民館などに一室作って欲しい。

○ 地域 : 93

- ・ 地域で子育て支援することは、とても良いと思います。
- ・ 地域ごとに差がありすぎるかも。
- ・ 良い制度だと思います。地域に根付く制度に発展すればよい。
- ・ 地域で子どもを育てるという意識づけ。 個人情報に関する度を過ぎた制限や子供が挨拶も返さないほどの警戒心の植え付けがなくなればよいと思う。
- ・ 地域や社会で子育てを支援することは良いことです。依頼と提供をいかにスムーズに取り持てるかが問題だと思います。信頼できる提供者を地域の中で準備することは田舎では可能かもしれませんが、都会では困難ではないでしょうか。
- ・ 地域社会で子育てを分担して子供たちが健やかに育ってほしい。子供を預けても安心だと思える相手とマッチングできればいいし、トラブルになった時の対処に関しても情報が開示されればよいと思う。

○ 責任 : 83

- ・ 預かった子供に何かあった場合の責任は、サポートセンターが全面的に被ってくれるのでしょうか？その保証がないと現実には難しいと思います。
- ・ どの程度の配慮をして預ければよいのか？また不慮の事故などが起こった際の対応はどのような責任を負わなければならないのか、現代の社会事情では双方に不安があるでしょう。
- ・ 法的な責任の所在が気になるし会員間で決める有償では特に何かにつけて責任が発生するのではとおもうと積極的に関わる気が失せてしまう。
- ・ 時間に余裕があり子どもが好きなので協力してみたいと思うが、万が一の事故などのときに責任が負いきれるのか不安。心に傷が残ってしまうような事態が起きるかもしれないと少し怖い気がする。
- ・ 今の世の中とてもありがたい事業ですが、責任を伴う仕事ですのでとても心配はあります。
- ・ 子供を預けた相手の変質者で、何か犯罪に巻き込まれてしまった場合に、誰が責任を取るのか、どういった賠償を受けられるのかが明確になっていないと、怖くて預けることはできない。
- ・ 問題があったときに提供会員の責任があまり問われないような仕組みにすべき。
- ・ 問題が生じそうな事業は行政が責任を持って行うべきである
- ・ 子供に事故が起きないような体制や、万が一事故が起きた場合の責任所在, 等を明確に定める必要があると思います。

○ サービス : 63

- ・ 報酬は安い、無料だと頼みにくいとおもうので良いと思う。これから必要なサービスだと思う。
- ・ 質の良い提供会員によってサービスの質や信頼性の向上が図られることや知名度が増していくこと。
- ・ サービスを受ける際の、地域的な有利・不利の解消。
- ・ 誰でも必要な時に安心して利用できるサービスになればよいと思います。
- ・ 当日急にや熱が出た時でも預かってくれるサービス
- ・ サービスシステムの構築と必要とされるところへの認知向上。余分な出費の削減。
- ・ コストパフォーマンスが高いサービスを期待しています
- ・ 申し込み手続きなどが簡単でサービスを利用し易いことを期待しています。また、急にサービスを利用したい時に対応可能であることを期待しています。
- ・ 登録制で自治体が提供するサービスなので安心

○ 周知・広報 : 56

- ・ 周知活動をして、このような制度があることをたくさんの人が知る必要がある
- ・ 一般の人にもしっかり周知してほしい

- ・利用者側が自ら調べないと存在がわからないような地味な活動ではなく、子どもの有無に関わらず全員がその存在を知るべく周知認知するべき。
- ・制度を知らない人が多いと思うので周知が必要と思われる
- ・きちんとサポートしてくれているのか分かりにくいから、やっている内容を周知して欲しい

○ 専門性：55

- ・専門性は無いが手が空いている人が 簡単に子育て世代を支えられる仕組みは素晴らしい。料金が安いのも魅力。
- ・専門性なくても、我々親自身が信頼でき、子供達を温かく見守ってもらえればそれで良いです。学童の先生や学校の先生等からの虐待やイジメも実在するいまは、人選を厳しくして頂きたいと思います！
- ・専門性があり信頼できそう
- ・専門性を持った人の援助を不可欠としてほしい。
- ・専門性が不透明で信用にかけます。預けるのが怖い。今まで幼稚園や保育園にしか預けたことがないので、信頼できません。
- ・障害児も見れる専門的な人がいること。
- ・専門性と安全性の担保を求めたい

○ 報酬：53

- ・報酬が安いと思う
- ・報酬が少ない。最低賃金は保証しないと
- ・責任ある仕事のわりに報酬が低い。公共団体の補助を強化する必要がある。
- ・命を守る活動なので、それに見合った報酬が欲しいです。
- ・行政の補助を行い、報酬を最低賃金並みに引き上げるべきだと考える。
- ・報酬が高ければ提供会員になってみたい
- ・子供を預かる側にとっても、子供の屈託のない笑顔を見ていると ストレスなどなくなり、また自身の健康につながったりと おまけに報酬までもらえるんだったら、プラスの作用でしかないと思います。

○ 預かり：39

- ・母子家庭や共働き家族のために子供を預かり安心できる場所で子供を預かっておく場所があることは大事だと感じる。また生活保護受給者の家庭も保護者の働く環境作りにも貢献するだろう。
- ・困ったときは助け合うのはいいが、自宅では預かりたくない。
- ・子供の保育施設終了後の預かりは助かりますね
- ・個人宅ではなく、児童館で預かりサービスをしてくれること

○ 講習：23

- ・結構な制度だと思う。提供会員にどのような教育を行っているかも広報すると、不安の解消につながると思う。講習受講後に評価を行って、内部資格を付与してはどうか。
- ・提供会員は講習を24時間受講後活動開始との事だが、依頼会員の立場からするともう少し受講してもらってからの方がより安心して預けられると思う。
- ・提供会員の方がどのような講習を受けてどのような考えを持っている方なのかかわかると安心する。
- ・講習を受けてから活動開始とありますが、もう少し長い期間必要かと思いました。預けるのには信頼性がないと心配です。
- ・講習だけでは預けられるか不安。短時間でも知らない人に子供を預けるのは不安。 資格の確立や、預かってくれる方の面談などが出来たらいいと思う。

第4章 ヒアリング調査

I 調査結果まとめ

今回のヒアリング調査を通じて、信頼関係の構築、講習会の充実、支え合い活動であることを重視するなど、すべてのセンターに共通する内容が浮かび上がる一方で、広報活動、活動場所のあり方、他機関との連携の状況などについては、多様なかたちが日々の運営のなかで築かれていることが明らかになった。そして、実施主体と実施される地域の特性に応じ、各々のセンターで日々築かれていく内容の多様さは、ファミサポ事業の特徴であると考えられる。

また、各センターの実態を捉える際には、実施主体が持つリソースやセンターを取り巻く地域社会のエコシステムのなかで捉えていく必要性がうかがえた。今回のヒアリング調査では、市区町村の直営をはじめ、ボランティアな活動から立ち上がった NPO 法人、社会的養護に関わる社会福祉法人、保育所を運営する社会福祉法人、地域コミュニティと密接に関わる社会福祉協議会など、それぞれ異なる実施主体にお話しをお伺いした。その結果、各々のセンターのアドバイザーは実施主体が持つリソースを最大限に生かしながら、なおかつ地域社会を舞台に、日々コーディネートを展開している実態が浮かび上がった。このような実態は、会員数、活動数、活動内容などのみに着目して捉えていては見過ごしてしまう部分であり、ファミサポ事業の今後を検討していく際には留意が必要であると考えられる。

1 提供会員の確保について

今回のヒアリング調査では、提供会員が増えている、提供会員より依頼会員が多い、提供会員の稼働率が増加しているなど、提供会員数の動向に特徴のあるセンターにお話しをお伺いした。一方で、いずれのセンターにおいても、提供会員の「数」を意識した工夫というよりも、提供会員の活動に対する理解や、実際の活動状況を確認しながら提供会員の「質」を意識した工夫が行われていた。このような状況からは、提供会員の確保について検討していく際には、提供会員の数のみでなくその内実に着目する必要性があると考えられる。

具体的な広報活動では、市区町村単位の広域の層に対する働きかけ（広報誌への掲載、チラシの工夫、SNS の活用など）とともに、より身近な層に働きかける工夫（人を介した紹介、自治会の集まりでの周知、ボランティアセンター職員からの紹介、依頼会員へ提供会員の登録を促すなど）が行われていた。とりわけ、身近な層に働きかける工夫は、センターのある市区町村の地域特性や実施主体が持つリソースが反映され多様であった。

また、多くのセンターで行われていた工夫として、提供会員の登録後、実際の活動につなげるためのアプローチがある。モチベーションの低下が生じないよう間を置かずに活動の依頼を行う、休眠状態の会員に対する電話での現状確認のほか、活動に不安を感じる会員に実際に活動を見学していただく、公共の場所での預かりを体験していただくなどのスモールステップを設ける工夫が行われており、効果がうかがえた。

さらに、提供会員の講習会についても工夫が行われていた。講習会の内容を魅力あるものに充実させる、スタンプカードにより達成感を得られる仕掛けのほか、託児付きの実施や開催曜日・時間の検討、近隣市町と連携することで不足分の講座を補うなど、受講しやすい環境づくりがさまざまな形で

試みられていた。このような講習会の工夫は、潜在的な提供会員の確保につながっている様子である。

2 他機関との連携について

今回のヒアリング調査では、行政との連携、ひろば（地域子育て支援拠点事業）との連携について特徴のあるセンターにお話しをお伺いした。

行政との連携について、複合的な困難を抱える家庭に対し、社会福祉協議会が運営するセンター、行政、小学校、民生委員・児童委員が連携しサポートを行う事例からは、社会福祉協議会と行政の関係を土台に、地域の関係機関も巻き込みながら生活支援が行われている実態が明らかになった。また、子育てグループから立ち上げられた NPO 法人が運営するセンターでは、行政や関係機関から困難を抱える家庭（産後うつ、保護者や子どもの障がいなど）の会員登録依頼が多く、保健師とともに会員登録やその後の見守りを行う様子が明らかになった。このような実態からは、困難を抱える家庭を地域で支援する体制の一つにファミサポ事業が組み込まれている様子がうかがえ、とりわけそのなかにおいて行政や関係機関との連携が重視されていることが分かる。

ひろばとの連携については、社会的養護に関わる社会福祉法人が、ファミサポ事業とともにひろば事業を運営するセンターにお話しをお伺いした。「手を差し伸べられる使いやすいファミサポにした」という想いから、ファミサポ事業の弱み（ニーズ把握と発信力）をひろば事業の強みが補っている様子がうかがえた。また、その背景には、ひろばスタッフがセンターを兼務していることやミーティングを通じた意思疎通などの工夫があった。

そのほか、センターが他機関や他事業と連携するにあたり、①情報共有の範囲と方法、②関係機関のファミサポ事業に対する理解が、共通の課題として生じていることが明らかになった点は重要である。①情報共有の範囲と方法については、すべてのセンターにおいて、他機関や他事業とどこまで、どのように情報共有を行っていくべきか模索しながら進められている状況であった。②関係機関のファミサポ事業に対する理解については、行政や関係機関においてファミサポ事業の活動内容や特質の理解不足があり、連携する際の障壁になっている状況があった。一方、センターによっては、家庭児童相談所職員、保健師、助産師、保育園長、赤ちゃん訪問員などの関係者に対しファミサポ事業の紹介を試みたところ、理解が深まり困難な依頼が減少するというエピソードが紹介された。このように、関係者の理解は連携に不可欠な要素であると考えられる。

3 会員の状況について

今回のヒアリング調査では、提供会員、依頼会員、両方会員に、詳しくお話をお伺いした。

提供会員となったきっかけとしては、身近な人（友人、実子、実子の習い事の先生）が依頼会員として利用していた様子を見ながら関心をもつようになったというエピソードが聞かれ、実際の様子を間近で見るとは、提供会員になるための障壁を取り除くことにつながる様子がうかがえた。また、活動を通じて、提供会員やその家族が依頼会員の子どもとのふれあいを楽しみ、ふれあいを通じた学びが生じるほか、提供会員が自身の子育てを振り返るきっかけにもなっていた。

依頼会員となったきっかけをお伺いすると、身近に頼れる預け先などがないなか会員登録を行ったというエピソードが聞かれ、差し迫った子育て環境から登録を行っている様子がうかがえた。一方、実際の利用を通じて、提供会員が身近な祖父母代わりとなり、子どもの特性に関する話を共有したり仕事の悩みを相談するなど、依頼会員にとって精神的な支えとなっているという声が数多く聞かれた。

継続的な利用のなかで、提供会員との関係性が少しずつ築かれていくことが分かる。

両方会員については、依頼会員であった経験から、預ける側の気持ちを察した関わりを行っているエピソードが聞かれた。利用する側にも活動する側にもなり得る両方会員の存在は、ファミサポ事業の「支え合い」の特徴を体現している。

以上のような会員の活動と会員間関係構築の背景には、アドバイザーによるきめ細やかなコーディネートがあった。いずれのセンターにおいても会員とのコミュニケーションを重要視し、会員と信頼関係を構築しながら、提供会員と依頼会員のマッチングを慎重に行っている。このようなアドバイザーのコーディネートがファミサポ事業を支えている様子がうかがえた。

Ⅱ 提供会員の確保が十分出来ているセンター

- | |
|--|
| 1. センター名：はなまきファミリー・サポート・センター（岩手県花巻市）
直営：花巻市 |
|--|

提供会員の確保について

1 確保のために実施した内容・工夫点

(1) 提供会員不足を補うためにどのような取組を実施したか

提供会員確保のために、花巻市全員の家庭に配られる市の広報で周知を行っている。また、ファミサポ会員向けの会報紙の中でも、会員募集を必ず掲載している。子どもが小学校を卒業する依頼会員などに、今度は預かる側になってもらえないかと、電話や手紙で一人ひとりをお願いしている。その中に「今までファミリー・サポート・センターにお世話になったので、今度は預かる側として登録してもいい」と言う方がいらっしゃる。その他にアドバイザーやサプリーダーが、「この方はもしかしたら会員になってくれるかもしれない」と思えば、一人ひとりに声掛けしている。

(2) 工夫した点

来所が難しい場合には、アドバイザーが直接自宅に申込書を届けたり、登録の説明に行ったりするなど、対面でコミュニケーションをとることを大事にしている。提供会員になる方のご自宅には、必ず訪問するようにしている。また、習い事の依頼が多くなっているが、同じ習い事に通っている友達同士の会員であれば、両方会員として登録を変更していただき、習い事の送迎をすることを提案したことがある。

(3) 苦労した点

両方会員の登録希望はあるが、まだ自分の子どもが小さく安全確保に不安があると感じる方には、援助ができるようになってから協力していただければ大丈夫と説明。また、提供会員への登録を希望される方には、本事業のねらいやあり方について、丁寧に説明をした。

2 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

草の根的な、一對一のコミュニケーションが、もっとも登録に結び付いていると感じている。たとえば、まだ援助会員になっていない方に、「こういう送迎の依頼があるのだが」という具体的な活動のイメージを提示して、援助会員になってもらうなど、個人的な声掛けを大事にしている。

3 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

会員の人数をただやみくもに増やすというのではなく、登録してくださった方に、うまく援助の依頼を結び付けるということが重要だと考えている。たとえば、援助会員として登録していただいても、地域的に援助依頼がなかったり、時間的に援助依頼と合わなかったりするとせっかく登録していただいた会員に申し訳ないため、どのようにすれば援助活動に結びつけられるかを考えている。会員登録をしていただいたが、援助がないまま時間がたってしまうと会員のモチベーションが下がってしまうと感じている。また、閉鎖的な場所での依頼が不安だという依頼会員や援助会員もいらっしゃる。コロナの影響でまだ実現していないが、市のこどもセンター内など、公の施設を利用して預かりを行っていただくなどの工夫を考えている。

4 事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ

(1) 会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えているか

一番は会員とのコミュニケーションである。お互いの信頼関係を築くことによって、スムーズな援助活動の調整ができる。細かいことではあるが、いろいろな問題が出てくることがあったときに、会員とアドバイザーの信頼関係があることによって、言いづらいことも言えたり、分かっていたりすることがすごく多い。例えば報告書を出していただいたときも、ただそれを受け取るだけではなくて、日常的な会話をしながら、その会員の特性をつかんだり、会員とのコミュニケーションをとるなどしている。

困難事例への対応について

1 困難事例の対応のための体制・連携先

(1) 関係機関との連携について

市保健センター、保健師、家庭相談員、社会福祉センター、療育センター、市の福祉関係部署、市の子ども関係施設や学校、養育支援訪問事業のケース検討会などと連携をとっている。母親の心の病や、ひとり親家庭、低所得者、障害児者への支援など、行っている。

(2) 連携のために工夫している点

市の直営ということで、ファミサポ会員以外のケースについても、センターの方から関わる機会を得ている。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

低所得者や障がいを持つ家庭に関しては、他機関と連携し、ケース検討会議を行った。情報共有することでそのような家庭に対しても対応することができた。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

金銭問題は福祉課が担当、障がいに関しては養育センターの先生が担当ということで、様々な担当部署が力を合わせてケース検討会議を進めてきた。

ケース検討会議が終了した後も、定期的にファミサポ利用の状況を共有することとし、アフターフォローができている。また、このようなケースの場合は、依頼会員から依頼がなくとも、「最近困っていることはないか」など、ニーズの掘り起こしも行うようにしている。また、提供会員の話から、援助会員の困り感をお聞きすることにつながることもある。その際、提供会員と援助会員の間をとりもつように、アドバイザーが間に入っている。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

(2) 配慮が必要な家庭に対して

(1)(2)市の直営を生かし、関係機関と連携を取りながら、アドバイザーだけではなく、いろいろなところと情報を共有して、援助調整を行っていているというところが、花巻市の強みである。また提供会員の人間性もすばらしく、大変な援助活動に対しても、「楽しく援助活動をさせていただいています。」という会員がほとんど。アドバイザーが会員のモチベーションを引き上げているというよりも、提供会員の人柄や、「本当に援助していることが楽しいのよ。」と言ってくれる会員の気持ちを、大事にしていかなければいけないと感じている。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

習い事をさせている家庭からの送迎のニーズが増えているが、本当にファミサポの援助が必要な家庭への支援ができているかどうか、考えることがある。習い事の送迎はファミサポで必要な支援なのか？等、今後考えていく必要があるのではないかな。

《提供会員確保》

2. センター名：おおだファミリーサポートセンター（島根県大田市）

委託：社会福祉法人大田保育センター

提供会員の確保について

1 確保のために実施した内容・工夫点

(1) 提供会員不足を補うためにどのような取組を実施したか

保育園を2園運営する社会福祉法人が3年半前から委託を受けている。同法人では地域貢献の一貫として大田子育て支援センターも委託を受けている。委託を受けた段階では会員が整理されており会員が十数名ほどであったが、委託時には保育士の提供会員登録のほか、市内の認可保育園 15 園ほどにファミサポ事業の説明をしたところ、園長退職者やその配偶者などの登録があり1～2年目に提供会員が増えた。その後は民生委員協議会や人とのつながりにより、年数名の提供会員登録がある。そのほか、市の広報に年1回活動紹介を掲載、月1回大田市子育て情報という担当課が発行するA4・1枚のリーフレットに掲載し、保育園、図書館、小児科などに配布している。

(2) 工夫した点

市内の認可保育園に一生懸命声かけを行った。

(3) 苦勞した点

特になし。

2 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

保育園を運営する社会福祉法人が委託を受けており、センターの事務所が保育園内にあるという環境や保育関係者のネットワークが活かされているという点がある。小さいまちであるため、人のつながりも強い。

3 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

特段事業拡大のようなことは考えていないが、今後10年ほどの長期的なビジョンを考えた際に、現在の提供会員が高齢になり、その活動を引き継いでいけるかという懸念はある。

4 事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ

(1) 会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えているか

保育園の一角に入るセンターの事務所内に、かつて一時預かりとして使用していた部屋があり、提供会員の活動を行うために利用している。大田市の中心部に位置し、利用会員もアクセスしやすい。同場所で活動を行う際にはアドバイザーが関わる機会を設け、提供会員に安心してもらえるようにしている。

新規の利用の際にはアドバイザーが送迎や預かりを経験し、提供会員が援助活動を行う際のアドバイスにつなげている。

困難事例への対応について

1 困難事例の対応のための体制・連携先

(1) 関係機関との連携について

委託を受けた際に、市内の認可保育園にファミサポ事業を周知したため、保育園で困っている保護者を見た園の園長がファミサポ事業の利用を紹介するケースが多くある。ファミサポ事業の担当課と綿密に確認しながら対応している。

(2) 連携のために工夫している点

ファミサポ事業の担当課との報告・連絡・相談を丁寧に行っている。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

当初小学生までを対象としていたが、自閉症の子どもの預かりについて中学生まで利用したいという要望があった際、すぐに担当課と相談を行い中学生まで利用できるようにした。保健師を通じて情報が十分でないままセンターにつながるケースがある。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

自閉症の子どもの預かりには、障害者施設に勤める提供会員のかたをできるだけマッチングしたり配慮してい

る。困難を抱える家庭ほど家庭に立ち入ってほしくないと思われるため、あまり踏み込まない付き合いが良いと考えている。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

(2) 配慮が必要な家庭に対して

(1) (2)ファミサポ事業を行いながら、家庭に立ち入っていくというよりも、距離感を図りながら、ポイントをつかむということが大事であると感じる。

特色ある取組について

子どもの対応に慣れている保育士の提供会員がいることは強み。利用会員のなかには、保育士の資格をもっている提供会員が安心感につながることがある。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

大田市の場合、保育園を運営する社会福祉法人が委託を受け、センターの事務所も保育園内の一室にあるという環境が恵まれていると感じる。委託であっても、行政が手放しでお願いするというのではなく連携を取ることが必要であり、公的機関とのつながりが、提供会員が安心して活動できることにつながると考える。安易なネット検索で安価な一時預かりとして利用されようとする利用会員もいるため、本当に必要な人に届いているかということが気になる。提供会員のボランティア精神がつながる援助活動を行っていくということがポイントだと思う。

《提供会員確保》

3. センター名：美浦村ファミリー・サポート・センター（茨城県美浦村）

直営：美浦村健康増進課

提供会員の確保について

1 確保のために実施した内容・工夫点

(1) 提供会員不足を補うためにどのような取組を実施したか

村内のあらゆる場所にチラシの配付したことに加えて、ホームページでの広報、広報誌での広報等を行った。また、人づてに紹介依頼等を行った。

(2) 工夫した点

小さい自治体の強みを生かして、ネットワークを駆使して、人を紹介していただいた。例えば、保育士資格がある方とか、子どもの預かり経験のある方等を、まず「いませんか？」ということでお話を聞いたり、「いい人いませんか？ 困ってるんです。誰か紹介してください」と、いろいろなところに行ってお話を聞いて回った。

ボランティア団体の会議とか民生委員さんの会議等に参加させていただいて、「こういう事業だが、今こういった案件の人が足りない」ということで、お話を聞いて回ったこともあった。実際のところは、広くお話をすると反応がよくなくて、反応があるのは個別に対応したケースで、人づてに紹介されて来てくださる方の方が、実際に対応していただいている。

(3) 苦労した点

当初、チラシをホームページや広報誌、それから地域の貼れる場所、スーパー、学校、コンビニ、公共施設、村内にある病院、保育所、幼稚園、児童館、公園の掲示板等、とにかくありとあらゆるところに貼らせていただいたが、実際のところ、紙ベースではなかなか反応がなくて、苦戦をしたところはある。今は本当に最小限の場所にしか貼っていない状態である。

2 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

一般の方は、どうしても子どもを預かるにあたって不安がすごく大きいので、安心して活動してもらうために、不安を聞きつつ、具体的なニーズ、例えば夕方の送迎の仕事だとか、それから保育所が終わった後の、お母さんが帰るまでの時間をおうちで見たいとか、具体的な形でお伝えしたりした。また、不安であれば、その不安な状況を極力解消するために、実際に他の方がやってもらっているのを見ていただいたりとか、支援センターの方に来ていただいてお子さんたちと触れ合う時間を多く作ったりさせていただいて、急に無理な仕事をお願いしないような形にしている。

3 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

今、活動している提供会員の方たちに、とにかく疲弊しないで長く続けてもらえるように、よく観察をして上手に調整をしていきたいと考えている。また、提供会員の高齢化だったりとか、若い提供会員はまとまった仕事の方に皆さん移っていってしまうので、新規の人材確保は今後も継続していかなければならないと思うが、「楽しく、やりがいのある仕事ですよ」ということを今後も PR を強化していきたい。地域の多様な人材を、子育てに限らず、国際交流や読み聞かせ等、それぞれの強みを生かしていただけるような仕事だということを、強く PR をして、うまく人材を生かしていけるような場でありたいと思っている。

4 事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ

(1) 会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えているか

コロナ前までは、子育て支援センターの企画を手伝ってもらいながら提供会員に集まってもらい交流の機会を作っていた。例えば、夏祭りの準備等を通して交流をもらい、なおかつ利用してもらいやすいようなお母さんたち（依頼会員）にも接していただいて、利用のための PR にさせていただいている。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制・連携先

(1) 関係機関との連携について

センターが行政直営で健康増進課に所属している。健康増進課には保健センターも所管しており、センターとのつながりが密になっている。

(2)連携のために工夫している点

同じ課に所属しているので、常に情報共有をしたりとか、お互いの事業の支援をし合ったり、行き来があり、子どもたちの情報を密にさせてもらっている。子育て支援センターが子育て広場の他に、ファミリー・サポート、利用者支援事業を実施しているので、相互に密に連携している。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1)実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

障がいがあるお子さんで、多動でとても動きが激しいお子さんだったので、どういった態勢を取ったらこのお子さんに対応ができるか非常勤で関わっていただいている臨床心理士(公認心理士でもある)の先生に相談をして、障害のあるお子さんに関して担当ができそうな方で集まって勉強会をさせていただいた。その中で、「できる範囲で無理なくやりましょう」ということになり少しずつ子育て支援センター内で安全を確保しながらやらせていただいたことがあった。

(2)適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

それほど大きな形で会合を開くわけではないのだが、複数の提供会員が活動していく中で、適宜、臨床心理士(公認心理士でもある)先生に相談できるタイミングで集まっていた。提供会員とアドバイザーの5人ぐらいで集まって打ち合わせをするような形で、「何度か実際に預かってみたが、こういう問題点があった」ということで、改善を重ねていったことが良かったと思う。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1)困難事例に対して

(2) 配慮が必要な家庭に対して

(1)(2)行政直営のセンターであり、保健センターや子育て支援センター等が同じ組織内にあることを活かして、対応できることが多くあると感じている。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

なし

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

既存の保育の施設、幼稚園、保育所では対応しきれないようなニーズに対応できているというところで、きめ細やかな対応ができる、地域の課題解決ができるものだと思っている。ファミサポを利用することによって、お母さんたちに余裕ができ、子どもたちに余裕のある対応ができたり、親子関係がうまくいっている例があると思っている。

《提供会員確保》

4. センター名：川俣町ファミリー・サポート・センター（福島県川俣町）

補助：NPO 法人コミュニティちゃばたけ

提供会員の確保について

1 確保のために実施した内容・工夫点

(1) 提供会員不足を補うためにどのような取組を実施したか

定期的に女性労働協会で示される講習会を実施することで、提供会員を増やしている。他市町と連携し、川俣町で 24 時間講習を満たせない際は二本松市や本宮市の講習会に参加してもらい、可能な限りその年度内で受講を修了してもらえようとしている。フォローを行い確実に最後まで修了してもらえようとしている。他市町の講習会情報はその都度送ってもらえようとしている。また、講習会の焦点を特に 5-6 歳のお子さんをもつ母親が受けられるような時間帯（お子さんが幼稚園の時間帯）に開催するようになっている。お子さんが幼稚園から小学校に通うようになった際に、時間が空き提供会員を行ってもらえることがある。

(2) 工夫した点

講習会は、町の専門職（幼稚園教諭、保育士、栄養士、保健師、子育て支援課など）にも講師を依頼している。

(3) 苦労した点

緊急サポートネットワークの事業から開始したため、その当時の提供会員の高齢化や、提供会員のうち稼働率は3分の1ぐらいであるという課題はあるが、講習会の開催方法を工夫し若い世代の提供会員を増やしている。

講習会を修了者のうち、実際に提供会員に登録し活動を行える人は2割ぐらいであるため、関心をもって修了された修了者への働きかけが課題になっている。

2 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

若い世代の提供会員が講習会を受けやすくするため、お子さんの託児を無料で実施している。講習会を受講するという選択肢が広がっているように感じる。

3 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

提供会員からの口コミによるお誘いが効果が高いことを実感している。講習会の内容などを理解したうえで声かけいただけるため、口コミで来られるかたは大切にしたい。

利用会員と提供会員の交流を図るために「ファミサポひろば」という交流会を行い、餅つき大会や流しそうめんなどの体験を提供している。このような交流も大切にしたい。

センターの事務所が入る建物内のほか、「川俣町子どもの屋内運動場」内にある「ファミサポのへや」での預かりを実施しており、公共スペースでの預かりはニーズが高いと感じる。

4 事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ

(1) 会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えているか

アドバイザーは利用会員と提供会員を結びつける役目として大切であると考えている。

活動前のワンコールを大切にしている。提供会員は、家を出る前など活動に入る際に必ず事務所にワンコールを行うことにしている。ワンコールを受けた事務所も、お願いしますという気持ちで対応する。活動を終えた際にも、終わりましたという連絡を携帯電話を利用して行うことで、提供会員とアドバイザーのつながりを感じられると思っている。

「365 日対応」をモットーとして掲げている。1 台の携帯電話をアドバイザー 2 名、理事長、副理事長、役員の 5 人で、常に誰かが対応できるようにしている。

困難事例への対応について

1 困難事例の対応のための体制・連携先

(1) 関係機関との連携について

障がい児の預かりに関しては、デイサービスなどの指導員と話し合いを行い、気を付ける必要があることについて助言をいただいている。

(2)連携のために工夫している点

記載なし

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1)実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

(2)適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

(1)(2) 支援学校に通学しているお子さんの送迎援助を長期間実施した。高校に入ってから支援学校のバス通学になったが、付き添う形で援助を継続している。

発達障害を抱えるお子さんの預かりについては、慣れるまでの間、提供会員とアドバイザーの二人体制で対応を行った。長時間になる預かりの場合には、前半と後半を別の提供会員に依頼するなどして、一人の提供会員に負担が偏らないようにしている。このような預かりの場合には、保護者を含めた話し合いを常に行い、状況を把握しながら提供会員任せにならないように対応している。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1)困難事例に対して

(2)配慮が必要な家庭に対して

(1)(2)ファミサポ事業にとって、お母さんの支援が大切であると考えている、これまで事故等は生じていないが、困難な事例の程度によっては、事業の委託元である子育て支援課などの行政に相談しながら進める必要があると思っている。

特色ある取組について

小さな町で発展してきた NPO 法人が、他の事業とあわせてファミサポの委託を受けている。地域のいろいろな困ったということに対応して活動が広がってきた。地域の子育て家庭が頼れる先として貴重な存在になっている。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

いろいろな形での預かりが増えており、最近は短時間の「ちょい預かり」のような形も多くなっている。また、NPO 法人では、子育て支援サポーターの派遣事業や高齢者支援も行っており、ヤングケアラーの家庭への対応などファミサポの枠にとどまらない包括的なニーズへの対応の必要性を感じる。ファミサポとのすみ分けは行っているが、ファミサポを取り巻く社会情勢の変化も感じている。

《提供会員確保》

5. センター名：高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島（滋賀県高島市）

補助：NPO 法人元気な仲間

提供会員の確保について

1 確保のために実施した内容・工夫点

(1) 提供会員不足を補うためにどのような取組を実施したか

本事業以前に、NPO 法人元気な仲間が運営する生活支援有償ボランティア「たすけあい高島」の活動があり、そこにあった預かり支援が抜き出された特殊な形態で、たすけあい高島の会員も力を発揮してくれている。よって、たすけあい高島の会員で、ファミサポ事業の具体的な依頼をご説明してファミサポ事業の会員に移行してくださる方がいる。NPO とファミサポ事業の両方の会員になって、臨機応変にサポートしてくださる方もいる。

(2) 工夫した点

ファミサポ事務局のあるNPOの拠点で「PLUS♥HOME」という会員交流会を兼ねた取り組みを実施している。それは、実家のような居心地のいい空間を作って、そこに子育て中の方はどどん子どもを連れて遊びに来てもらう取り組み。ワークショップや講座と、会員交流会を合体して行っている。たすけあい高島の活動は、ご年配の方から一般の現役のママ世代の方まで一緒に一つの空間にいて、みんな持ちつ持たれつで助け合うという考えで実践している中に、たまたま子育て支援はファミサポとして特化されている構造だ。ファミサポとNPO「たすけあい高島」の活動の全体として、子育てだけではなく、高齢で困っている方も、みんな「順繰りで支え合う」という理念を基盤としている。

- ・スタンプカードを作っていて、9項目24時間終了するまで、参加したらスタンプを押し、達成感が見える化している。講座の作り方も工夫していて、例えば「安全」の項目といっても、リスクマネジメントの観点で考えると、例えばチャイルドシートの講座、心肺蘇生の講座、ヒヤリ・ハットの講座、防災の講座など、たくさん準備しているので、受講者も興味をもって参加してくれている。

2 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

- ・Instagram や Twitter などの SNS での情報提供等も、提供会員確保の成功につながっている。公式 LINE で、講座の広報などを行っている。SNS でインパクトのあるキャッチコピー（例えば「ご飯男子を育てる」など）の講座チラシを送る努力もしている。ときにはダイレクトに LINE で、参加してほしい会員に講座のお知らせの連絡を入れることもある。
- ・講座を6週間連続で実施すると、都合がつかない場合があるので、1回1回の講座を個性的で楽しい内容に工夫し、連続でなくとも、興味をもって参加してくれる人が増え、結果的に受講率上昇につながっている。
- ・提供会員の年齢層によっても、受け取り方は違って、50代、60代、70代の方は電話で誘った方が効果的だが、20代、30代の若い方は、SNS でインパクトのあるビジュアルで引付けるチラシで発信すると反応が良い。アドバイザーが、デザイン業界出身であり、講座などの募集の発信の仕方が、受け手のことをよく考えており、工夫満載である。
- ・くるくる市といって子ども用品をリユースするイベントに参加して、ファミサポ事業を認知してもらい、会員となる方も増えている。
- ・NPO の拠点で預かり場所を提供するようになったおかげで、提供会員が自分の家を片付けなくても、すぐに預かりをすることができるようになり、活動につながりやすくなった。

3 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

上記で述べた、SNS ができる方とできない方、それぞれに向けた広報の工夫を継続していきたい。公式LINE もフリーだったのが来年で有料になる部分もあるらしく、その見直しもどうするか考えたい。

4 事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ

(1) 会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えているか

「確保をできたポイント」で述べたことと同じであるが、「大家族」のイメージで実践を行っている。提供会員も、依頼会員も、サービスの提供者、受益者というよりも、「順繰りで支えあう」大家族として仲良くやっていきたいという気持ちが強い。その大家族の輪の中に、アドバイザーや、事務局がある、というイメージがある。講座の講

師(看護師)の方も、わが子を連れてきて、ご自分のお子さんの発熱体験や病気の時の処置の事など困ったことや失敗談もお母さん目線でリアルにお話して下さった。米粉のパンの講師は、パンを焼きながら、アレルギー対応の話をしてくださる。このような食べる系の講座は大人気である。講師の子どもの様子も温かく見守りあいながら、ファミサポに関わる人すべてが、支えあう関係づくりを大事にしている。

困難事例への対応について

1 困難事例の対応のための体制・連携先

(1) 関係機関との連携について

困難なケースは、基本的に、行政からの紹介で来られるので、あらゆる部署と連携をとっている。その意味で、行政からも信頼を得ている。困難なケースが、自分から、ファミサポ利用に来ることはあまりない。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

生活保護世帯の方で、地方なので車がないと保育園に送迎できないため、半年ほど送迎などの支援を継続した事例がある。毎日のことなので、提供会員を何人もお願いして、チャイルドシートを、くるくる市で調達した分と、会員さんに呼びかけして借用させてもらった分で5個ぐらい確保し、提供会員に貸し出して、支えていった。他にも、ひとり親で、複数の年子を抱えて、さらに出産という時に、提供会員で支えた事例もある。さらに、親が精神的に不安定で、祖父母宅にも預けられず、学童も使えない年齢の小学生を、ファミサポ事務所で預かっていた時期もあった。経済的に困難な家庭は、行政からの補助がある。提供会員は、依頼会員の個人情報には知らないでも、「困ったケースに対してみんなで助けるのが当たり前」という気持ちで、支えてくれる。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

(2) 配慮が必要な家庭に対して

基本的に、「困っていること」について、垣根はないので、可能な限り、すべてを支えようと思っている。諸事情を聞いていなくても「そんなの困っているなら、行ってあげたらいい」という感じでやったださる会員の方が多い。ただ、個人情報の共有はできないので、支援をしていて、だんだんと状況がわかってきて、先に聞いておけばよかった、ということがある。状況によっては、重いケースについては、アドバイザーや事務局メンバーだけで、対応することもある。

4 特色ある取組について

(1) (2)・高島市は、子どもが少ない地域なので、活動件数も少ないし、ほかの団体と比較すると、余裕があるのだろうと思う。提供会員同士も、部活動のようなイメージで、「次はクラフトの講座をしよう」など、相互にかかわりあって、楽しんでいる。

・困難ケースであればあるほど、マッチングについて悩む。しかし、提供会員は、子育て経験者が多く、アドバイザーが思う以上に、度量の大きい人が多く、関係を深めていってくださる。アドバイザーの方が教えられることが多い。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

ファミサポだけで、地域の困りごとが解決するわけではない。たすけあい高島の生活支援や、あるいはいろいろな地域の団体と一緒に、トータルに支えていく必要がある。いろいろな部署や機関、団体や人々と連携して、地域全体で支えあう構造を作っていきたいと思っている。困難なケースになればなるほど、個人情報の共有があれば、もう少し丁寧に支援ができたのと思う時があれば、一般市民に個人情報を共有できないというジレンマもある。この点は、課題だと感じる。「困っていること」については、なんでも助けたいが、助けることが本当に親子のためになるのか、あるいは、そんなことは考えずに、書類が整っているの、親子のためにならないと思っても支援を続ければいいのか、この両極で悩むことがある。

《提供会員確保》

6. センター名：新宿区ファミリー・サポート・センター（東京都新宿区）

委託：社会福祉法人新宿区社会福祉協議会

提供会員の確保について

1 確保のために実施した内容・工夫点

(1) 提供会員不足を補うためにどのような取組を実施したか

(2) 工夫した点

- ・新宿区の広報に年3回、利用会員の登録説明会、提供会員の講習会を一緒に掲載している。
- ・区および町会の掲示板へのチラシ掲示のほか、区施設に所管課を通じてチラシを掲示している。複数の掲示板で繰り返し目にするということは大切であり、効果があるように思う。
- ・区内10ブロックの町会連合会の会合に、社協の地区担当職員とともにアドバイザーが参加し周知している。時期は提供会員講習前の5月である。町会連合会の側から社協との連携強化を呼びかけられ、社協の地区担当職員が毎月の会合に参加するようになった。この機会を利用している。
- ・区内6か所にある社協のボランティアコーナー職員にファミサポの説明を行い、コーナーに来所するボランティア希望者にファミサポ活動を紹介している。職員が直接話をすることで人柄も把握したうえで活動を紹介するため、効果があると感じる。

(3) 苦労した点

町会の掲示板へのチラシ掲示はとても良いPRになるが、町会ごとに掲示板数が異なっていたり、町会連合会の会合が非開催の場合には町会長宛に送付するなどの手続きが必要であり作業量が多い。

2 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

- ・稼働率の上昇について、提供会員の掘り起こしが影響していると考えられる。
講習会修了後の活動につながっていない方や、活動を休止している提供会員に対して、現状確認の電話を行ってきた。時折電話をすることは効果があると感じる。アドバイザーが代わっていることもお伝えできるとともに、提供会員との距離が近くなるように思う。また、久しぶりに活動を行う提供会員に対しては、差し支えなければ事前打ち合わせに立ち会わせてほしいという声掛けもしている。提供会員にそのような声掛けは喜んでいただけており、稼働率の上昇につながっているかもしれない。

3 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

- ・区内で提供会員の少ない地域があるため、そのような地域で提供会員が確保できるようにしたい。
- ・過去2年間行えていなかった現況確認の用紙を提供会員に配布し、新たに活動できる状況や日々の活動で感じる不安など、提供会員の想いを汲み取っていきけるようにしたい。

4 事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ

(1) 会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えているか

毎月の報告書を送付いただく際、一筆箋の手紙を同封いただくことがあり、中には不安や想いを記入されていることがある。そのような場合、提供会員にすぐに電話をし、直接話すようにしている。提供会員の不安を解消したり、依頼会員に伝えづらいことがあれば、アドバイザーから伝えたり、と橋渡しすることを心がけている。

提供会員向けのステップアップ研修の際に、雑談などのなかで想いをお伺いすることも行っている。

事前打ち合わせの際には、新しい提供会員はもちろんのこと、ベテランの提供会員でも難しい依頼の場合には立ち会うようにしている。ベテランの提供会員であっても、様子をお互いに確認する機会は大切であると感じる。

困難事例への対応について

1 困難事例の対応のための体制・連携先

(1) 関係機関との連携について

保健センター、子ども家庭支援センター、児童相談所などと連携を取っている。

区内5か所に子ども家庭支援センターがあり、依頼会員の登録説明会の会場としても使用している。その

ため、職員と顔の見える関係になっておりファミサポの利用について相談を受けることもある。子ども家庭支援センターからさまざまな依頼の相談が来ることが多い。

(2) 連携のために工夫している点

ファミサポ事業の担当課との報告・連絡・相談を丁寧に行っている。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

第一子(自閉傾向)と第二子(肺機能障害)の家庭で、第一子の療育時に第二子の一時預かりを行うという事例があった。父親の協力が得られず、義母の訪問はあるものの母親を責める傾向にあり、ストレスを感じている状況であった。保健師と一緒に依頼会員の登録に伺い、提供会員を探したところ、保育士の資格を有し状況に理解のある提供会員が見つかり、安心した活動が行われた事例がある。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

第一子が発達支援センターを利用しており、同センターとファミサポも深く関わりがあるため、情報共有をしながら進められたことのほか、依頼会員と提供会員の信頼関係が早期の段階で築かれたことが大きかったと感じる。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

(2) 配慮が必要な家庭に対して

(1) (2) ステップアップ研修において、特性のあるお子さんの関わりに関する講座を取り入れている。発達支援センターの職員が講師だが、特性の話だけではなく病名で括るのではなく一人一人を見ることの大切さも話されるため、提供会員はそのような理解をされているのではないかと感じる。

提供会員は特に感じていなかったが、依頼会員が子どもの特性について悩んでおり、周りの勧めもあり支援学級に移ったが子どもも依頼会員も納得していないという相談を提供会員に行ったというエピソードがステップアップ研修で共有された。そのようなモヤモヤとした気持ちを受け止め寄り添うことができるのが、専門職ではないファミサポの提供会員の意義であると講師がコメントをされた。ファミサポの役割を言い表しているように思う。

特色ある取組について

◆ 久しぶりの活動の際のフォローについて

活動に3、4年のブランクが開いてしまった場合には、新しい利用の手引きをお渡しし、個別に説明しながら活動のフォローをする。事前打ち合わせにも立ち合い、無理なく活動を再開してもらえるようにしている。

◆ 大学生の関わりについて

母親が提供会員を行っており、その娘さんや息子さんが大学生の際に提供会員として活動される例がある。ただし、大学生の場合には活動期間が限られてしまう。

◆ 都心部の提供会員の様子について

子育てが一段落した40歳代後半から50歳代の登録が多い。高齢者の希望も多く、社協が運営するボランティアセンターを通じて70歳代後半から80歳代の希望もあるが、ボランティアセンターの職員がファミサポとは別のボランティアにつなぐ形で対応している。活動内容では保育所への送迎や一時預かりが中心だが、低年齢の子どもの習い事への送迎(英語やインターナショナル関係)が増加している。また、育休が整備されていながらも仕事の都合で取得できないというかたに対するサポートも多い。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

地域のなかでの相互援助活動というところを大切に、伝えていきたいと考えている。登録時には安価なベビーシッターであるという認識で来られる方もおられるため、そうではないということを丁寧に伝えるようにしている。ファミサポありきで習い事を始められる依頼会員には、あくまでもファミサポは家庭のできない部分を補完するものであるという点を伝えていかなければならないと感じる。

提供会員が充実感をもって活動していただけるように、提供会員の気持ちに寄り添い、相互援助活動であるという点を大切にしたい。コロナ禍において紙面交流を目的としたアンケートを行ったところ、地域のなかで会員同士がつながり、提供会員と地域の祖父母のような信頼関係が築かれている例や、卒園・転居後も続いている関係性があることが分かった。そのような活動をめざしたいし、伝えていきたい。

Ⅲ 他機関との連携が出来ているセンター

7. センター名： 東海村ファミリー・サポート・センター（茨城県東海村）
委託： 東海村社会福祉協議会

連携の現状・効果について

1 連携が必要となった背景

どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯

(1) 何が問題・課題だったのか

保育のサポートで協力会員が利用会員のところに何うという通常のサポートをやっている中で、保育園に登園している子が、お父さんのひとり親の家庭で行き渋りのようなところがあって、朝の送り出しなどが難しいということだった。

(2) 連携までの経緯

保育サポートが、有償サービスではあるがボランティアな部分も含めて、定期的に声がけなどの活動のサポートに入れないかと行政から依頼があった。そこから、どういう形だったらサポートできるかと行政とも連絡を取りながらサポートの形を考えていったというのが一つの経緯としてある。 特段のサポートが必要そうな児童、お子さんに関しては、行政(子育て支援課等の子育て関連部署)からセンターにくる相談が経路としては一番多い。

また、センターの運営主体が社会福祉協議会であり、日頃からの信頼関係が行政と構築出来ていたこともあり、行政が最初に相談する相手としてファミリー・サポート・センターがある。

2 連携の内容、役割分担

(1) 連携の内容について

当初は、3 人兄弟の末子に対する保育園への送迎支援で問題なく支援が出来ていた。しかし、末子が小学生になった頃に、真ん中の子の不登校(行き渋り)が始まったことやその家庭が経済的な理由から学区外に引っ越したことなどが重なり、その家庭への支援(朝の声かけ、登下校時の送迎等)をファミサポ、行政、小学校、民生委員児童委員が連携して展開することとなった。

(2) ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割

複雑な家庭であり、要保護児童対策地域協議会においても支援対象となっていたこともあり、行政(子育て支援課)が中心となり、関係者間で連携を取っていた。ファミサポは、民生委員児童委員と連携して、子どもたちが毎朝の登校ができるように随時複数人で関わり、支援を継続した。また、不登校という問題もあり小学校の教頭先生をはじめ担任の先生等も親身に対応していただいた。

3 うまく対応できた事例、連携効果

(1) 実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について

提供会員から得られた情報を関係者と共有することで、周りの社会資源を巻き込みながら、この家庭を支援する体制づくりができたことは、連携事例として適切な対応であったと思う。情報共有は、必要なタイミングでケースカンファレンスを開催するとともに、関係者で作った LINE グループが切れ目のない支援につながったと感じている。

(2) 適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったか。どのような体制や対応をすればうまくできているか

関係者間の情報共有が円滑に出来ていたことで、それぞれが適切な対応を取れていたと感じている。ファミサポ(アドバイザー)も適宜、提供会員からの情報を確認し、その都度対応するように努めたことが今回の事例では重要であったと感じる。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

今回の事例のような困難事例に対するファミサポとしての対応については、今後検討する必要があると考えている。具体的には、ファミサポとして「どこまで関わるのか」であったり、「どのような関わり方が出来るのか」という点については、組織として考えていきたい。

また、センターの運営主体が社会福祉協議会であることから得られた情報(社会福祉協議会の他部署からの情報提供)もあるので、ファミサポ運営主体によって出来ることは多くあると思う。

連携における問題点・課題

1 連携にあたっての問題点、課題

(1) ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題、またその対応方法について

今回の事例では、行政、学校、民生委員児童委員、主任児童委員との連携が円滑に行われていたが、地域で小学生の下校時見守りや防犯パトロール等をしている自治会や支援組織との連携については課題があった。具体的には、自治会や支援組織等の地縁関係者に支援が必要な児童やその家庭に関する個人情報の共有をすることの難しさがある。

理想は地域の公私関係者がそれぞれのできる範囲で役割分担を行うことであるが、今後の課題と認識している。

(2) 今後のスムーズな連携に向けての要望

まずは、地域での連携相手となる多様な社会資源を増やしいかなければならないと感じている。それには、行政からの働きかけを含めて活動者を増やしていく必要があると考えている。

特色ある取組について

1 センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方について

連携相手(行政)の立場からみると、ファミサポ事業を社会福祉協議会が行っている点が一番大きな安心材料の一つではあると思う。(組織としての信頼がある。)確かに、サポーター(提供会員)は一個人、普通の方がやっていらっしゃるが、取りまとめは社会福祉協議会でやっているというところが、一番の安心材料だとは思っている。

ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

1 これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思うか。事業のあり方についての考え。

制度にとらわれなくて、ある程度柔軟に対応できるサポーターが必要であると感じている。一例としては、送迎や声掛けという活動があれば、急に依頼内容が変わり勉強を見てもらうなどは現場では起こり得ることである。その中で、ファミサポ事業が単一的な活動で「このサービスをやります」とうたってしまっていると、できない部分だと思う。だから、ある程度、個人対個人の、提供会員と利用会員の中で、1対1の取り決めの中で柔軟に動ける、ファミリー・サポートみたいな取り組みというのは、大事なのかなと思う。

ある程度遊びがあるというか、その中で動けるというのは、今後にも必要になってくるし、重要性も高まっていくのではないかなとは感じている。あまり制度で縛っていつてしまうと、なかなか動きづらくなっていつてしまう部分があると思うので、そういう意味では、元々、我々は発端が任意団体から始まったということもあるので、ある程度柔軟に動けているというのが、今の強みなのかなと思っている。ただ、支援の内容が複雑になってきてしまったりすると、提供会員としては、育成が大変だったりとか柔軟性が求められたりなど、大変になってくるかとは思いますが、ますます大事になってくるのではないかなというのは、個人としては思う。

《他機関との連携》

8. センター名：枚方市ファミリー・サポート・センター（大阪府枚方市）

委託：社会福祉法人大阪水上隣保館

連携の現状・効果について

1 連携が必要となった背景

(1) どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯

① 何が問題・課題だったのか

1 つ目に、「ニーズの把握と発信力の弱さ」があった。ファミサポの業務は未だ会員になられていない方がなぜ利用されていないのかということ把握したり、会員でない方にファミサポについて知ってもらうことが難しいという課題がある。広場とファミサポの連携を深める前は、広場を利用する方でもファミサポを知らない状況や団体の登録説明会を行っても参加者が増えないという課題があった。

2 つ目に、「提供会員の高齢化に伴う人材不足」があった。

3 つ目に、「広場の利用者からの相談にファミサポを紹介することが増えたこと」があった。利用者からの相談を受けファミサポにつなぐなか、すぐに登録される方がいる一方、子どもを預けることへの抵抗感、準備物の準備、登録会への参加など、登録にハードルの高さを感じられる方もいることが見えてきた。

関係性を築いた広場のスタッフが寄り添うためにも、広場とファミサポの連携が必要となった。

② 連携までの経緯

委託先の社会福祉法人は、児童養護施設や乳児院等の子どもの福祉に関わる法人である。2004 年から公立幼稚園の跡地で社会的養護の子どもたちのショートステイ事業を枚方市と連携して実施していたほか、広場の運営、24 時間の子育て電話相談の 3 つの事業を行っていた。そのようななか、枚方市が直営で行っていた「サプリ村野」内の広場、ファミサポ事業も委託形式に変更となり、同法人が運営を担うことになった。委託を受けた当初、広場とファミサポは連携しながら運営されている状況ではなく、年間約 2 万人が利用する広場の運営で手一杯の状況でもあった。その後、少しずつ双方が連携することになった。

社会的養護の子どもたちとも接する機会が多いなか、「手を差し伸べられる、使いやすいファミサポにしたい」という希望が、広場とファミサポの連携を進める根っこにある。

連携の具体的な契機として、「2021 年 12 月で実施した広場でのアンケート調査において孤軍奮闘している子育て家庭が多いことが明確になったこと」「ファミサポのスタッフに欠員が出たことで広場のスタッフが兼務で業務に当たる体制が構築されたこと」がある。現在 4 名のスタッフが、ファミサポと広場を兼務している。

2 連携の内容、役割分担

(1) 連携の内容について

(2) ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割

基軸には、スタッフの意識改革があった。広場とファミサポが連携する以前には、お互いの領域には踏み込まないという意識があったが、朝礼をしてその日の動きや業務内容を確認し合うことや、ミーティングにはお互いのスタッフが一人ずつ参加することで情報共有に努めるなど、基本的なところから始めた。具体的な連携の内容は、次の 4 つである。

1 つ目に、「広場の発信力の活用」がある。ファミサポの周知はホームページや公式 LINE、ファミサポ通信などを行っていたが、あまり効果を実感できていなかった。ファミサポの依頼会員はほぼ広場の利用者にもなっているため、広場のフェイスブック、インスタ、LINE を活用し、ファミサポのイベントも広場の SNS で周知している。特にリアクションがあるのがインスタである。視覚的に子どもを預けるイメージをもってもらえるように写真付きにしたり、用事のためだけでなく「リフレッシュで利用してもいい」というメッセージも込めながら発信するなど、広場の発信力を活用している。

2 つ目に、「広場を利用した登録会」がある。登録会では保育室を設け、広場スタッフや提供会員が保育を行うことにした。登録の際に顔なじみの広場のスタッフがいることで安心され、提供会員も広場スタッフの保育の様子から学びその後のサポートに活かしてもらえるとという利点もあった。

3 つ目に、「出張登録会での保育」がある。地域に出向いた出張登録会を月 2 回（駅前および各地域の公共施設）行っており、出張登録会においても広場スタッフと提供会員による保育を実施している。ファミサポの説明は事務的な話が多いため、広場の様子を紹介すると興味をもってもらえる。

4 つ目に、「広場スタッフのファミサポ兼務」である。兼務以前は、ファミサポの登録の段階になると引き継ぐ

状況だったが、引き続き広場のスタッフが初回登録を行うことで、具体的にどのような利用をされたいのかなど話ながら登録を行うことや、利用後のフォローも行き届くようになった。また、提供会員の紹介を受けたファミサポのスタッフには言いづらいことを兼務スタッフには伝えることができるケースも多く、利用会員とファミサポ、広場がつながるような声かけや関わりを兼務スタッフが行えるようになっている。

3 うまく対応できた事例、連携効果

(1) 実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について

(2) 適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったか。どのような体制や対応をすればうまくできているか

1 つ目に、2022 年 10 月に新しく行った「お試し体験会」の実施がある。枚方市では 2 歳児未満のお子さんを対象に 5 時間分の無料体験クーポンがあるが、利用につながらない理由の 1 つに、他人の自宅に子どもを預けることに対する不安がある。そこで、普段利用する広場で広場スタッフもいるなかでのお試し体験会を実施し、心理的ハードルを下げる試みを行った。お試し体験会も広場の発信力を利用してインスタでお知らせを上げたところ多くの申込みがあった。次回の実施についても、お知らせ初日で定員が埋まるなど反響が大きい。

2 つ目に、「広場での預かりの増加」がある。広場での預かりは以前から周知していたが、登録の際に紹介するようにしていると、実際の広場での預かりの様子を目にしながら、利用される方が増えるようになった。他の方と一緒に利用することで心理的なハードルも低くなり、広場での預かりを体験したあと、提供会員の自宅での預かりにつながることもある。また、経験の浅い提供会員の活動の場にもなっている。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

1 つ目に、「気軽に預ける体験を」ということがある。「お試し体験会」や「広場での預かり」によりファミサポを利用する心理的ハードルが下がっているが、さらに広げていきたい。

2 つ目に、「依頼会員から提供会員へ」ということがある。提供会員の不足に対応していくため、依頼会員が提供会員としても活動してもらえるように意識を変えてもらえるような試みを行いたい。これまで養成講座は朝から夕方まで、平日に 3 日間実施という形であったが、日程や時間帯を工夫しながら、保育付きなど依頼会員向けの開催も検討している。

連携における問題点・課題

1 連携にあたっての問題点、課題

(1) ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題、またその対応方法について

個人情報の共有の仕方は課題に感じている。連携は行いながらも、個人情報の共有の仕方については細心の注意を払っている。他のひとり親支援機関や行政機関、保健師からの相談や問い合わせもあるが、そのような際にも入手できる情報は限られている。可能な限り打ち合わせを重ねることや、ファミサポに対する理解を深めていただけるように話し合いを重ねて対応している。

特色ある取組について

1 センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方について

1 つ目に、「広場スタッフのファミサポ兼務」について。広場スタッフがファミサポを手伝う形である。週 2 回ほど、午後に手伝いをしているほか、養成講座の時期や集団の登録会がある時期は追加で手伝っている。また、報告書の入力も手伝うため、提供会員がお母さんを支えられている様子や、普段の様子が分かり、広場の支援にも役立つとともに、普段目にすることができない提供会員の活動を認識することもできる。ただし、個人情報の共有には細心の注意を払っており、広場における情報の共有は、本人に許可の確認をとった内容のみファミサポと共有している。

2 つ目に、「行政機関との連携のあり方」について。家庭児童相談所や保健センターとの連携は難しいが、社会的養護に関わる社会福祉法人が委託を受けているため、社会福祉法人を通じた家庭児童相談所との毎月の連絡会などがあり信頼感の基礎がある点が、ファミサポと広場の単独実施ではない特徴となっている。

3 つ目に、「行政機関のファミサポに対する理解」について。以前は、行政機関がファミサポで対応が困難なケースもファミサポにつなげるということが行われていた。そこで、ファミサポへの理解を深めてもらうため、家庭児童相談所の職員向け、保健師や助産師の会議、公立と私立保育園の園長さんとのお話、赤ちゃん訪問員の研修などでファミサポの役割を紹介することを試みたところ、行政機関がファミサポを理解してくれることでイレギュラーな依頼がなくなった。また、枚方市では利用補助を以前は立替払いで実施していたが、実際はあまり使用されておらず、原因は手続きの煩雑さであるということがあった。そのような実態を、数字と企画案を書いて行政機関にもっていくことで理解を得ることができ、クーポン化につながった。

ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

1 これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思うか。事業のあり方についての考え。

枚方市では広場との連携は進められていると考えている。広場での預かり体験会の報告を担当課に行ったところ、枚方市内の他の広場でも行えないかという話につながっている。今後ファミサポと広場の連携を行っていけるセンターは、そのような形で導入されるのも一案だと思う。

困難な家庭を支援していくためには、ファミサポで難しいケースはしかるべき関係機関につなぎ、支援の輪を地域に広げられたらと思う。

《他機関との連携》

9. センター名：ファミリー・サポート・センターくるめ（福岡県久留米市）
委託：NPO 法人ル・バトー

連携の現状・効果について

1 連携が必要となった背景

どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯

(1) 何が問題・課題だったのか

ファミサポの設立当初から、行政機関を中心とした関係機関や関係団体からの支援が必要な家庭に対するファミサポ利用の打診があり、会員登録を行っている。例えば、産後うつだったり、精神的な部分で子育てが困難であるとか、保護者の方に障がいがあるとか、逆にお子さんに障がいがあるとかの事例である。

(2) 連携までの経緯

子育て世代包括支援事業を実施している部署の保健師が支援している子育て家庭の中で、その方たちにとってファミサポが一番適当なサービスと判断した場合に、世帯から同意を得て、保健師からセンターに連絡が入り情報共有、会員登録を行っている。

2 連携の内容、役割分担

(1) 連携の内容について

保健師から紹介のあった保護者が動けないような状況であったり、自宅から出られないような状況の場合には、センターから保護者の自宅に訪問をさせていただくこともある。なお、会員登録はセンターに来ていただくということは前提なので、センターで登録という形にはなるが、どちらにしても担当保健師が同行している。同様にその他の関係機関がつかないで、センターで会員登録するときには、その紹介先の担当者が一緒にいて登録をするという形である。

(2) ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割

保健師から紹介の子育て家庭は基本的にハイリスク家庭であることが多いので、保健師も継続的に見守りを行いながら、必要に応じてファミサポを活用していくという形が多い。また、ファミサポの会員登録をしたとしても利用に繋がらないケースもあるので、随時、保健師とセンターが情報共有を行いながら支援をしている。

3 うまく対応できた事例、連携効果

(1) 実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について

市の保健師が所属している部署で行っている産後ヘルパー（エンゼル応援隊）があるのだが、こちらの事業が特例を除き 6 か月までしか利用できないので、その後の支援としてファミサポ事業を紹介いただき支援が継続した事例がある。

(2) 適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったか。どのような体制や対応をすればうまくできると考えているか

日頃からの情報共有は大事であるし、何よりファミサポ事業のことを関係各所に知ってもらうことが重要である。そのため、センター開設当初から地域の子育て支援センターへの定期的な訪問や各種会議に参加させていただくなどの取り組みを継続してきた。

4 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと

センター設立から 18 年経過しているので、提供会員の高齢化と会員確保はすごく課題ではある。理想の循環としては依頼会員が両方会員になって提供会員になるというのがある。またセンターとしては、両方会員も増やしていきたいと考えており、やはり利用者から支える側になれるような方が循環していけばいいなというのが理想である。

連携における問題点・課題

1 連携にあたっての問題点、課題

(1) ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題、またその対応方法について

保健師からの紹介でセンターが関わるようになった子育て家庭のすべてが会員登録、利用につながるわけではない現状がある。また、会員登録まで出来たとしても利用に繋がらず、センターとしてはその家庭が現在どのような状況なのかが分からないままになっているケースもある。

そのようなケースについては定期的に、保健師に聞ける範囲で情報提供を依頼している。

(2) 今後のスムーズな連携に向けての要望

ハイリスク家庭のファミサポ利用については、日常的に情報共有を行っていきたいと考えているが、個人情報の観点からどこまでセンターが把握すべきかなどは検討の余地があると考えている。

特色ある取組について

1 センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方について

センター立ち上げの際は、ファミサポ自体が知られていなかったので、関係者もどこの誰か分からないことが多くあったので、挨拶や事業説明の訪問時に最初から担当の市役所の職員の方と一緒に連れて行くとか、市を通して連絡を取ってもらうことを行っていた。そのような形で自然とファミサポの周知と関係者との連携が出来る下地が出来てきたのだと感じている。

ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

1 これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思うか。事業のあり方についての考え。

市と連携において、保健師経由でハイリスク家庭の支援の一つとしてファミサポが関わることについては、アドバイザーも提供会員の負担について非常に気を使っている。ただ、現実にはハイリスク家庭に対してできるサポートは、今のところファミサポしかないというような現状も分かるので、そこはやはりマッチングのときにとても神経を使う。「この提供会員なら」と思う方は限られてくる。結果、特定の方をお願いをしてしまうことが多い。連携を強化し、様々な事業に関わる会員を増やしていきたい。

IV 会員（提供会員、依頼会員、両方会員）

10. センター名：立川市ファミリー・サポート・センター（東京都立川市）

直営：立川市子ども家庭部 子ども家庭支援センター

◆提供会員◆

提供会員情報

- ・お名前：Aさん
- ・会員登録年数(活動年数)：11年
- ・活動件数：年間 約195件(2021年度) 月 約16件
- ・主なサポート内容：
障がいを持つ子の援助・休みの日の預かり・保育園送迎など
1人の依頼会員を10年間継続してサポートしている。
(障がいを持つ乳幼児のサポートから開始し、現在3人兄弟になり休みの日の預かりなど)

提供会員活動を通じて思うこと

1 提供会員になった動機

(1) 提供会員になった動機・きっかけ

末娘が習っていたピアノの先生がファミサポを利用して、先生と娘さんと援助会員さんとのやり取りがとてもほのぼのとして和やかで温かいものを感じた。自分の子育てもひと段落して、無理なく何か社会参加ができるといいかなと思っていたところに、ママ友から誘われ事業説明に参加。体験発表で援助会員や依頼会員のお話を色々かかかって、ちょっとやってみようと思った。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

末娘の同じ学年のママ友が、たまたま援助(提供)会員の活動をしたことがあるという話を聴いて、ファミサポの活動に興味を抱いたことがきっかけである。会員登録は、ファミサポの活動を知って1年後ぐらいである。活動を始める前はパートの仕事をしていたが、休日でも子どもと一緒に家でできる活動があったらいいなと思って会員登録をすることにした。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

自宅での預かりも、依頼会員のお宅での預かりもある、お預かりする子は1人から兄弟3人の時もある。保育園・幼稚園の送迎や習い事の送迎、障がいを持つ子のサポート。

お子さんとお母さんのお話を伺ってからご要望に合わせるというかたちでサポートさせていただいているが、自分のペースでできるというのが、自分には合っていると思う。

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

姉妹のお子様を自宅でお預かりしたとき、娘も一緒にスイーツ作りやパン作りをしたり、楽しく遊ぶことができ良い思い出がいっぱいできたので、すごくよかったと言っている、その経験があるので小さい子との関わりが上手と褒められる事もあるようだ。

(3) 提供会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

援助会員になっていなかったら、きっと関わる事がなかったと思う、障がいのある子のサポートをすることで、ハンディキャップを持っている子への対応を知り一つの個性として捉えることができ、自然に接することができた。今はYouTubeを見て勉強するのが楽しい。

(4) 今後、どのように活動していきたいか

安全面はちゃんと考慮しながら、のんびりとゆったりとした気持ちでサポートを続けていきたい。子どもたちから元気をもらえることが自分のモチベーションになっている。

3 特色ある活動内容について

(活動することへの家族の理解については、)最初、夫は他人様の子どもを自宅でお預りして、もし何かケガでもしたらという不安があり、反対だったが、一番最初のサポートは未就学の姉妹で日曜日に長時間、朝から夕方までの預かりをすることが多く、夫も一緒に過ごしサポートの回数を重ねることで、大丈夫そうだなと安心したようだった。姉妹のサポートは中学生になった今も数回だが続いている。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について提供会員の立場からの考え

ファミリー・サポートという活動があることをまず自分もほぼ知らなかった。たまたま友人がいて知ったので、やはり認知度が低いというのがあると思う。現会員は謝礼金が上がるからといってサポートに対する姿勢が変わることはないと思うが、これから援助会員になる方たちには重要かもしれないと感じている。依頼会員さんの負担を増やすことなく、謝礼金を上げること、国や行政が助成してくれるとよいと思う。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

マッチングのときはアドバイザーも間に入って、安心してサポートできるようにいろいろな細かいこともお話を伺ってという形でスタートをしている。また、提供会員の方が活動をしていく中で、何かあったときはすぐに相談に来てねという形で、気軽に声をかけていただけるような雰囲気づくりと関係を作っている。

◆依頼会員◆

依頼会員情報

- ・お名前: Bさん
- ・会員登録年数: 8カ月 (2021年3月入会 他県から転居してきてすぐに登録)
- ・依頼件数: 年間 約40件(2021年3月～2022年9月) 月 約6件
- ・主な依頼内容:
 - ・引越しの片付けの間サポート
 - ・就労間の預かり(在宅での仕事)など

依頼会員活動を通じて思うこと

1 依頼会員になった動機

(1) 依頼会員になった動機・きっかけ

立川市に引っ越す前に、夫の仕事の関係で他県に在住しており、夫の仕事も多忙でほぼワンオペ育児だったため、子どもの預かりで依頼した。それからほぼ毎日利用していた時期がある。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

ファミサポについては、出生届を出した時に頂いた冊子の中にファミサポの紹介ページがあったこと、1～2か月児の保健師訪問の際にファミサポの話を聞いたことなどから知った。立川市に引っ越すことになり、他県でのファミサポにとっても助けられてので、立川市でも依頼したいと思い会員登録をした。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な利用内容、またその援助に対してどのように感じているか

子どもの預かりをお願いしている。提供会員の方は、子どもの遊びもよく知っていて、集中して子どもと一緒に遊んでくれる。その援助会員さんにかかる、身の回りにあるすべてのものが楽しいおもちゃに変身するなど、親としても勉強になっている。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について

預かりの場所は依頼会員の自宅が主であるが、子どもの成長に伴い、最近は子育てひろばに行ったりすることでもできた。家にはないおもちゃがあったりするので、楽しく過ごしている様子。

(3) 依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

子育てをしていく中で、孤立になりがちな状況を提供会員に親身にフォローしていただいている。提供会員

の方が親戚(お姉さん)とを感じるくらい良くしてもらっているし、子どもとの遊びについても色々な発想・遊び方を見ることができるのはありがたい。

(4) 今後は、ファミサポをどのように利用したいと思うか

謝礼の額としては少なすぎるのではと思っている。もう少し多く払えたらよいかなと思う。その理由は、その方がもう少し気兼ねなくお願いできるため(700 円だと安くてお願いするのが申し訳ない気持ちがあるため)。ただ、地域の助け合いの活動、(有償)ボランティアなので、お金が目的ではないというところもあるのかとも思う。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のありかた

(1) これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員の立場からの考えや要望

これだけお世話になっているので、いずれは提供会員となり、恩返しをさせていただきたいと感じているが、もう少し子どもが大きくなるまでは、仕事をフルでしたいと思っている。時期が来たらぜひ恩返ししたい。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。

また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

入会のときも細かく説明をさせていただきながらマッチングにつないでいるのと、顔合わせのときにも何でも気軽にこちらにもいろいろお話をしていただけるように、信頼関係を大切にしている。アドバイザーと依頼者側が信頼関係を持てるように、顔合わせの時間を十分に取って、安心して預けてもらえる形を取っているところである。

《ファミサポ会員》

11. センター名：たかまつファミリー・サポート・センター（香川県高松市）

委託：NPO 法人たかまつ男女共同参画ネット

◆提供会員◆

提供会員情報

- ・お名前： C さん
- ・会員登録年数(活動年数)：5年
- ・活動件数： 年間 約345件 月28件
- ・主なサポート内容：
現在関わっているのは5名(2022年12月時点)
頻度は週1、月1、週3、平日毎朝など様々
年齢は1歳、1歳半、6歳、6歳双子、10歳
習い事の送迎、平日毎朝や夜の依頼会員宅でのサポート、提供会員宅での預かりなど。
発達特性のあるお子さんや精神的にしんどいお母さんのサポートも行っている。

提供会員活動を通じて思うこと

1 提供会員になった動機

(1) 提供会員になった動機・きっかけ

友人に提供会員と依頼会員がおり、ファミサポの存在は知っていた。依頼会員の友人が、「(提供会員の氏名)さんが提供会員になってくれたらいいな」と軽く発言されたことがきっかけで講習会を調べ、受講することになった。講習会の内容は魅力的で楽しく、実際に提供会員として活動されているかたのお話を伺い活動も楽しそうだと感じたが、事故の対応など不安な気持ちもあった。講習会修了後、事務局から登録していただけるかと声掛けがあり、送迎ぐらいならと会員登録を行った。翌日、電話で未就学児(女兒)の送迎に関するサポートの依頼があり活動を行うことになった。久しぶりに小さな子どもと接する新鮮な機会となり、子どもが懐いてくれたことも嬉しく、このようなことで役に立つことができるのならと思い継続的に活動することになった。

(2) 提供会員増加のために必要なこと

活動内容を一般の人に届くように周知することが必要であると感じる。子育てを終えた提供会員のターゲット層にファミサポの情報は届きづらく、広報に記載されているだけでは空いた時間を利用して活動できるということも分かりづらいかも。提供会員が不足している状況は、今回のヒアリングを通じて初めて知ったため、口コミで会員から広げていく努力も必要だと認識した。また、これほど足りていないという具体的なニーズがもう少し伝わる形になる必要があると感じる。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

送迎に関するサポートから始めた。依頼会員との関わりもそれほど多くなく、送迎が終われば活動が終わる形だったが、続けるなかで預かりも少しずつ増えていった。現在は依頼会員のご自宅で依頼会員(母親)と一緒に、発達特性のある双子のお子さんを、平日毎朝起床から幼稚園に送り出すまでのサポートや、夜の忙しい時間帯に依頼会員(母親)が家事をしている間、お子さんをみるという活動が多くなっている。

現在5名の依頼会員のサポートを行っているが、週1、月1、週3、平日毎朝などサポートの頻度は異なる。

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

妊娠中に上のお子さんのサポートを行っていた際、出産後助産院へお子さんを連れてお伺いしたところ、産まれたての新生児を抱かせてもらい家族のように一緒に喜び合えたという体験は貴重で、とても嬉しかった。また、バレエの発表会に招待されたり、思いがけないふれあいは印象に残っている。自分自身はしんどい子育てをしてしまったという反省が、提供会員の活動につながっているため、依頼会員に喜んでもらえる楽しさもあり、蓄積されていく印象的な出来事は宝物になっている。

(3) 提供会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

言うことを聞いてくれないお子さんに対して褒めるように心がけたところ、関係が築けて素直に対応してくれるようになったという経験がある。活動を通じて楽しさだけではなく学びがあり、勉強になっている。

(4) 今後、どのように活動していきたいか

手遊びなど、子どもとの遊び方を増やしたり、スキルアップをして継続的に活動を行ってきたい。

3 特色ある活動内容について

送迎サポートから預かりサポートへの移行について

事務局からの依頼によって徐々に移行した。送迎サポートに慣れてきた頃に1日だけの預かりサポートの依頼があり、徐々に依頼の幅が広がりステップアップした状況である。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について提供会員の立場からの考え

単なる送迎や預かりだけでなく、子どもの成長の手助けを行えるようにしたいという想いがあるため、登録時の講習会は大切であると思う。心構えが必要な活動であるため、質の良い提供会員が増えてほしい。

提供会員の活動は一人で行うため孤立感もある。事務局との関係性も大切だが、ささいなことを意見交換し合える提供会員同士の横のつながりも大切だと感じる。あらたまった意見交換の場というよりも、何か一緒に作業を行いながら雑談や自然な会話ができる場が増えていくことも良いのではないかな。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いているか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがあるか。

■ 提供会員との関係構築

- ・提供会員とのコミュニケーションを大切にしており、報告書の提出時に活動の話を詳しく伺ったり、世間話をしながら提供会員の人柄を知りマッチングに活かしている。
- ・マッチングに関しては紹介責任の重要性を自覚したコーディネートと、アドバイザーの共通認識としている。
- ・活動状況をアドバイザー全員で把握・共有することで、アドバイザー全員がバックアップしている安心感を持っていただけるように心がけている。
- ・難しいサポートの場合、初回にアドバイザーが同行する場合もある。
- ・初回の活動後には、提供会員と依頼会員の両方に電話を入れ、サポート内容にズレが生じていないか確認する。そこで何らかの問題が生じている場合には調整を行う。調整等は中立的な立場で行うことを心がけている。また、提供会員に無理が生じていないか丁寧に確認している。

◆ 依頼会員 ◆

依頼会員情報

- ・会員登録年数：6年
- ・依頼件数：年間 約86件 月 約7件
- ・主な依頼内容：
お子さんの年齢：6歳9カ月
学童から自宅までの送迎、帰宅後や母親出張時の預かりと送迎など日常的に依頼。

依頼会員活動を通じて思うこと

1 依頼会員になった動機

(1) 依頼会員になった動機・きっかけ

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

大学教員としての勤務先が高松市内にあるが、実家は九州であり、夫は他県で家業を継いでいて遠距離婚である。子どもが1歳の時点で職場復帰することになった。家族による恒常的なサポートが期待できないなか、ベビーシッターや病児保育等の制度を調べる際にファミサポを知り、藁にもすがる思いで登録を行った。会員登録の時点ではきちんと利用可能であるのか、どのような提供会員を紹介されるのか未知数であったが、頼らざるを得ないという状況から登録を行った。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な利用内容、またその援助に対してどのように感じているか

提供会員2名とマッチングを行っているが、うち1名の提供会員に6年間継続的に活動いただいている。会議の急遽延長や突発的な会議の際の学童保育への迎え、出張時の預かりなど、突発的な依頼も多く日常

的に利用している。曜日や時間など、固定した利用ではない。コロナ禍において学級閉鎖等で保育所や小学校に登校できない際にも活動いただき、提供会員の支援なしには職業生活が成立しない状況である。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について

子どもにとって提供会員は祖母の代わりのような存在になっており、子どもは「〇〇さんは家族だよ」との発言をする。また、提供会員と会えることを楽しみにしている。提供会員の前職が少年補導員をされていたこともあり、叱っていただきながらもしっかりと愛着を形成していただいております子どもの人格形成に影響を与えていると感じる。

(3) 依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

依頼会員にとっても、子どもの育ちと一緒に見守っていただけているという安心感がある。子どもの特性に関する話を共有したり、仕事上の気になることについてアドバイスをいただいたり、ワンオペ育児の環境の中で精神的な支えになっている。

(4) 今後は、ファミサポをどのように利用したいと思うか

仕事との両立という面では、宿泊を伴う援助が利用しやすくなれば良いと感じる。宿泊を伴う出張業務に関して、保育所の際には比較的休ませやすかったが、小学校に入ると休ませづらく帯同による出張業務の困難さを感じている。

個別質問

■ベビーシッターとファミサポの違いについて

現状として、ファミサポで対応いただけているためベビーシッターはほとんど利用していない。ベビーシッターはファミサポとは異なり確実に対応してもらえという確約があるが、誰が来られるか分からないベビーシッターよりも、子どもが安心して過ごすことのできる提供会員のほうが良いという状況になっている。

■事前打ち合わせについて

未就学児である1歳の子どものことについての依頼であったため、不安感もあり緊張状態であった。預かり中の子どもの様子が分からず、様子を聞くことも疑っているという印象を与えるのではないかと気がかりであった。自分自身は利用せざるを得ないという状況のなかで、提供会員との信頼構築を図ることができたが、提供会員の人柄が分かり安心感が芽生える前に、利用を控える人もいるのではないかとと思う。

■提供会員との関係構築について

基本的に感謝の気持ちを忘れず、できるだけ言語化してお伝えすることは心がけている。あくまでも提供会員の生活のなかでの余白の時間で支援いただいているため、当たり前という気持ちにはならないように気を付けている。また、あくまでも可能な範囲で支援いただくことを意識している。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のありかた

(1) これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員の立場からの考えや要望

利用申請や活動報告がメールや紙媒体でのやり取りとなっていること、報酬の精算について、月末に当面でのやり取りとなっていることについて、依頼会員の利便性という面からはアナログ性を緩和してDXを行っていただければと思う。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いているか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがあるか。

■依頼会員との関係構築

・ファミサポが安心して相談できる場所であることを何よりも大切にしている。事務所内の雰囲気やスタッフ同士のやり取り、人間関係のあり方などに心配りをしている。

最初の面談では、肯定的に共感的にしっかりお話を聞く傾聴を大切にしている。出張登録時には複数名を対象に説明等を行うため、ファミサポの趣旨やアドバイザーの想いが伝わりづらいと感じることもある。そのため、事務所での登録時には1時間弱の時間をかけてファミサポの趣旨や支援内容などについて説明しながら、お子さんの様子も詳しく聞かせていただいている。

《ファミサポ会員》

12. センター名：枚方市ファミリーサポートセンター（大阪府枚方市）

委託：社会福祉法人大阪水上隣保館

◆提供会員◆

提供会員情報

- ・お名前：Eさん
- ・会員登録年数(活動年数):8年
- ・活動件数:年間128件
- ・主なサポート内容:
 - ・預かりのみ、送迎のみ、送迎+預かりなど様々なケースのサポートをされている。
 - ・兄弟のサポートも多くされている。
 - ・障がいのある方や、精神的にしんどい方のサポートもされている。

提供会員活動を通じて思うこと

1 提供会員になった動機

(1) 提供会員になった動機・きっかけ

私の長女が依頼会員として登録していて利用もしていた。その中で私自身が空き時間があつたので、「もし良かったら、お母さん子どもが好きだし登録だけしてみたら？」という長女からの声かけがきっかけである。

(2) 提供会員を増やすために重要なこと

ファミサポ事業自体がまだまだ地域に知られていないと感じる。依頼される方は、お子さんを育てていて困ったことがあったりして、子育て支援の冊子を頂いたり、口コミがあつたりしてファミサポ事業を知る機会があるが、逆に提供会員の方は、私は結構年齢が上の方だが、そういう年齢層の方がこのセンターを知るきっかけがない。

広報には、よく出張依頼会員登録会みたいなものを開催していると載っているが、そういうものは娘が登録する前からずっとあつたと思うが、私自身も実は広報を見ているところも全然素通りで行く感じで、「これ、何やる？」と興味を持つこともなかった。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

保育園の送迎が活動としては多い。その中で、保育園によって送り迎えの際のルールが違ったり、園の先生のファミサポ事業への理解度もそれぞれであるので、最初は戸惑うこともある。しかし、園の先生がファミサポ事業自体を知らないということはないので問題はない。園の先生とも積極的にコミュニケーションをとることで顔を覚えてくれている。

(3) 提供会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

(4) 今後、どのように活動していきたいか

時代の流れがあつて子育てがすごく変わってきているので、今の子育てを知ることができることはとても良いことだと感じている。自分が子どもを育てたときと、娘の時代も違うし、孫の時代も違う。そして今、また違うという子育ての内容。今の子は「離乳食はこれぐらいから始めるんや」とか、おもちゃも「今の子はこんなんでも遊ぶんや」とか、そういう時代の流れみたいなものはすごく感じる。それがまた勉強になって、離乳食などもどんどん便利なものが出てきて、古い話をママさんたちに「私が子育てしてたときは、こんなんやってんよ」とか言ったりする。

3 特色ある活動内容について

提供会員として活動する際のコミュニケーションの重要性

お子さんをお預かりするときも、初めはお母さんが出て行かれたときにお子さんが泣いていたら、お母さんは絶対心配なので、ご機嫌になって遊んでいるとすぐメールを入れたり、お迎えの時間が近づいているときにお昼寝していたら、まだ、お昼寝しているがどうするかと、細かく連絡してコミュニケーションを取っている。また、保育園の送迎の際も、お母さんに対して、「こういう時はどうしたら良いですか？」と細かく確認したり、送迎時の状況を丁寧にお伝えするように心掛けている。例えば、園の掲示板に書かれている内容を写メしたり、お子

さんの着替えやおむつの数を確認したりしてお伝えしている。そうすることで、お母さんも安心して利用することが出来ていると感じている。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について提供会員の立場からの考え

自分もそうだったが子育てというのは、1人でできないと思う。それこそ近くに親がいたり、誰か助けてくれる方がいれば頼めるけれども、それができなくて1人でやっていて、すごく困っている方がいるのであれば、少しでも手助けできるのだっただけという、初めそんないい格好の気持ちだった。

でも、実はやってみたら、小さな子に接するというのがすごく楽しいのである。子どもさんは成長がすごい早いので、もう本当にびっくりするぐらい「わあ、こんなことができるようになった」とか、「あ、おしゃべりできるようになった」とか。もう長くお付き合いすればするほど、そういうのがすごく分かってくるので、サポートをお願いしていいかというメールが来たら、すごくうれしく感じている。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

提供会員とは報告書を受け取ったらメールにてお礼を伝えたり、しばらくサポート活動がない方へは登録会に保育サポーターとして参加してもらおうなど、モチベーションを維持してもらえよう気をつけている。保育中の様子を伺うことで、その方のスキルも把握することができる。またサポート活動での困りごとの相談があった際はスタッフで検討したり、必要に応じて役所の担当課へも相談するなどして、サポート活動を支えている。また確保のためにはお知り合いの方にファミサポの活動を紹介してもらって養成講座を案内してもらっている。

◆依頼会員◆

依頼会員情報

- ・お名前：Fさん
- ・会員登録年数：2年
- ・依頼件数：20件(2022年度) 90件(2021年度)
- ・お子さんの年齢：5歳、3歳、11カ月
- ・依頼内容：
 - ・産前産後の上の子どもさんたちの保育園の送迎や、下の子どもさんの預かり。

依頼会員活動を通じて思うこと

1 依頼会員になった動機

(1) 依頼会員になった動機・きっかけ

2番目の子どもが生れた時に遊ぶ場所を求めて枚方市内の広場に遊びに行っていた。そこでファミサポの登録会があり、広場の方から案内していただいた。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

妊娠・出産の際に市からファミサポ事業の案内を受けていて事業自体は知っていたがすぐに会員登録までには至らなかった。その後、ファミリー・ポートでの登録会があることを教えてもらい、「登録だけでもしてみようかな」という感じで会員登録をした。

2 ファミサポの活動について

(1) 具体的な利用内容、またその援助に対してどのように感じているか

会員登録から実際に利用したのは2年後くらいであった。3番目の子どもが生れるタイミングで色々と手が回らなくなり、上の子の保育園の送迎と預かりをお願いした。利用させていただく前は、利用するのにいろいろ決まり事や制限があるイメージがあったが、実際お願いすると結構融通も利いて、利用していてそんなに制限があるとは感じていない。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について

子ども2人は人見知りもそんなになく、結構急をお願いして、私も入院していなくなった状態だったが、今でも「〇〇さん、〇〇さん」と言って、お迎えをお願いすると喜んで、すごく懐いている。

(3) 依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たこと

本当にすごく融通も利かせてもらい、普段子育ての相談にもいろいろ乗っていただいているので、サポーターさんというより、近くにいる親戚のような感じで心の支えになっている部分が多い。もちろん、お預かりなどのサポートも助かっているが、すごく心の支えになっている。

(4) 今後は、ファミサポをどのように利用したいと思うか

子どもたちが非常に提供会員に懐いているので、引き続きサポートをお願いしたいと考えている。

個別質問

よく預かっていただいている一番下の子は、実家の両親だとすごく人見知りするのが、提供会員さんのことをおばあちゃんだと思っているのではないかというぐらい、よく懐いている。去年、この子が生まれる前は私が上の子どもたちと会えない状況だったので、LINE を使ってよく子どもの状況を教えてくださった。「保育園でこんなもの作っていたよ」とか、保育園の連絡事項についても主人がお迎えに行くより全然よく教えてくださるし、子どもの様子もまめに教えてくださったので、それだけが結構情報源で、すごく安心することができた。

また、コロナの休園とかでずっと子どもたちが家にいる状態で結構しんどかったが、LINE で「大変でしょう」とよく気遣ってくださったりして、何かあったら頼ろうと思えたので、いつも大変助かっている。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のありかた

(1) これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員の立場からの考えや要望

初回利用のハードルについては、確かに頼らざるを得なくなったところまでは、例えば私が体調を崩してしんどいというときでも、利用しようと思ったことがそれまではなかった。多分、最初の一步はちょっと面倒くさいというのもあったりで、時間がかかってしまったというのがあると思う。それまでは何とか頑張ってきただけで、確かにそういう意味では利用のハードルはあったかもしれない。

アドバイザーへの質問

1 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性

(1) 自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていますか。

また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

入会手続きの際にニーズをきちんと把握・整理することによって、その方、あるいはその家庭に合ったサポートを提案するよう心がけている。また個人宅へ預けるハードルが高いと感じるお母さんも多いので広場を利用した体験会を開催して気軽にサポートが利用できるよう工夫している。

提供会員確保のためには依頼会員から提供・両方会員へシフトチェンジしてもらえるよう子育て中でも受講しやすい講座を開催。養成講座とは異なるプログラムを準備し、1日1コマずつ半年かけて修了できるよう工夫している。

◆両方会員◆

両方会員情報

・お名前: Gさん

・会員登録年数: 3年

入会された2019年度の前期(6月～7月)養成講座を受講後、両方会員に登録

・依頼会員としてサポートを受けている件数: 2件

・提供会員としてサポートをしている件数: 15件 預かり等のサポート

・お子さんの年齢: 11歳、7歳、5歳

両方会員活動を通じて思うこと

1 両方会員になった動機

(1) 両方会員になった動機・きっかけ

家族の転勤を期に、子育ての大変さを身に染みて感じたことがきっかけである。

(2) ファミサポを知ったきっかけ、会員登録までの経緯

学生時代に子育て支援に関する勉強をしていたことがあり、提供会員になったのが始まりである。その後に自身の出産を期に依頼会員になった。自分自身も家族の転勤で周りに子育てを助けてくれる身内がいなく、「こんなに私がしんどいのだから、他のみんなもしんどいんや」と考えて両方会員に登録した。

(3) 提供会員を増やすために重要なこと

提供会員を増やしていくためには、初めから両方会員として登録してもらうというのも良いと思う。講習会の内容は提供会員だけではなく依頼会員となるお母さん達にとっても非常に有益な情報であると感じている。

2 ファミサポの活動について＜提供会員として＞

(1) 具体的な活動内容、またその活動をどのように感じているか

自宅での預かりの際は、自分の子どもの反応が一番すごいと感じている。基本的には子どもたちがいない平日に預かるようにしているが、自分の子どもが、預かっているお子さんに会いたくてどうにか早く帰って来ようとしていたり、もう予約がなくなってがっかりするぐらい本当に「いいな、いいな」という感じで一緒に参加してくれている。

(2) 実際に援助活動をする中での印象に残った活動

預ける側のお母さんの気持ちもすごく分かるので、LINE とか子どもの様子を写メしたり動画を撮ったりして、「送ったら、すぐに私の携帯からは消すからね」と言って送っている。そうすると次に預けてくださったときに、やっぱり必ず泣くけれど「どうせ今だけやろ」と言いながらお母さんも預けてくれるから、続けるようにしている。

3 ファミサポの活動について＜依頼会員として＞

(1) 具体的な依頼内容、またその援助に対してどのように感じているか

やはり預ける方はものすごくハードルが高かった。人に自分の子どもを預けるというのは、何か駄目なような感じということと、貧乏性なのか「それにお金を払うのか」ということで、最初のハードルは高かったと思う。

(2) 実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動

子どもの小学校の授業参観があり、下の子を小学校に連れて行くにはちょっとゆっくりできないので、その授業参観中に預かってもらった。なお、預かってもらうおうと思ったのは、やはり無料クーポンがあったからである。なかったら一緒に連れて行き授業参観を受けたので使っていなかったかもしれないが、無料クーポンを使ってみよう感じで依頼をした。

4 ファミサポの活動について＜両方会員として＞

(1) 両方会員として、提供・依頼 両方の立場を経験した中で、活動を通して得たこと

両方会員の活動を通して、改めて子育ての大変さを実感することが出来たと感じている。また、その大変な子育ての中で、声に出して助けを求められない保護者の方もいらっしゃることを知ることができた。

(2) 今後、両方会員としてどのように活動していきたいか

もっと両方会員がスタンダードな形になれば良いと感じる。依頼会員は自分自身が困っているから会員登録するわけであるが、出来る範囲で提供会員も経験することで得られることは非常に多いと感じている。

個別質問

1 特色ある活動内容について

■ 初回利用時の無料クーポンの有用性について

初回利用時の無料クーポンは、依頼会員にとってありがたいと思う。専業主婦でお金を何も稼いでいないので、子育てすることが仕事ぐらいの感じが自分の中ではあって、そのためにお金を使って何かするというのがやっぱり抵抗があった。それで自分がしんどくなった経験もある。

ファミサポについて望むこと

1 ファミサポ事業のあり方

(1) これからのファミサポ事業について両方会員の立場からの考え

やはり横のつながりで地域ごとの支援というか、突き詰めていけば相互扶助のような、みんな知り合いという地域が理想だと感じている。依頼会員も提供会員もみんな知り合いで、本当にハードルの低い支援ができればいいなという意味では、自分の子どもも交えた本当に融通の利く支援体制が整ってくれたらなと感じている。

第5章 今後の事業での取組に向けて

I アンケート調査・ヒアリング調査を踏まえた考察

本研究では、ファミリー・サポート・センターにおいて、長年の課題となってきた「提供会員の確保」の方策と、近年顕著になってきている「配慮の必要な家庭への支援」について、より深い分析を行うために令和3年度に実施したアンケート調査のクロス集計・分析を行い、専門的なデータ分析を行った。また、会員登録をしていない層も含め、事業を多様な視点から客観的に検討するために、依頼会員になり得る子育て家庭の保護者と、提供会員になり得る世代6,000人を対象にインターネット調査を実施した。それから、事業の実態や対応についてそれぞれの立場からの課題に関する実態を把握・分析した。ヒアリング調査も実施し、アンケート調査で提供会員の確保が出来ている/増加したセンター、他機関との連携が出来ているセンター、そして会員（提供会員、依頼会員、両方会員）から、活動の実際について聞き取り、整理した。

今後の事業の取組に向けて、アンケート調査とヒアリング調査を通じた考察を行う。

1 提供会員の確保の方策

○提供会員の不足に関するクロス集計による分析結果

～「提供会員の確保が出来ていると感じる群」は町内会等の小さいエリアでの広報を実施

令和3年度のアドバイザー調査のクロス分析を行ったところ、提供会員比率は実際に増加しているにもかかわらず、不足感を感じているセンターがほとんどであることがわかった。

「提供会員の確保が出来ていると感じる群」と、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」とを比較すると、「確保が出来ていると感じる群」は広報に関するすべての項目で効果を感じていたが、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、会員枠の拡大や切り替えに関する手立てを多く講じているにもかかわらず効果を実感していなかった。

「提供会員の確保が出来ている群」は、「町内会、地域」など比較的小さいエリアごとの広報に力を入れていた。小さい範囲なら目が行き届き、反応があれば効果として実感しやすいことが考えられる。一方で、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「市の広報誌」を最も多く使っていたが、対象範囲が広いため、なかなか効果を実感しにくいと思われる。

小さいエリアでの広報で効果を実感すればそれ以上に多くの手立てを行う必要性がなくなるが、対象エリアが広がれば、なかなか効果を実感しにくいこともあって効果を得るまでに、様々な手立てを増やし試行錯誤することとなる。

提供会員数を中央値より大きい大規模センター群と中小規模センターで分け、比較したところ、大規模センター群の方が「不足している」と感じている割合が大きく、中小規模センター群の方が充足していると感じている割合が有意に多かったことも同様の理由と思われる。実際に提供会員の数が増えても「確保が出来ている」と実感できるというわけではなく、「会員数」の増加だけをもって充足感に結びつくわけではない実態が明らかとなった。

○提供会員とのコミュニケーション方法の状況

～「確保が出来ていないと感じる群」がコミュニケーションを活発に行っている

「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」の方が、提供会員とのコミュニケーションを活発に行っていることが明らかになった。具体的には、「提供会員・依頼会員混合のイベント型の交流会（バルーンアートなど）」、「活動のない提供会員への個別電話でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のヒアリング等）」、「活動のない提供会員への個別の郵送物（広報含む）でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のおたずね等）」を行っている割合が有意に多かった。

「提供会員の確保が出来ていない」という認識が常にあり、確保のための手立てを行う必要性を強く感じていることから、交流会を開催して活動中の会員のモチベーションアップに努めたり、活動のない提供会員には、掘り起こしのための電話や郵送によるフォローを積極的に行っていると思われる。

一方、「提供会員の確保が出来ていると感じる群」は、活動のない提供会員の掘り起こしを、「確保が出来ていないと感じる群」よりも行っていない割合が有意に高かった。既に確保が出来ている、足りているという認識があるため、活動のない会員にまでアプローチする必要性はないと考えていると想定される。

提供会員の確保が出来ていると感じるか感じていないかによって、センターの会員とのコミュニケーションの方法にも違いがみられることがわかった。

○講習会の質の確保の重要性

令和3年度のアンケート調査のクロス集計の結果、講習会の項目数の多さや時間の長さで提供会員の数に有意な関係は認められなかった。

また、規模別で比較したところ、中小規模のセンターは、国の基準である9項目24時間の講習を実施しなかった割合が有意に高かったことがわかった。

ヒアリング調査においても、提供会員の養成講習の質と量について、個々のセンターにより考え方に違いがあった。特に小規模のセンターは、そもそも少ない人員で開催しなければいけないことから、大規模センターと比べて講習会運営にかかる負荷がより大きくなるという実態もあり、小規模のセンターにとって、9項目24時間の講習実施はハードルが高いと感じられるともいえる。

一方で、子育て支援の安全性や質の確保が社会的に求められるようになってきている状況下において、講習会の重要性は増している。

インターネット調査からも、子どもを預けるにあたって「預かる人が信頼できること」を最も高い割合で重要視する結果が得られ、講習会の受講を安心や信頼の担保として必要とする意見が多く、中でも、9項目24時間の講習では足りないといった意見も複数見受けられた。

クロス集計の分析結果からも、講習会の項目数や時間を少なくして負担を減らしたとしても、提供会員の確保には結びつくわけではないと言えることから、講習会の質・量いずれも現在の基準を維持していくことが重要であり、講習会の充実は社会からの信頼の基盤になると思われる。

○提供会員養成講習で行われていた工夫

講習会の工夫として、地域特性や実施主体が持つ強みをもとに、受講しやすい環境づくりが様々な形で試みられていた。

- ・講習会を魅力あるものに充実させる
- ・スタンプカードにより達成感を得られる仕掛け
- ・託児付きの実施
- ・開催曜日・時間の検討（対象層に合わせ近隣市町と連携することで不足分の講座を補う）

このような講習会の工夫は、潜在的な提供会員の確保につながっている様子である。

○提供会員になった動機や活動への意識

～クロス集計の結果、「人と接することや、相手の考えを理解する力を身につけたい」という動機が共通項目に

令和3年度のアンケートのクロス集計で、認知経路の傾向（提供会員調査）と、①提供会員確保の不足感/充足感および②提供会員の増減率、並びに③提供会員の割合が増加したグループについて比較した結果、①提供会員が充足している群は、提供会員になった理由の傾向として「友人や周りの人に頼まれたから」「自分の視野を広げたいから」に有意に回答していることが明らかとなった。

また、「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」「地域や社会のことを知りたいから」にも有意傾向が明らかとなった。

②増減率が高かった群では、「就労へのステップとしたいから」、「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」に有意が認められた。また、「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」「持っている資格を活かしたいから」「友人や周りの人に頼まれたから」「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけたいから」に有意差が認められた。

③提供会員が増加した群は、「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」、「就労へのステップとしたいから」、「仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから」と有意に回答していることが明らかとなった。

また「活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけたいから」、「家族、友人、職場などから評価される、認められるから」、「自分の視野を広げたいから」との回答に有意傾向があることが明らかとなった。

上記で挙げられた項目のほとんどが2つの群に共通して挙げられていた。中でも3つの群すべてに共通して挙げられたのは「人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから」であった。一方、提供会員の確保が出来ていないと感じる群では、有意な項目はなかった。

なお、インターネット調査では、提供会員になった動機は「困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから」、「時間に余裕ができたから」、「楽しそう、子どもが好きだから」の順で、令和3年度アンケートの単純集計の順位と同様の傾向が見られた。

今年度実施した、3つの群のクロス集計では、単純集計の結果と違って、利他・奉仕の精神

からだけでなく、自身のスキルアップ、就労へ準備段階など、様々な動機が有意に関係していることがわかった。これらの結果はさらなる分析が必要と思われる。

○提供会員になった認知経路

～クロス集計の結果、「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」に効果

令和3年度アンケート調査のクロス集計において、提供会員調査との紐付けとして、①認知経路の傾向（提供会員調査）と提供会員確保の不足感/充足感および②提供会員の増減率、並びに③提供会員の割合が増加したグループ、の3群ごとで比較分析したところ、認知経路として3つの群のいずれにおいても有意に多い結果となったのが「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」であることがわかった。②、③は、上記に加え「民間施設での広報（商業施設等）」も有意に多いことが明らかとなった。

令和3年度アンケート調査でも「子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知」に効果が高かったが、上位でなかった「民間施設での広報（商業施設等）」も効果があることもわかった。日頃から子育て支援に関心を持ち、外に意識を向け行動している住民を対象とした周知が効果的であると言える。

一方で、提供会員の確保が出来ていないと感じる群は、認知経路として「市の広報」と回答した割合が有意に多いことが明らかとなった。「市の広報誌」は、インターネット調査では、効果的だったという回答が7割を超え、最も有効な広報手段であったとの結果であった。提供会員世代が広く目を通す媒体という意味では周知の意味があると思われるが、これを「会員登録」にまでつなげるためには、ある程度時間がかかったり、広報誌だけでなく別のアプローチを組み合わせる必要があると思われる。

ヒアリング調査からは、提供会員となったきっかけとして、身近な人（友人、実子、実子の習い事の先生）が依頼会員として利用していた様子を見ながら関心を持つようになったというエピソードが聞かれ、活動の実際の様子を間近で見ることで具体的イメージがわき、一步を踏み出せたことがわかる。

2 配慮の必要な家庭への支援

○ファミサポの活動での対応状況～多様な家庭への援助と提供会員の不足の実情

令和3年度アンケート調査のクロス集計の結果を見ると、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「確保出来ている群」より、多様な背景や考え方を持った家庭と関わっている頻度が多いことが明らかとなった。特に有意によく関わっているのは、「親が妊娠中の家庭」、「ひとり親家庭」、「発達の遅れや障がいがある子ども」で、関わり頻度が多かった。

「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」が「確保出来ている群」と比較して、よく関わっているもので有意に多かったのは、「発達の遅れや障がいがある子ども」、「アレルギーのある子ども」、「親が精神的な疾患のある家庭」、「ひとり親家庭」、「高齢出産の家庭」、「多胎育児家庭」、「親が妊娠中の家庭」、「ファミサポへ過度に依存する家庭」、「安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭」の9項目であった。

その他、約7割の項目（26項目中、18項目）で、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」

が、「確保出来ている群」より、有意（有意傾向含む）によく関わっている結果となった。その逆の結果は一つもなかったことから、「提供会員の確保が出来ていないと感じる群」は、「確保出来ている群」より、有意に多様な背景をもった家庭に関わっていることが明らかとなった。

困難家庭への対応に関しては、援助を誰にでも依頼できるわけではなく、ごく限られた会員に偏りがちであることから、提供会員の確保が出来ていないと感じることとなり、このような結果となったと推察され、提供会員の不足の実情を映し出していると言える。

○関係機関との連携、行政との連携の実態

令和3年度アンケート調査のクロス集計の結果から、関係機関と連携している割合が高いのは、「提供会員の確保が出来ている群」であった。困難な家庭への対応に関する相談であったり、情報共有やファミサポが併設されていたり、講師の依頼等、様々な形で地域の関係機関とのネットワークを形成している様子が見えてきた。

積極的に他機関と連携することで、困難事例に対してもファミサポだけで抱え込まずに他機関に対応を依頼し、結果的に提供会員が不足していないと感じられる状況になっているとも考えられる。

ヒアリング調査では、複合的な困難を抱える家庭に対し、実施主体の組織の特性を活かしながら、行政と信頼関係を築き、その関係を土台として地域の他の関係機関も巻き込みながら、会員の家庭を見守っていく様子を聴くことができた。状況に応じた多様な形での連携が行われていた。

また、ファミサポ事業の弱み（ニーズ把握と情報発信力）を、ひろば事業との連携で補うなど、多事業展開の中でそれぞれの事業の強味を活かし活動の活性化につながったという事例もあった。ひろばとの連携（兼務）体制をとったことで、ひろばとファミサポのスタッフ間での情報共有や意思疎通が深まりスタッフの意識改革にもつながった好事例である。

○行政の事業理解の必要性

ヒアリング調査を通して、ファミサポが、地域の子育て支援の中で重要な支援のひとつとしての役割を果たしている様子がわかってきた。特に、制度の隙間を自在にカバーでき柔軟に動けるところがファミサポの強みであり、その一方で、ハイリスクな家庭への支援も期待されてしまうところでもある。アドバイザーは常に提供会員への負担を気にかけてマッチングに苦慮する現状もうかがえた。

行政からの過度な依頼に対し、家庭児童相談室職員、保健師、助産師、保育園長、赤ちゃん訪問員などの関係者へのファミサポ事業の説明を実施したところ、事業理解が深まり困難な依頼が減少したというエピソードが紹介された。行政をはじめ、関係者の事業理解は適正な連携に不可欠な要素であると考えられる。

また、ヒアリングの事例から、連携における課題として、他機関や他事業と連携するにあたって必要な個人情報共有できない難しさを実感しているケースも見受けられた。

○ファミサポでの関わりの工夫

～専門職でない、同じ地域住民による支え合いの持つ可能性

会員からのヒアリングからは、ファミサポでの活動を通じて会員同士が支え合い、信頼し合い、温かなつながりが築かれている活動の実際の様子がうかがえた。

提供会員は、活動を通じて提供会員やその家族が依頼会員の子どものふれあいを楽しみふれあいを通じて学ぶほか、提供会員が自身の子育てを振り返るきっかけにもなっていた。

依頼会員は、引越先で身近に頼れる預け先がないなど、差し迫った状況から登録を行っている様子がうかがえた。そのような中、依頼会員にとって、提供会員が身近な祖父母代わりとなり、子どもの特性に関する話を共有したり仕事の悩みを相談するなど、依頼会員の精神的な支えとなっているという声が数多く聞かれた。継続的な利用のなかで、提供会員との信頼関係が少しずつ築かれ、信頼が揺るぎないものになっていくことが伝わってきた。

○アドバイザーに求められる機能

～相互援助活動の円滑な運営に不可欠な役割

ヒアリング調査を通じて、アドバイザーは、マッチングをはじめ、会員と会員をつなぎ、安心・安全な活動を支える重要な役割を果たしていることがわかった。

提供会員に対しては、マッチングの時に細かいことを聴き取りながら不安要素を取り除き活動に入れるようにしたり、何気ない世間話をしながら人柄や状況を把握しマッチングに活かしたりしている。

会員登録して間を空けないように依頼を入れたり、はじめは送迎からスタートして、徐々に預かりに移行していき、多様な家庭への支援へと段階的に活動の幅を広げたり、提供会員の負担を常に気遣い、何かあったらアドバイザー全員がバックアップするからと、安心感を持って活動に臨んでもらえるよう意識している。

依頼会員に対しても、入会の際の丁寧な説明や、顔合わせの時間の十分な確保により、不安のないよう安心して預けられるよう配慮を怠らない。

会員とのコミュニケーションを大事にし、会員の経験、人柄、適性等を見極めながら、依頼会員の多様な要望に沿うようなマッチングを行っており、マッチングに対しての紹介責任の重要性を自覚したコーディネートを共通認識としているという話もあった。

依頼会員の数に比べ提供会員数が少ない中で、困難事例の依頼は特定の提供会員に偏ってしまうことに課題感を持ちつつ、限られた条件の中で考え得る最適なマッチングを模索し続けている。双方の会員が納得のいくマッチングが出来ているのは、アドバイザーの日々の業務経験から蓄積された見極めの判断力の高さによるものといえる。

いずれのセンターにおいても、アドバイザーは、会員とのコミュニケーションを重要視し、会員との信頼関係を構築しながら、高いコーディネート力・調整力を発揮し円滑かつ安心感のあるセンター運営を行っており、専門性の高さが求められる業務であるといえる。

3 その他 事業全体

○「会員登録をしない理由」

～依頼会員になり得る子育て家庭の保護者

インターネット調査では、「依頼会員になり得る子育て家庭の保護者層」に対して、ファミサポ事業を知っていても会員登録をしないと回答した人にその理由を聞いた。

4割が「依頼する必要がなかったから」であったが、それ以外の理由は、多かった順に「利用料金が高いから」、「使いにくそうだから」、「他人に預けることに抵抗があるから」が挙げられた。

「利用料金が高いから」に関しては、現在のファミサポの利用料金は、600円～700円/時間と、各都道府県の最低賃金にも満たない。ベビーシッター等のサービスと比べても安価である。別の設問で会員登録をした理由を聞いた際も、「利用料金が安い」が1位に挙げられていた。しかし、この金額を高いと感じる子育て家庭の保護者がいることを示した結果であるといえる。子どもの年齢が7～9歳までの子育て家庭の保護者にその傾向が強くなっている。

「使いにくそうだから」は、本事業を利用するにあたっての手順や、預かりの開始までのプロセスに時間を要すること等、制度設計の複雑さに起因するものと考えられ、子どもの年齢が妊娠中～3歳までの子育て家庭の保護者にその傾向が強く見られた。

「他人に預けることに抵抗があるから」は、子どもの年齢が4～6歳までの子育て家庭の保護者にその傾向が強かった。

会員登録がスムーズにでき、負担感を感じず気軽に子育て家庭に利用してもらえるよう、これらの課題について原因やネックとなっていることについて検討し、工夫や対策を講じることが必要である。

○子どもを預ける際に重視する点と子どもの預け先の実際

インターネット調査では、「依頼会員になり得る子育て家庭の保護者層」に対して、子育て家庭の実態を把握するために、子どもを預かってほしい時に何を重視するかと実際の預け先について聞いた。

「子どもを預かってほしいと思った経験がある」と回答した6割の層に対し、預ける際に重視している点を聞くと、1位は「預かってくれる人が信頼できること」と5割近くが回答し、2位の「利用料金が安いこと」を2倍以上も上回った。3位以下は「預かってほしい時、いつでもすぐに預けられること」、「利用しやすいこと」、「預かってくれる人が専門資格を持っていること」と続くが、いずれも1割にも満たない割合であった。

インターネット調査の回答を広く一般の住民の実態に近いものと捉えたと、現在、我が国の多くの子育て家庭では、預かってくれる人が「信頼できること」が非常に重要で、子どもの安心・安全の確保を最優先に考えて預け先を選んでいることが推察できる。自由意見からも、「他人に子どもを預けること」への抵抗感、不安感を訴える意見が数多く見られ、ニュース等で報じられている「不適切な保育」が繰り返されている現状への不信感が表れていた。

実際の子どもの預け先を聞くと、「祖父母」が7割を超えて圧倒的に多かった。次は「預かり先がみつからなかった（自分でこどもをみた）」が2.5割と続き、「公的な支援サービスを

利用する」は1.6割と低い割合に留まっていた。

地域住民が同じ住民として互いに信頼関係を築きながら子どもの安心・安全を最優先に考え地域の子育てを見守るファミサポ事業は、子育て家庭の保護者のニーズに適合する事業であると考えられ、今後の活用が期待できる事業であると言える。

○ファミリー・サポート・センター事業の認知度の低さと事業理解の必要性

今回の初めてインターネット調査を実施し、ファミリー・サポート・センター事業に対する認知度が低いことを改めて知ることとなった。

ファミリー・サポート・センターのイメージについての設問に対しても、「依頼会員となり得る子育て家庭の保護者」、「提供会員となり得る世代」のいずれも、「信頼できる」、「専門性が高い」という点に対してはポジティブな評価が得られたが、「利用しにくい」「手続きがわかりにくい」といったネガティブな評価のほうがポジティブな評価を上回っていた。

「利用しにくさ」や「手続きのわかりにくさ」については、会員登録しない理由でも挙げられており、会員登録へのモチベーションを下げる大きな要因となっていると想定される。

とりわけ、「会員登録しない理由」のみならず、ファミサポ事業の印象に「利用しにくい」「手続きがわかりにくい」といったネガティブな内容の割合が多かったことは真摯に受け止めるなければならない。加えて、自由意見には「どこで信頼性を判断したらいいのかわからない」「犯罪歴のある人は登録できないこと」など、昨今頻発している不適切な保育者による事件の影響によるものと思われるが、ファミサポに限らず子育て支援事業全般に対する不信感が見て取れ、ファミサポ事業を知らない、あるいは利用したことの無い方々から事業への厳しい目が向けられることもあると認識させられた。

提供会員の確保のためには、これらの課題を改善しないといけない。まずはファミサポ事業の認知度を向上させ、相互援助活動への理解を浸透させていくことが必要である。

Ⅱ アンケート調査・ヒアリング調査を踏まえた提言

アンケート調査・ヒアリング調査の結果から明らかになった課題より、今後の検討すべき点は以下のとおり考えられる。

1 提供会員の確保について

○ボランティアとしての活動の範囲の見直し

ファミサポの活動内容が多様化、複雑化している状況を踏まえ、本来の住民同士の相互援助活動としての「できる範囲で少しずつ手を差し伸べる」活動と、難易度が高い困難事例への対応となる活動と、基準を分けて実施する必要がある。

それに伴い、困難事例への対応に関しては、提供会員への負担が増えることから、活動の難易度に見合った報酬額を定めることが妥当である。

相互援助活動として、子どもとのふれあいを楽しんだり、会員同士の関わりを通じて気づきや学びを得たり、あるいは、様々な関わりを通じて自分の可能性を広げたり、地域住民同士の信頼関係を築きながら、地域で豊かに暮らせるような活動が、本来のあるべき姿であり、少し時間が空いた時に気軽にサポートできるようになれば、活動の時間が捻出しやすくなると考えられ、会員にならない理由として多く挙げられた「時間がないから」の解消にもつながる。

また、「何かあった時の責任」が提供会員の精神的な負担となり、会員確保の障壁とならないために、事故等のトラブルがあった時の責任が提供会員個人に負わされるのではなく、センターが全面的に調整役となり責任を持って円満な解決に尽力することを前面に出し、安心して活動にあたってもらえるようにする。

○ファミリー・サポート・センター事業における送迎の位置付けの見直し

送迎は、親の都合で習い事に通う機会が失われることのないよう、子どもにとっても必要な支援であり、福祉的な支援としてもその必要性を多くのセンターが認識しており、ファミサポの事業において重要な活動のひとつであるということが確認できた。

送迎の活動は自家用車の利用が多く、スモールステップとして、送迎から活動を始めるという方法も考えられる。提供会員の確保の観点からは男性が参画しやすい活動であり男性会員の確保が期待できる。

しかしながら、安上がりな移動手段として安易に塾や習い事の送迎に頻繁に利用する保護者は一定の割合で存在し、そのためにより支援が必要な依頼に提供会員が確保できなくなる事態は避けなければならない。他の事業との連携等により切り分ける等の必要がある。

また、自動車保険の賠償責任保険にあたる補償が現在の事業の補償制度ではカバー出来ておらず、会員個人の任意保険に頼っているのが現状である。自動車での送迎での事故の補償をどうしていくべきか検討し、安心・安全な活動を保障する必要がある。

2 配慮の必要な家庭への支援について

○行政との連携体制の強化の必要性

地域事情や実施主体の特性などにより行政との連携に差があることや、ハイリスク家庭に関わる依頼が行政から当然のようにファミサポに回ってくるといった実態を聞くが、いずれも、行政がファミサポの事業を正しく理解出来ていないことが要因と思われる。

このため、行政のファミサポ担当はじめ関係部署の担当者に対し、アドバイザーが事業説明を行うとともに、ファミサポの対応範囲や連携方法について協議するようにする。

これにより、行政からの困難事例の依頼も適正化を図る。

また、ヒアリングの事例から、連携における課題として、他機関や他事業と連携するにあたって必要な個人情報共有できない難しさを実感しているケースも見受けられた。

○講習会の見直し

子どもを預ける際には「預ける人が信頼できること」が重視され、他人に預けることへの抵抗感・不安感が強く、安心して預けてもらうためにも、専門性を高めるための講習会の受講は益々必要となる。ファミサポの事業を子どもを安心して預けられる事業として全国的に認知を高めていくためにも、センターによって講習会の質・量がまちまちであったりすることは望ましくないとと思われる。

このため、国から提示された推奨カリキュラム（9項目・24時間）を基本として、小規模のセンターでもどのようにしたら実施できるのかについての工夫を検討する必要がある。併せて、カリキュラムの内容についても、我が国の子育て支援の最新動向を踏まえ、項目や時間の見直しも必要に応じて行う。原則的には対面での講習を推奨するが、受講機会の促進のためオンラインでの実施も可能とする。ただし、オンラインでの講習を行う際は、講習会の質の維持・確保のための工夫が必要である。

○アドバイザーの待遇改善

今回の調査でも、アドバイザーに求められる専門性の高さが改めて確認されたところであるが、大規模センターと小規模センターとでは運営実態が違うことも明らかになってきた。

現状では交付金の基準が会員数によるものであるため、アドバイザーの業務内容は同じであるのに、小規模のセンターでは人員が十分に配置できず、結果としてアドバイザーの負担が大きくなる。そこで、交付金の基準をアドバイザーの配置人数とすれば、アドバイザーの人員数に応じて雇用が安定すると思われ、アドバイザーの待遇改善につながるのではと思われる。

また、アドバイザーのスキルアップも重要であり、研修の機会の確保が求められる。

3 その他、事業全体

○提供会員の報酬について

ファミサポの活動は、相互援助活動であり金銭を目的に行うものではないことから、600円～700円/時間という安い価格帯で長い間据え置かれてきたのが現状である。その一方で、子どもを安心・安全に預かる責任は重く、その料金として、最低賃金にも満たない金額で活動して

いただくには安いのではないかという意見もヒアリング調査やインターネット調査からも聞かれた。

利用料金の値上げについては、依頼会員である子育て家庭の保護者の家計に負担をかけることになり、国の施策として子育て家庭への経済的支援が強化される現状において現実的ではない。報酬額(利用料金)の値上げという方法ではなく、自治体が利用料の補助を行うことで提供会員の報酬額を増額することが現実に見合った適切な方法である。

○事業の周知の必要性

今回の調査で改めて事業の認知度の低さが指摘されたところであり、特に提供会員となり得る世代の認知度は低かったことに加え子育て支援の活動への関心も低かった。

事業を知らない人々は潜在的活動者であるともいえる。しかも、「地域住民による子育て支援の必要性」については認識している割合が高く、将来の支援の担い手として期待できる要素も大きい。

潜在的活動者に向けて、相互援助活動の意義を伝え、活動への理解や関心を得ることが必要である。認知度向上のために国や自治体による周知・広報を行い、全国区にまで認知を広めることが求められている。

第6章 総括的な結論

I 総括的な結論

変わりゆく時代のなかでファミリー・サポート・センター事業のあるべき姿とは

今回のアンケート調査のクロス分析では、特に、比較的小さいエリア単位での広報を行った方が、大きいエリアよりも効果を実感できるという結果が得られたり、「確保出来ていると感じていない群」が積極的に手だてを講じていたり、これまで考えたことのない有意な関係も明らかになり、地域に密着した広報の重要性が改めて確認できたりと、いつもとは違った視点から課題を捉えることが出来た。

提供会員が「確保出来ている」という実感を得ることが難しい中、あらゆる工夫や手をつくしてその効果や手ごたえを可能な限り探りつつ、「確保出来ていない」と感じ、日々取り組みを続けているアドバイザーの努力が偲ばれた。

さらに、インターネット調査により、ファミサポを利用したことのない層からの意見も初めて知ることができた。その結果、事業の認知度が想定していた以上に低く、多くの層が事業に関心も持っていなかったことは、重く受け止めなければならない。

ヒアリング調査でも、行政や関係機関でも事業の理解が進んでいないことがわかったが、事業をレクチャーして理解してもらったところ、困難な依頼がなくなったという事例は大変印象的だった。「相互援助活動」について正しく周知して、事業を理解していただくことが必要であることがわかった。一步を踏み出して実際に活動を始めれば、会員同士が関わり合う中で信頼関係が築かれ、地域に子どもを中心としたゆるやかな人々のつながりが生まれていくことが必ず実感できるのである。

インターネット調査で指摘のあった「利用のしにくさ」「手続きのわかりにくさ」についても、事業の理解が進めば解決できる部分は多いと思われるが、利用方法や手続きの過程に改善の余地はないのか考えることも重要である。新たなやり方として、インターネットやSNS、動画、ペーパーレスなど新しいテクノロジーを活用できる可能性も検討していく時代になっているように思われる。

少子化が進み、時代が変わっていく中でも、ファミリー・サポート・センター事業は、提供会員、依頼会員それぞれにとって「必要とされる事業」でなければいけない。「相互援助活動」であるという共通の基盤の上に立ち、時代の変化にも適応しながら、柔軟にニーズに対応していく。他機関との連携の中で、他の事業ではカバーできない隙間を埋め、地域における子育て支援に関わる人々や組織をゆるやかにつなぎ、子育てを安心感をもって行える地域づくり、街づくりのために多くの人々が関わりを持てる事業として、これからも、地域の人々から必要とされ、無くてはならない事業であり続けられるよう、歩みを続けていく必要がある。

Ⅱ 今後の取り組むべき具体的な方策についての提言

第5章で示した考察および提言の内容を踏まえ、今後、取り組むべきファミリー・サポート・センター事業の方策についての提言を以下のとおり整理した。

(アドバイザーの待遇改善)

○交付金支給要件の変更

ファミリー・サポート・センター事業の運営費は、現在は会員数を基準に設定されている。しかし、センター運營業務として、会員登録説明会の開催、講習会の開催、事業の周知・広報、提供会員の確保のためのアウトリーチ活動、会報誌の発行のほか、会員数（会員規模）に関係なく必要な業務は数多く、日頃のマッチングや会員への対応等だけでも時間を要するのにもかかわらず、これらの業務をアドバイザーが1人体制でこなしているセンターが6割以上である（令和3年度アンケート調査より）。手厚い講座をし、依頼会員を増やす努力をすればするほど業務量は増えていくというジレンマに陥っている。

現在の基準のままでは業務量に見合ったアドバイザーの体制の確保が困難となるため、運営費の支給要件を全面的に見直し、アドバイザーの人員に応じた基準としていただくとともに、その前提として、専門性が必要とされるアドバイザーの配置基準を設定し、アドバイザーの待遇改善につなげていくことが求められる。

○アドバイザーの研修費の補助

アドバイザーには会員の調整役としてのコミュニケーション能力、会員の適性を見極めるコーディネート力のほか、ソーシャルワーク的な専門性が求められ、加えてセンター運営に関する交渉力やマネジメント力など、センター運営には様々な専門性が必要とされることが明らかになった一方で、養成講習や専門研修等の機会がなく、アドバイザー個人の熱意や努力に依存しているのが現状である。

そこで、ファミサポ事業のスタッフの専門性の維持・向上のために、都道府県による研修を必須化するなど、定期的な研修の機会を確保することが必要である。アドバイザーの養成費、研修費などについても運営費に含めるべきである。

(要配慮家庭への支援に関する指針)

○配慮の必要な家庭への支援に関する指針の策定

近年、活動内容が「相互援助活動」として一般の地域住民が対応できる許容範囲を超え、行政から配慮の必要な家庭への支援要請が来るなど、提供会員への精神的負担が想定される場合もある中、難しい依頼も快く引き受けてくれる一部の提供会員の善意に頼って依頼を受けているのが実情である。

そこで、要配慮家庭への支援に関する指針を確立し、ファミリー・サポート・センター事業として対応すべき支援の枠組みを明確にする必要がある。

(活動報酬の金額見直し)

○提供会員の活動報酬の補助

提供会員が受け取る報酬額に最低金額を設定することとし、各都道府県の最低賃金と同額とする(連動性)。ただし、報酬額(利用料金)は既存のままとし値上げは行わない。(依頼会員の負担増となり行うべきではないため。)

差額分は自治体から提供会員に利用補助として支給する。自治体の補助に対しては、交付金の加算を新設して対応する。

困難事例への支援に関しては、前述した要配慮家庭への支援に関する指針に沿って、支援の内容に見合った利用支援加算を増額し上乘せする。

(講習会の実施促進)

○研修の託児加算

提供会員の確保のための方策として、参加者層の拡大のために現場でも効果を上げているのが、子育て中の受講者が参加できる託児付きの講習会である。

そこで、提供会員養成講習は全て託児付き講座とし、託児の経費に関しては、交付金の加算により対応する。

○24 時間 9 項目実施の加算額を増額

提供供会員養成講習の推奨カリキュラム実施について、大規模のセンターと比べ、小規模のセンター(会員規模 500 人未満)において実施率が低かった。アドバイザーが 1 人など少ない人員体制で 24 時間 9 項目の講習を実施するには、アドバイザーへの業務負担が大きいことが理由と考えられる。

小規模センターの限られた人員でも、24 時間 9 項目の推奨カリキュラムを実施し、全国統一基準に則った講習会の実施による質の高い支援を実現する。実施にかかる経費補助として、交付金の加算額を増額する。

○オンライン開催の際の指針の策定

提供会員養成講習の実施促進のための方策のひとつとして、コロナ禍により一般的となったオンラインでの講習会の開催も認めることが妥当である。

ただし、オンラインでの講習会実施に関しては、講習の質の低下が懸念されるところであり、オンラインでの講習会開催に関しての考え方や、守るべき内容について、国において指針を策定し、講習会の質を確保する必要がある。

(送迎による提供会員不足の解消)

○送迎の代替サービスとの連携・切替促進

送迎に関する基準を明確化し(危機管理の部分も含めて)、より支援の必要性が高い依頼を優先する。その上で、安易な塾や習い事への送迎での利用や提供会員に過度の負担のかかる送迎の依頼等に関しては、必要に応じ子育てタクシー等の代替手段との連携・振分け等を行う。提供会員の確保も期待できる。

（依頼会員講習の実施促進）

○依頼会員研修会実施への加算

依頼会員の登録の際に、研修会を実施し、ファミサポ事業の「相互援助活動」として会員同士の支え合いで行う事業であることを理解してもらった上で活動に入れるようにする。

研修の内容や方式は、子育て中の依頼会員の負担を考慮し、託児付研修とし預かりの体験もできるようにしたり、子育ての相談会の要素を入れたり、父親も参加できるよう開催時間を設定したり、オンラインで実施したり、それぞれのセンターの状況を踏まえ工夫して実施する。経費に関しては、実施回数に応じて加算を付与する。

（事業の認知度向上）

○国レベルでの事業の周知・広報

事業の全国的な認知度の低さの改善策として、ファミサポの特徴である「相互援助活動」についての理解を得るために、様々な媒体や手法を用いて効果的に広報を実施する。

ファミリー・サポート・センター事業は、子育て家庭の潜在的利用ニーズに答え得る事業であり、提供会員となり得る年代層への地域の子育て支援への意識を変える可能性も持った事業であることを広く一般に周知し、事業の全国的な認知度を向上させる必要がある。

テレビ CM や新聞記事等のマスメディアによる周知・広報や、国の WEB サイトでの情報発信、事業への関心を集めるイベント等の開催、ならびに全国共通で使える広報ツールとしてポスターやパンフレット等の作成等、様々な手法や媒体を活用する。

Ⅲ ファミリー・サポート・センター事業の位置づけ及び今後の在り方

○岐路を迎えたファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センター事業は、地域における子育ての支え合いというボランティア精神を尊重した「相互援助活動」として行われてきた。子育てニーズに即した柔軟な活動が地域の子育て支援において重要性を増し、国の事業として期待され、第二種社会福祉事業として社会的責任を担う事業となった。それにより、他の保育サービスと同様に保育の質や専門性の確保が当然のように要求され市場ベースの利便性が求められるようになった。加えて、国や自治体の子育て支援制度も年々充実し、様々な支援策が打ち出され、ファミリー・サポート・センター事業を取り巻く状況は大きく変化した。

現在、事業を利用する依頼会員は年々増加し多様な背景や考え方を持つ家庭においてファミサポが利用されるようになっている。会員への調査の結果、依頼会員の満足度は高かったが、満足度の低い会員にとっては、「急な対応ができない」ことや、「サービス利用開始までの手続きが多い」、「なかなか提供会員とのマッチングができない」と不便さを感じている割合が高いことがわかり、ファミリー・サポート・センターを利用するにあたって、もっと利用者に便利に使えるようにすべき、という市場主義が持ち込まれつつあることも否定できない。

また、困難事例への対応に専門性が求められる中、一部の提供会員の善意に依存して負担の多い依頼を受けている一方で、送迎に関する活動が増え、中でも利用料金が安いという理由で安易に塾や習い事などへの定期的な送迎を依頼するケースに対応するため提供会員の確保が一層難しい状況になっているということにもつながっている。

ヒアリング調査からも、開設当初に登録した提供会員の高齢化等により、将来的な不安を抱えながら、多様な依頼に対応している現状において、相互援助活動としてのファミサポにおける支援のあり方について思いをめぐらせるアドバイザーが多く、まさに事業は「過渡期」を迎えていることがうかがえる。

また、ファミサポの認知度は低く、「子育て家庭の保護者層」と「提供会員となり得る年代層」のいずれに対しても周知があまり届いていないことが、一般に向けたインターネット調査で明らかになった。他人に子ども預けることに対して不安感・抵抗感が大きく、預けることへの一歩を踏み出せない保護者が多いこともわかった。

しかし、このような状況だからこそ、この活動が本来持っている、同じ地域住民同士が子育てを支え合い、互いの関わりの中で信頼関係を築き、地域のつながりをゆるやかに再生していくことの意義は大変重要であると言える。今の時代にこそファミリー・サポート・センターの潜在的ニーズは大きい。これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業が担うべき支援の可能性について、更なる議論が必要である。

<センター(自治体)で取り組むことができる現場での活動の工夫例>

区分	工夫例	内容
提供会員の確保	提供会員優遇制度の創設	・提供会員パスポート（各種割引や公共施設の優待利用等）の発行などの優遇制度の創設 ・提供会員の名刺の作成等のオリジナルノベルティグッズの作成 ・既存会員からの紹介制度の創設（何らかのインセンティブ制度を設ける）
認知度の向上	ファミサポデーの創設 キャンペーン事業の展開	認知度向上のために創設し、関連イベントを各センターで実施 ・表彰制度(Best 提供会員、Best ペア等) ・体験談の募集・会報誌等での掲載 各メディアで取り上げてもらい、PRする
周知・広報の強化	周知・広報ツールの整備	自治体全国または都道府県の共通ポスター、パンフ、リーフ、カード型PRツール、動画等を作成、活用
	ドキュメンタリードラマ制作	ドキュメンタリードラマ制作・放映。地域のケーブルTV、動画サイト等で公開
	SNSの活用	各種SNSを使ってファミサポの事業紹介、講習会案内、活動紹介等
体制強化	リクルーター専用スタッフの配置	アドバイザーとは別の「リクルータースタッフ（人材確保のために動く職員）」を配置
提供会員の確保 (他組織との協力体制)	こども・保育関連学部のある大学との連携	保育士等を目指す学生とその背後の保護者をターゲットにし、提供会員になってもらう。
	地域の企業とのタイアップ	地域の企業のCSRとして地域の子育て支援に協力 ①従業員にファミサポを紹介する、②交流会に参加する、③補助金を出し提供会員の報酬等に充てる。
	自治体との連携(足元の取組)	小さいエリアでの広報の実施に関する町内会、自治会との協力 ・町内会での人材の紹介依頼　・役員への働きかけ ・回覧板等でのチラシ掲載
講習会の実施	提供会員の養成講座の必須項目の拡充	子どもの発達の理解、子育て家庭への理解、コロナ禍を経て変化した子育て家庭の実態等多様なニーズを取り入れ必須項目を増やす。
	講習会の内容のHPでの周知	講習会の内容をセンターHPで周知し、提供会員がどのような講座を受けてサポートにあたっているのかも周知する。
	講習会の合同実施、他センターの受講者受け入れ体制の推進	小規模センターの講習会の事務局負担の軽減、会員の受講機会の拡大
送迎の補償	自動車専用保険の加入・費用補助	移動専用自動車保険の加入により、自家用車を使った送迎の賠償責任保険による補償の適用（費用を自治体が補助）
手続き改善	手続きのシステム化、DX化	登録申込書、活動報告書等ドキュメントのデジタル化、手続きのオンライン化、DX化
困難事例の連携体制	要対協の枠組みの中での情報共有	関係機関との連携の際の個人情報保護

おわりに

ファミリー・サポート・センター事業についての調査研究も2年目を迎えることとなった。アンケート調査結果をクロス集計やインターネット調査を用いての認知度調査を実施したことで、これまでとは違った角度からこの事業を検証することができた。

インターネット調査では、想定以上に事業の認知度が低いことに改めて現実の厳しさを感じた。ヒアリング調査では、それぞれの地域の中で独自の進化を遂げ、同じ事業とは思えないほど個性豊かなさまざまなセンターの姿を知り、この事業の懐の深さを感じた。

まさに、新たな発見の連続であった。

なかでも、インターネット調査は、「子どもを預ける側」と「子どもを預かる側」それぞれを対象としたが、特に、「子どもを預ける側」の、「他人に子どもを預ける」ことに対する不安感・抵抗感が想像以上に多かったことに驚いた。「信頼できないから預けない」という意見も多くみられた。子どもを預けることへのハードルを越えられず、子育ての負担やストレスを一人で抱え込む母親が依然として多いことが調査結果からもうかがえた。

その一方で、対照的だったのがヒアリング調査での会員の方々の話である。提供会員と依頼会員、多くが初対面から始まり、継続的ななかかわりの中で少しずつ距離を縮めていった。今や提供会員の存在が依頼会員の精神的な支えとなり、親子にとってかけがえのない存在となっている様子が温かな記憶とともに今でも思い出される。

ファミリー・サポート・センター事業の認知度が上がり、地域の人々が地域の子どもを見守るこのしくみがもっと活用されることが望まれる。

児童福祉法等一部改正により家庭支援の充実が図られ、第二種社会福祉事業も数多く創設されている。そして、この4月からは、こども家庭庁が発足する。国の政策の大きな転換期を迎え、様々な新施策が打ち出される中、ファミリー・サポート・センター事業の存在意義が問われることになると思われる。

この事業が地域の子育ての支え合いの活動であるという特質を踏まえ、子育て支援事業に普遍的な役割とファミリー・サポート・センター事業に固有の役割とを整理し、過度の期待にならないよう、かつ、ファミリー・サポート・センター事業が持つ固有の役割・機能を大切にしたい充実策について検討し、国、自治体、センターそれぞれの役割に応じた方策を講じていくことが求められる。

最後に、長かったコロナ禍も一区切りを迎えるというところ、インターネット調査に回答くださった皆様、お忙しい中ヒアリング調査で現場での取組を聴かせてくださったアドバイザーの皆様、活動中の会員として貴重なお話をいただいた会員の皆様、今年度も助成いただいた厚生労働省のご担当者の皆様、そして、令和3年度に続き、ご指導・ご示唆いただいた柏女霊峰委員をはじめとする検討委員の皆様方、今回の調査に関わってくださったすべての方々に対し、心より感謝の意を申し上げます。

卷末資料

I 調查票

ファミリーサポートセンターに関する認知度調査

■調査目的 ファミリーサポートセンターを実態把握。
地域で子育てを支援しているファミリーサポートセンターの利用率・認知率を測り今後会員数を増やすための研究材料としてデータを活用する。

■調査対象者 性別： 男女
年齢： 10～70代
地域： 全国
その他： 1）依頼会員となり得る子育て家庭の保護者
・未子年齢が小学校低学年以下の子どものいる保護者
2）提供会員となり得る方提供会員世代
・10代～70代の男女

■スクリーニング

全員回答

F1 SA あなたの性別をお答えください。
(お答えは1つ)

☐ 1	男性
☐ 2	女性

F2 NUM あなたの年齢をお答えください。
(お答えは半角数字で)

	歳	※半角数字のみ	※9歳以下、80歳以上は調査終了
----------------------	---	---------	------------------

F3 SA あなたのお住まいの地域をお答えください。
(お答えは1つ)

	▼ブルダウン
1	北海道・東北
2	北海道・東北
3	北海道・東北
4	北海道・東北
5	北海道・東北
6	北海道・東北
7	北海道・東北
8	関東・甲信越
9	関東・甲信越
10	関東・甲信越
11	関東・甲信越
12	関東・甲信越
13	関東・甲信越
14	関東・甲信越
15	関東・甲信越
16	中国・北陸・四国
17	中国・北陸・四国
18	中国・北陸・四国
19	関東・甲信越
20	関東・甲信越
21	東海・近畿
22	東海・近畿
23	東海・近畿
24	東海・近畿
25	東海・近畿
26	東海・近畿
27	東海・近畿
28	東海・近畿
29	東海・近畿
30	東海・近畿
31	中国・北陸・四国
32	中国・北陸・四国
33	中国・北陸・四国
34	中国・北陸・四国
35	中国・北陸・四国
36	中国・北陸・四国
37	中国・北陸・四国
38	中国・北陸・四国
39	中国・北陸・四国
40	九州・沖縄
41	九州・沖縄
42	九州・沖縄
43	九州・沖縄
44	九州・沖縄
45	九州・沖縄
46	九州・沖縄
47	九州・沖縄
48	海外

巻末資料 I 調査票 インターネット調査調査票

全員回答

[改ページ](#)

SC1 SA あなたの現在の配偶者の有無をお答えください。
(お答えは1つ)

○1	有り
○2	無し

全員回答

[改ページ](#)

SC2 SA あなたは子育てをした経験がありますか。
(お答えは1つ)

○1	有り
○2	無し

全員回答

[改ページ](#)

SC3 SA あなたのお子様の年齢をお答えください。
(お答えは1つ)
※お子様が2名以上いる方は、末子の年齢をお答えください。

○1	0歳未満（第1子妊娠中）
○2	0歳
○3	1歳
○4	2歳
○5	3歳
○6	4歳
○7	5歳
○8	6歳
○9	7歳
○10	8歳
○11	9歳
○12	10歳以上
○13	現在子どもはいない

回答者：SC3=2～12 「子供がいる※妊娠中は含めない」

[改ページ](#)

SC4 SA あなたのお子様の人数をお答えください。
(お答えは1つ)

○1	1人
○2	2人
○3	3人
○4	4人
○5	5人
○6	6人
○7	7人以上

全員回答

[改ページ](#)

SC5 SA あなたの職業をお答えください。
(お答えは1つ)

○1	無職
○2	正社員・正規職員
○3	派遣社員
○4	請負社員
○5	自営業主、自由業者
○6	パート・アルバイト
○7	内職
○8	家族従事者
○9	経営者、役員
○10	その他（具体的に)

全員回答

[改ページ](#)

SC6 SA あなたのご家庭の世帯年収をお答えください。
(お答えは1つ)

○1	100万円未満
○2	100万円～200万円未満
○3	200万円～300万円未満
○4	300万円～400万円未満
○5	400万円～500万円未満
○6	500万円～600万円未満
○7	600万円～700万円未満
○8	700万円～800万円未満
○9	800万円～900万円未満
○10	900万円～1,000万円未満
○11	1,000万円以上
○12	わからない

■本調査
[全員回答](#) [改ページ](#)

Q1 SA あなたは、「ファミリー・サポート・センター事業」を知っていますか。
 (お答えは1つ)

※ファミサポの概要の資料提示

☐ 1	知っている
☐ 2	知らない
☐ 3	聞いたことはある程度で内容については知らない

回答者：Q1=1 (ファミリー・サポート・センターを知っている方)

[改ページ](#)

Q2 MA ファミリー・サポート・センターを「知っている」とお答えした方にお聞きます。
 事業を知ったきっかけは何からでしたか。以下の選択肢からあてはまるものすべてを選んでください。
 (お答えはいくつでも)

☐ 1	市町村の広報
☐ 2	子育て関連施設、子育てイベント等
☐ 3	学校関係での広報
☐ 4	公共施設や公的な行事での広報
☐ 5	民間施設での広報（商業施設等）
☐ 6	口コミ
☐ 7	ホームページ、SNS
☐ 8	その他（ ）

回答者：割付1 & Q1=1 (SC3=○1～11、かつ、ファミリー・サポート・センターを知っている方)

[改ページ](#)

Q3 SA ファミリー・サポート・センターを「知っている」とお答えした方にお聞きます。
 あなたはファミリー・サポート・センターの依頼会員（子どもを預ける会員）として登録していますか。
 (お答えは1つ)

☐ 1	会員として登録しており、預かり・送迎などをしてもらったことがある
☐ 2	会員として登録しているが、預かり・送迎などの依頼をしたことはない
☐ 3	会員として過去に登録していたが、やめてしまった（退会した）
☐ 4	会員として登録していない

回答者：割付2 & Q1=1 (F2=10～79andSC3=○12～13、かつ、ファミリー・サポート・センターを知っている方)

[改ページ](#)

Q4 SA ファミリー・サポート・センターを「知っている」とお答えした方にお聞きます。
 あなたはファミリー・サポート・センターの提供会員（子どもを預かる会員）として登録していますか。
 (お答えは1つ)

☐ 1	会員として登録しており、援助活動を行ったことがある
☐ 2	会員として登録しているが、援助活動を行ったことはない
☐ 3	会員として過去に登録していたが、やめてしまった（退会した）
☐ 4	会員として登録していない

回答者：割付1 & Q3=1～3 (SC3=○1～11、かつ、依頼会員として登録している方)

[改ページ](#)

Q5 MA ファミリー・サポート・センターの「会員として登録しており、預かり・送迎などをしてもらったことがある」
 または「会員として登録しているが、預かり・送迎などの依頼をしたことはない」または「会員として過去に登録していたが、やめてしまった（退会した）」
 を選んだ方にお聞きます。
 会員として登録した理由は何ですか。以下の選択肢からあてはまるものすべてを選んでください。
 (お答えはいくつでも)

☐ 1	利用料金が安いから
☐ 2	同じ地域の住民が預かってくれるから（地域住民同士の支え合いだから）
☐ 3	行政が案内するため信頼できるから
☐ 4	他に利用できるサービスがないから
☐ 5	友人に教えてもらったから
☐ 6	子どもを地域とのかかわりの中で育てたいから
☐ 7	サービスの仕組みが整っているから
☐ 8	その他（ ）

回答者：割付2 & Q4=1~2 (F2=10~79andSC3=○12~13、かつ、提供会員として登録している方)

[改ページ](#)

Q6 MA ファミリー・サポート・センターの「会員として登録しており、援助活動を行ったことがある」または「会員として登録しているが、援助活動を行ったことはない」を選んだ方にお聞きします。
会員として登録した理由は何ですか。以下の選択肢からあてはまるものすべてを選んでください。
(お答えはいくつでも)

☐ 1	困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから
☐ 2	楽しそう、子どもが好きだから
☐ 3	子育て経験が活かせるから
☐ 4	子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから
☐ 5	時間に余裕ができたから
☐ 6	地域や社会に恩返しをしたいから
☐ 7	児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから
☐ 8	その他（ ）

回答者：割付1 & Q3=2~4 (SC3=1~11、かつ、依頼会員として登録していない方)

[改ページ](#)

Q7 MA ファミリー・サポート・センターの「会員として登録していない」または「会員として登録しているが、預かり・送迎などの依頼をしたことはない」または「会員として過去に登録していたが、やめてしまった（退会した）」とお答えした方にお聞きします。
会員として登録していない、やめてしまった理由、または会員として登録しているが支援の依頼をしない理由は何ですか。以下の選択肢からあてはまるものすべてを選んでください。
(お答えはいくつでも)

☐ 1	利用料金が高いから
☐ 2	同じ地域の住民に預けたくないから
☐ 3	行政が案内する支援だが信頼できないから
☐ 4	他に利用できるサービスがあるから
☐ 5	子どもを地域とのかかわりの中で育てたいとは思わないから
☐ 6	サービスの仕組みが整っていないから
☐ 7	使いにくそうだから
☐ 8	他人に子どもを預けることに抵抗があるから
☐ 9	家族が反対したから
☐ 10	新型コロナウイルス感染症の感染の恐れがあったから
☐ 11	依頼する必要がなかったから
☐ 12	その他（ ）

回答者：割付2 & Q4=2~4 (F2=10~79andSC3=○12~13、かつ、提供会員として登録していない方)

[改ページ](#)

Q8 MA ファミリー・サポート・センターの「会員として登録していない」または「会員として登録しているが、援助活動を行ったことはない」または「会員として過去に登録していたが、やめてしまった（退会した）」とお答えした方にお聞きします。
会員として登録していない、やめてしまった理由、または会員として登録しているが援助活動を行わない理由は何ですか。以下の選択肢からあてはまるものすべてを選んでください。
(お答えはいくつでも)

☐ 1	活動に興味が無いから
☐ 2	時間が無いから
☐ 3	報酬が安いから
☐ 4	何か問題があったときの責任が重すぎるから
☐ 5	家族の理解が得られないから
☐ 6	研修が負担だから
☐ 7	同じ地域の人と関わりたくないから
☐ 8	家族が反対したから
☐ 9	新型コロナウイルス感染症の感染の恐れがあったから
☐ 10	活動の依頼がなかったから
☐ 11	その他（ ）

回答者：割付1 (SC3=1~11)

[改ページ](#)

Q9 SA あなたは、これまで、ご自身のお子さんを預かってほしいと思ったことはありますか。
(お答えは1つ)

☐ 1	ある
☐ 2	ない

回答者：Q9=1 (預かってほしいと思ったことがある)

[改ページ](#)

Q10 SA お子さんを預かってほしい場合、あなたは何を重視していますか。
一番重視する要素について、以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選んでください。
(お答えは1つ)
※妊娠中の方は、将来子供が生まれた後を想定してお答えください。

☐ 1	利用料金が安いこと
☐ 2	預かってくれる人が信頼できること
☐ 3	預かってくれる人が専門資格を持っていること
☐ 4	利用しやすいこと、手続きがわかりやすいこと
☐ 5	預かってほしい時、いつでもすぐに預けられる
☐ 6	事故・トラブルがあった時に補償制度などがあること
☐ 7	公的なサービスであること
☐ 8	サービスがどのようなものかを知る説明の場が身近にあること
☐ 9	預かってもらうことに家族の理解があること
☐ 10	その他（ ）

回答者：Q9=1（預かってほしいと思ったことがある）

[改ページ](#)

Q11 MASA あなたは、ご自身のお子さんを預かってほしい場合、どのようにしていますか。おこなったことのあるものを選択肢からすべて選んでください。（縦回答）
MT （お答えはいくつでも）
また、最もつかうものをひとつ選んでください。
（お答えは1つ）
※妊娠中の方は、将来子供が生まれた後にどのようなものを利用/経験しそうかでお答えください。

		Q11_1	Q11_2
		と お の こ あ な つ か う も の こ	の 最 も つ か う も
	※Q11_1でONのある項目のみQ11_2に選択可		
1	祖父母に預かってもらう	☐ 1	☐ 1
2	祖父母以外の親族に預かってもらう	☐ 2	☐ 2
3	近所の住民の方に預かってもらう	☐ 3	☐ 3
4	友人・知人に預かってもらったり、預け合ったりする	☐ 4	☐ 4
5	公的な支援サービスを利用する	☐ 5	☐ 5
6	民間のサービス（ベビーシッター等）を利用する	☐ 6	☐ 6
7	預かり先がみつからなかった（自分で子どもをみた）	☐ 7	☐ 7
8	その他（ ）	☐ 8	☐ 8

回答者：割付2（F2=10～79andSC3=○12～13）

[改ページ](#)

Q12 SA あなたは、これまでに、子育て支援の活動等を行ったことがありますか。
以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選んでください。
（お答えは1つ）

☐ 1	子育て支援の活動を行ったことがあり、現在も活動している
☐ 2	子育て支援の活動を行ったことがあるが、現在は活動していない
☐ 3	子育て支援の活動を行ったことがないが、関心は持っている
☐ 4	子育て支援の活動を行ったことがないし、関心もない

回答者：割付2（F2=10～79andSC3=○12～13）

[改ページ](#)

Q13 SA あなたは、子育てを地域の住民同士が助け合う子育て支援の活動について、その必要性を感じますか。
以下の選択肢からあてはまるものをひとつ選んでください。
（お答えは1つ）

☐ 1	必要だと思っている
☐ 2	ある程度必要だと思う
☐ 3	あまり必要だと思わない
☐ 4	必要だと思わない

全員回答

[改ページ](#)

Q14 MA 「ファミリー・サポート・センター事業」について、あなたが受ける印象を教えてください。
以下の選択肢からあてはまるものをすべて選んでください。
（お答えはいくつでも）

※ファミサポの概要の資料提示

☐ 1	報酬が高い
☐ 2	報酬が安い
☐ 3	利用料金が安い
☐ 4	利用料金が高い
☐ 5	信頼できる
☐ 6	信頼できない
☐ 7	専門性が高い
☐ 8	専門性が低い
☐ 9	利用しやすい
☐ 10	利用しにくい
☐ 11	手続きがわかりやすい
☐ 12	手続きがわかりにくい
☐ 13	その他（ ）

全員回答

[改ページ](#)

Q15 FA 「ファミリー・サポート・センター事業」に求めることや期待することはどのようなことでしょうか。自由にお書きください。
（お答えは具体的に）

※ファミサポの概要の資料提示

必須

令和4年9月吉日

ファミリー・サポート・センター ご担当者様

一般財団法人 女性労働協会
会長 岩田 三代
(公 印 省 略)

令和4年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業
**子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究**
「ファミリー・サポート・センターヒアリング調査」に関するご協力のご依頼

皆様におかれましては、日頃より協会事業にご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記調査研究を行うこととなりました。ご多忙中のところ誠に恐縮に存じますが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

本調査では、特徴的、効果的な取組を行っているファミリー・サポート・センターや連携機関等に対するヒアリングを行わせていただき、地域における子育て支援事業を一層充実していく参考にさせていただきたいと考えております。

具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等につきましては、別紙に記載しておりますので、ご参照いただきますと幸いです。

何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

記

(添付資料)

- ・別紙①「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査の概要
- ・別紙②同意書
- ・別紙③同意撤回書

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、野崎、角納
〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8 階
TEL : 03-3456-4410
Email : w-women2a@jaaww.or.jp

(別紙①)

「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査概要

1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本調査研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、アンケート調査及びヒアリング調査の実施を通じてファミリー・サポート・センター事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し、今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業として計画・実施しているものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上でご協力いただければ幸いです。

この研究は、立正大学倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。しかし、近年、他の子育て支援事業が充実するにつれ、ボランティアな「地域住民同士の支え合い」の活動範囲を超え、専門性や他機関との連携体制が求められる依頼も少なくありません。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や配慮の必要な子育て家庭への対応方法等について、事業の認知度調査（別途実施）やヒアリング調査により、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後のファミリー・サポート・センター事業の充実向上に寄与する成果としたいと考えています。

3. ヒアリング調査の対象と調査方法

(1) 調査対象として選定された理由

本調査研究事業の検討委員会において、令和3年度に実施したアンケート調査結果より、提供会員の確保ができている、提供会員数が増加した、提供会員の活動割合が高い等の回答結果を得られたセンターとして、貴センターを選定させていただきました。

アドバイザー様にヒアリングさせていただければと存じます。

(2) 調査方法

オンライン（zoom）による面接。

ZOOM アドレスは、別途メールにてお送りさせていただきます。

※ZOOM の入室に関してはパスコードを記載し、プライバシーに配慮した環境で実施するようにいたします。

(3)ヒアリング調査の日程

●年●月●日（●曜日）●時から●時まで 所要時間：2 時間以内

(4)ヒアリング担当者(予定)

検討委員会委員

東内瑠里子（日本福祉大学）、藤高直之（立正大学）、東根ちよ（大阪府立大学）

ファミリー・サポート・センターアドバイザーの委員 2～3 名程度

事務局

小林恭子（一般財団法人 女性労働協会）ほか 2～3 名程度

(5)ヒアリング内容

提供会員の確保や困難事例への対応等において、他センターへの参考事例となるような好事例として、特色ある取組の内実をヒアリングし、提供会員の確保のための対策を講じるための課題を抽出するとともにファミリー・サポート・センター事業運営において活用可能な対応策について整理し、事業の特性を踏まえた対応策を整理したいと考えております。

【ヒアリング項目】

< 1 センター基本情報 >

< 2 提供会員の確保について >

- ・提供会員の確保のために実施した内容、工夫点
- ・今後の確保のための改善点と改善策
- ・ファミリー・サポート・センター事業を行うにあたり、提供会員をどう位置付けているか（会員とのコミュニケーション、会員同士の交流、信頼関係を築くための工夫等）

< 3 困難事例への対応について >

- ・困難事例の対応のための体制、連携先
- ・困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点
- ・ファミサポ事業において配慮が必要な家庭にどう対応していくか

< 4 センターの特色ある取組について > センターごとに個別の質問

< 5 今後の事業のあり方について >

4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本研究の実施に当たっては、厚生労働省子ども子育て支援課の許可を得て実施しております。ヒアリング調査の実施にあたりましては貴重なお時間を頂戴しますが、調査の主旨をご理解いただきますようお願いいたします。また、報告書作成のため、ヒアリング実施中に録画・録音等を

させていきたいと考えております。

本調査の参加にご同意いただける場合は、別紙②の同意書にご記入いただき、「6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先」に記載の調査担当までメールまたは同封の返信用封筒にてお送りくださいますようお願い申し上げます。

なお、別紙③の同意撤回書によって、いつでもこれを撤回することができます。撤回によって、あなたさまの不利益になるようなことは一切ありません。

また、ここで得た個人情報に関しては、女性労働協会において厳重に保管し、調査研究報告での公開にあたっては、公開前に許可をいただくとともに、匿名化するなどによって個人情報の保護に努めます。

本研究で得ました情報に関しては、本研究のためだけに使用します。使用後は機密文書として保管し、廃棄をします。研究計画書及び研究の方法に関する資料への情報公開をご希望の方は、女性労働協会へ連絡をいただくと閲覧することができます。

5. 本研究事業にかかる情報公開について

ここで得た情報をもとに、アンケート調査票の分析と合わせて、現場で活用可能な対応策の好事例集を作成いたします。好事例集は、女性労働同協会のサイトでの公開を予定しております。また日本子ども家庭福祉学会（案）、日本保育学会（案）などで学会発表、ならびに論文執筆を行う予定です。

6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、野崎、角納

〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8 階

TEL：03-3456-4410

Email：w-women2a@jaaww.or.jp

ヒアリング調査参加の同意書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査に関する以上の事項につ
いて説明を受けました。研究の目的、方法等について理解し、研究に参加いたします。

参加者（署名） _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

(別紙③)

ヒアリング調査参加の同意撤回書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査への参加の同意を撤回い
たします。

参加者（署名） _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

令和4年9月吉日

ファミリー・サポート・センター及び子育て支援機関ご担当者様

一般財団法人 女性労働協会
会長 岩田三代
(公印省略)

令和4年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業
**子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究
「ファミリー・サポート・センターヒアリング調査」に関するご協力のご依頼**

皆様におかれましては、日頃より協会事業にご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記調査研究を行うこととなりました。ご多忙中のところ誠に恐縮に存じますが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

本調査では、特徴的、効果的な取組を行っているファミリー・サポート・センターや連携機関等に対するヒアリングを行わせていただき、地域における子育て支援事業を一層充実していく参考にさせていただきたいと考えております。

具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等につきましては、別紙に記載しております。ご参照いただき、ご協力くださいますようお願い致します。

何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

記

(添付資料)

- ・別紙①「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査の概要
- ・別紙②同意書
- ・別紙③同意撤回書

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、野崎、角納

〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8 階

TEL : 03-3456-4410

Email : w-women2a@jaaww.or.jp

(別紙①)

**「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員
の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査概要**

1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本調査研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、アンケート調査及びヒアリング調査の実施を通じてファミリー・サポート・センター事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し、今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業として計画・実施しているものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上でご協力いただければ幸いです。

この研究は、立正大学倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。しかし、近年、他の子育て支援事業が充実するにつれ、配慮が必要な家庭への対応等、ボランティアな「地域住民同士の支え合い」の活動範囲を超え、専門性や他機関との連携体制が求められる依頼も少なくありません。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や配慮の必要な子育て家庭への対応方法等について、事業の認知度調査（別途実施）やヒアリング調査により、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後のファミリー・サポート・センター事業の充実向上に寄与する成果としていと考えています。

3. ヒアリング調査の対象と調査方法

(2) 調査対象として選定された理由

本調査研究事業の検討委員会において、令和3年度調査結果や女性労働協会独自調査等より、ファミリー・サポート・センターと関係機関連携を効果的に展開していると思われる事例として、貴センター及び貴機関を選定させていただきました。

つきましては、貴センターアドバイザー様及び貴機関ご担当者様にヒアリングをさせていただければと存じます。

(2)調査方法

オンライン（zoom）による面接。

ZOOM アドレスは、別途メールにてお送りさせていただきます。

※ZOOM の入室に関してはパスコードを記載し、プライバシーに配慮した環境で実施するようにいたします。

(3)ヒアリング調査の日程

●年●月●日（●曜日）●時から●時まで 所要時間：2 時間以内

(4)ヒアリング担当者(予定)

検討委員会委員

東内瑠里子（日本福祉大学）、藤高直之（立正大学）、東根ちよ（大阪府立大学）

ファミリー・サポート・センターアドバイザーの委員 2～3 名程度

事務局

小林恭子（一般財団法人 女性労働協会）ほか 2～3 名程度

(5)ヒアリング内容

他センターへの参考事例となるような好事例として、ファミサポと関係機関の連携において、先進的な取組の内実をヒアリングし、ファミリー・サポート・センター事業運営において活用可能な対応策について整理し、事業の特性を踏まえた取組方策を整理したいと考えております。

【ヒアリング項目】

< 1 センター及び関連機関基本情報 >

< 2 連携の現状・効果について >

- ・連携が必要となった背景
- ・連携の内容、役割分担
- ・うまく対応できた事例
- ・連携の効果

< 3 連携における問題点・課題 >

- ・連携にあたって問題となったこと、課題

< 4 センターの特色ある取組について >

< 5 今後の連携のあり方について >

4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本研究の実施に当たっては、厚生労働省子ども子育て支援課の許可を得て実施しております。ヒアリング調査の実施にあたりましては貴重なお時間を頂戴しますが、調査の主旨をご理解いた

できますようお願いいたします。また、報告書作成のため、ヒアリング実施中に録画・録音等をさせていきたいと考えております。

本調査の参加にご同意いただける場合は、別紙②の同意書にご記入いただき、「6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先」に記載の調査担当までメールまたは同封の返信用封筒にてお送りくださいますようお願い申し上げます。

なお、別紙③の同意撤回書によって、いつでもこれを撤回することができます。撤回によって、あなたさまの不利益になるようなことは一切ありません。

また、ここで得た個人情報に関しては、女性労働協会において厳重に保管し、調査研究報告での公開にあたっては、公開前に許可をいただくとともに、匿名化するなどによって個人情報の保護に努めます。

本研究で得ました情報に関しては、本研究のためだけに使用します。使用後は機密文書として保管し、廃棄をします。研究計画書及び研究の方法に関する資料への情報公開をご希望の方は、女性労働協会へ連絡をいただくと閲覧することができます。

5. 本研究事業にかかる情報公開について

ここで得た情報をもとに、アンケート調査票の分析と合わせて、現場で活用可能な対応策の好事例集を作成いたします。好事例集は、女性労働同協会のサイトでの公開を予定しております。また日本子ども家庭福祉学会（案）、日本保育学会（案）などで学会発表、ならびに論文執筆を行う予定です。

6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、野崎、齊藤、角納

〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8 階

TEL：03-3456-4410

Email：w-women2a@jaaww.or.jp

(別紙②)

ヒアリング調査参加の同意書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査に関する以上の事項につ
いて説明を受けました。研究の目的、方法等について理解し、研究に参加いたします。

参加者（署名） _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

(別紙③)

ヒアリング調査参加の同意撤回書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査への参加の同意を撤回い
たします。

参加者（署名） _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

令和4年9月吉日

ファミリー・サポート・センターご担当者様

一般財団法人 女性労働協会
会長 岩田 三代
(公 印 省 略)

令和4年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業
**子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究**
「ファミリー・サポート・センターヒアリング調査」に関するご協力のご依頼

皆様におかれましては、日頃より協会事業にご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記調査研究を行うこととなりました。ご多忙中のところ誠に恐縮に存じますが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

本調査では、特徴的、効果的な取組を行っているファミリー・サポート・センターや連携機関、会員様等に対するヒアリングを行わせていただき、地域における子育て支援事業を一層充実していく参考にさせていただきたいと考えております。

具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等につきましては、別紙に記載しておりますので、ご参照いただけますと幸いです。

何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

記

(添付資料)

- ・別紙①「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査の概要
- ・別紙②同意書
- ・別紙③同意撤回書

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、野崎、角納

〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8 階

TEL : 03-3456-4410

Email : w-women2a@jaaww.or.jp

(別紙①)

「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査概要

1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本調査研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、アンケート調査及びヒアリング調査の実施を通じてファミリー・サポート・センター事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し、今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業として計画・実施しているものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上でご協力いただければ幸いです。

この研究は、立正大学倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。しかし、近年、他の子育て支援事業が充実するにつれ、ボランティアな「地域住民同士の支え合い」の活動範囲を超え、専門性が求められる依頼も少なくありません。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保等の対応方法等について、事業の認知度調査（別途実施）やヒアリング調査により、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後のファミリー・サポート・センター事業の充実向上に寄与する成果としたいと考えています。

3. ヒアリング調査の対象と調査方法

(3) 調査対象として選定された理由

本調査研究事業の検討委員会において、アドバイザーの検討委員よりご推薦いただき、貴センターのアドバイザー様及び積極的に事業に携わっていただいている会員の方々（提供会員、依頼会員、両方会員）に、活動の実際をお教えいただくために選定させていただきました。

(2) 調査方法

オンライン（zoom）による面接。

ZOOM アドレスは、別途メールにてお送りさせていただきます。

※ZOOM の入室にはパスコードを記載し、プライバシーに配慮した環境で実施します。

(3)ヒアリング調査の日程

●年●月●日（●曜日）●時から●時まで 所要時間：2 時間以内

(4)ヒアリング担当者(予定)

検討委員会委員

東内瑠里子（日本福祉大学）、藤高直之（立正大学）、東根ちよ（大阪府立大学）

ファミリー・サポート・センターアドバイザーの委員 2～3 名程度

事務局

小林恭子（一般財団法人 女性労働協会）ほか 2～3 名程度

(5)ヒアリング内容

会員様自身がファミリー・サポートの活動についてどう捉えていらっしゃるのか等において、他センターへの参考事例となるような好事例として、お話を伺い、ファミリー・サポート・センター事業運営において活用可能な対応策について整理し、事業の特性を踏まえた対応策を整理したいと考えております。

【ヒアリング項目】

< 1 センター基本情報 >

< 2 活動を通じて思うこと >

< 提供会員様向け >

- ・ 会員基本情報
- ・ 提供会員になった動機
- ・ 活動内容
- ・ 活動を通じて得たこと、会員として思うこと

< 依頼会員様向け >

- ・ 会員基本情報
- ・ 依頼会員になった動機
- ・ 依頼内容
- ・ 活動を通じて得たこと、会員として思うこと

< 両方会員様向け >

- ・ 会員基本情報
- ・ 両方会員になった動機
- ・ 活動内容（提供会員として）
- ・ 依頼内容（依頼会員として）
- ・ 活動を通じて得たこと、会員として思うこと

< 3 個別質問 > 各会員様ごとにお答えいただいた内容をもとに質問

< 4 ファミサポ事業について望むこと >

< 5 アドバイザーからみるセンターと会員との関係性 > アドバイザー様への質問

4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本研究の実施に当たっては、厚生労働省子ども子育て支援課の許可を得て実施しております。ヒアリング調査の実施にあたりましては貴重なお時間を頂戴しますが、調査の主旨をご理解いただきますようお願いいたします。また、報告書作成のため、ヒアリング実施中に録画・録音等をさせていきたいと考えております。

本調査の参加にご同意いただける場合は、別紙②の同意書にご記入いただき、「6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先」に記載の調査担当までメールまたは同封の返信用封筒にてお送りくださいますようお願い申し上げます。

なお、別紙③の同意撤回書によって、いつでもこれを撤回することができます。撤回によって、あなたさまの不利益になるようなことは一切ありません。

また、ここで得た個人情報に関しては、女性労働協会において厳重に保管し、調査研究報告での公開にあたっては、公開前に許可をいただくとともに、匿名化するなどによって個人情報の保護に努めます。

本研究で得ました情報に関しては、本研究のためだけに使用します。使用後は機密文書として保管し、廃棄をします。研究計画書及び研究の方法に関する資料への情報公開をご希望の方は、女性労働協会へ連絡をいただくと閲覧することができます。

5. 本研究事業にかかる情報公開について

ここで得た情報をもとに、アンケート調査票の分析と合わせて、現場で活用可能な対応策の好事例集を作成いたします。好事例集は、女性労働同協会のサイトでの公開を予定しております。また日本子ども家庭福祉学会（案）、日本保育学会（案）などで学会発表、ならびに論文執筆を行う予定です。

6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、野崎、角納

〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8 階

TEL : 0 3 - 3 4 5 6 - 4 4 1 0

Email : w-women2a@jaaww.or.jp

ヒアリング調査参加の同意書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査に関する以上の事項につ
いて説明を受けました。研究の目的、方法等について理解し、研究に参加いたします。

参加者（署名） _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

(別紙③)

ヒアリング調査参加の同意撤回書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究」ヒアリング調査への参加の同意を撤回い
たします。

参加者（署名） _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

令和4年度厚生労働省子ども・子育て支援調査研究事業
「ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の確保方策等に関する調査研究事業」ヒアリング調査 ヒアリングシート

(1)提供会員の確保・困難家庭への対応

実施日：令和 年 月 日 () 時間 : ~
調査員：

ヒアリングシート		
<1> センター概要		
センター名： アドバイザー 氏名： (事前に基本情報を記載)		
・運営方法： 設立年：		
・会員数 男性： 人 女性： 人 計： 人 (提供会員： 人 依頼会員： 人 両方会員： 人)		
・年間活動件数： 件		
・講習会：		
・会員の更新：		
・利用補助：		
・その他特記事項：		
ヒアリング内容		回答
番号	項目	設問
<2> 提供会員の確保について		
1	確保のために実施した内容、工夫点	①提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施されましたか。 ・広報の工夫 ・アウトリーチの工夫 ・講習会の工夫 等 ②どのような点を工夫されましたか。 ③上記の取り組み苦勞されたことはありますか。どのように対応しましたか。
2	確保を実現できたポイント	結果を出すために重要となったポイントはどのような点ですか。
3	今後の確保のための改善点と改善策	今後の目標や目指すところ、取り組みたいことはありますか。
4	事業を行うにあたっての提供会員の位置づけ	会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えていますか。 ・理想とする姿 ・会員とのコミュニケーション ・会員同士の交流 ・信頼関係を築くための工夫等
<3> 困難事例への対応		
1	困難事例の対応のための体制、連携先	①関係機関と連携を取っていますか。取っている場合は、どのような機関と連携をとっていますか。 ②連携のために工夫している点はありますか。
2	困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点	①実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について、可能な範囲で状況をお教えてください。 ②適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったと考えていますか。どのような体制や対応をすればうまくできると考えますか。
3	困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方	①困難事例に対して、ファミサポ事業としてどのように考え、また対応をしていけばいいと考えますか。 ②配慮が必要な家庭に対して、ファミサポ事業としてどのように考え、また対応をしていけばいいと考えますか。
<4> 特色ある取組について(質問例)		
1	特色ある取組について	センターの特色を踏まえて深掘りしてお聞きます。
<5>ファミサポの事業のあり方について		
1	ファミサポの事業のあり方	これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援が求められ、どのような支援を行っていく必要があると思いますか。事業のあり方についてのお考えをお聞かせください。

令和4年度厚生労働省子ども・子育て支援調査研究事業
「ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の確保方策等に関する調査研究事業」ヒアリング調査 ヒアリングシート

(2)他機関との連携について

実施日： 令和 年 月 日 () 時間 : ~ :
調査員：

ヒアリングシート			
<1> センター及び関連機関基本情報			
センター名：			
アドバイザー 氏名：			
(事前に基本情報を記載)			
・運営方法： 設立年：			
・会員数 男性： 人 女性： 人 計： 人 (提供会員： 人 依頼会員： 人 両方会員： 人)			
・年間活動件数： 件			
・講習会：			
・会員の更新：			
・利用補助：			
・その他特記事項：			
連携機関名：			
(事前に基本情報を記載)			
・運営方法： 設立年：			
・連携年数・頻度等：			
・その他特記事項：			
当日は、以下の項目を中心にヒアリングをさせていただければと存じます。また、連携の取り組みがわかる資料等ありましたらご準備いただければ幸いです。			
ヒアリング内容			回答
番号	項目	設問	
<2>連携の現状・効果について ※主にセンターのアドバイザーがご答えいただき、必要に応じて連携機関の方もお答えください。			
1	連携が必要となった背景	どういったことが問題・課題となり連携することになったのか、その経緯を教えてください。 ①何が問題・課題だったのか ②連携までの経緯	① ②
2	連携の内容、役割分担	①連携の内容について具体的に教えてください。 ②ファミリー・サポート・センター、連携先機関、それぞれの役割をどういったものでしたか。	① ②
3	うまく対応できた事例、連携効果	①実際に対応した連携事例で適切な対応ができたと思う活動について、可能な範囲で状況をお教えてください。 ②適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったと考えていますか。どのような体制や対応をすればうまくできると考えますか。	① ②
4	今後の確保のための改善点と改善策	今後の目標や目指すところ、取り組みたいことはありますか。	
<3>連携における問題点・課題			
1	連携にあたっての問題点、課題	①ファミサポの事業と他機関との連携を行う上で、問題となったことや課題があれば教えてください。またその対応方法についても教えてください。 ②今後のスムーズな連携に向けてのご要望をお聞かせください。	① ②
<4>特色ある取組について(質問例)			
1	特色ある取組について	センターの特色を踏まえて、特に連携機関の方についてお話を聞かせていただけます。	
<5>ファミサポの事業のあり方について			
1	ファミサポの事業のあり方	これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援・連携が求められ、どのような支援・連携を行っていく必要があると思いますか。事業のあり方についてのお考えをお聞かせください。	

令和4年度厚生労働省子ども・子育て支援調査研究事業
「ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の確保方策等に関する調査研究事業」ヒアリング調査 ヒアリングシート

(3) 会員向け調査 <依頼会員向け>

実施日： 令和 年 月 日（ ） 時間 : ~
調査員：

ヒアリングシート		
<1> 基本情報		
センター名： 依頼会員ご氏名： （事前に基本情報を記載） ・会員登録年数： 年 ・依頼件数：年間 約 件 月 約 件 ・お子さんの年齢： ・兄弟の有無：		
ヒアリング内容		
番号	項目	設問
<2> 活動を通じて思うこと		
1	依頼会員になった動機	①依頼会員になった動機・きっかけをお教えてください。 ②ファミサポを知ったきっかけについて具体的に教えてください。また会員登録までの経緯について具体的に教えてください。
2	ファミサポの活動について	①具体的な利用内容と援助に対してどのように感じているか教えてください。 ②実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について、可能な範囲でその内容についてお教えてください。 ③①、②の活動を踏まえて、依頼会員として、ファミサポの活動を通して得たことがあれば、具体的にお教えてください。 ④今後は、ファミサポをどのように利用したいですか。ご自由にご意見をお聞かせください。
<3> 個別質問		
1	特色ある活動内容について	（興味深い発言をしていただいた方に、さらに具体的にお話を聞き取ります。）
<4> ファミサポについて望むこと		
1	ファミサポの事業のあり方	これからのファミリー・サポート・センター事業について依頼会員のお立場から、お考えやご要望などを自由にお聞かせください。
<5> アドバイザーへの質問		
1	アドバイザーからみるセンターと会員との関係性	自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

令和4年度厚生労働省子ども・子育て支援調査研究事業
「ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の確保方策等に関する調査研究事業」ヒアリング調査 ヒアリングシート

(3)会員向け調査 <提供会員向け>

実施日：令和 年 月 日 () 時間 : ~
調査員：

ヒアリングシート		
<1> 基本情報 センター名： 提供会員ご氏名： (事前に基本情報を記載) ・会員登録年数(活動年数)： 年 ・活動件数：年間 約 件 月 約 件		
ヒアリング内容		回答
番号	項目	
<2> 活動を通じて思うこと		
1	提供会員になった動機	①提供会員になった動機・きっかけをお教えください。 ②ファミサポを知ったきっかけについて具体的に教えてください。また会員登録までの経緯について具体的に教えてください。 提供会員を増やすためには、何が重要だと考えますか。ご経験をおとに教えてください。
2	ファミサポの活動について	①具体的な活動内容とその活動をどのように感じているか教えてください。様々な活動をされている場合には、最も件数の多い活動について教えてください。 ②実際に援助活動をする中で印象的な活動について、可能な範囲で活動内容についてお教えください。 ③①、②やその他の活動等、提供会員として、ファミサポの活動を通して得たことがあれば、具体的に教えてください。 ④今後、提供会員として、どのように活動していきたいとお考えですか。ご自由にご意見をお聞かせください。
<3> 個別質問		
1	特色ある活動内容について	(興味深い発言をしていただいた方に、さらに具体的にお話を聞き取ります。)
<4> ファミサポについて望むこと		
1	ファミサポの事業のあり方	これからのファミリー・サポート・センター事業について提供会員のお立場から、お考えやご要望などを自由にお聞かせください。
<5> アドバイザーへの質問		
1	アドバイザーからみるセンターと会員との関係性	自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

令和4年度厚生労働省子ども・子育て支援調査研究事業
「ファミリー・サポート・センター事業における提供会員の確保方策等に関する調査研究事業」ヒアリング調査 ヒアリングシート

(3)会員向け調査 <両方会員向け>

実施日：令和 年 月 日 () 時間 : ~
調査員：

ヒアリングシート		
<1> 基本情報 センター名： 両方会員ご氏名： (事前に基本情報を記載) ・提供会員登録年数(活動)： 年 件 ・提供会員活動件数：年間 約 月 約 件 ・依頼会員登録年数： 年 件 ・依頼件数：年間 約 月 約 件 ・お子さんの年齢： ・兄弟の有無：		
ヒアリング内容		回答
番号	項目	設問
<2> 活動を通じて思うこと		
1	両方会員になった動機	①両方会員になった動機・きっかけをお教えてください。 ②ファミサポを知ったきっかけについて具体的に教えてください。また会員登録までの経緯について具体的に教えてください。 ・提供会員・依頼会員どちらに先に登録したのか ・その後、両方会員として登録したきっかけと経緯について ・提供会員を増やすためには、何が重要だと思いますか。
2	ファミサポの活動について <提供会員として>	①具体的な活動内容とその活動をどのように感じているか教えてください。様々な活動をされている場合には、最も件数の多い活動について教えてください。 ②実際に援助活動をする中で印象的な活動について、可能な範囲で活動内容についてお教えてください。 ③
3	ファミサポの活動について <依頼会員として>	①具体的な依頼内容と援助に対してどのように感じているか教えてください。 ②実際に依頼をして援助を受ける中で印象的な活動について、可能な範囲でその内容についてお教えてください。 ③
4	ファミサポの活動について <両方会員として>	①両方会員として、提供・依頼 両方の立場を経験した中で、活動を通して得たことがあれば、具体的にお教えてください。 ②今後、両方会員として、どのような活動を望まれますか。依頼会員、提供会員、それぞれの会員の立場からご自由にご意見をお聞かせください。
<3> 個別質問		
1	特色ある活動内容について	(興味深い発言をしていただいた方に、さらに具体的にお話を聞き取ります。)
<4>ファミサポについて望むこと		
1		これからのファミリー・サポート・センター事業について両方会員のお立場から、お考えやご要望などを自由にお聞かせください。
<5>アドバイザーへの質問		
1		自センターの会員の方々と、センターとしてどのような関係性を築いていらっしゃいますか。また、提供会員の確保のために、会員に協力いただいていることがありますか。

Ⅱ センター向け事例紹介

1. はなまきファミリー・サポート・センター

(直営：花巻市)

アドバイザーと会員間の信頼関係は丁寧なコミュニケーションにより生まれる

平成13年設立。花巻市のこども課で運営している「こどもセンター」の中にあり、保護者とお子さんが遊びにくる場所でもある。人柄が温かく、楽しんで援助活動をしてくださる提供会員が多く、ファミサポの支えになっている。

◆ 提供会員の確保について

確保のために実施した内容・工夫点

■ 全戸配布の市の広報と会報紙で広報

- ・提供会員確保のために、花巻市全員の家庭に配られる市の広報で周知を行う。
- ・ファミサポ会員向けの会報紙の中でも、会員募集を必ず掲載。

■ 一人ひとりへの丁寧な声かけと丁寧な説明、対面でのコミュニケーションを大事に

- ・アドバイザーやサブリーダーが、「この方はもしかしたら会員になってくれるかもしれない」と思えば、一人ひとりに声かけ
- ・子どもが小学校を卒業する依頼会員などに、提供会員への移行を電話や手紙で一人ひとりをお願い
- ・提供会員になる方のご自宅は、必ず訪問
来所が難しい場合には、アドバイザーが直接自宅に申込書を届けたり、登録の説明を行っている。
- ・両方会員の登録希望はあるが、まだ自分の子供が小さくて不安があると感じる方には、援助ができるようになってから協力していただければ大丈夫との説明、会員登録への協力をお願いした。
- ・提供会員への登録を希望される方には、本事業のねらいやあり方について、丁寧に説明。
- 同じ習い事に通っている友達同士の会員であれば、両方会員として登録を変更していただき、お互いが協力し合うことを提案

確保を実現できたポイント

■ 草の根的な、一对一のコミュニケーションが、もっとも登録に結び付いている

まだ援助会員になっていない方に、「こういう送迎の依頼があるのだが」という具体的な活動のイメージを提示して、援助会員になってもらうなど、個人的な声掛けを大事にしている。

提供会員との関係で重要視していること

■ 一番は会員とのコミュニケーション

お互いの信頼関係を築くことによって、スムーズな援助活動の調整ができる。会員とアドバイザー間の信頼関係があることによって、問題解決につながることもある。報告書を受け取る時等も日常的な会話をしながら、コミュニケーションをとるよう心がけている。

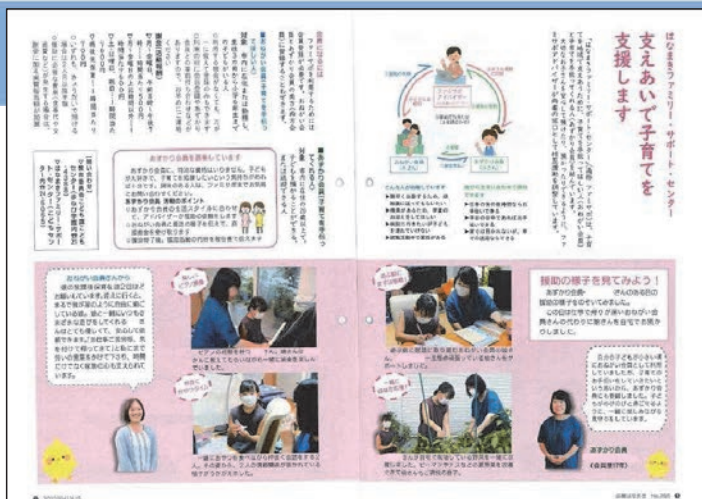
今後の展望

■ 登録していただいた方に援助の依頼を結びつけることが重要

提供会員に登録していただいたが、援助がないまま時間がたってしまうと会員のモチベーションが下がってしまうと感じている。できればすぐに援助活動に結び付けられるよう調整していく必要がある。

■ 公共の場所での預かりを体験

閉鎖的なところでの預かりが不安だという依頼会員や援助会員もいる。コロナの影響でまだ実現していないが、市のこどもセンター内など、公の施設を利用して預かりを行っていただくなどの工夫を検討している。



◆ 困難事例への対応

対応事例・配慮した点

事例 1. 障がい児の子育てで困り感がある家庭の事例。ケース検討会議を行っており、そのケース検討会議の対象になっていた。

- ・金銭問題は福祉課、障がいに関しては養育センターの先生が担当するなど、様々な担当部署が力を合わせてケース検討会議を進めてきた。
- ・ケース検討会議が終了した後も、定期的にファミサポ利用の状況を情報共有するなど、アフターフォローができています。
- ・このようなケースの場合は、依頼会員から依頼がなくとも、「最近困っていることはないか」など、ニーズの掘り起こしも行うようにしている。また、提供会員の話から、依頼会員の困り感をお聞きすることにつながることもある。その際、提供会員と依頼会員の間をとりもつように、アドバイザーが間に入っている。

困難事例への向き合い方

◆アドバイザーが一人で抱え込まず、会員と丁寧にコミュニケーションをとる

アドバイザーが一人で抱え込まずやっていくことが大切。困難事例を引き受ける基準はないが、アドバイザーも提供会員も、特別な資格を持っているわけではないので、常に、他機関と連携することや、提供会員の特性を把握し、会員とコミュニケーションを図るとともに、困難なケースに対応できるか、丁寧に検討している。

困難な事例だから、援助を行わない、という基準を持つのではなく、上司や保健センターなど各機関に、まずは相談することを大切にしている。

努力をしても援助がうまくつなげないケースもあるが、大切なことは、丁寧にコミュニケーションをとることだと考えている。

センターデータ

所在地	岩手県花巻市		
自治体人口	92,158人		
設立年	平成13年度		
運営方法	直営：花巻市		
会員数	843人	うち提供会員数	210人
活動件数	1,439件		

活動件数トップ3

1位	習い事等の場合の援助
2位	学童保育の迎え及び帰宅後の預かり
3位	保育園・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

2. おおだファミリーサポートセンター

(委託：社会福祉法人大田保育センター)

保育園のネットワークと環境を最大限に活用できる強みのあるセンター

大田市内最大の保育園の運営母体がファミサポを受託している。提供会員の多くが保育の有資格者である。豊富な保育経験と保育園とのつながりの中で保育園の施設の一部を利用するなどして地域の子育てをサポートしている。

◆ 提供会員の確保について

確保のために実施した内容・工夫点

- 保育園を2園運営する社会福祉法人が受託、保育園のつながりから周知
 - ・委託を受けた段階では会員が十数名ほどであったが、まず同法人の保育士が提供会員に登録。
 - ・市内の認可保育園15園ほどにファミサポ事業の説明をし、保育園の関係からも周知してもらった。
 - ・一生懸命に声掛けしたところ、園長退職者やその配偶者などの登録があり1～2年目に提供会員が増えた。
 - ・その後は民生委員協議会や人とのつながりにより、年数名の提供会員登録がある。
- 市の広報・市子育て情報に掲載
 - ・年1回市の広報で活動紹介、月1回大田市子育て情報に掲載し、保育園、図書館、小児科などに配布

確保を実現できたポイント

- 保育園を運営する社会福祉法人が委託を受けており、センターの事務所が保育園内にあるという環境や保育関係者のネットワークが活かされている。
- 小さいまちであるため、人のつながりも強い
 - ・園長を退職した先生などが次々と登録
「老後は地域に少しは役立つことをしたい」と民生委員をしたりということがあり、そういう方々が次々と登録してくれた。
 - ・「自分でもよかったら」と男性が提供会員に登録
実際に支援の際に、「冬雪が降るとこの地域に行くのは大変」というような愚痴をこぼしたら、「自分でもよかったら、雪道の運転は慣れているけど、不審者に思われるかな」などと言われたので、「男性也大歓迎だ」と話したところ、提供会員になってくださった。

提供会員との関係で重要視していること

- 保育園の一角に入るセンターの事務所内に、かつて一時預かりとして使用していた部屋があり、提供会員の活動を行うために利用している。大田市の中心部に位置し、利用会員もアクセスしやすい。同場所で活動を行う際にはアドバイザーが関わる機会を設け、提供会員に安心してもらえるようにしている。
- 新規の利用の際にはアドバイザーが送迎や預かりを経験し、提供会員が援助活動を行う際のアドバイスにつなげる

今後の展望

最初のファミサポ立ち上げの時点で保育園に周知しているため、そこから困っている保護者を見たら、その園長が「ファミサポを利用したらどうだ」と声掛けするケースもたくさんある。



◆ 困難事例への対応

対応事例・配慮した点

事例 1 子どもの預かりについて、市では当初小学生までを対象としていたが、支援の必要なお子さんを持つ保護者から中学生になっても利用したいという要望があった際、すぐに担当課と相談を行い、全ての児童が中学卒業まで利用できるようにした事例

大田市では生後6か月から小学校6年生卒業までが該当児なのだが、5年生から利用してきたお子さんが6年生になったときに、なにかあったときの不安をおかあさんが漏らされた。母一人子一人の家庭でもあり、アドバイザーが大田市の担当課に相談した。担当課がすぐに動いて県内の状況を調べ、中学3年までを該当児としている市郡もあることがわかったので、大田市では今年度すぐに該当を全ての児童に対して中学卒業までとした。

配慮した点：配慮の必要な子どもの預かりには、障害者施設に勤める提供会員の方をできるだけマッチングしたり配慮している。困難を抱える家庭ほど家庭に立ち入ってほしくないと思われるため、あまり踏み込まない付き合いが良いと考えている。

事例 2 情報が十分でないまま、保健センターにつながるケースがある。市の保健師から急に3歳児の預かりを依頼された。夕方保育園から預かり場所で2時間程度ということだったが、保育園に、お迎えの予定ではないおかあさんが来られた。

子どもさんはもう一人の提供会員にお願いして、おかあさんに話を聞いたところ、「遠くに行くから最後に顔を見に来た」と涙を流しながら言う。「でもおかあさんの顔を見たら、子どもはおかあさんが迎えに来たと思うから」と説得し、窓越しに子どもさんの元気に遊ぶ顔を見てもらって帰した。その後でおばあさんが迎えに来られて、その家庭が配慮が必要な家庭であるということを聞いた。提供会員が気がつかなければあやうく本来のお迎えではない人に渡してしまうところであった。

配慮した点：保健師の紹介できたケースなのだから、配慮が必要な部分があると事前に少しでも情報共有をしてくれていれば、もっと心構えをもって対応できたのだということを示し入れた。保健師は困っている家庭の場合、なんとか預かってほしいと頼んでくる。しかし情報が共有されないことは活動に不都合な場合もあるように思う。

ファミサポ事業のあり方

■委託であっても、行政が手放しでお願いするのではなく連携を取ることが必要であり、公的機関とのつながりが、提供会員が安心して活動できることにつながると考える。

■ 安易なネット検索で安価な一時預かりとして利用されようとする利用会員もいるため、本当に必要な人に届いているかということが気になる。提供会員のボランティア精神がつながる援助活動を行っていくということがポイントだと思う。

センターデータ

所在地	島根県大田市		
自治体人口	39,235人		
設立年	平成20年度		
運営方法	委託：社会福祉法人大田保育センター		
会員数	142人	うち提供会員数	69人
活動件数	202件		

活動件数トップ ³	
1位	学校下校時から自宅までの送迎
2位	自宅から保育施設までの送迎
3位	学校、幼稚園、保育所の休みの時の預かり・送迎など

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
 会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

3. 美浦村ファミリー・サポート・センター

(直営：美浦村健康増進課)

地域の中で様々な活動をされている方々の、そのつながりの中にファミサポも存在

美浦村は、紫峰筑波山を望む霞ヶ浦南岸に位置し、競走馬の里として名高いJRA美浦トレーニング・センターなどがある、自然と歴史が豊かな村である。子育てに限らず、それぞれの方の得意分野を活かして活動してもらえるように工夫している。ファミサポ、保健師、子育て包括、児童福祉、虐待の部署が同じ部署にあり、子どもに関しての相談場所が1か所に集約されているため行政直営ならではのスピード感のある連携ができるのが強み。

◆ 提供会員の確保について

確保のために実施した内容・工夫点

■ 村内のあらゆる場所にチラシを配付

- ・ ホームページや広報誌、それから地域の貼れる場所、スーパー、学校、コンビニ、公共施設、村内にある病院、保育所、幼稚園、児童館、公園の掲示板等、とにかくありとあらゆるところに貼らせていただいた

■ 小さい自治体の強みを生かして、ネットワークを駆使

- ・ 保育士有資格者や子どもの預かり経験のある方等にまずお話を聞いた。
「いい人いませんか？困ってるんです。誰か紹介してください」と、いろいろなところに行ってお話を聞いて回った。
- ・ ボランティア団体の会議や民生委員の会議等に参加
「こういう事業だが、今こういった案件の人が足りない」ということで、お話を聞いて回った。

個別に対応したケースに反応があり、人づてに紹介されて来てくださる方の方が、実際に動いてくれるような形で対応していただいている。事業自体を知ってもらう機会としては、紙のチラシ類やHPは有効な手段で必要だと考えている。

確保を実現できたポイント

■ 提供会員の不安を聞き取り、軽減する工夫

- ・ 具体的なニーズの形でお伝え
一般の方は、子どもを預かるにあたってどうしても不安が大きいので安心して活動してもらうために「夕方の送迎の仕事」とか、「保育所が終わった後の、お母さんが帰るまでの時間をおうちで見ていてほしい」、など具体的に依頼内容を伝えている
- ・ 実際に他の方がやってもらっているのを見ていただく
- ・ 支援センターの方に来ていただいてお子さんたちと触れ合う時間を多く作る

提供会員との関係で重要視していること

コロナ前までは、子育て支援センターの企画を手伝ってもらいながら提供会員に集ってもらい交流の機会を作っていた。例えば、夏祭りの準備等を通して交流をもらって、なおかつ利用してもらうようなお母さんたち（依頼会員）にも接していただいて、利用のためのPRにさせてもらっている。

今後の展望

- 今活動している提供会員の方たちに、疲弊しないで長く続けてもらえるように、よく観察をして上手に調整をしていきたいと考えている。
- 「楽しく、やりがいのある活動」ということを今後もPRを強化していきたい。
- 地域の多様な人材を、子育てに限らず、国際交流や読み聞かせ等、自分の強みを発揮できる、それぞれの強みを生かしていただけるような活動だということで強くPRをして、うまく人材を生かしていけるような場でありたいと思っている。

4. 川俣町ファミリー・サポート・センター

(補助：特定非営利活動法人コミュニティチャバたけ)

子育て家庭の困りごとに365日対応をモットーに活動し続ける

もともとは緊急サポートネットワークのモデル事業の頃の平成19年から開始。ファミサポ事業に加え、高齢者支援、ママサロン、介護・生活支援訪問型サービス事業など、町の困り事全般に対応する形で活動してきた。また福島震災後は一時避難地域になり、避難してきた家族を様々なサポートした。

◆ 提供会員の確保について

確保のために実施した内容・工夫点

- 定期的な講習会の開催
 - ・ 他市町と連携して9項目・24時間講習の年度内の受講修了を目指す
川俣町で24時間講習を満たせない際は二本松市や本宮市の講習会に参加してもらい、可能な限りその年度内で受講を修了してもらえるようにしている。
 - ・ 開催時間帯の工夫で若い世代も参加しやすく（特に5-6歳のお子さんをもつ母親が受けられるような時間帯）
 - ・ 講習会の内容の充実
町の専門職（幼稚園教諭、保育士、栄養士、保健師、子育て支援課など）にも講師を依頼。
- 通信の発行、HP掲載、町の広報誌で全戸配布
 - ・ 年1回「ファミサポ通信」（ファミサポの活動や研修会、利用の様子などが分かる内容）の発行、ホームページに掲載、町の広報誌に折り込んでもらい全戸配布。
 - ・ 各小中学校、幼稚園、保育園、関連施設の窓口にも配布

確保を実現できたポイント

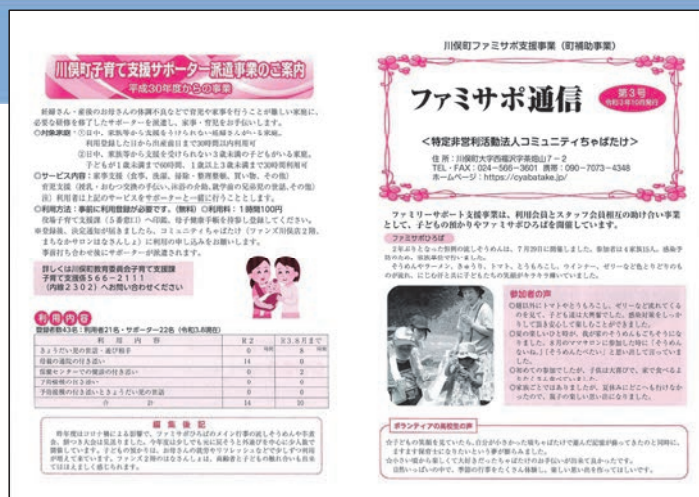
- 講習会の開催方法を工夫し若い世代の提供会員を増やす
 - ・ お子さんの託児を無料で実施
若い世代の提供会員が講習会を受けやすくするため。講習会を受講するという選択肢が広がっているように感じる。
- 講習会修了者が活動できるような働きかけ
 - ・ 講習会修了者のうち、実際に提供会員に登録し活動を行える人は2割ぐらいであるため、関心をもって修了された修了者への働きかけが課題。

提供会員との関係で重要視していること

- 活動前後のワンコール
提供会員は、家を出る前など活動に入る際に必ず事務所にワンコールを行うことにしている。ワンコールを受けた事務所も、「お願いします」という気持ちで対応する。活動を終えた際にも、「終わりました」という連絡を携帯電話を利用して行うことで、提供会員とアドバイザーのつながりを感じられると思っている。
- 「365日対応」がモットー
1台の携帯電話をアドバイザー2名、理事長、副理事長、役員の5人で、常に誰かが対応できるようにしている。

今後の展望

- 提供会員からの口コミによる働きかけの活用
講習会の内容などを理解したうえで声かけいただけるため、口コミで来られるかたは大切にしたい。
- 交流会の開催で体験の場を提供
利用会員と提供会員の交流を図るために「ファミサポひろば」という交流会を開催、餅つき大会や流しそうめんなどの体験を提供している。
- ニーズの増加を受けての公共スペースでの預かり
センター事務所が入る建物内のほか、「川俣町子どもの屋内運動場」内にある「ファミサポのへや」での預かりを実施。



◆ 困難事例への対応

対応事例・配慮した点

事例 1. 支援学校に通学しているお子さんの送迎援助を長期間実施。

川俣町から福島市の支援学校までの22キロの距離の送迎を5年くらいにわたって行った。高校に入ってから支援学校のバス通学になったが、付き添う形で援助を継続している。今は高校3年くらいで、支援学校のバスが町の方でできるようになったため、そちらは介助員としてサポートしている。

発達障害を抱えるお子さんの預かりについては、慣れるまでの間、提供会員とアドバイザーの二人体制で対応を行った。長時間になる預かりの場合には、前半と後半を別の提供会員に依頼するなどして、ひとりの提供会員に負担が偏らないようにしている。このような預かりの場合には、保護者を含めた話し合いを常に行い、状況を把握しながら提供会員任せにならないように対応している。

困難事例への向き合い方

ファミサポ事業にとって、お母さんの支援が大切であると考えている。これまで事故等は生じていないが、困難な事例の程度によっては、子育て支援課などの行政に相談しながら進める必要があると思っている。

特色ある取組

■ 震災のとき、たくさんの支援の申し出をいただいた中でずっと続いたのが鍼灸師さんだった。小児鍼で子どものストレスとか、夜泣きとかお母さんたちのストレス解消に効果が絶大で、隔月で4～5人の鍼灸師さんが来てくれてそれを4～5年にわたり続けてくれた。地域のおかあさん、子どもさんに大変喜ばれた。

■ 小さな町で発展してきたNPO法人が、他の事業とあわせてファミサポの補助金を受けている。地域のいろいろな困ったということに対応して活動が広がってきた。地域の子育て家庭が頼れる先として貴重な存在になっている。

ファミサポ事業のあり方

いろいろな形での預かりが増えており、最近は短時間の「ちょい預かり」のような形も多くなっている。また、NPO法人ちゃばだけでは、子育て支援サポーターの派遣事業や高齢者支援も行っており、ヤングケアラーの家庭への対応などファミサポの枠にとどまらない包括的なニーズへの対応の必要性を感じる。ファミサポとのすみ分けは行なっているが、ファミサポを取り巻く社会情勢の変化も感じている。

センターデータ

所在地	福島県川俣町		
自治体人口	11,720人		
設立案	平成19年度		
運営方法	補助：特定非営利活動法人コミュニティちゃばけ		
会員数	161人	うち提供会員数	71人
活動件数	508件		

活動件数トップ3	
1位	保護者の就労（短期・臨時・求職活動等）の場合の預かり・送迎など
2位	保護者の病気、急用等の場合の預かり・送迎など
3位	保護者のリフレッシュ・習い事等の預かり

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

5. 高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島

(補助：NPO法人元気な仲間)

子育てだけでなく、高齢で困っている方も、みんなで「順繰りで支え合う」相互援助活動

ファミサポ事業以前に生活の様々な相互支援を行うNPOの活動があり、そこにあった預かり支援が抜き出された形でファミサポができたというユニークな形態。子育てだけでなく、高齢で困っている人も、みんなで「順繰りで支えあう」という理念のもとに生活支援などの地域の困り事を解決していくことを目指している。

◆ 提供会員の確保について

確保のために実施した内容・工夫点

- NPO法人元気な仲間が運営する生活支援有償ボランティア事業の「たすけあい高島」の活動がまずあり、そこにあった子どもの預かり支援が抜き出された特殊な形態。NPOの会員も力を発揮している。
 - ・たすけあい高島の会員からファミサポ事業の会員に移行したり、NPOとファミサポ事業の両方の会員になって、臨機応変にサポートして下さる方もいる。
- 会員交流会を兼ねた取り組み「PLUS♥HOME CAFE」を実施
 - ・毎月第2土曜日に会員さんが気軽に来られるイベント、FAMISAPO PLUS♥HOMEを開催してきた。2022年7月からNPOのイベントとしてPLUS♥HOME CAFEを開催し、イベント&CAFEを実施している。実家のような居心地のいい空間を作って、そこに子育て中の方にもどろんどろん子どもを連れて遊びに来てもらう取り組み。ワークショップや講座、会員交流会を合体して行っている。
- スタンプカードで養成講座受講の進捗の見える化と講座内容の工夫
 - ・9項目24時間を修了するまで、参加したらスタンプを押し、達成感が見える化。
 - ・参加したくなる講座の作り方を工夫
 - 「安全」の項目でも、リスクマネジメントの観点で考えると、例えばチャイルドシートの講座、心肺蘇生、ヒヤリ・ハット、防災の講座など、盛りだくさんで準備。

確保を実現できたポイント

- InstagramやTwitterなどのSNSの活用
 - ・公式LINEで、講座の広報。
 - ・案内チラシ等でインパクトのあるキャッチコピー（例えば「ご飯男子を育てる」など）の講座チラシを送る努力。
 - ・ときにはダイレクトにLINEで、参加してほしい会員に講座のお知らせの連絡を入れる。
- 講座を個性的で楽しい内容に工夫
 - ・連続でなくとも、興味をもって参加してくれる人が増え、結果的に受講率上昇につながる。
- 年代ごとにアプローチの方法を変える、発信する内容も受け手のことをよく考えて効果的な方法で工夫する
 - ・50代、60代、70代の方は電話で誘う。
 - ・20代、30代の若い方は、SNSでインパクトのあるビジュアルで引付けるチラシで発信する。
- くるくる市（子ども用品をリユースするイベント）に参加
 - ・ファミサポ事業を認知してもらい、会員となる方も増えている。
- NPOの拠点を預かり場所として利用
 - ・すぐに預かりをすることができるようになり、活動につながりやすくなった。
- SNSができる方とできない方、それぞれに向けた広報の工夫を継続

提供会員との関係で重要視していること

「大家族」のイメージで活動を行っている。提供会員も、依頼会員も、サービスの提供者、受益者というよりも、「順繰りで支えあう」大家族として仲良くやっていきたい。その大家族の輪の中に、アドバイザーや、事務局がある、というイメージがある。講座の講師（看護師）の方も、わが子を連れてきて、ご自分のお子さんの発熱体験や病気の時の処置の事などを困ったことや失敗談もお母さん目線でリアルにお話してくださいました。米粉のパンの講師は、パンを焼きながらアレルギー対応の話をして下さる。このような食べる系の講座は大人気である。講師の子ども様子も温かく見守りあいながら、ファミサポに関わる人すべてが、支えあ関係づくりを大事にしている。提供会員同士も、部活動のようなイメージで、「次はクラフトの講座をしよう」など、相互にかかわりあって、楽しんでくれている。



◆ 困難事例への対応

対応事例・配慮した点

事例 1. 生活保護世帯の方で、お母さんが交通事故に遭われて怪我をされ、車も破損。地方なので車がないと保育園に送迎できないため、半年ほどほぼ毎日朝夕の送迎などの支援を継続した事例。

会員に募ると、事情をざっくりと聞いた段階で「やりましょうか」という感じで支援してくれる会員が何人か集まった。毎日のことなので、提供会員を何人もお願いして、チャイルドシートをくるくる市で調達した分と会員さんに呼びかけして借用させてもらった分で 5 個位確保し提供会員に貸し出して、支えていった。

・活動費に関しては子育て支援課が補助した。（生活保護世帯の場合は市が 1 回 4 時間まで全額補助）

困難事例への向き合い方

■ 基本的に、「困っていること」について垣根はないので、可能な限り、すべてを支えようと思っている。諸事情を聞いていなくても「そんなに困っているなら、行ってあげたらいい」という感じでやってくださる会員の方が多い。ただ、個人情報の共有はできないので、支援をしていて、だんだんと状況がわかってきて、先に聞いておけばよかった、ということがある。状況によっては、重いケースについては、アドバイザーや事務局メンバーだけで、対応することもある。

■ 困難ケースであればあるほど、マッチングについて悩む。しかし、提供会員は、子育て経験者が多く、アドバイザーが思う以上に、度量の大きい人が多く、関係を深めていってくださる。アドバイザーの方が教えられることが多い。

■ 経済的に困難な家庭は、行政からの補助がある。提供会員は、依頼会員の個人情報を知らなくても、「困ったケースに対してみんなで助けるのが当たり前」という気持ちで、支えてくれる。

ファミサポ事業のあり方

■ ファミサポだけで、地域の困りごとが解決するわけではない。たすけあい高島の生活支援や、あるいはいろいろな地域の団体と一緒に、トータルに支えていく必要がある。行政のいろいろな部署や機関、団体や人々と連携して、地域全体で支えあう構造を作っていきたいと思っている。

■ 困難なケースになればなるほど、個人情報の共有があれば、もう少し丁寧に支援ができたのと思う時もある。一般市民に個人情報を共有できないというジレンマもある。この点は、課題だと感じる。「困っていること」については、なんでも助けたいが、助けることが本当に親子のためになるのか、あるいは、そんなことは考えずに、書類が整っているの、親子のためにならないと思って支援を続ければいいのか、この両極で悩むことがある。

センターデータ

所在地	滋賀県高島市	
自治体人口	46,629人	
設立年	平成25年度	
運営方法	補助：NPO法人元気な仲間	
会員数	639人	うち提供会員数 245人
活動件数	445件	

活動件数トップ3

1位	保護者の病気、急用等の場合の預かり・送迎など
2位	保護者の就労（短期・臨時・求職活動等）の場合の預かり・送迎など
3位	その他（イベント参加時の預かり）

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

6. 新宿区ファミリー・サポート・センター

(委託：新宿区社会福祉協議会)

大都市でも地域の中でつながって支え合う東京のおばあちゃんのような存在に

首都圏にあり、会員数3,000人を超える大規模センターであるが、区内の町会連合会への働きかけなどきめ細かく周知・広報活動を行っている。相互援助活動は会員双方の思いやりと感謝の気持ちの上に成り立つということを理念とし、アドバイザーは提供会員が充実感をもって活動に参加できるように気持ちに寄り添って、なんでも相談できるセンターであることを大切にしている。

◆ 提供会員の確保について

確保のために実施した内容・工夫点

- 新宿区の広報に年3回、利用会員の登録説明会、提供会員の講習会を一緒に掲載
 - ・区および町会の掲示板へのチラシ掲示のほか、区施設に所管課を通じてチラシを掲示。
- 区内10ブロックの町会連合会の会合に、社協の地区担当職員とともにアドバイザーが参加し事業の周知
 - ・時期は提供会員講習前の5月。
- 区内6か所にある社協のボランティアコーナー職員にファミサポの説明を行い、ボランティア希望者に紹介
 - ・職員が直接話をすることで人柄も把握したうえで活動を紹介するため、効果があると感じる。

確保を実現できたポイント

- 電話による提供会員の掘り起こし
 - ・講習会修了後の活動につながっていない方や、活動を休止している提供会員に、現状確認の電話かけを実施。現在のアドバイザーから改めてお伝えできるとともに、提供会員との距離が近くなるように思う。
- 事前打ち合わせの立ち合い
 - ・久しぶりに活動を行う提供会員に対しては、差し支えなければ事前打ち合わせに立ち会わせてほしいと声掛け。

提供会員との関係で重要視していること

- 提供会員の不安解消と依頼会員への橋渡し
 - ・毎月の報告書を送付いただく際、不安や想いを記入されていることがある。そのような場合、提供会員に電話をし、直接話すようにしている。提供会員の不安を解消したり、依頼会員に伝えづらいことがあれば、アドバイザーから伝えたり、と橋渡しすることを心がけている。
 - ・提供会員向けのステップアップ研修の際に、雑談などのなかで想いをお伺いする。
 - ・事前打ち合わせの立ち合い
 - 難しい依頼の場合にはベテランの提供会員でも立ち会うようにしている。
 - ベテランの提供会員であっても、様子をお互いに確認する機会は大切であると感じる。

今後の展望

- 区内の提供会員の少ない地域での提供会員の確保
- 提供会員の現況確認
 - ・過去2年間行えていなかった現況確認の用紙を提供会員に配布
 - ・新たに活動できる状況や日々の活動で感じる不安など、提供会員の想いを汲み取っていく。

ファミサポ事業のあり方

- 地域のなかでの相互援助活動ということを大切に、伝えていきたい
登録時には安価なベビーシッターであるという認識で来られる保護者もおられるため、そうではないということを丁寧に伝えるようにしている。ファミサポありきで習い事を始められる依頼会員には、あくまでもファミサポは家庭のできない部分を補完するものであるという点を伝えていかなければならないと感じる。
- 提供会員が充実感をもって活動できるように、提供会員の気持ちに寄り添い、相互援助活動という点を大切にしたい
コロナ禍において紙面交流を目的としたアンケートを行ったところ、地域のなかで会員同士がつながり、提供会員と地域の祖父母のような信頼関係が築かれている例や、卒園・転居後も続いている関係性があることが分かった。そのような活動を目指したいし、伝えていきたい。



◆ 困難事例への対応

対応事例・配慮した点

事例： 第一子（自閉傾向）と第二子（肺機能障害）の家庭で、第一子の療育時に第二子の一時預かりを行うという事例。母親もスローペースな方で、いくつものことを同時にするのは難しい。家の中は足の踏み場もない状態で犬もいる。父親の協力が得られず、義母は自閉の子に対する理解がなかったため怒ってしまい、母親も責められているように感じ、ストレスを溜めていた。

保健師と一緒に依頼会員の登録に伺い、提供会員を探したところ、保育士の資格を有し状況に理解のある提供会員が見つかり、母親が安心できる活動が行われた。沿線の少し遠い所から来ていただくことになったが、晴れている日は自転車で行ってくれたり、母親の話にも「そうだね」と寄り添って聞いてくれるため、母親の気持ちも安定する支援となった。

配慮した点：このご家庭は保健センターと、第一子が発達支援センターを利用しており、両センターとファミサポも深く関わりがあるため、情報共有をしながら進められた。提供会員は、母親が言われて嫌だなどという領分には踏み込まず、ありのままを受け入れてくださり、第一子についてもおおらかに見守ってくれたため、依頼会員と提供会員の信頼関係が早期の段階で築かれたことが大きかったと感じる。

困難事例への向き合い方

■ ステップアップ研修で、特性のあるお子さんの関わりに関する講座を取り入れる
発達支援センターの職員が講師だが、病名で括るのではなく一人一人を見ることの大切さも話されるため、提供会員の理解がより深まると感じる。

■ 専門職ではない提供会員の意義
依頼会員が子どもの特性について悩んでおり、周りの勧めもあって支援学級に移ったが子どもも依頼会員も納得していないという相談を提供会員に行ったというエピソードがステップアップ研修で共有された。そのようなモヤモヤとした気持ちを受け止め寄り添うことができるのが、専門職ではないファミサポの提供会員の意義であると講師がコメントをされた。ファミサポの役割を言い表しているように思う。支援ではあるけれど、親御さんには共感を持って寄り添って、というところが大事だと思う。

センターデータ

所在地	東京都新宿区		
自治体人口	346,222人		
設立年	平成12年度		
運営方法	委託：社会福祉法人新宿区社会福祉協議会		
会員数	3,053人	うち提供会員数	356人
活動件数	10,973件		

活動件数トップ3	
1位	保育施設までの送迎
2位	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり
3位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

7. 東海村ファミリー・サポート・センター

(委託：東海村社会福祉協議会)

行政との強力な信頼関係のもと、小学校・民生・児童委員・地域が連携して困難家庭をサポート

社会福祉協議会がファミサポ事業を行っているため、組織として信頼があり、安心感が大きい。預かり時に課題を感じることがあれば、関係機関に情報共有し早期に支援へつなぐことができる。

◆ 他機関との連携について

【連携先】 東海村役場 子育て支援課

連携の現状

保育園の送迎という通常サポートをやっている中で、保育園に登園している子が、お父さんのひとり親の家庭で行き渋りのようなところがあって、朝の送り出しなどが難しいということだった。保育サポートが、有償サービスではあるがボランティアな部分も含めて、定期的に声がけなどの活動のサポートに入れなかと行政から依頼があった。そこから、どういう形だったらサポートできるかと行政とも連絡を取りながらサポートの形を考えていった。

■ 連携の内容・役割分担

複雑な家庭で、要保護児童対策地域協議会においても支援対象となっていたこともあり、行政（子育て支援課）が中心となり、関係者間で連携を取っていた。

ファミサポは、民生委員・児童委員と連携して、子どもたちが毎朝の登校ができるように随時複数人で関わり支援を継続した。また、不登校という問題もあり小学校の教頭先生をはじめ担任の先生等にも親身に対応していただいた。

対応事例・効果

事例：当初は、3人兄弟の末子に対する保育園への送迎支援で問題なく支援が出来ていた。しかし、末子が小学生になった頃に、真ん中の子の不登校（行き渋り）が始まったことや、その家庭が経済的な理由から学区外に引っ越ししたことなどが重なり、その家庭への支援（朝の声かけ、登下校時の送迎等）をファミサポ、行政、小学校、民生委員児童委員が連携して展開することとなった。

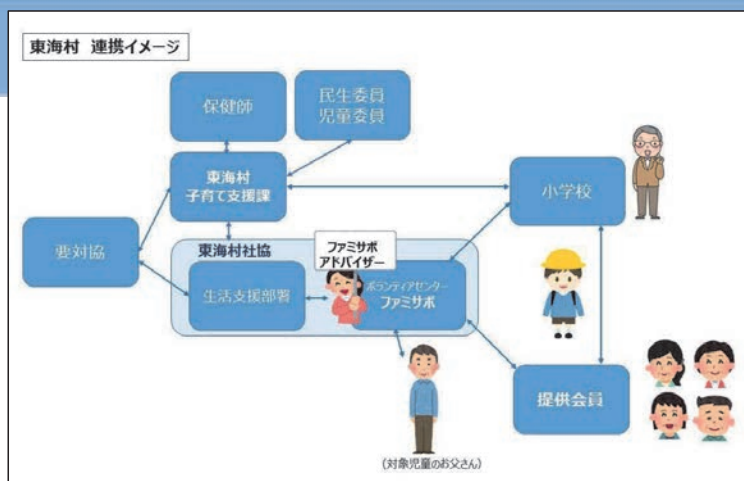
学区外になった場合、末子の下校時は保護者同伴が必須となるが、父親は仕事で迎えにこれず、また自家用車もない。上の子は高学年で下校時間が遅いため一緒に帰ってこれない。ファミサポでは常に4～5人の提供会員が毎日のように、また時には時間差で関わって朝の声掛けと登下校時の送迎の支援を継続した。

学校側では教頭先生が親身に対応くださり、関係者間でLINEでグループを組むなどして、朝不登校の連絡の際にも円滑に連絡がとれるようになった。

アドバイザーはファミサポ利用券を渡す際に依頼会員宅に伺って父親と話をするなど丁寧なコミュニケーションをとった。また最短利用時間の1時間を超えないように、行政の方が来てくれて半日以上みてくれたり、見守りを行ったりした。

■ 連携の効果

提供会員から得られた情報を関係者と共有することで、周りの社会資源を巻き込みながら、支援する体制づくりができた。情報共有は、必要なタイミングでケースカンファレンスを開催するとともに、関係者で作ったLINEグループが切れ目のない支援につながったと感じている。関係者間の情報共有が円滑に出来ていたことで、それぞれが適切な対応を取れていたと感じている。ファミサポ（アドバイザー）も適宜、提供会員からの情報を確認し、その都度対応するように努めたことが今回の事例では重要であったと感じる。



◆ 連携における問題点・課題

■ 地域の社会資源との連携が課題

今回の事例では、行政、学校、民生委員児童委員、主任児童委員との連携が円滑に行われていたが、地域で小学生の下校時見守りや防犯パトロール等をしている自治会や支援組織との連携については課題があった。具体的には、自治会や支援組織等の地縁関係者に支援が必要な児童やその家庭に関する個人情報の共有をすることの難しさがある。

理想は地域の公私関係者がそれぞれのできる範囲で役割分担を行うことであるが、今後の課題と認識している。

■ 下校時のサポートに関しては、毎日つけるのが難しいとなったときに、地域で下校の時に見守りをしている自治会だったり、防犯パトロールをしている支援組織のような団体とうまく連携して、ある程度交差点を渡るときの見守りをちゃんとやってもらうとか、「特にこの子に関しては気を付けてほしい」というようなことをつないで、地域の目であくカバーができれば保育サポートが細かく入らなくとも安全性を担保できるのではないかな。

まずは、地域での連携相手となる多様な社会資源を増やしていかなければならないと感じている。それには、行政からの働きかけを含めて活動者を増やしていく必要があると考えている。

ファミサポ事業のあり方

■ 制度にとらわれなくて、ある程度柔軟に対応できるサポートの仕組みが必要

一例としては、送迎や声掛けという活動もあれば、急に依頼内容が変わり勉強を見てもらうなどは現場では起こり得ることである。その中で、ファミサポ事業が単一的な活動で「このサービスをやります」とうたってしまっていると、できない部分だと思う。そのため、ある程度、個人対個人の、提供会員と利用会員の中で、1対1の取り決めの中で柔軟に動ける、ファミリー・サポート事業のような取り組みというのは、大事ではないかと思う。

ある程度遊びがあるというか、その中で動けるというのは、今後必要になってくると同時に、重要性も高まっていくのではないかと感じている。あまり制度で縛っていってしまうと、なかなか動きづらくなっていってしまう部分があると思うので、そういう意味では、元々、われわれは発端が任意団体から始まったということもあるので、ある程度柔軟に動けているという点が、今の強みではないかと思っている。

ただ、依頼の内容が複雑になってきてしまったりすると、提供会員としては、育成が大変だったりとか柔軟性が求められたり、大変になってくるかとは思いますが、ますます大事になってくるのではないかな。

センターデータ

所在地	茨城県東海村		
自治体人口	37,879人		
設立年	令和2年度		
運営方法	委託：東海村社会福祉協議会		
会員数	920人	うち提供会員数	57人
活動件数	974件		

活動件数トップ3

1位	通常保育
2位	障がい児の預かり
3位	時間外の預かり

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）
活動件数はセンター独自の分類による

8. 枚方市ファミリー・サポート・センター

(委託：社会福祉法人大阪水上隣保館)

広場事業との連携により、弱みを強みに「こちらから手を差し伸べて使いやすいファミサポ」へ

設立して91年になる社会福祉法人が母体。2004年からショートステイ事業を枚方市と連携して実施していたほか、広場の運営、24時間の子育て電話相談の3つの事業を展開。そのような中、枚方市が直営で行っていた「サブリ村野」内の広場、ファミサポ事業も委託形式に変更となり、同法人が運営を担うことになった。社会的養護の子どもたちとも接する機会が多い中、「手を差し伸べられる、使いやすいファミサポにしたい」という希望が、広場とファミサポの連携を進める根っこにある。

◆ 他機関（併設の広場）との連携について

連携体制

現在、ファミサポ専任3名、広場とファミサポ兼務1名のアドバイザー4名体制で運営している。加えて広場スタッフが活動報告書のデータ入力や入会者への個別説明など週2回ほど事務所業務に携わっている。また集団での登録説明会の際は地域と一緒に出向いたり、養成講座やイベントでは資料準備や保育に入るなど広場スタッフが何らかの形で関わっている。

連携に至る課題・背景

■ ファミサポ事業のニーズ把握と発信力の弱さ

・利用されない理由の把握、会員でない方へのファミサポの周知が難しい

登録に来られる方や利用したい方のニーズは把握できても、ファミサポを知らない方への周知や知っていても登録しない方の気持ち、また依頼会員に登録したものの利用しない方の理由の把握が難しい。

■ ファミサポ利用へのハードルの高さ

・登録したが「事前打合せなどの煩わしさ」や「子どもを預けること」への抵抗感から実際の利用はハードルが高いという声を広場スタッフが聞くことが増えた。そこでリフレッシュのために預けても構わない、もっと気軽に利用していいよ、と日頃、利用者と接する広場スタッフが提案することでファミサポを使うハードルが下がれば、利用につながるのではという結論に至った。

■ 個別登録説明が重なりと通常業務に遅滞が生じる

連携の実施内容と工夫

■ 広場の発信力の活用

ファミサポは発信力が弱いことが課題であるが、広場のフェイスブック、インスタ、LINEを活用し、ファミサポのイベントも広場のSNSで周知している。特にリアクションがあるのがインスタである。視覚的に子どもを預けるイメージをもってもらえるように写真付きにしたり、用事のためだけでなく「リフレッシュで利用してもいい」というメッセージも込めながら発信するなど、広場の発信力を活用している。

■ クーポン活用による「お試し体験会」の実施による利用促進

枚方市では2歳児未満のお子さんを対象に5時間分の無料体験クーポンがあるが、利用につながらない理由の1つに、他人の自宅に子どもを預けることに対する不安がある。そこで、普段利用する広場を「体験会」のみ（貸し切り）にして広場スタッフもいる中でのお試し体験会を実施し、心理的ハードルを下げる試みを行った。

■ 広場を利用した保育付き登録会

集団の登録会では保育室を設け、広場スタッフや保育サポーターとして提供会員が保育を行うことにした。登録の際に顔なじみの広場のスタッフがいることで安心され、提供会員も広場スタッフの保育の様子から学びその後のサポートに活かしてもらえるという利点もある。

■ 出張登録会での保育

地域に出向いた出張登録会を月2回（駅前および各地域の公共施設で）実施。

出張登録会においても広場スタッフと提供会員による保育を実施。ファミサポの説明と併せ、広場の様子も写真付きで紹介すると興味をもってもらえる。

スタッフの意識改革

連携以前は、お互いの領域には踏み込まないという意識があったが、朝礼をしてその日の動きや業務内容を確認し合い、ミーティングにはお互いのスタッフが一人ずつ参加して情報共有に努めるなど、基本的なところから始めた。



◆ 連携による効果

■ 広場での預かりの増加

ファミサポ登録の際に広場での預かりを紹介するようにした結果、実際の広場での預かりの様子を目にしながら、利用される方が増えるようになった。他の方と一緒に利用することで心理的なハードルも低くなり、広場での預かりを体験したあと、提供会員の自宅での預かりにつながることもある。また、経験の浅い提供会員の活動の場にもなっている。

■ 広場スタッフのファミサポ兼務による相互の業務の理解の深まり

・広場の兼務スタッフがファミサポの初回登録を行うことで、具体的にどのような利用をされたいのか話を聞いたり、利用後のフォローも行き届くようになった。利用提供会員の紹介を受けたファミサポのスタッフには言いづらいが兼務スタッフには伝えることができるケースも多く、利用会員とファミサポ、広場がつながるような声かけや関わりを兼務スタッフが行えるようになっている。

行政との連携の考え方

■ 社会的養護に関わる事業の実績をもとに独自の信頼関係を構築

家庭児童相談所や保健センターとの連携は難しいが、社会的養護に関わる社会福祉法人が委託を受けているため、社会福祉法人を通じた家庭児童相談所との毎月の連絡会などがあり、信頼感の基礎がある点が、ファミサポと広場の単独実施ではない特徴となっている。

■ 行政機関への説明によりファミサポ事業の理解が深まり、行政からの依頼が適正化

以前は、行政機関がファミサポで対応が困難なケースもファミサポにつなげるということが行われていた。そこで、ファミサポへの理解を深めてもらうため、家庭児童相談所の職員向け、保健師や助産師の会議、公立と私立保育園の園長さんとお話、赤ちゃん訪問員の研修などでファミサポの役割を紹介することを試みたところ、行政機関がファミサポを理解してくれることでイレギュラーな依頼がなくなった。

ファミサポ事業のあり方

枚方市では広場との連携は進められていると考えている。広場での預かり体験会の報告を担当課におこなったところ、枚方市内の他の広場でも行えないかという話につながっている。今後ファミサポと広場の連携を行って行かれるセンターは、そのような形で導入されるのも一案だと思う。

困難な家庭を支援していくためには、ファミサポで難しいケースはしかるべき関係機関につなぎ、支援の輪を地域に広げられたらと思う。

センターデータ

所在地	大阪府枚方市		
自治体人口	396740人		
設立年	平成13年度		
運営方法	委託：社会福祉法人大阪水上隣保館		
会員数	2,801人	うち提供会員数	353人
活動件数	3,609件		

活動件数トップ3

1位	保育施設までの送迎
2位	学校・幼稚園・保育所の休みの時の預かり・送迎など
3位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

9. ファミリー・サポート・センターくるめ

(委託：NPO法人ル・バトー)

多様な関係機関とのスムーズな連絡調整で困難家庭にシームレスな支援を提供

福岡県の南部、筑後平野に位置し、豊かな自然に恵まれた人口30万人超の中核市。産前産後ヘルパー（エンゼル応援隊）、市直営の子育て支援センター9か所、子育て広場3か所を設置。2017年10月より子育て世代包括センターとして子ども子育てサポートセンターが稼働。妊娠中から切れ目なく18歳までサポートする体制を整えている。ファミリー・サポート・センターくるめは平成17年に設立、久留米市のほかに周辺のうきは市、大木町、太刀洗町も管轄。子育てサポートセンターと緊密な連携をとりながら、子育て家庭の支援にあたっている。

◆ 他機関との連携について

【連携先】 久留米市子ども未来部子育てサポートセンター

ツインズクラブ（久留米市から産前産後サポート事業を受託している多胎支援団体）

連携の現状

■ファミサポの設立当初から、行政機関を中心とした関係機関や関係団体からの支援が必要な家庭に対するファミサポ利用の打診があり、会員登録を行うケースがほとんどである。例えば、産後うつだったり、精神的な部分で子育てが困難であるとか、保護者の方に障がいがあるとか、逆にお子さんに障がいがあるなどの事例である。

■ツインズクラブから直接つながるケースもある。

■子育て世代包括支援事業を実施している部署の保健師が支援している子育て家庭の中で、その方たちにとってファミサポが一番適当なサービスと判断した場合に、保健師からセンターに連絡が入り情報共有、会員登録を行っている。

■ファミサポの事務所が子育て広場と同じスペースにあるため、広場で相談された方が直接広場のスタッフに連れてこられるパターンも多い。

連携の内容・役割分担

■保健師に帯同して自宅を訪問

- ・保健師から紹介のあった保護者が動けないような状況であったり、自宅から出られないような状況の場合には、センターから保護者の自宅に訪問をさせていただくこともあり、担当保健師に同行いただいている。
- ・同様にその他の関係機関がつかないで、センターで会員登録するときには、その紹介先の担当者が一緒にいて登録をするという形である。

■保健師の継続的な見守りとファミサポの利用

- ・保健師から紹介の子育て家庭は基本的にハイリスク家庭であることが多いので、保健師も継続的に見守りを行いながら、必要に応じてファミサポを活用していくという形が多い。
- ・ファミサポの会員登録をしたとしても利用に繋がらないケースもあるので、随時、保健師とセンターが情報共有を行いながら支援をしている。

うまく対応できた事例

■市の保健師が所属している部署（子ども子育てサポートセンター）の管轄の産後ヘルパー（エンゼル応援隊）の事業は6か月までしか利用できないので、その後の支援としてファミサポ事業を紹介いただいたり、回数制限があるため、今後困りそうだという家庭の紹介があるなどの支援が継続した。

■ツインズクラブが受けている食料配布、見守り強化の事業（虐待が疑われる家庭の見守り事業）のメンバーの方が提供会員になった。

■ファミサポ事業のことを関係各所に知ってもらうことが重要

- ・センター開設当初から地域の子育て支援センターへの定期的な訪問や各種会議に参加させていただくなどの取り組みを継続してきた。



◆ 連携における問題点・課題

■保健師からの紹介でセンターが関わることになった子育て家庭で利用がない家庭の状況把握

保健師からの紹介でセンターが関わるようになった子育て家庭すべてが会員登録、利用につながるわけではない。会員登録まで出来たとしても利用に繋がらず、センターとしてはその家庭が現在どのような状況なのかが分からないままになっているケースもある。そのようなケースについては定期的に、保健師に聞ける範囲で情報提供を依頼している。

(連携先) 登録まではいったが利用がないという家庭についてのフィードバックを丁寧にはしないといけないと考えている。相談機関として、つながりは丁寧に、アフターフォローもしっかりと責任をもってしていかないと考えている。

■ハイリスク家庭のファミサポ利用については、どこまでセンターが把握すべきかなどは検討の余地がある

福祉的配慮の必要な家庭への援助の場合、子どものみにとどまらず、親支援、他関係機関との連携が必要で、頼んでよいのか？頼める提供会員が限られる。

ハイリスク家庭のサポートは長期にわたることもあれば、頻度が増えてくることもあり、直接やり取りできるような情報も渡してしまうので、提供会員の負担にならないか、気をつかうところである。

特色ある取組

- ツインズクラブとの連携（妊娠中からファミサポの登録・エンゼル応援隊の登録を済ませる）
- ツインズクラブのピアサポート活動※をしている方に少しずつ24時間講習を受けてもらい、支える側に回っていただけるようにと声掛けをしている。他の団体にも働きかけて将来的に提供会員になっていただけるよう努力をしている。
- 他団体への働きかけと周知（手をつなぐ育成会、発達しょう害児の親の集まり、じじっか、見守りの食料配布等、絆補助金の助成対象になっている団体）
- 依頼会員に2時間の講習
 - ・登録書類に記入・システムの使い方の説明、ボランティアの事業を使うということを認識していただく目的

※ピアサポート活動とは、多胎育児経験者が保健師・助産師・保育士等と訪問し、妊娠中のことや産後の育児についての相談に応じるなどの活動のこと

ファミサポ事業のあり方

- 市との連携において、保健師経由でハイリスク家庭の支援の一つとしてファミサポが関わることについては、アドバイザーも提供会員の負担について非常に気を使っている。ただ、現実にはハイリスク家庭に対してできるサポートは、今のところファミサポしかないというような現状も分かるので、マッチングのときにとても神経を使う。「この提供会員なら」と思う方は限られてくる。結果、特定の方をお願いをしてしまうことが多い。

センターデータ

所在地	福岡県久留米市		
自治体人口	302,667人		
設立年	平成17年度		
運営方法	委託：NPO法人ル・パトー		
会員数	1,754人	うち提供会員数	452人
活動件数	2,335件		

活動件数トップ^o3

1位	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり
2位	保育施設までの送迎
3位	保護者のリフレッシュ・習い事等の預かり

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
 会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

10. 立川市ファミリー・サポート・センター

(直営：立川市子ども家庭支援センター)

提供会員、依頼会員との信頼関係を大切に、気持ちに寄り添う安心なサポートを目指す

東京都多摩地域に位置する立川市が運営するファミリー・サポート・センターは、子育て、教育、市民活動、文化芸術活動を支援するとともに、イベント実施などによって地域のにぎわいを生み出すことを目的として建てられた複合施設、子ども未来センターの中にあり、子育て・教育相談のほか、子育てひろばも併設し、子どもや子育て家庭にとって「頼りがいがある」「子どもと一緒に訪れたい」場を目指している。立川市ファミサポでは、依頼を受けただけでなく早く提供会員を紹介するなど迅速な対応を行うことを心掛けている。

◆ 提供会員

- | | |
|--|---|
| <p>【会員情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お名前： A さん ● 会員登録年数（活動年数：11年） ● 活動件数： 年間 約195件、 月 約16件 | <ul style="list-style-type: none"> ● 主なサポート内容： <ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持つ子の援助・休みの日の預かり・保育園の送迎など ・1人の依頼会員を10年間継続してサポート |
|--|---|

提供会員活動を通じて思うこと

提供会員になった動機・登録までの経緯

末娘が習っていたピアノの先生がファミサポを利用して、先生と娘さんと援助会員さんとのやり取りがとてもほのぼのとして和やかで温かいものを感じた。自分の子育てもひと段落して、無理なく何か社会参加ができるといいかなと思っていたところに、ママ友から誘われ事業説明に参加。体験発表で援助会員や依頼会員のお話を色々かかっていたら、ちょっとやってみようと思った。活動を始める前はパートの仕事をしていたので、休日でも子どもと一緒に家でできる活動があったらいいなと思い会員登録をすることにした。

ファミサポの活動について

■ 具体的な活動内容

自宅での預かりも、依頼会員のお宅での預かりもある、お預かりする子は1人から兄弟3人の時もある。保育園・幼稚園の送迎や習い事の送迎、障がいを持つ子のサポート。お子さんとお母さんのお話を伺ってからご要望に合わせるというかたちでサポートさせていただいているが、自分のペースでできるというのが、自分には合っていると思う。

■ 印象に残った活動

姉妹のお子様を自宅でお預かりしたとき、娘も一緒にスイーツ作りやパン作りをしたり、楽しく遊ぶことができた思い出がいっぱいできたので、すごくよかったと言っている、その経験があるので小さい子との関わりが上手と褒められる事もあるようだ。

ファミサポの活動を通じて得たこと

■ 援助会員になっていなかったら、きつと関わるのがなかったと思う、障がいのある子のサポートをすることで、ハンディキャップを持っている子への対応を知り一つの個性として捉えることができ、自然に接することができた。今はYouTubeを見て勉強するのが楽しい。

■ 今後、どのように活動していきたいか

安全面はちゃんと考慮しながら、のんびりとゆったりとした気持ちでサポートを続けていきたい。子どもたちから元気をもらえることが自分のモチベーションになっている。

ファミサポについて感じる事

■ 活動することへの家族の理解について

最初、夫は他人様の子どもを自宅でお預りして、もし何かケガでもしたらという不安があり、ちょっと反対だったが、一番最初のサポートは未就学の姉妹で日曜日に長時間、朝から夕方までの預かりをすることが多く、夫も一緒に過ごしサポートの回数を重ねることで、大丈夫そうだなと安心したようだった。姉妹のサポートは中学生になった今も数回だが続いている。

ファミサポについて望むこと

ファミリー・サポートという活動があることをまず自分もほぼ知らなかった。たまたま友人がいて知ったので、やはり認知度が低いというのがあると思う。現会員は謝礼金が上がるからといってサポートに対する姿勢が変わることはないと思うが、これから援助会員になる方たちには重要かもしれないと感じている。依頼会員さんの負担を増やすことなく、謝礼金を上げること、国や行政が助成してくれるとよいと思う。

◆ 依頼会員

- 【会員情報】 ● お名前：B さん ● 主な依頼内容：
- 会員登録年数：8カ月（2021年3月入会）
 - 依頼件数：年間 約40件（2021年3月～2022年9月）
 - 引越しの片付けの間サポート
 - 就労間の預かり（在宅での仕事）など

依頼会員活動を通じて思うこと

依頼会員になった動機

■ 立川市に越してくる前に、夫の仕事の関係で他県に在住しており、夫の仕事も多忙でほぼワンオペ育児だったため、子どもの預かりで依頼した。それからほぼ毎日ファミサポを利用していた時期がある。

■ ファミサポについては、出生届を出した時に頂いた冊子の中にファミサポの紹介ページがあったこと、1～2か月児の保健師訪問の際にファミサポの話を聞いたことなどから知った。立川市に引っ越すことになり、他県でのファミサポにとっても助けられたので、立川市でも依頼したいと思い会員登録をした。

ファミサポの活動について

■ 具体的な利用内容

子どもの預かりをお願いしている。提供会員の方は、子どもの遊びもよく知っていて、集中して子どもと一緒に遊んでくれる。その援助会員さんにかかる、身の回りにあるすべてのものが楽しいおもちゃに変身するなど、親としても勉強になっている。

■ 援助を受ける中での印象的な活動

預かりの場所は依頼会員の自宅が主であるが、子どもの成長に伴い、最近は子育てひろばに行ったりすることもできた。家にはないおもちゃがあったりするので、楽しく過ごしている様子。

ファミサポの活動を通じて得たこと・今後の利用

■ 子育てをしていく中で、孤独になりがちな状況を提供会員に親身にフォローしていただいている。提供会員の方が親戚（お姉さん）と感じるくらい良くしてもらっているし、子どもとの遊びについても色々な発想・遊び方を見ることができるのはありがたい。

■ 謝礼の額としては少なすぎるのではと思っている。もう少し多く払えたらよいかなと思う。その理由は、その方がもう少し気兼ねなくお願いできるため（700円だと安くてお願いするのが申し訳ない気持ちがあるため）。ただ、地域の助け合いの活動、（有償）ボランティアなので、お金が目的ではないというところもあるのかとも思う。

ファミサポについて望むこと

これだけお世話になっているので、いずれは提供会員となり、恩返しをさせていただきたいと感じている。が、もう少し子どもが大きくなるまでは、仕事をフルでしたいと思っている。時期がきたら、ぜひ恩返ししたい。

センターデータ

所在地	東京都立川市		
自治体人口	185,242人		
設立年	平成12年度		
運営方法	直営：立川市子ども家庭部 子ども家庭支援センター		
会員数	2,325人	うち提供会員数	267人
活動件数	7,375件		

活動件数トップ3

1位	障がいを持つ子どもの預かり・送迎など
2位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
3位	保育施設までの送迎

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

11. たかまつファミリー・サポート・センター

(委託：NPO法人たかまつ男女共同参画ネット)

地域の中で、みんなで子どもの育ちを見守り、あたたかなつながりを紡いでいく

たかまつファミサポは、「子ども・子育て支援」、「学習体験」、「市民交流」の機能を持った子育て支援と教育支援の拠点として設置された高松市こども未来館にある。ファミサポの良さは、信頼関係で結ばれた会員同士が同じ地域の住民としてつながり、子育てを支えあう相互援助活動であるということをベースに、会員とのコミュニケーションを大切に信頼関係を築く努力をしている。みんなで子どもの育ちを見守り、成長を喜び合える社会を目指す。

◆ 提供会員

- | | |
|--|---|
| <p>【会員情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お名前： C さん ● 会員登録年数（活動年数）： 5 年 ● 活動件数： 年間 約345件 月 約28件 | <ul style="list-style-type: none"> ● 主なサポート内容 <ul style="list-style-type: none"> ・現在関わっているのは5名（2022年12月時点） ・習い事の送迎、平日毎朝や夜の依頼会員宅でのサポート、提供会員宅での預かりなど。 ・発達特性のあるお子さんや精神的にしんどいお母さんのサポートも。 |
|--|---|

提供会員活動を通じて思うこと

提供会員になった動機・登録までの経緯

依頼会員の友人が、「提供会員になってくれたらいいな」と軽く発言されたことがきっかけで講習会を受講することになった。講習会の内容は魅力的で楽しく、実際に提供会員として活動されている方のお話を伺い活動も楽しそうだと感じたが、事故の対応など不安な気持ちもあった。講習会修了後、事務局からとりあえず登録していただけるかと声掛けがあり、送迎ぐらいならと会員登録を行った。翌日、電話で未就学児（女兒）の送迎に関するサポートの依頼があり活動を行うことになった。久しぶりに小さな子どもと接する新鮮な機会となり、子どもが懐いてくれたことも嬉しく、このようなことで役に立つことができるのならと思い継続的に活動することになった。

ファミサポの活動について

■ 具体的な活動内容

送迎のサポートから始め、続けるなかで預かりも少しずつ増えていった。

現在は依頼会員のご自宅で、依頼会員（母親）と一緒に、発達特性のある双子のお子さんを、平日毎朝起床から幼稚園に送り出すまでのサポートや、夜の忙しい時間帯に依頼会員（母親）が家事をしている間、お子さんをみるという活動が多くなっている。現在5名の依頼会員のサポートを行っているが、週1、月1、週3、平日毎朝などサポートの頻度は異なる。

■ 印象に残った活動

妊娠中に上のお子さんのサポートを行っていた際、出産後助産院へお子さんを連れてお伺いしたところ、産まれたての新生児を抱かせてもらい家族のように一緒に喜び合えたという体験は貴重で、とても嬉しかった。バレーの発表会に招待されたり、思いがけないふれあいは印象に残っている。蓄積されていく印象的な出来事は宝物になっている。

■ 活動を通じて得たこと

言うことを聞いてくれないお子さんに対して褒めるように心がけたところ、関係が築けて素直に対応してくれるようになったという経験がある。活動を通じて楽しさだけでなく学びもある。

■ 今後、どのように活動していきたいか

手遊びなど、子どもとの遊び方を増やしたり、スキルアップをして継続的に活動を行っていきたい。

特色ある活動内容

■ 送迎サポートから預かりサポートへの移行について

事務局からの依頼によって徐々に移行した。送迎サポートに慣れてきた頃に1日だけの預かりサポートの依頼があり、徐々に依頼の幅が広がりステップアップした状況である。

ファミサポ事業のあり方

● 単なる送迎や預かりだけでなく、子どもの成長の手助けを行えるようにしたいという想いがあるため、登録時の講習会は大切であると思う。心構えが必要な活動であるため、質の良い提供会員が増えてほしい。

● 提供会員の活動は一人で行うため孤立感もある。事務局との関係性も大切だが、ささいなことを意見交換し合える提供会員同士の横のつながりも大切だと感じる。あらたまった意見交換の場というよりも、何か一緒に作業を行いながら雑談や自然な会話ができる場が増えていくことも良いのではないかな。

◆ 依頼会員

【会員情報】

- お名前： D さん
- 主な依頼内容：学童保育への迎え、出張時の預かりなど、突発的な依頼も多く日常的に利用。
- 会員登録年数： 6年
- 依頼件数： 年間86件 月間7件

依頼会員活動を通じて思うこと

依頼会員になった動機

大学教員としての勤務先が高松市内にあるが、実家は九州であり、夫は他県で家業を継いでおり遠距離婚である。子どもが1歳の時点で職場復帰することになった。家族による恒常的なサポートが期待できないなか、ベビーシッターや病児保育等の制度を調べる際にファミサポを知り、藁にもすがる思いで登録を行った。会員登録の時点ではきちんと利用可能であるのか、どのような提供会員を紹介されるのか未知数であったが、頼らざるを得ないという状況から登録を行った。

ファミサポの活動について

■ 具体的な利用内容

提供会員2名とマッチングを行っているが、うち1名の提供会員に6年間継続的に活動いただいている。会議の急遽延長や突発的な会議の際の学童保育への迎え、出張時の預かりなど、突発的な依頼も多く日常的に利用。コロナ禍において学級閉鎖等で保育所や小学校に登校できない際にも利用。

■ 援助を受ける中での印象的な活動

子どもにとって提供会員は祖母の代わりのような存在になっており、子どもは「〇〇さんは家族だよ」との発言をする。また、提供会員と会えることを楽しみにしている。提供会員の前職が少年補導員をされていたこともあり、叱っていただきながらもしっかり愛着を形成していただいております子どもの人格形成に影響を与えていると感じる。

ファミサポの活動を通じて得たこと

依頼会員にとっても、子どもの育ちと一緒に見守っていただけているという安心感がある。子どもの特性に関する話を共有したり、仕事上の気になることについてアドバイスをいただいたり、ワンオペ育児の環境のなかで精神的な支えになっている。

特色ある活動内容

◆ ベビーシッターとファミサポの違いについて

現状として、ファミサポで対応いただけているためベビーシッターはほとんど利用していない。ベビーシッターはファミサポとは異なり確実に対応してもらえるという確約があるが、誰が来られるか分からないベビーシッターよりも、子どもが安心して過ごすことのできる提供会員のほうが良いという状況になっている。

◆ 事前打ち合わせについて

未就学児である1歳の子どもについての依頼であったため、不安感もあり緊張状態であった。預かり中の子どもの様子が分からず、様子を聞くことも疑っているという印象を与えるのではないかと気がかりであった。自分自身は利用せざるを得ないという状況のなかで、提供会員との信頼構築を図ることができたが、提供会員の人柄が分かり安心感が芽生える前に、利用を控える人もいるのではないと思う。

◆ 提供会員との関係構築について

基本的に感謝の気持ちを忘れず、できるだけ言語化してお伝えすることは心がけている。あくまでも提供会員の生活のなかの余白の時間で支援いただいているため、当たり前という気持ちにはならないように気を付けている。また、あくまでも可能な範囲で支援いただくことを意識している。

ファミサポについて望むこと

宿泊を伴う援助が利用しやすくなれば良いと感じる。宿泊を伴う出張業務に関して、保育所の際には比較的休ませやすかったが、小学校に入ると休ませづらく常同による出張業務の困難さを感じている。

利用申請や活動報告がメールや紙媒体でのやり取りとなっていること、報酬の精算について、月末に対面でのやり取りとなっていることについて、依頼会員の利便性という面からはアナログ性を緩和してDXを行っていただければと思う。

センターデータ

所在地	香川県高松市		
自治体人口	422,756人		
設立年	平成19年度		
運営方法	委託：NPO法人たかまつ男女共同参画ネット		
会員数	2,445人	うち提供会員数	559人
活動件数	7,257件		

活動件数トップ3

1位	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎
2位	放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり・送迎
3位	保育施設までの送迎

出典：自治体人口は自治体のHP（HP検索2023年3月7日）
会員数、活動件数は令和4年度活動実態調査（女性労働協会）

12. 枚方市ファミリー・サポート・センター

◆ 提供会員

【会員情報】

- お名前： E さん
- 会員登録年数（活動年数）： 8 年
- 活動件数： 年間 128 件
- 主なサポート内容
 - ・ 預かりのみ、送迎のみ、送迎 + 預かりなど
 - ・ 障がいのある方、精神的にしんどい方のサポートも

提供会員活動を通じて思うこと

提供会員になった動機

娘が依頼会員として登録していて利用もしていた。自分自身が空き時間があつたので、「もし良かったら、お母さんも登録だけしてみたら？」という娘からの声かけがきっかけ。

ファミサポの活動について

保育園の送迎が活動としては多い。その中で、保育園によって送り迎えの際のルールが違ったり、園の先生のファミサポ事業への理解度もそれぞれであるので、最初は戸惑うこともある。しかし、園の先生がファミサポ事業自体を知らないということはないので問題はない。園の先生とも積極的にコミュニケーションをとることで顔を覚えてくれている

ファミサポの活動を通じて得たこと

■ 子育ての今と昔を楽しむ

時代の流れがあつて子育てがすごく変わってきているので、今の子育てを知ることができることはとても良いことだと感じている。私が子どもを育てたときと、孫も皆近所に住んでいるので生まれた時からずっと世話をしていたが、その娘の時代も違うし、孫の時代も違う。そして今、また違うという子育ての内容。今の子は「離乳食はこれぐらいから始めるんや」とか、おもちも「今の子はこんなんで遊ぶんや」とか、そういう時代の流れのようなものはすごく感じる。それがまた勉強になって、離乳食などもどんどん便利なものが出てきて、古い話をママさんたちに「私が子育てしてたときは、こんなやつてんよ」などと言ったりもする。

■ 提供会員として活動する際のコミュニケーションの重要性

□ お子さんをお預かりするときも、初めはお母さんが出て行かれたときにお子さんが泣いていたら、お母さんは絶対心配なので、「ご機嫌になって遊んでいます」とすぐメールを入れたり、お迎えの時間が近づいているときにお昼寝していたら、「まだ、お昼寝しているがどうするか？」と、細かく連絡はしてコミュニケーションを取っている。

□ 保育園の送迎の際も、お母さんに対して、「こういう時はどうしたら良いですか？」と細かく確認したり、送迎時の状況を丁寧にお伝えするように心掛けている。例えば、園の掲示板に書かれている内容を写メ*したり、お子さんの着替えやおむつの数を確認したりしてお伝えしている。そうすることで、お母さんも安心して利用することが出来ていると感じている。

（* 写メを送った後はデータは削除している）

ファミサポについて感じる事

私もそうだったが子育てというのは、1人でできないと思う。近くに親がいたり、誰か助けてくれる方がいれば頼めるけれども、それができなくて1人でやっていて、すごく困っている方がいるのであれば、少しでも手助けできるのだつたらという、初めそんないい格好の気持ちだった。でも、実はやってみたら、小さな子に接するというのがすごく楽しいのである。子どもさんは成長がとても早いので、もう本当にびっくりするぐらい「わあ、こんなことができるようになった」とか、「あ、おしゃべりできるようになった」とか。もう長くお付き合いすればするほど、そういうものがすごく分かってくるので、サポートをお願いしていいかというメールが来たら、すごくうれしく感じている。

提供会員を増やすために重要なこと

ファミサポ事業自体がまだまだ地域に知られていないと感じる。子育て世代は、子育て支援の冊子を頂いたり、口コミがあつたりしてファミサポ事業を知る機会があるが、逆に年齢層が上の方がこのセンターを知るきっかけがない。広報を見ても、関係がない内容は素通りして興味を持つこともなかった。

12. 枚方市ファミリー・サポート・センター

◆ 依頼会員

- | | |
|--|---|
| 【会員情報】 <ul style="list-style-type: none"> ● お名前： F さん ● 会員登録年数： 2年 ● 依頼件数： 20件（2022年度）
90件（2021年度） | <ul style="list-style-type: none"> ● お子さんの年齢： 5歳、3歳、11カ月 ● 依頼内容：
・産前産後の上の子どもさんたちの保育園の送迎や、下の子どもさんの預かり。 |
|--|---|

依頼会員活動を通じて思うこと

依頼会員になった動機

2番目の子どもが生まれた時に遊ぶ場所を求めて枚方市内の広場に遊びに行っていた。そこでファミサポの登録会があり、広場の方から案内していただいた。

ファミサポの活動について

■ 具体的な利用内容

会員登録から実際に利用したのは2年後くらいであった。3番目の子どもが生まれるタイミングで色々手が回らなくなり、上の子の保育園の送迎と預かりをお願いした。利用させていただく前は、利用するのにいろいろ決まり事や制限があるイメージがあったが、実際お願いすると結構融通も利いて、利用していてそんなに制限があるとは思っていない。

■ 実際に援助を受ける中で印象的な活動

子ども2人は人見知りもそんなになく、結構急をお願いして、私も入院していなくなった状態だったが、今でも「〇〇さん、〇〇さん」と言って、お迎えをお願いすると喜んで、すごく懐いている。

ファミサポの活動を通じて得たこと・今後の利用

本当にすごく融通も利いてもらい、普段子育ての相談もいろいろ乗っていただいているので、サポーターさんというより、近くにいる親戚のような感じで心の支えになっている部分が多い。もちろん、お預かりなどのサポートも助かっているが、すごく心の支えになっている。

子どもたちが非常に提供会員に懐いているので、引き続きサポートをお願いしたいと考えている。

依頼会員の感想

よく預かっていただいている一番下の子は、実家の両親だとすごく人見知りするのが、Eさんのことをおばあちゃんだと思っているのではないかというぐらい、よく懐いている。去年、この子が生まれる前は私が上の子どもたちに会えない状況だったので、LINEを使ってよく子どもの状況を教えてくださった。「保育園でこんな作っていたよ」とか、保育園の連絡事項についても夫がお迎えに行くより全然よく教えてくださるし、子どもの様子もまめに教えてくださったので、それだけが結構情報源で、すごく安心することができた。

また、コロナの休園等で子どもたちがずっと家にいる状態で結構しんどかったが、LINEで「大変でしょう」とよく気遣ってくださったりして、何かあったら頼ろうと思えたので、いつもとても助かっている。

ファミサポについて望むこと

初回利用のハードルについては、確かに頼らざるを得なくなったところまでは、例えば私が体調を崩してしんどいというときでも、利用しようと思ったことがそれまではなかった。たぶん、最初の一步はちょっと面倒くさいというのもあったりで、時間がかかってしまったというのがあると思う。それまでは何とかなってきたので、そういう意味では利用のハードルはあったかもしれない。

12. 枚方市ファミリー・サポート・センター

◆ 両方会員

- 【会員情報】
- お名前：G さん
 - お子さんの年齢：11歳、7歳、5歳
 - 件数：15件
 - 入会された2019年度の前期（6月～7月）養成講座を受講後、両方会員に登録
 - 依頼会員としてサポートを受けている件数：2件
 - 提供会員としてサポートをしている件数：15件

両方会員活動を通じて思うこと

両方会員になった動機

■ 家族の転勤を期に、子育ての大変さを身に染みて感じたことがきっかけ。学生時代に子育て支援に関する勉強をしていたことがあり、提供会員になったのが始まりである。その後に自身の出産を期に依頼会員になった。自分自身も家族の転勤で、他県で周りに子育てを助けてくれる身内がいなく、「こんなに私がしんどいんだから、他のみんなもしんどいや」と考えて両方会員に登録した。

ファミサポの活動について（提供会員として）

- 自宅での預かりの際は、自分の子どもの反応が一番すごいと感じている。基本的に子どもたちがいない平日に預かるようにしているが、自分の子どもが、預かっているお子さんに会いたくてどうにか早く帰って来ようとしていたり、もう予約がなくなってがっかりするぐらい本当に「いいな、いいな」という感じで一緒に参加してくれている。
- 預ける側のお母さんの気持ちもすごく分かるので、LINEとか子どもの様子を写真したり動画を撮ったりして、「送ったら、すぐに私の携帯からは消すからね」と言って送っている。そうすると次に預けてくださったときに、やっぱり必ず泣くけれど「どうせ今だけやろ」と言いながらお母さんも預けてくれるから、続けるようにしている。

ファミサポの活動について（依頼会員として）

- やはり預ける方はものすごくハードルが高かった。人に自分の子どもを預けるというのは、何か駄目なような感じということと、貧乏性なのか「それにお金を払うのか」ということで、最初のハードルは高かったと思う。
- 子どもの小学校の授業参観があり、下の子を小学校に連れて行くとゆっくりできないので、その授業参観中に預かってもらった。なお、預かってもらおうと思ったのは、枚方市の無料クーポンがあったからである。なかったら一緒に連れて行き授業参観を受けたので依頼していなかったかもしれないが、「無料クーポンを使ってみよう」という感じで依頼をした。

ファミサポの活動について（両方会員として）

- 両方会員の活動を通して、改めて子育ての大変さを実感することが出来たと感じている。また、その大変な子育ての中で、声に出して助けを求められない保護者の方もいらっしゃることを知ることができた。
- もっと両方会員がスタンダードな形になれば良いと感じる。依頼会員は自分自身が困っているから会員登録するわけであるが、出来る範囲で提供会員も経験することで得られることは非常に多いと感じている。

特色ある活動内容

- ファミサポ利用時の無料クーポンの有用性
ファミサポ利用時の無料クーポンは、依頼会員にとってありがたいと思う。専業主婦でお金を稼いでいないので、子育てすることが仕事ぐらいの感じが自分の中ではあって、そのためにお金を使って何かするというのがやはり抵抗があった。それで自分がしんどくなった経験もある。

ファミサポについて望むこと

やはり横のつながりで地域ごとの支援というか、突き詰めていえば相互扶助みたいな、みんな知り合いという地域が理想だと感じている。依頼会員も提供会員もみんな知り合いで、本当にハードルの低い支援ができればいいという意味では、自分の子どもも交えた融通の利く支援体制が整ってくれたらなと感じている。

◆ 立川市ファミリー・サポート・センター

■ 提供会員に対して

・マッチングのときはアドバイザーも間に入って、安心してサポートできるようにいろいろな細かいこともお話を伺ってという形でスタートをしている。

・提供会員の方が活動をしていく中で、「何かあったときはすぐに相談に来てね」という形で、気軽に声をかけていただけるような雰囲気づくりと関係を作っている。

■ 依頼会員に対して

・入会のときに細かく説明をさせていただきながらマッチングにつないでいるのと、顔合わせのときにも何でも気軽にこちらにもいろいろお話をしていただけるように、信頼関係を大切にしている。

・アドバイザーと依頼者側が信頼関係を持てるように、顔合わせの時間を十分に取って、安心して預けてもらえる形を取っている。

◆ たかまつファミリー・サポート・センター

■ 提供会員との関係構築

・提供会員とのコミュニケーションを大切にしており、報告書の提出時に活動のお話を詳しくお伺いしたり、世間話をしながら提供会員の人柄を知りマッチングに活かしている。

・マッチングに関しては紹介責任の重要性を自覚したコーディネート、アドバイザーの共通認識としている。

・活動状況はアドバイザー全員で把握・共有することで、アドバイザー全員がバックアップしている安心感を持っていただけるように心がけている。

・難しいサポートの場合、初回にアドバイザーが同行する場合もある。

・初回の活動後には、提供会員と依頼会員の両方に電話を入れ、サポート内容にズレが生じていないか確認する。そこで何らかの問題が生じている場合には調整を行う。調整等は中立的な立場で行うことを心がけている。また、提供会員に無理が生じていないか丁寧に確認している。

■ 依頼会員との関係構築

・ファミサポが安心して相談できる場所であることを何よりも大切にしている。事務所内の雰囲気やスタッフ同士のやりとり、人間関係のあり方などに心配りをしている。最初の面談では、肯定的に共感的にしっかりお話を聞く傾聴を大切にしている。出張登録時には複数名を対象に説明等を行うため、ファミサポの趣旨やアドバイザーの想いが伝わりづらいと感じることもある。そのため、事務所での登録時には1時間弱の時間をかけてファミサポの趣旨や支援内容などについて説明しながら、お子さんの様子も詳しく聞かせていただいている。

◆ 枚方市ファミリー・サポート・センター

■ 提供会員に対して

・提供会員とは報告書を受け取ったらメールにてお礼を伝えたり、しばらくサポート活動がない方へは登録会に保育サポーターとして参加してもらうなど、モチベーションを維持してもらえるよう気をつけている。保育中の様子を伺うことでその方のスキルも把握することができる。またサポート活動での困りごとの相談があった際はスタッフで検討したり、必要に応じて役所の担当課へも相談するなどして、サポート活動を支えている。また確保のためにはお知り合いの方にファミサポの活動を紹介してもらって養成講座を案内してもらっている。

■ 依頼会員に対して

・入会手続きの際にニーズをきちんと把握・整理することによって、その方、あるいはその家庭に合ったサポートを提案するよう心がけている。また個人宅へ預けるハードルが高いと感じるお母さんも多いので広場を利用した体験会を開催して気軽にサポートが利用できるよう工夫している。

・提供会員確保のためには依頼会員から提供・両方会員へシフトチェンジしてもらえるよう子育て中でも受講しやすい講座を開催。養成講座とは異なるプログラムを準備し、1日1コマずつ半年かけて修了できるよう工夫している。

Ⅲ 附属資料

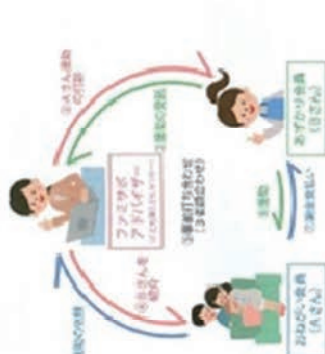
センター作成チラシ類

1. はなまきファミリー・サポート・センター

はなまるうどん・カレー・お弁当・セーター

支えあい子育てを
支援します

「はなれもの」は、たまりにたまり、ついに「ついで」(通称「アツミ」)は、子猫
下を無理やり引きあげたために、子猫下を骨折してはいく(おねのし命題)
と子猫下を骨折して、くはくは(ふふふ)と笑っています。
大切な子猫下を安んずり抱けたり、涙がたりたりとあるように、アツミ
は、おねのしと「アツミ」の間の口として、おねのしと通話しています。

[illegible]

日期 12 20 12 19

ファミサポを利用するためには
会員登録が必要です。おねがい会
員と必ずかき合員の両方(両方会
員)に会員登録することになります。

■おねがい会員(子育てを手伝ってほしい人)

地区市内に住むまたは勤務し、
生後3か月から小学5年生まで
の子どもがいる人

○利用する機会がなくとも、万が
一に備えて登録のみでもできます

○利用の時に会員登録料や必ず
会員との事前打ち合わせなどが
ありますので、お早めに準備
ください

基創(悅豐聯運)

▲月・金曜日 午前8時～午後4時……一言問ふたり500円
 ▲月・金曜日の上記時間以外……一言問ふたり600円
 ▲土・日曜日 祝日……一言問ふたり600円
 ▲夜後夜は夜更……一言問ふたり700円
 ○「やんち」も、あやうしうと頭する場合は二人目以降半額
 ○環境に必要な動物や草花代や交換金などはあまする場合は、現金1万円を原価証明書で返却

■あまがり会員(子育てを手伝ってくださる人)

対象 市内に在住の20歳以上、
子どもを預かることのできる、
主として子育てをする人

あすかり会員を募集しています

あすかり会費は、授業は順調はいりませぬ。子どもが大分できて、予習を記憶したい、フタミサまでの区別は十分です。課外では、フタミサまでの区別はおかしいとせよ。

あすかり会費、運動のポイント

○あすかり会費の生活スタイルに合わせ
て、アドバンスの生活をします。
○お金のいらない生活を送ります。
○あすかり会費の子を育てて、高
校まで送り出します。
○学校終了後、返却するのを希望でござい
ます。

【題名】

▷新刊版紙幣にもよく使われる
お入りの(名はひきかたに)
・43000)

▷はなはだおもしろい。お入りの
お入りの(名はひきかたに)
・50000)

援助の様子を見てみよう！

あずかり会員、
ご自分の様子をのぞいてみました。
この日は仕事で帰りが遅いおねがひ、
皆さんの代わりに梨さんを自宅でお預か
りしました。

自分の子どもが引き合いを
おねがいするとして利用
していましたが、子育ての
お手伝いをしていきたいと
いう思いから、あずかり命
運にも登録しました。子ど
ろがのびのびと過ごせるよ
うに、一緒に楽しみながら
取り組んでいます。

あすかり会員
(会田歴17年)



一生懸命頑張っている娘さんをサ
ポートしました。



さんが自宅で栽培している野菜を一緒に収穫しました。ピーマンやナスなどの夏野菜を収穫して食べていただきます。



ピアノの経験を持つ　さん。娘さんは
さんに教えてもらいながら一緒に演奏を楽しん
でいます。



一精進おやつを食べながら仲良く会話をする2人。その姿から、2人の酒徳関係が窺われている。親子がうかがえた。

おねがい空見さんから
娘の放逐権保護を望む国はど
う願っているように思いますが、
さもないで我が国のように自由に
動いている娘。娘と一緒にいづも
まどなまな遊びをさせてくれる
家まではと願うべく、安心して
寝られます。お仕事ご苦労様、充
て付けて帰ってきてと私にまで
劣い言葉をかけて下さり、謝罪
の言葉をかけて下さり、



2. おおだファミリー・サポート・センター

大田市子育て情報

【大田市子育て支援事業 ファミリーサポート事業】

今月の乳幼児健康診断他（仁摩保健センター）

- * 乳児健診 12月5日（月）
- * 1歳6か月健診 12月1日（木）
- * 3歳児健診 12月22日（木）
- * 乳幼児相談 12月21日（水）
- * 離乳食教室 12月27日（火）



★乳幼児健診については、個別に受付時間をお知らせしています。

認可保育園の開放日・開放時間

園名	☎	要連絡	開放日・開放時間
大田保育園	82-0887	○	月～金 9:30～11:00
川合保育園	82-7433	○	毎週水曜 9:00～11:00
池田保育園	83-2284	○	月～金 9:30～11:00
水上保育園	89-0339	○	月～金 9:30～11:00
鳥井保育園	84-8233	○	月～金 9:30～11:00
温泉津保育所	0855-65-2075	○	月～金 9:30～11:00
志学保育園	83-3681	○	月～金 9:00～11:00
久利保育園	82-3988	○	月～金 9:30～11:00
仁摩保育園	88-4933		毎週水曜～金曜 9:30～11:30
相愛保育園	82-0187	○	
いそたけ保育園	87-0689	○	毎週火曜 9:00～11:30
たから保育園	83-7880	○	火曜・金曜 9:30～11:00
こばと保育園	82-6884	○	月～金 9:30～11:00
認定こども園 みどり保育園	88-3324	○	月～土 9:00～12:00
サンチャイルド 長久さわらび園	83-7171	○	第2・3・4 木曜日
認定こども園 あゆみ保育園	82-1791	○	月～土 9:00～12:00
あけぼの こども園	82-8823	○	月～金 9:30～11:30
家庭的保育施設 ステップルーム	82-0509	○	月～金 9:30～11:00
家庭的保育施設 すてっぷ2	84-5531	○	月～金 9:30～11:00
家庭的保育施設 ステップ川合	82-0120	○	月～金 9:30～11:00
事業所内保育園 わんぱく保育園	82-5070	○	



子育てアフリ おおだっこ（問合先：大田市役所子育て支援課）

下のQRコードから、ダウンロードしてください。

子育て情報がキャッチ できます。



【発行元】おおだファミリーサポートセンター（☎83-7550）
（認定こども園あゆみ保育園内 ☎82-1791）

【令和4年12月号】



◆◆大田市内 子育て支援センター◆◆

- 大田子育て支援センター（9:30～16:00）
認定こども園あゆみ保育園内 ☎82-1791
- 仁摩子育て支援センター（9:30～11:30）
仁摩保育園内 ☎88-4933
- 温泉津子育て支援センター（9:30～11:30）
温泉津保育所内 ☎0855-65-2075



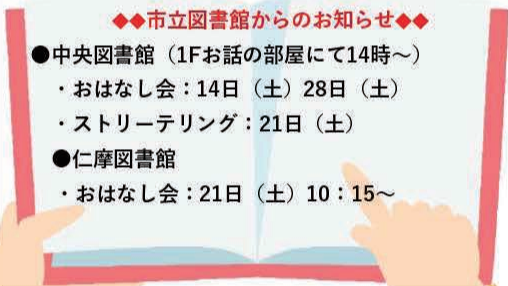
※各支援センターの利用は予約制としていま
すので事前に各保育園にご連絡ください。

大田市内の公私立認可保育園では、現在コロナ
ウィルス感染拡大防止のため、保育園の開放を休
止しています。

入園の事前見学等、ご用の際には必ず各園に連絡
をしてからご来園ください。

◆◆市立図書館からのお知らせ◆◆

- 中央図書館（1Fお話の部屋にて14時～）
・おはなし会：14日（土）28日（土）
・ストーリーテリング：21日（土）
- 仁摩図書館
・おはなし会：21日（土）10:15～



◆三瓶自然館サヒメルからのお知らせ◆

- サヒメルきッズサンデー：12月18日（日）
きッズプラネタリウムなど、お子様むけの
楽しい1日。
- お正月イベント：1月2日（月）、3日（火）
9:30～16:00
干支にちなんだ展示やなぞときラリー
などで楽しむ2日間です。



おおだファミリーサポートセンターでは・・・

* 保護者の方が困った時・・・お客様の送迎や
一時的な預かりをします。ご相談ください。

* 無料物品の貸し出しをしています。ご利用
ください。

【チャイルドシート・バギー・ベッド他】

3. 美浦村ファミリー・サポート・センター

利用までの流れ

入会

入会申請書→入会の承認→**会員証交付**
*入会申請書に記載した内容に変更が生じた場合は、届け出て下さい。
退会しようとするときは、退会届を提出し、会員証を返還して下さい。

申込

事前に利用申請書を提出

*対応出来る際、予約がない場合にはお預かりできない場合もあります。
早めの申込が安心です。

打合せ

利用会員と協力会員において事前打合せ

*同じ利用会員、同じ協力会員で利用する場合、事前打ち合わせは必要ありません。

利用

利用後、協力会員に支払い。(チャット支払い可)

*熱・咳・下痢や感染症の症状がある場合はお子さんが元気でご利用を控えて下さい。

利用者が用意するもの

飲み物(お茶等)、着替え、ビニール袋、手拭き用タオル、ボウタイシューズ、帽子、靴
【必要に応じて】オムツ、おしり拭き、おむつ替え用シート
ミルク(粉)、お湯、お水、哺乳瓶)、おやつ、食事(お粥・おかゆ、はし、食卓用マット)
*不足がないよう、お預かりする時間内に必要となる数量より多めに準備して下さい。

場 所

会員の自宅

みほふれ愛ブラザ内 美浦村子育て支援センター 等

*みほふれ愛ブラザ内子育て支援センターでの預かりは
月～土曜日 午前9時30分～午後6時となります。
*上記以外の利用はご相談下さい。

利用者の声

静かにする必要がある発表
会や大事な説明会には下の
子を預かってもらっています。

歯医者への通院に
利用しています。

保育所や幼稚園が休みで、
仕事が出来ない時に預けて
います。特に平日振替休み
の時など、助かっています。

ファミサポが無ければ
仕事が出来なかった。

子育て広場(エンジョイ子育て
館)なじみのリト・カーさんが担当
してくれたので、
安心できました。

問合せ・申込み

みほふれ愛ブラザ内 美浦村子育て支援センター

月～土曜(休み 日曜、祝日、12月29日～1月3日)
午前9時30分～午後6時

☎ 029-885-6511 FAX 029-885-6567

*電話受付の際『みほふれ愛ブラザ』として対応します。

*ファミサポの連絡の際には必ず、おそさんの名前と連絡先(電話番号)。

利用の際には休日日時を明記し、随時、当日又は翌日に電話にて連絡をお願いします。

地域で子育ての支えあい

美浦村ファミリーサポートセンター事業のご案内

保護者のご都合・ご要望、お子さんの生活リズム等に合わせ、お子さんを1時間から
自宅や公共施設・子育てひろばなどで協力会員による様々な預かり支援を実施しています。



買い物、通院、学校行事や土日、遅くなる仕事の時 等に
子どもを預かって欲しい!



ご都合やお子さんに合わせて柔軟な対応が出来る個別預かり
ファミリーサポートセンター事業をご利用下さい。

ファミリーサポートとは

地域において育児の援助をしたい方(協力会員)と育児の援助を受けたい方(利用会員)で構成された、
会員相互の援助活動をいいます。

利用例

- ・保育施設等の開始前又は終了後に子どもを預ける。
- ・保育施設等がお休みのため、子どもを預ける。
- ・冠婚葬祭、兄弟姉妹の学校行事、買い物等の外出の際に児童を預ける。
- ・保育施設等と援助活動を行う場所との間の児童の送迎。
- *「保育施設等」とは保育所、幼稚園、児童クラブその他これらに類する施設

会 員

○協力会員

- ・育児の援助をしない方。
- ・美浦村に居住又は勤務している方で、心身ともに健康で援助活動に
理解と情熱を有する20歳以上の方。
- ・ファミリーサポートセンターが指定する講習会を受講している方。

○利用会員

- ・育児の援助を受けたい方。
- ・原則として美浦村に居住又は勤務している方で、
おおむね生後6か月以上から小学6年生までの児童と同居している方。
- *その他村長が認めた者。

利用料と時間

時間	子ども1人1時間当たりの基準額
平日の午前9時30分から午後6時まで	村内者及び在勤者 600円 村外者 800円
平日以外及び平日の上記以外の時間	村内者及び在勤者 800円 村外者 900円

- ・援助活動を行った時間が1時間に満たない場合は、活動を1時間とする。
- ・援助活動を行った時間が1時間を超える場合は、超過時間が30分以下の場合は基準額の半額、
31分を超える場合は1時間とし、さらに基準額を加算する。
- ・兄弟姉妹に添える2人目以降の援助活動利用料金は、基準額に200円を加算する。
- ・利用会員からの依頼の取消し等により、援助活動が実施されなかった場合における利用料金の額は、
前日の午後6時前に依頼が取消された場合、無料。それ以降の場合、基本時間1時間の額。

4. 川俣町ファミリー・サポート・センター

川俣町子育て支援サポーター派遣事業のご案内 平成30年度からの事業

妊婦さん・産後のお母さんの体調不良などで育児や家事を行うことが難しい家庭に、必要な研修を修了したサポーターを派遣し、家事・育児をお手伝いします。

◎対象家庭：①日中、家族等から支援をうけられない妊婦さんがいる家庭。

利用登録した日から出産前日まで30時間以内利用可

②日中、家族等から支援を受けられない3歳未満の子どもが1人いる家庭。
子どもが1歳未満まで50時間、1歳以上3歳未満まで30時間利用可

◎サービス内容：家事支援（食事、洗濯、掃除・整理整頓、買い物、その他）
育児支援（授乳・おむつ交換の手伝い、沐浴の介助、就学前の兄弟児の世話、その他）

注）利用者は上記のサービスをサポーターと一緒に利用することになります。

◎利用方法：事前に利用登録が必要です。（無料）◎利用料：1時間100円

役場子育て支援課（5番窓口）へ印鑑、母子健康手帳を持参し登録してください。
※登録後、決定通知が届きましたら、コミュニティちやばだけ（フレンズ川俣店2階、まちなかサロンはなさんしよ）に利用の申し込みをお願いします。
事前打ち合わせ後にサポーターが派遣されます。

詳しくは川俣町教育委員会子育て支援課
子育て支援係566-2111
（内線2302）へお問い合わせください



利用内容

登録者数43名・利用者21名・サポーター22名（令和3.8現在）

利用内容	R2 時間	R3.8月まで 時間
きょうだい児の世話・遊び相手	0	8
母親の通院の付き添い	14	0
保健センターでの健診の付き添い	0	2
予防接種の付き添い	0	0
予防接種の付き添いときょうだい児の世話	0	0
合 計	14	10

編集後記

昨年度はコロナ禍による影響で、ファミサポひろばのメイン行事の流しそうめんや芋煮会、餅つき大会は見送りました。今年度は少しでも元に戻そうと外遊びを中心に少人数で開催しています。子どもの預かりは、お母さんの就労やリフレッシュなどで少しづつ利用が増えて来ています。フレンズ2階のはなさんしよは、高齢者と子どもの触れ合いも出来てはほえましく感じられます。

川俣町ファミサポ支援事業（町補助事業）

ファミサポ通信

第3号
令和3年10月発行

<特定非営利活動法人コミュニティちやばだけ>

住所：川俣町大字西福沢字茶畑山7-2
TEL・FAX：024-566-3601 携帯：090-7073-4348
ホームページ：https://cyabatake.jp/

ファミリサポサポート支援事業は、利用会員とスタッフ会員相互の助け合い事業として、子どもの預かりやファミサポひろばを開催しています。

ファミサポひろば

2年ぶりとなった恒例の流しそうめんは、7月29日に開催しました。参加者は4家族15人。感染予防のため、家族単位で行いました。
そうめんやラーメン、きゅうり、トマト、とうもろこし、ウインナー、ゼリーなど色とりどりのものが流れ、にじむ汗と共に子どもたちの笑顔がキラキラ輝いていました。

参加者の声

◎通以外にトマトやとうもろこし、ゼリーなど流れてくるのを見て、子ども達は大喜びでした。感染対策をしっかりとって頂き安心して楽しむことができました。
◎夏の楽しいひとときが、我が家のそうめんもごちそうになりました。8月のマササロンに参加した時に「そうめんないね」「そうめんたべたい」と思い出して言っていました。
◎初めての参加でしたが、子供は大喜びで、家で食べるよりたくさん食べていました。
◎家族ごとではありましたが、夏休みにどこへも行けなかったなので、親子の楽しい思い出になりました。



ボランティアの高校生

☆子どもの笑顔を見ていたら、自分が小さかった頃やばだけで遊んだ記憶が蘇ってきたのと同時に、ますます保育士になりたいという夢が膨らみました。
☆小さい頃から楽しくて大好きだったお手伝いが出来て良かったです。
自然にいいの中で、季節の行事をたくさん体験し、楽しい思い出を作っていました。

5. 高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島

高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島 子育て講座

こどものドリル

うんちのドリル

うんちは健康のパロメーター。どんなうんちが いいうんち？

こどもが下痢に…。みんなどう処理しているの？ 感染症予防のために 気をつけることは？ うんちに関する疑問 さいてみよう！

場所：ゆめぱれっと高島 高島市働く女性の家

定員：10名 託児：要予約

※子育てサポーター養成講座受講の方は、この講座の受講をもって 子どもの健康へのケアと運動」の受講と認めます。

申込締切：11月24日（火）

11月27日 金

10:00～12:00

★当日は新型コロナウイルス感染予防のため、マスク着用と体温・アルコール消毒など 感染予防対策にご協力をお願いいたします。

■お申込みはLINE 公式アカウントへ

■お電話・FAX でのご連絡

高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島

〒520-1501 滋賀県高島市新旭町旭 1-8-5 エスパノ

TEL (0740) 33-7805 FAX (0740) 33-7806

午前 10時から午後5時（日・月定休）

左のQRコードを 読み込んで

①氏名 ②携帯番号 ③託児希望の有無 (お子さんの年齢・性別) をお知らせください。

主催：高島市働く女性の家 共催：高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島

#ごはん男子育てます

井米粉アオカッチャサンド

井 萌之断

料理はちょっと苦手なパパも、おじいちゃんも必見！ 子どもが喜び、ちよっと自慢できるおいしいお弁当・を作ってみませんか？

小麦アレルギーも安心の自榨米粉パンで お洒落な今どき「萌え断」のフォカッチャサンドです。

参加費 無料

※写真はイメージです

2021年11月27日（土） 高島市働く女性の家 1階調理室

午前10:00～午後12:00（託児受付 9:40）

受講お申込み締切：11月20日 講師 谷口よみ先生

対象：子育て中または子育てに関心のある男性（定員8名・要予約）

※受講中の保護者加入のため、ファミリーサポートが必要で 持ち物：エプロン・三角巾・ハンドタオル・筆記具・飲み物

※ファミリーサポートセンターの子育てサポーター養成講座受講の方はこの講座をもって「子どもの栄養と食生活」の受講と認めます。

託児 有り

※託児をご希望の方は、託児人数等 なるべく早めにお知らせください。 詳しくは事務局まで。

【おとう様】とは… 育期間がスタートさせた子育て世代の男性の家事・育児の中で料理をするにあたっては、知識や経験がなく自分にはわからない、栄養バランスや盛り付けなど、技術的・心理的ハードルがあると思われがち。そこで男性の料理仲間への第一歩として、最初は手助けをかり、多少見ただけでもおいしい料理を「おとう様」に作る楽しさを。

《お問合せ・お申込み》

■お電話・FAX でのご連絡

高島市働く女性の家「ゆめぱれっと高島」

高島市今津町今津 1640 TEL・FAX (0740) 22-5775

高島市ファミリーサポートセンターたすけあい高島

TEL (0740) 33-7805 FAX (0740) 33-7806

■スマホからLINE 公式アカウントでのお申し込みも可能です

左のQRコードを読み込み

①氏名 ②携帯番号 ③託児希望の有無 (お子さんの年齢・性別) をお知らせください。

6. 新宿区ファミリー・サポート・センター

There is something I want to tell you

Thank you

令和2年度 ファミリーサポート会 会員交流会 アンケート結果報告

ファミリー・サポート・センターでは、年に一度会員同士の交流の機会を設けておりますが、今年度は会として集まることが難しいため、仮えたい言葉を集めた交流紙を企画しました。
アンケートに回答をくださった会員の皆さま、お忙しい中ご協力いただきありがとうございます。アンケートには会員双方と子どもさんからも、相手への思いやりの言葉をたくさんいただきました。また、会員の家族のご理解とご協力があった活動といことも伝わりました。

提供会員から

- ・自分の子育ての時、気軽にサポートをお願いできる人があらず、いつかそんなお手伝いができればという思いが実現しています。
- ・最初は人見知りで泣かれてしまいましたが、今では保育園に行くときまで遊びを誘ってくれます。会った後に親しみが湧き、甘えてくれるのがうれしいです。
- ・どのような遊びをしたらいいかと思っていたら、子どもさんの方が遊びを決め、私は遊びの仲間に入れてもらって楽しく過ごさせてもらいました。
- ・感染症予防でなかなか人の交流ができていない中、依頼していただけるという機会がうれしく思います。
- ・人と人をつなぎ、その関係性を育て「つなぐ、育む」は、区民が豊かにつながるものであり、ファミリーサポートはその方向性を示すものであると感じています。
- ・サポート終了後「家族以外に子どもを預けるのは初めてで不安でしたが、機嫌よく過ごせたようで助かりました」という利用会員さんの言葉が印象に残っています。
- ・ご家族とお話しして感謝いただけること、私の方がこのご縁に感謝しています。
- ・「子は親の鏡」という言葉を思い、自分も考えさせられます。
- ・子どもさんが大きくなってから助けてくれたときに「○○さん」といってくださるのうれしいです。
- ・字が書けるようになったとお手紙をもらったり、節目の行事のビデオカメラをもらったりすると、子どもさんの成長に少しでも関わりを持ててよかったと心から思います。
- ・転居により終了する最後の活動時、「サポートがあったので安心して仕事が続けられました」と利用会員さんから書かれ、お役に立てたとうれしくなりました。

心に残った子どもの つぶやき

また遊ぼうね。

運動会に来ていいよ。
きっと来てね。

ママ、迎えに来るの早いよ。
もっと○○さんと遊びたいよ。

(さっきお別れした)○○さん
ちゃんとおうちに帰れたかな。
心配だなあ。

メダルあげるね。
(こうなりました)○○さん

○○さん
今度はいつ会えるの？

○○さんはうちの東京の
おはあちゃんだよ。

○○さん大好き。
また会いたいです。

利用会員から

- ・子どもは肉親以外の人のあたたかさを、誠意ある行動から数えていただいています。
- ・早くお迎えに行っていたので、娘が喜んでくれます。
- ・サポートがなくては動くことも難しいので助かっています。
- ・コロナで親以外の人と触れ合う機会が少ない中で、提供会員さんに遊んでいただく機会はとても貴重です。
- ・遠方に住む祖父母と、コロナの影響で会えないまま、子どもは祖母のように接していると感じます。
- ・提供会員さんと楽しい時間を過ごさせていだき、娘にとって新しい世界が広がっているようです。
- ・サポートを通して、子育てには地域とのつながりが不可欠だと気づきました。
- ・提供会員さんは子育ての先輩であり、子どもの成長を共に見守り、一緒に喜んでくれる存在です。
- ・近所に住む親戚のようです。慣れ親しんだご近所さんであると同時に、娘には自宅では得られない刺激を与えてくださっています。
- ・(提供会員が利用会員から受け取ったメールより)
苦しいとき寄り添っていただき、サポートと励ましをもらいました。小学校入学までの6年間無事に過ごせたのは、あの娘を乗り切れたからです。
- ・提供会員さんには活動の終わりに「ありがとうございます」と言っているものが、感謝を伝えられているのが心配です。
- ・(えがお継続確認の返信より)
まだ利用する機会はありませんが、ファミリーサポートは私たちが家族の「心のお守り」のような存在です。

ファミリー・サポート・センターから

相互援助活動は会員双方の思いやりと感謝の気持ちの上に成り立っていることを改めて感じました。安心・安全な活動のために、ファミリーサポートのきまりを守り、できること・できないことをきちんと話し合い、相手の立場を尊重し、信頼しあひながら活動してください。

活動中も活動終了後も、地域の中でお互いをささえあう関係を続けていただくために、私たちアドバイザーはよりよいサポートをしていかなければ、と身を引き締める思いです。これからも提供会員と利用会員の橋渡しをお手伝いしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

お願い

紙面についての感想をお寄せください。
ファミリー・サポート・センターの連絡先は、「えがお」の最終ページをご覧ください。

7. 東海村ファミリー・サポート・センター

東海村の子育て支援サービス

東海村ファミリー・サポート・センター

あなたの
子育て
「あくあく」が
お手伝いします!

利用会員
募集中!



東海村ファミリー・サポート・センターが、村内の子育てを応援します。子育ての援助を受けたい人と子育てを助けていたい人をつなぎ、地域の会員同士が援助し合う、東海村の子育て支援サービスです。

～ファミサポができること～

【こんな時に】

- ・数時間のお仕事中
- ・学校行事
- ・病院への通院
- ・ママのリフレッシュ時

【徒歩・車で送迎も】

例えば…

- ① ご自宅へお迎え⇒「絆」でお預かり⇒ご自宅へ
- ② 学童へのお迎え⇒お子様と一緒にご自宅でお留守番



～利用するには?～

まずは会員登録! (無料)

総合福祉センター「絆」窓口にお越しください。申込書の記入とファミサポの詳細説明をします。



お預かりの際は1対1でサポートします。

～利用時間と利用料金～(子ども1人1時間あたり)

利用時間	利用料金
平日8:30～17:00	500円/時間 以降30分毎250円
土日・上記時間外	600円/時間 以降30分毎300円

★お問い合わせ先★

社福) 東海村社会福祉協議会
総合福祉センター「絆」内
東海村ファミリー・サポート・センター
☎ 029-283-4538



8. 枚方市ファミリー・サポート・センター

あなたの空いたお時間に少しだけ
**地域のママ・パパを
サポートできる方を
募集しています！**



こんな時にママ・パパをサポートします！

残業で
保育所のお迎えが
間に合わない
ママ・パパの代わりに
お迎え

ママ・パパの
通院や
リフレッシュしたい時に
あなたの
ご自宅でお預かり

枚方市
ファミリー・サポート・センター
提供会員
養成講座を開催
6/2(木) 10:00～
受付開始

対象 ▶ 枚方市在住の子育て経験者または保育や教育の実務経験のある方

▶ 6/22【水】・28【火】・7/1【金】(10時～15時半)の3日間の講習を受講いただける方
(都合により受講できない日がある時は要相談)



お問い合わせ・お申し込み
枚方市ファミリー・サポート・センター
〒573-0042 枚方市片野町5-1 サウザンビル内

TEL & FAX:
072-805-3522 <http://maikawaparc.com>
受付時間 9:30～17:00(休曜・祝日・年末年始を除く)



枚方市ファミリー・サポート・センターからのお知らせ



無料クーポンの体験会

招き方面の
依頼会員さん
お待ちしています！

無料体験クーポンを使って
広場でサポートを受けてみませんか



今回は
ファミリー・サポート・センター
での開催です！

ファミリー・サポート・センターに併設している広場さふりで好評だった無料クーポンの体験会をファミリー・サポート
ひらかたでも開催します！

枚方市では2歳未満の子どもさん対象に5時間分の無料体験クーポンを発行しています。
「クーポンは申請したけれどなかなか使えない」「もうすぐ2歳になってしまふの
で利用期限が切れてしまふそう」「まだ寝ていない」なんて方も多いのではないでしょうか。
そんな方に向けて、お手元のクーポンを使ったサポーター体験会を開催します！

当日は実際のサポートと同じように個別で提供会員さんにお子さんを預けていただけます。
ぜひこの機会にお子さんを見て、ひとりの時間を活用しませんか？

日時：3月24日(金) 13:00～16:00 3時間

場所：おやこの広場 ファミリー・サポート・センターひらかた(招き南町2-50-1)
招き小学校の向かい

対象：2歳未満のお子さん

(2歳のお誕生日までのお子さん)
無料体験クーポンをお持ちの方

定員：6組

持ち物：無料体験クーポン、おむつ、おしりふき、着替え、飲み物
タオルなど

申込：3月3日(金) 11時～ ファミリー・サポート・センターまでお電話にて
☎ 072-805-3522 (9:30～17:00 水日祝休み)



9. ファミリー・サポート・センターくるめ

子どもの成長を支える取り組み

子育てをみんなで応援



おねがい会員

時間を有効に
使える

登録したのは3年前ですが、あまり利用
はしていませんでした。今年にあって、資格
の勉強に集中する時間が欲しいと思い、お
断を断ることにしました。今は、週2回預
めたいです。私自身も切り替える
ことがうまくできて、時間が有効に使える
と感じています。朝見がけが増えるのもう
れしいですね。預かっている間のこと報
告があるので安心です。子ども、
に会えるのを楽しみにしていて、自分の家
のように過ごしているみたいです。子育て
している人には助かる制度なので、ぜひ登
録してほしいです。



みまもり会員

自分の経験を
生かせる

会員になつたのは、私自身も子育て中に、周りに助けを求めたこともあったからです。退屈したとき何ができることがあれば、と思い、就職講座を受けました。事前面談の上での利用なので安心です。活動も自分のスケジュールに合わせて行われるから、負担は感じません。期が切っているときは、負けてしまふような一言を付けますし、大変なこともあるかもしれません。でも、楽しいから続けられているんだと思います。最近、の子どもたちから「はあば!」って言ってもらえて、うれしかったんですね。体力がある限りは続けたいと思っています。



その土産の文藝家や思想家は、觀子といふ
作家の名のやぐへへの關係についてある

初めに6年間にわたる女心

市は、赤ちゃんと沐浴、発育がで
きる「アレババママ教室」など妊婦
版中の人とその家族のための教養
を開催しています。未婚孝悌のし
童てに関する情報をもとめた「く
る子育て便利ブック」では、親
子で利用できる施設を紹介。自宅
からオンラインで相談できる「妊
婦・子育てオンライン」もあつた。
市内には親子で遊んだり、保護
者同士がおしゃべりを楽しんだり
できる「おるすく」などの子育て
交流拠点施設が11カ所あつた。

活動の間の子ども様子を報告します。おねがい会員は、生後3ヵ月から小学校6年生までの子育て中の方が対象です。みまもり会員は、養成講座を受講した18歳以上が登録できます。

周囲や身近にいる人が交えるこ
とも、子育てしやすい環境につなが
ります。行政だけでなく地域やま
ち全体で一緒に子育てする環境つ
くりは今後取り組みたいきます。
◎こども子育てサポートセンター
(☎09442・30・93302、
FAX09442・30・9718)



預かりの時間は、一緒に遊んだり、持参したおもちゃを貸与させていただいてます。

地域で広がる助け合い活動

「フエーミー・サボート・ゼンター」
 くるめば、子育て中の家族を応援
 する会員の助力が活動する。
 買い物や通院しだいといきなりと子
 どもへの声かけや保育園の迎え
 を頼みます。令和3年度の利用は
 2335件。新型コロナウイルスの影響
 で、学校行事のときに人数制限が
 あるため、下の子を預かってほしい
 などニーズは高まってます。

利用には、子育ての手伝いをし
てほしい「おねがい会員」か手伝
いたい「なまもり会員」、両方を
兼ねる「どっちも会員」のいずれ
か登録費が必要。

利用したい時は、おねがい会員
が事務局に連絡。条件に合う会員
を紹介し、なまもり会員宅で顧念
をせしめて活動が始まります。

おねがい会員は、規定の料金を直接
支払う。その際、なまもり会員は

専門職員に子育ての悩みも相談できます。他にもさまざまな取り組みがあります。市ホームページなどで確認してください。

育児をサポートしたい人を募集

地域の子育てを応援したい人に、養成講座を開催しています。日程や時間など詳しくは問い合わせ先に確認してください。

◆みまもり会員養成講座
子育てを援助する「みまもり会員」になるための講座です。年数回開催しており、全日程の受講が必要です。■日程 5月19日(木)、20日(金)、23日(日)、24日(火)、25日(水)、26日(木) ■時間 10時～

15時 ■会場 久留米赤十字会館
◎ファミリー・サポート・センターくるめ
(☎ 37・8888 FAX 37・8822)

◆子育て支援ボランティア養成講座
受講後は「地域子育て支援センター」や「くる
るん」でボランティア活動ができます
◎子ども子育てサポートセンター
(☎30・9302、FAX 30・9718)

集える、遊べる、相談できる（子育て支援拠点施設）

◆子育て交流プラザぐるるん
未就学児とその保護者が利用
から利用可能一時預かりも

◆地域子育て支援センター
荒木、江南、松根、善導寺、白峯、北野、城島、
◎くるるん (☎ 34-5571) ◆児童センター
0歳から18歳までの子ども
も利用可能。一時預かりも実施
◎児童センター (☎ 35-380)

◆子育て交流プラザくるるん
未就学児とその保護者が利用できます。妊娠中から利用可能。一時預かりも実施。

●くるるん (☎34-5571、FAX34-5572)
◆児童センター
0歳から18歳までの子どもとその保護者が利
用可能。一時預かりも実施
●児童センター (☎35-3809、FAX35-3835)

地域の子育てを サポートしてみませんか？

～子育てのお手伝いができる方大募集～



笑顔に癒されます♡

事業説明会 ファミサポの仕組みや活動の様子をご紹介します

2022年12月7日(水) 10:30～12:00

会 場／立川市子ども未来センター2階

養成講習会日程 2023年1月17日(火)、18日(水)、25日(水)、26日(木)(全4日間)

講習会内容

立川市の子育て支援

乳幼児の救急救命法

子どもの遊びと
遊ばせ方

など

お申込み・お問い合わせ

立川市ファミリー・サポート・センター

立川市錦町3-2-26
(子ども未来センター内)

☎ **042-528-6873**

(月曜日～土曜日9:00～17:00)



11. たかまつファミリー・サポート・センター

たかまつファミリア・サポーター・センター

TAKAMATSU
ファミリア通信
第33号
2023.1月発行

地域で育てる子育てサポーター

引越してきて暮れる人がない。近くに祖母がいるが働いていて頼れない。今、求められているのは子育て中のパパ・ママを変え、大切な子どもたちを地域で育てる拠点です。たかまつファミリアサポーターは「大事な事はお互いさま」と信頼し合い、助け合える地域の人と人の温かいつながりを紡いでいます。

先輩まかせて会員さんのことば

家族と一緒に楽しく 優しく寄り添う サポーター

当時3歳の娘さんを無料の託児に預け、2年の歳月をかけて、まかせて会員養成講座を受講した さん。
2017年9月に登録し、娘さんが幼稚園の年中になった頃から活動を始めました。「娘と一緒に迎えに行ったり、自宅で預かる時には一緒に遊んだり。特に同世代の女の子が友だちは娘も嬉しいそうです」と話す さん。預かるお子さんたちとの交流を通して、一人っ子である娘さんの成長を感じられたといいます。「お子さんの誕生日の写真を写真や赤ちゃんが誕生した時の写真をメールでもらった時は嬉しかった」と微笑む田中さん。

18年間続けていた子ども向けの体操教室を退職。とにかく子どもが大好きで、子どもにも携わって仕事がしたいと探していたところ、縁あってまかせて会員養成講座を見つけた。2021年2月に暗れてまかせて会員になれました」と嬉しそうに話す さん。援助中は子どもの気持を尊重し、なるべく否定せず肯定的に接すること意識しているそう。「危ないからと最初からやらせないのではなく、なんでも一度はやらせてあげる。危険のないように身体づくりをしながらかける。大切に思っています」その言葉からは、子どもとの興味

「まかせて会員養成講座」では、先輩まかせて会員さんには活動の動機や喜びなどをお話ししていただいています。受講生には「活動のイメージが明確になってよかった」と大褒めです。

まかせて会員

ファミリアサポーターを通じて出会えたご家族と喜びを共有した経験が、活動の支えになっていることがわかります。「之前、お子さんをお迎えに来られたお母さんが、『なによりに笑み以外の大人ししゃべりました』と言ったのを聞いて、お父さんに時間がある時は、 さんが子育て中に利用した児童センターや、友達で行きやすいお宅や美容院などのお話もするそう。「母さんからもいろいろな情報を教えてもらえるので、楽しい時間です」と話す さんのまなまはとても温かく感じられました。

大好きな子どもと 過ごす喜びと共に サポーター

や好意を大切にしながらも、安全を確保する強い責任感と節制な準備があることが伝わってきます。「困ったことは振り返りてみると思いたいのですが、預かっている時は勝手に自分の子どもだと思って接していることで、些細なお子さんの成長が嬉しいやりに感じています」と明るく笑う さん。おねがひを聞きながら「楽しいがどうございしました」の言葉をもらうたび、「楽しいと感じる時間をこちらこそありがとうございます」と感謝するのだそう。その「ありがとうございます」の言葉が、ファミリアサポーターの真髓なのかもしれません。

芸術士さんと一緒に
素敵な作品を
作りましょう！

「もうすぐ春ですね🍷蝶々を作って春を先取りしちゃおう!!」

～洗濯バサミとコトヒーフィーターを使って蝶々を作り、木の枝などを合体させて春の訪れを表現します～

日	時	令和5年2月26日(日)
場	所	たかまつミライエ6F 学習研修室
講	師	佐々木 あずさ 氏 芸術士®
対	象	ファミリー会員とその家族・会員以外の方
定	員	3歳程度～小学校6年生 ※必ず保護者同伴
材	料	先着20名程度(要予約)
持	参	200円(1作品)
託	児	車中泊(トンド)他にクルーガンも使用するので、火傷など気になる方は準備
申	込	活れてもよい服装で参加
申	込	5名(無料・要予約・生後6か月～)
申	込	方法 TEL・Eメールのいずれかで申し込み
金	和	5年2月11日(土) 9:00～2月19日(日) 17:00
受	付	時間 9:00～17:00
休	日	火曜・日休館
TEL	087-833-2226	
Eメール	info@happy192.com	
※参加費の氏名・年齢・住所・電話番号・参加人数(家族のみ)を記入		

🍷 Eメールで申し込みの場合、翌々日まではファミリーサポから確認の電話をします。
連絡がない場合は受付されていますので再度申し込みください。

🍷 【注意事項】
・新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となる場合がありますので、ご了承ください。
・本館は密閉空間です。作品が密集し、密となる場合があります。
・キャンセルする場合は必ずご連絡をお願いいたします。

🍷 お問い合わせ・お申し込み
たかまつファミリー・サポートセンター
【募集受付期】～特定非営利活動法人たかまつ児童発達支援センター
〒160-0088 東京都千代田区千代田1-15番1号
TEL/087-833-2226
FAX/087-833-2230
URL/https://happy192.com
E-mail/takamatsu@happy192.com
定休日/火曜日 休館日/毎月12/29-1/3
年費制/11/29-1/30
受付時間/9:00-17:00

HPはこちら
https://happy192.com/ http://happy192.com

QRコード

定休日/火曜日 休館日/毎月12/29-1/3
年費制/11/29-1/30
受付時間/9:00-17:00

事務局は3歳です

おねがい会員 1,773人
まかせて会員 574人
どっちも会員 76人
会員総数 2,423人

2022年11月 末

事務局は3歳です

事務局は3歳です

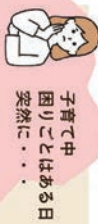
事務局は3歳です

事務局は3歳です

11. たかまつファミリー・サポート・センター

子育て中のあなたにもできる子育て支援のカたち
「どっちも会員」になりますか？

ご自身の空いた時間で、できることを少しずつ、
子育てを助け合う活動を始めませんか？



子育て中
困りごとはある日
突然に・・・

出産後頼りにしていた実家の母が体調不良。幼稚園への送迎、どうしよう。

虫歯がズキズキ。子どもを抱いての診察は難しくなっているし、どうしよう。

自宅で2000の研修を受けることに、子どもが騒いだら、どうしよう。

転職したら、日曜出勤頼まれそう。月1回だけ、どうしよう。

困った時は
おねがい会員
依頼も援助も
どっちもでき
ます！

●朝夕の送迎だけならできそう。休日が回復するまで、無理はしないでほしいな。
●自宅での1時間の預かりならできそう。診察後、慌てず迎えにきてね。
●幼稚園に行っている間なら、近いし、見守りに行ってあげられるな。

●家族で通っている時間帯、一緒に過ごしたいよね。月1回来し、みかね。



子どもが幼稚園に入園した、小学生になった、など、少し余裕が出てきた「おねがい会員」におすすです。

どっちも会員になるには・・・

「まかせて会員養成講座」を受講してください。
まずはご自身のために受講し、余裕ができてから活動をスタートするのも構いません。講座には無料の託児がありますので、ぜひ利用して学んでください。

第3回まかせて会員養成講座

まかせて会員になるための講座です。
開講に浜松市に興味をお持ちの方がいらしたら、ぜひ受講を始めてください。

【とき】 3月1・2・3・6・8日 9:15～

【ところ】 たかまつミライエ1階 多目的室

登録から5年以上経過したまかせて会員さんは安全に関する講座を同時、受講してください。

【費用】おねがい会員の安全対策に必要です。

【とき】 3月2日（木）13:10～16:10

【ところ】 たかまつミライエ1階 多目的室

受講料無料・託児あり（要予約） まかせて会員養成講座 カリキュラム

1. 子どもを育てる状況とファミサポ事業の立場
2. 子どもの成長と食生活
3. 子どもの一次救命処置
4. 乳幼児の心の発達とその問題
5. 子どもとのかわり、あそびの児童期
6. 子どもとのかわり、あそびの児童期
7. ファミサポの活動目的と手引きの説明①②
8. 身体発達の発達と発達
9. 小児看護の基礎知識と高校生の母子保健事業
10. 発達障害についての理解と児童の支援
11. 子ども虐待と子育て支援者の役割
12. 保護者の心
13. 家庭における子どもの安全対策と応急手当
14. 保護者とのコミュニケーション
15. 児童の心の発達とその問題

●講座は、地域の講座を助ける専門分野の講師を招き、5日、計24時間行います。
子育てにすぐに役立つ内容を学べます。

まかせて会員養成講座受講者の声

7月と11月に行った「まかせて会員養成講座」の受講者は合計38名。受講後、それぞれの地域で活躍する、頼りしいまかせて会員さんが誕生しています。



【安心・安全な活動のために】
援助前日には連絡を取り合い、お子さんの様子や援助時間などを確認しましょう。コミュニケーションが大切です。

おねがい会員になるには・・・

まずはお電話で、たかまつファミリー・サポート・センターに入会手続きに承られる日を予約してください。当日は、お子さんとも一緒に、住所が確認できるものを持参ください。

出張登録会
（要予約）

【とき】 1月19日（日）10:30～12:00

【ところ】 三木町地域子育て支援センター（青の部屋）（水・土曜休館）

【とき】 1月19日（木）13:00～16:00

【ところ】 三木町役場

【とき】 2月16日（木）10:00～12:00

【ところ】 にしおか医院地域子育て支援センター

まかせて会員 交流会のご案内

手ぶらでOK!

保育士の品由美さんと一緒に「遊びが広がるアイトーン」を作ります。預かったお子さんの発達を促す遊びや声かけのコツを学びましょう。座談会では楽しく情報交換もします。最近、活動がない会員さんもお気軽にご参加ください。お待ちしております。

【とき】 3月19日（日）13:30～15:30

【ところ】 たかまつミライエ6階 学習研修室

【費用】無料託児あり（要予約）

印象に残っている講座は？

【子どもとのかわり・あそび】
「世界のおもちゃに触れられ、楽しかった！子どもを預かる上での心得やコツなど、経験に基いたお話をとてもためになった。」

【発達障害についての理解と児童の支援】

「当事者家族が嬉しいと思うサポートとは何かを学んだ意義は大きい。周囲の正しい理解と対応が重要だと知ることができた。」

【子どもの一次救命処置】
「心肺蘇生及びAEDの実践ができてよかった。指導員の先生方の教え方が上手で、今後にも自信につながった。」

ファミサポQ&A

会員登録から相互援助活動までどれくらい期間が必要ですか？
初めて利用する場合には、まかせて会員の紹介や顔合わせ（マッチング）が必要になり、時間がかかります。少なくとも2週間前には連絡をお願いします。

相互援助の場所は、どこになりますか？
まかせて会員の自宅での預かりが基本ですが、おねがい会員宅での見守りも可能です。

ファミサポでしてもえない援助は？
子どもの抱抱、育児・食育の相談と預かり、家事のお手伝い、集団託児はお手伝いできません。援助依頼については可能な限り対応しますが、まかせて会員の関与がつかず、ご希望にそえない場合もありますのでご了承ください。

会員登録情報更新のお願い

お子さんの成長や転居など登録時にお預かりした情報に変更があった場合は、会員登録情報の更新が必要です。センターまでご連絡ください。

- 市外への転出
- 弟・妹が生まれた
- 転居による住所変更 ●お子さんの入園・卒業
- 電話番号の変更 ●退会希望 など

令和5年4月時点で登録しているお子さんが中学生になられた方は退会となります。なお、登録がまだの小中学生以下のご兄弟姉妹がいる場合は退会になりませんので、センターまでご連絡ください。

12. 枚方市ファミリー・サポート・センター

枚方市ファミリーサポートセンター

子育て中でもできる、子育て支援 両方会員になろう！

依頼会員として、ファミサポのサポートを受けられている皆さん！

日々行っているご自身のリアルタイムな子育て経験を活かし、同じように子育てする仲間をサポートしませんか？
ご自分の子育てにも役立つ両方会員養成講座を毎月1回開講します。月1回2時間の保育付き講座を6ヶ月間受講して
いただくと両方会員として活動できます。子どもさんが保育園や幼稚園、小学校にあがったタイミングにもすぐ活動
できます。私たちと一緒に身近な子育て支援をしてみませんか？

2022年度 両方会員養成講座日程（保育付き）

① 1/30(月) 心の発達とその問題
「3か月～12才までの発達の理解と関わり」
講師：市立ひらかた子ども発達支援センター
稲森涼子さん

② 2/28(火) 子どもの遊び
「乳幼児期の発達と遊び」
講師：元あかつきひばり園保育士
奥山重子さん

③ 3/23(木) 子どものお世話
「子どもの生活リズムと健康」
講師：枚方市保健センター 保健師さん

④ 4/24(月) 体の発育と病気
「小児期の病気や生活環境の基礎知識」
講師：香里ヶ丘看護専門学校 藤平沙千さん

⑤ 5/30(火) 安全と事故予防
「ひらかた版救命講習の実施、
リスクマネジメント」
講師：あんしんポケットひらかた

⑥ 6/30(金) 保育の心
「サポートに必要な保育のポイントや心構え」
講師：広場さぶりスタッフ

時間：いずれも10時～12時です。（受付は9時45分～）
場所：サブリ村野2階 会議室
対象：ファミリーサポートセンター依頼会員に登録済みの方 定員：概ね10人
参加費：無料 テキスト代：2000円
申し込み：12月12日（月）10時から受付。
ファミリーサポートセンターまでお電話ください。 TEL：072-805-3522

※上記6講座を半年ごとに行いますので、都合が悪く参加できない場合も概ね2年間で修了できればOKです。
※講座6回修了後、実際のサポート前には「ファミサポ活動を円滑に進めるために」を個別でレクチャーを受ける時間があります。

枚方市ファミリーサポートセンター 9：30～17：00（水・日祝お休み）
☎573-0042 枚方市村野西町5-1（サブリ村野内）TEL：072-805-3522



令和4年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における
提供会員の確保方策等に関する調査研究報告書

令和5年3月

編集・発行 一般財団法人 女性労働協会

住 所 〒105-0014 東京都港区芝2丁目27番8号
VORT 芝公園 8階
TEL 03-3456-4410 FAX 03-3456-4420

印刷・製本 株式会社イーフォー